

1. 助言について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	1 理念・目的
	指摘事項	1) 各学部・学科および研究科・専攻の人材養成に関する目的、その他の教育・研究上の目的が、医学部を除き、学則または規則等の適切な形に定められておらず、媒体によって記述が異なっているものもあるため、改善が望まれる。
	評価当時の状況	2009 年度には、「養成する人材像及び教育研究上の目的」を学則に定めていなかった。
	評価後の改善状況	2010 年度末に学則の別表として「養成する人材像及び教育研究上の目的」を定め、それに基づいて各媒体を作成している。また、2011 年度初には、本学ホームページでも公開している。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 ・ 東海大学学則 http://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/index.html ・ 東海大学大学院学則 http://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/index.html	
	<大学基準協会使用欄>	
	検討所見	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	改善状況に対する評定	<div>1</div> <div>2</div> <div>3</div> <div>4</div> <div>5</div>

提言に対する改善報告書

大学名称：東海大学

(評価申請年度：2010 年度)

1. 助言について (体育学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(1) 教育課程等</p> <p>1) 体育学部、芸術工学部において、学士課程教育への円滑な移行に必要な導入教育が十分に行われていないので、今後の改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 23)</p> <p><u>学生が後期中等教育から高等教育へ円滑に移行するために必要な導入教育の実施状況</u></p> <p>本学部では、とくに付属高校の入学決定者に対して、入学前学習を実施している。それぞれの学科から課題が出され、レポート提出など事前教育を行っている。また、入学後、学生が後期中等教育から高等教育へ円滑に移行するために、入学早期に新入生のための学部ガイダンス、学科ガイダンスを行い、また新入生研修会を実施しているほか、各学科で学科の教育内容に合わせた導入教育を実施している。</p>
	評価後の改善状況	<p>本学部においては、2010 年度にカリキュラム改訂がなされ、学士課程への円滑な導入を計るべく、初年次教育を必修化した。すなわち、体育学科においては、「体育・スポーツの見方 (2 単位)」を導入教育に位置づけた。競技スポーツ学科では、「競技スポーツ入門 (2 単位)」を、武道学科では、「プレゼミナール (2 単位)」、生涯スポーツ学科では、「生涯スポーツ基礎ゼミナール 1・2 (各 2 単位)」、スポーツ・レジャーマネジメント学科では、「マネジメントゼミナール 1 (2 単位)」が、それに相当する。</p> <p>また入学前の本学部進学予定者 (付属推薦入</p>

		<p>試・公募制推薦入試・A0 入試による者) に対して、2013 年度には、全 5 学科で e-Learning を実施している。かつ、体育、競技スポーツ、生涯スポーツの 3 学科においては、上記のすべての入試種別の者に対し、「研究レポート」の課題提出を義務づけている。武道、スポーツ・レジャーマネジメントの 2 学科では、付属推薦入試による者に対し、同様の課題を与えている。</p> <p>さらに、学部・学科ガイダンスの開催、学科別新入生研修会の実施等、継続的に導入教育の展開を計っている。</p> <p>このように、初年次教育・導入教育の内実を整備し、大幅に改善された。</p>			
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『2014 年度授業要覧』（別冊資料 1） ・各学科『2015 年度用学科案内』（別冊資料 2） 					
<p>< 大学基準協会使用欄 ></p>					
<p>検討所見</p>					
<p>改善状況に対する評価</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>3</p>	<p>4</p>	<p>5</p>

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学

(評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (芸術工学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(1) 教育課程等</p> <p>1) 体育学部、芸術工学部において、学士課程教育への円滑な移行に必要な導入教育が十分に行われていないので、今後の改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 23)</p> <p><u>学生が後期中等教育から高等教育へ円滑に移行するために必要な導入教育の実施状況</u></p> <p>くらしデザイン学科では美術系大学の受験要件としての実技、また、建築・環境デザイン学科では工学系大学への受験要件としての数学を、それぞれ必須とはしていない。そのため、受験生全体の学力低下とも合わせ、入学後は、専門教育に移行する前の段階にて、基礎造形力の獲得のための学部共通科目（描写、色彩、構成、素材など）と基礎数学的知識の修得を目的とする科目（建築数学）を設けている。また入学前導入教育として、推薦入学等比較的早期に入学試験に合格した生徒に対して事前課題（レポート、e-ラーニングなど）を課すなど、モチベーション維持に努めている。</p> <p>また一部の職業教育高校との高大連携の中で美術の授業を担当し、高校の造形教育についての現状把握に努めている。高校側から依頼があった場合など、導入教育の一種として、各高校への出前授業を実施している。例えば、2007 年 4 月に北海道おといねっふ美術工芸高等学校と「高大連携事業に関する協定」を結び、本学教員による高校の美術授業の実施など連携事業を実施した。</p>

	<p>東京都立工芸高等学校、旭川工業高等学校とも連携を開始している。2008 年度の出前授業は、札幌旭丘高等学校、根室高等学校など（6 件）であったが、2009 年度は、藤女子高校などからも要請があり、昨年度を上回る可能性がある。都立工芸高校へは 2008 年度、2009 年度とコンテストに審査員を派遣した。2008 年度は旭川工業高等学校向けに建築アカデミーを実施（2009 年度も継続）、本学の卒業研究発表会と旭川工業高校の卒業研究発表会に教員が相互に参加しあうなどの交流があった。また、道立工業高校建築系教員の北海道高等学校建築教育研究協議会研修を受け入れた。</p>
評価後の改善状況	<p>芸術工学部は、2012 年度入学試験より学生募集を停止した。2014 年度は 4 年次生のみが在籍する状況であるため、現時点で学士課程教育への円滑な移行に必要な導入教育が該当する学生がいない状況である。</p> <p>入学前導入教育として、推薦入学等比較的早期に入学試験に合格した生徒に対して課してきた事前課題（レポート、e-ラーニング）は東海大学全体の指針に沿って強化・実施してきた。また基礎造形力の獲得のための学部共通科目（描写、色彩、構成、素材など）と基礎数学的知識の修得を目的とする科目（建築数学）は、大学全体の指針に沿ってシラバスの記載内容を充実させ、効果を高める取り組みが行われてきたことも他学部と同様である。</p> <p>東海大学では全学的に新カリキュラムへの移行が進められて全学的に初年次ゼミナールの実施による学士課程教育への円滑な移行に必要な導入教育が充実・強化されているが、芸術工学部においては、新カリキュラムへの移行前に、2012 年度入学試験から学生募集が停止となっている。</p>

提言に対する改善報告書

大学名称 _____ (評価申請年度 2010 年度 _____)

1. 助言について (工学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(1) 教育課程等</p> <p>2) 工学研究科、文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、産業工学研究科において、社会人受け入れに対応するための教育課程上の特別な配慮(昼夜開講制や土日開講制、長期履修制度など)がなされていないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 64)</p> <p><u>社会人、外国人留学生に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮</u></p> <p>東海大学大学院学則第1条にあるように大学院下での教育環境はそこで学ぶ大学院生すべてに平等に教授研究できるよう目指している。</p> <p>社会人に対しては「社会人特別入学試験」を実施しており、一定の要件を満たす社会人志願者については、社会での実務経験を重んじ、通常の一般入試で行う筆記試験を課さず、面接による審査を行っている。</p> <p>外国人留学生に対する配慮として、2007 年度より全専攻において一部の専門科目について英語での講義を実践している。博士課程への入学を希望する外国在住の留学生志願者については、所定の条件を満たす場合に、来日せずに書面にて入学審査を受験できるようなシステムが既に 2008 年度より実施されているが、現在はそれを修士課程への留学生志願者に対しても適用すべく検討を進めている。</p> <p>2006～2008 年度の3年間で、社会人学生 12 名</p>

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (文学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(1) 教育課程等</p> <p>2) 工学研究科、文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、産業工学研究科において、社会人受け入れに対応するための教育課程上の特別な配慮(昼夜開講制や土日開講制、長期履修制度など)がなされていないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 64)</p> <p>社会人、外国人留学生に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮</p> <p>社会人を受け入れるために、本研究科では 2008 年度から、研究計画書の審査と面接による「社会人特別入学試験」を開始した。この入試により、社会人の入学者が順調に増加し、現在 8 名が在籍している。</p> <p>また、社会人・留学生とも、入学後は一般の学生と同じカリキュラムに従って学修しており、特別のカリキュラムを準備することはしていない。</p>
	評価後の改善状況	<p>社会人向けのカリキュラム改訂は特別に行っていないが、社会人の研究指導については配慮し、夜間・土日等の指導が必要な場合は、個別に対応しこれを行っている。また、社会人向け入試により入学した受験生のうち、入学後に一般学生として(会社等を退職・休職して)就学している学生もかなりいる。</p> <p>現在、社会人向け入試で入学した大学院生は 17 名おり、2008 年度に比較して増加している。</p>

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学（評価申請年度 2010 年度）

1. 助言について（政治学研究科）

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>（1） 教育課程等</p> <p>2） 工学研究科、文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、産業工学研究科において、社会人受け入れに対応するための教育課程上の特別な配慮（昼夜開講制や土日開講制、長期履修制度など）がなされていないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 64)</p> <p><u>社会人、外国人留学生等に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮</u></p> <p>社会人の受け入れについては昼夜開講制や土日開講制などの導入が考えられるが、教員スタッフの確保の難しさや都心から遠隔の立地条件などからそれらの導入には困難な面がある。2009 年度には社会人学生の在籍者がいない。これまで社会人学生に対しては政治学の専門的知識や分析手法の修得などに配慮しながらきめ細かな教育研究指導を進めてきている。</p> <p>また、外国人留学生に対しては、かつて日本に発達した政治学を学ぶという観点から政治用語、政治制度の理解を進めるための導入教育として留学生のための「和書政治学」の講座を設けていた。だが、外国人留学生は現在 1 名在籍するものの、他の研究科と異なり、これまで在籍者のみられない年度が多く、「和書政治学」の講座を廃止した経緯がある。</p>
	評価後の改善状況	<p>1. 社会人の受け入れについて</p> <p>実際問題として、現職公務員の対象としての夜</p>

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (経済学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(1) 教育課程等</p> <p>2) 工学研究科、文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、産業工学研究科において、社会人受け入れに対応するための教育課程上の特別な配慮(昼夜開講制や土日開講制、長期履修制度など)がなされていないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 64)</p> <p><u>社会人、外国人留学生に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮</u></p> <p>社会人・外国人留学生向けの教育課程は編成していない。また、社会人・外国人留学生に対する教育研究指導上の特別な配慮は、組織だって実施していないが、指導教員が基礎的な専門学力向上のため学部の授業も履修させる等、個々の学生の事情に合わせた指導をしている。現在、社会人院生はいない。外国人留学生については、とくに日本語の問題への配慮をしている。現在のところ留学生はほぼ全員が中国人であるので、文献を読むことに問題はないが、論文を書く、発表すること等に難がみられる場合がある。指導教員の個別指導により日本語能力の向上を図っている。その他の外国語(とくに英語)に関しても個別指導を行って、能力の向上を図っている。</p>
	評価後の改善状況	<p>社会人学生に対する特別な制度やしくみは現在では設定されていない。本学の場合、指摘されたような制度、しくみについては1研究科のみでは対応できない面もあり、全学的な課題と認識し</p>

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (国際地域学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(1) 教育課程等</p> <p>2) 工学研究科、文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、産業工学研究科において、社会人受け入れに対応するための教育課程上の特別な配慮(昼夜開講制や土日開講制、長期履修制度など)がなされていないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 64)</p> <p><u>社会人、外国人留学生に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮</u></p> <p>社会人や留学生に対しては、入学後は一般の学生と同じカリキュラムに従って学修しており、特別のカリキュラムを準備することはしていない。社会人・留学生とも、社会人入試を活用した入学者は、いずれも学力・能力とも十分備わった入学者であろうと思われるので、特別の配慮をしなくとも少人数教育と複数指導のもとで十分能力が発揮できる。入学後の特別な教育上の配慮はしない。</p>
	評価後の改善状況	<p>社会人に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮として、現在まで社会人を経験し社会人入試を受験して入学した院生はあったものの、現役社会人のまま本研究科に在籍したケースは残念ながら、これまでなかった。社会人向けのカリキュラム改訂は特別に行っていないが、社会人の研究指導については、夜間・土日等の指導が必要な場合は、個別に対応しこれを行う用意がある。とりわけ、研究指導教員等は土曜日科目を開設す</p>

		る、17 時以降の授業開講、さらには夏期休暇・冬期休暇中の研究指導なども加えて 15 回分の授業回数を確保することは十分可能である。社会人が進学しやすいように配慮し、入学者を確保すべく受入れ体制整備・改善を進めていく。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	
	<大学基準協会使用欄>	
	検討所見	<div> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> </div> <div> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> </div>
	改善状況に対する評価	<div> 12345 </div>

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (芸術工学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	(1) 教育課程等 2) 工学研究科、文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、国際地域学研究科、 芸術工学研究科 、産業工学研究科において、社会人受け入れに対応するための教育課程上の特別な配慮(昼夜開講制や土日開講制、長期履修制度など)がなされていないので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 64) <u>社会人、外国人留学生に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮</u> 外国人留学生については、これまで5名の受け入れ実績がある。研究指導は極力外国語に堪能な教員を配置することとし、英語、韓国語、スウェーデン語に堪能な事務職員が留学生支援に当たるなどの環境整備を行っている。授業は原則日本語で行うため、入学前に本学国際教育センターにおいて半年から1年間の日本語研修を勧める場合がある。
	評価後の改善状況	外部評価年度の翌年には、芸術工学部の募集停止が決定し、続いて研究科の募集停止も機関決定された。従って、大学院学生数も順次減少し13年度の修了生をもって事実上の閉鎖となった。そのため、特別な配慮はしていない。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	
	<大学基準協会使用欄>	
	検討所見	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (産業工学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(1) 教育課程等</p> <p>2) 工学研究科、文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、産業工学研究科において、社会人受け入れに対応するための教育課程上の特別な配慮(昼夜開講制や土日開講制、長期履修制度など)がなされていないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 64)</p> <p><u>社会人、外国人留学生に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮</u></p> <p>前身の九州東海大学工学研究科では、社会人・外国人留学生を受け入れた経験を有するが、本研究科には両者とも進学者が存在しない。社会人・外国人留学生に対する独自の教育課程は編成していない。</p>
	評価後の改善状況	<p>基盤となる学部である産業工学部が 2013 年度に募集停止となったため、産業工学部の最後の卒業生を待って募集停止になる。そのため、社会人受け入れに対応するための特別措置の導入についての検討は行わなかった。</p>
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	
	<大学基準協会使用欄>	
	検討所見	<p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p>
	改善状況に対する評価	<p>1 2 3 4 5</p>

No.	種 別	内 容			
1	基準項目	2 教育内容・方法			
	指摘事項	(2) 教育方法等 1) F D活動について、大学院研究科では、全学的な取り組みが行われておらず、各研究科においても、海洋学研究科、理学研究科、経済学研究科、法学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、理工学研究科では、組織的・恒常的な取り組みが十分とはいえないので、改善が望まれる。			
	評価当時の状況	2009 年当時は、一部の研究科で F D 活動がなされていたものの、全学的な取り組みがなされていなかった。			
	評価後の改善状況	2011 年度より「大学院常任 F D 委員会」が設置され、各研究科の活動が全学的な場で扱われるようになった。また、2012 年度より各研究科の活動内容をまとめた「東海大学 F D 活動報告書（大学院）」、2013 年度より各研究科の計画内容をまとめた「東海大学 F D 活動計画書（大学院）」を学内で公開している。			
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 ・ 東海大学大学院常任 F D 委員会規程 ・ 2012 年度東海大学 F D 活動報告書（大学院）別冊資料 3 ・ 2013 年度東海大学 F D 活動計画書（大学院）別冊資料 4 ・ 2013 年度東海大学 F D 活動報告書（大学院）別冊資料 5				
<大学基準協会使用欄>					
検討所見	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○				
改善状況に対する評価	1	2	3	4	5

○東海大学大学院常任F D委員会規程

(制定 2011年4月1日)

改訂 2014年4月1日

第1条 本学に東海大学大学院常任F D委員会（以下「本委員会」という。）を置く。

第2条 本委員会は、大学院各研究科の連携を図り、本学のF D活動推進に必要な事項について、審議することを目的とする。

第3条 各研究科に、当該研究科のF D活動推進に必要な事項について審議することを目的とした、F D委員会を置く。各委員会の事務及び委員会の内規は、各研究科が定めるものとする。

第4条 本委員会の構成は、次のとおりとする。

委員長：教育支援センター所長

委員：各研究科の常任F D委員，教育研究所長，教育支援課長，各校舎教務（学）課長，委員長が必要と認める教員及び職員

第5条 本委員会は、次の事項を審議する。

- (1) F D活動実施計画に関する事項
- (2) F D活動実施方法に関する事項
- (3) その他F Dに関する事項

第6条 本委員会は、委員長が必要と認めたとき、これを招集し、その議長となる。

第7条 本委員会は、F D活動推進に必要な専門的事項について審議することを目的とし、必要あるときは、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の委員及び委員長は、本委員会委員長が指名する。

3 専門委員会の内規は、別に定める。

第8条 各研究科の常任F D委員は、各研究科のF D委員会委員長があたる。

2 前項の各研究科のF D委員会委員長は、研究科長が当該研究科教授会を構成する本学の専任教員のなかから選出する。

3 各研究科の常任F D委員の任期は、1年とし再任を妨げない。

第9条 本委員会が審議し決定した事項は、必要に応じて大学院運営委員会等で報告しなければならない。

第10条 本委員会及び専門委員会の事務は、教育支援センター教育支援課が行う。

付 則

この規程は、2011年4月1日から施行する。

付 則（2014年4月1日）

この規程は、2014年4月1日から施行する。

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学

(評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (海洋学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(2) 教育方法等</p> <p>1) F D 活動について、大学院研究科では、全学的な取り組みが行われておらず、各研究科においても、海洋学研究科、理学研究科、経済学研究科、法学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、理工学研究科では、組織的・恒常的な取り組みが十分とはいえないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 82)</p> <p><u>教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み (ファカルティ・ディベロップメント (FD)) およびその有効性</u></p> <p>本研究科では独自で組織的な取り組みは行われていないが、学部で展開している FD 研究会は学部教育と大学院教育を包含したものである。したがって、学部教育における教員の意識改革と同時に大学院教育においても意識改革が進行している。</p>
	評価後の改善状況	<p>2012 年度は FD 研究会を学部・研究科合同で開催した。清水キャンパスは学部・研究科の構成員がほぼ同じであり、学部と修士の連続性を重視していることから、合同での研究会開催は有効であった。</p> <p>2013 年度は改組の検討に時間を要したため、FD 研究会は開催できなかった。しかし、これまでの FD 活動を受けた形で、改組を検討できた。</p>
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	
2012 年度海洋学研究科 FD 活動報告書		
<大学基準協会使用欄>		

2012年度東海大学
FD活動報告書
(大学院)

2012年度 東海大学大学院常任FD委員会

2012 年度 海洋学研究科 FD活動報告書

2013 年 3 月 4 日 作成
海洋学研究科：田中 博通

1. 組織における本年度の FD 委員会の活動に関して

(1) FD 委員の構成および人数

海洋学研究科 FD 委員会

委員長 1 名

委 員 4 名

(2) 委員会の開催日時

1) 2012 年 5 月 9 日 (水) 17:30～18:45

検討課題：本年度に FD 研究会を開催するにあたり、過去の清水校舎で開催した FD 研究会の内容が紹介されるとともに、当面検討すべき課題として、①海洋教育（海洋実習 3）のあり方 ②初年次教育における問題点 ③大学院・学部がかかわることとして、高次教育としての専門教育のあり方が提示され、各学科に持ち帰り、次回の委員会までの検討課題となった。

出席人数：11 名 （研究科 4 名）

2) 2012 年 7 月 31 日 (火) 17:30～18:50

検討課題：前回の委員会で宿題となった FD 研究会の内容について、各学科・センターで議論された内容が紹介された。その結果、2012 年度「FD 研究会」のテーマとして「初年次教育の効果やリメディアル教育が適正であるか」、「入門ゼミナールや海洋実習における海洋教育のあり方」などを候補として進めていくことが提案された。

出席人数：9 名 （研究科 3 名）

3) 2012 年 9 月 25 日 (火) 17:30～18:30

検討課題：FD 研究会のテーマについては、現状の学生のレベルを見直して、ターゲットをどこにするかが問題と言え、初年次教育のあり方、効果的なリメディアル教育、さらには、学習意欲のない学生への対応も考える必要がある等の委員からの意見をふまえて、初年次教育をキーとした上で、あらためて学部 FD 委員長が FD 研究会の内容を再検討した案を作成後、各委員へメール配信し、次回の委員会で検討することとなった。

出席人数：11 名 （研究科 4 名）

4) 2012 年 10 月 30 日 (火) 17:30～18:50

検討課題：海洋学部 FD 研究会を 12 月 1 日に「海洋学部・研究科における組織的教育の過去・現在・未来」として開催することが確認され、主任宛に「海洋学部 FD 研究会に際した事前アンケートのお願い」を依頼した事が報告された。その内容を基に話題提供をどのようにするかが報告され、アンケート結果を基に各委員へメールにて意見を求めていくことが確認された。また、ポスターやプログラムの作成について検討がなされ、11 月 24 日には案内を行

なえるよう作業を進めること、話題提供者には2週間前には依頼を行うことが確認された。
出席人数：10名（研究科 3名）

5) 2012年 12月11日（火）17:30～18:30

検討課題：12月1日に開催された以下のFD研究会の内容が紹介された。

- 1)FD活動の定義, 2)過去の清水校舎におけるFD活動, 3)過去50年間における学部教育の変遷, 4)初年次教育の現状と課題, 5)各学科の組織的教育, 6)海洋実習の現状と課題, 7)高次教育・キャリア教育の現状と課題

研究会における議論の結果を踏まえて、次回教授会で提言事項として提示されることが確認された。

出席人数：8名（研究科 2名）

6) 2013年 1月29日（火）16:00～17:05

検討課題：

- ・航海工学科FD委員より、FD委員会へ以下の要望が提示された。

- ① 現行のリメディアル教育に如何なる効果があるのかを評価する必要がある。
- ② 新任教員に対してFD活動を喚起する方策が必要。現状では、FD活動が教員の業績評価にどの様に反映しているのかが明らかではない。

学部FD委員長より、現行の教員の総合的業績評価では研究・学内外活動および教育の分野別に評価されているが、海洋学部における教育業績は、担当授業のコマ数と教材作成等の自己申告が主体で評価され、授業アンケート結果は含まれないなどの問題があるという指摘があった。こうした教育分野の評価基準の見直しがされずに現在に至っていることから、今後の検討事項として2013年度へ申し送りすることが回答された。なお、リメディアル教育の効果についても、カリキュラムに関わる点も考えられるため、併せて2013年度への検討課題として申し送りすることが回答された。

- ・今後のFD活動として授業公開・参観の継続的な実施の要望が出された。

東海大学では、現在すべての授業に対して公開・参観が可能となっている。教学課長より、見る側受ける側双方の共通認識があればよいが、両者の間での認識の相違に起因する誤解の発生があり得ること、授業公開は評価の場ではないことが留意された。また、今回実施した授業公開では、学部評価委員会が表現方法等に留意して実施したことが紹介された。

- ・教養教育センターFD委員より、リメディアル教育の効果については、学生自身の状況や学習意欲によって大きく異なっているため、今後、学生に学修への動機・興味を持たせるようなリメディアル教育に力を入れていく必要があるのではないかという意見が出された。

出席人数：9名（研究科 4名）

(3) 2012年度の主な活動内容

前述したように、FD委員会を全6回、すべて学部・研究科合同で開催した。常任FD委

員会報告を除くと、後述する FD 研究会(12 月 1 日開催)で採り上げるテーマに関する検討と、研究会で議論された課題を今後どのように反映して行くかに関する議論が主体となった。

前者に関しては、当初、「海洋教育」、「初年次教育」、「高年次・キャリア教育」が原案として提示され、各学科・センターへの持ち帰り事項とし、次回の FD 委員会で再検討する形式で進められた。また、事前アンケートを実施し、各学科・センターからの意見を参考に話題提供者を決定し、FD 研究会に臨むこととなった。結果的に、当初提示されたテーマすべてを包含した内容での FD 研究会を実施することが適切との結論に至り、「海洋学部・研究科における組織的教育の過去・現在・未来」というテーマでの実施となった。

FD 研究会では、各テーマに関して現状と改善すべき幾つかの課題が提示され、その後の FD 委員会でそれらの内容が再確認された後、教授会での提言事項として提示されることとなった。

(4) 2012 年度の活動による成果や活動の結果から効果があったと思われる点について

前述した FD 研究会では、教員のみならず職員も含めて予想以上の参加者があり、活発な意見交換がなされた。これは、事前アンケートを各学科・教養教育センター主任宛に依頼したことによって、在籍する多くの教員へ FD 活動への関心を喚起する役割を担ったと考えられる。と同時に、FD 活動が大学教員の日常の活動として差し迫った問題であることを再認識させたとも言える。FD 研究会で提示された課題の中には、以前の FD 研究会でも議論されたものもあり、それらを今後如何に展開或いは解決していくかが重要と言える。その意味では、FD 研究会ならびに FD 委員会の活動を、学部および研究科という組織内においてどのように位置づけていくかが効果を図る尺度になるのではないかと。

(5) その他・特記事項

特になし。

2. 組織における本年度の FD 研究会・研修会について

研究科・専攻・学部・学科・センターでの開催について

主催組織名： 海洋学部・海洋学研究科 FD 委員会

テーマ： FD 研究会「海洋学部・研究科における組織的教育の過去・現在・未来」

日時： 2012 年 12 月 1 日（土） 13：00～16：30

場所： 1 号館 2 階会議室

参加人数： 教員 39 名 職員 3 名

1) 海洋学部における FD 活動の経緯 海洋学部常任 FD 委員（轡田）

・FD 活動の定義：FD 研修会(11 月 28 日)の内容を元に紹介

従来の「教員の授業内容・方法改善への取組」から、近年は「教育の目標実現のため

に教員が職員と協働して組織的かつ日常的な教育改善活動」という認識に変遷した。

- ・過去のFD活動（FD研究会:2003-07年度，教育GP:2008-10年度），近年の大学教育推進プログラムの紹介

2) 過去50年間における学部教育の変遷 海洋科学科（佐藤義）

- ・海洋学部の過去：設置理由（開設時の学科構成），目指した教育（93&97年度カリム変更時の検討事項）
- ・観測航海の実績（海洋学部主導の研究航海・シンポジウムの紹介），海洋観測委員会の活動
- ・学部評価委員会の活動（学部改組，組織的教育，教員業績評価，委員会組織の整備）：学部長より諮問

※ カリキュラム検討委員会が恒常的に活動

3) 授業公開の実施状況 海洋学部評価委員長（川上）

現状の実施状況が紹介されると共に、今後の展望に対して教授法のスキルを評価するのではなく、授業の進め方の改善等に役立てることが狙いであることが確認された。

4) 初年次教育の現状と課題 清水教養教育センター（中村・瀧川）

- ・現行のリメディアル科目の学習内容，在籍生の数学学力の現状
- ・「歴史（社会）を見る眼」では、文系学科学生だけでなく理系学科学生の履修も多い。
→ 文系学生の履修を促すような指導が必要

5) 各学科の組織的教育 事前アンケート結果からの抜粋

- ・「海洋学概論」を必修から外したい。
- ・学生の学力の現状に対して現行のリメディアル教育では不足。
- ・基礎科目（英語・数学）の質的向上を望む。
- ・英語（TOEIC 関係）科目の充実が必要。
- ・リメディアル科目には単位を与えるべきでない。
- ・GPA1.0以下の学生は自動的に退学か、強く退学を迫ることが、教育の質の維持に必要。
- ・現代文明論2と学部共通科目&学科専門科目との整合性や内容の再検討を要望

6) 海洋実習の現状と課題 海洋実習委員長・副委員長（津金・植原）

現状の問題として以下の二つに大別される。

① 組織の問題（人事・船内設備）： 専門技術員の不在，教職員の海への関心の低下

② 現行カリキュラムに対する要望：

海洋実習1,2と講義科目との連動が必要，海洋実習3も学部共通科目とする，など。

※ 海洋実習を海洋学部の基幹科目であることを多く（全部）の教員が認識することが重要
＜短期的な対策＞

- ・教員向けの研修会の開催（海洋実習委員会が招集） 文系・新任教員・事務職員等を対象
- ・海洋実習計画書の公開と検討会の実施

＜中長期的な対策＞

- ・学部教員が優先的に出来る航海が出来ないか（教育にも反映するはず）
- ・望星丸のソフト・ハード両面で維持する組織が必要（専門技術者）
- ・専任教員の必要性（一＞ 海洋観測センター or フロンティアセンター内に組織）

- ◎ 上記の問題の多くは 2004 年度 FD 委員会および 2009 年度「海のシンポ」でも指摘
問題が解決されずに現在に至っている点が深刻

→ 長期的な展望で問題を解決する委員会の設置

- 7) 高次教育・キャリア教育の現状と課題 海洋学研究科常任 FD 委員 (田中 博)
- ・「大学院はどうあるべきか、大学院の充実は大学の繁栄と表裏一体」であることを再認識する。
 - ・進学したいと思えるような魅力があり、価値ある研究科を創造する。
 - 学部教育（基礎学力）と大学院教育を組織的に検討する。
- 研究科等の改組の過程では、当該教員に対して情報が開かれている。

8) 総合討論

- ・ FD 委員会の位置づけが明確でないが、学部内において各委員会の位置づけが明確になっていない点と関係することが考えられる。
- ・ 以前の学部評価委員会で組織の検討が実施されたが、その後の進展がない。学部評価委員会の充実、あるいは学部長からの諮問事項が重要ではないか。
- ・ 各学科からの意見を聴ける情報交換の場が重要である。また、学部全体での組織運営が困難でも、こうした研究会の継続的实施が必要と考えられる。
- ・ 1993 年頃までの学部での研究航海の実績が重要、1993 年の新望星丸以降、用船航海はあったが傭船費の確保が条件となっている現実が課題といえる。また、運行権限が海洋学部から本部に移った点がもう一つの問題である。こうした課題を次の世代の教職員が認識することが重要と考えられる（運航権の再獲得を期待したい）。

<提言事項>

- ① 単一学科では解決することが困難な問題・課題を検討する組織（委員会）が必要

初年次（リメディアル）教育 → カリキュラム検討委員会

海洋実習 → 海洋観測委員会等

高年次教育 → 大学院改組委員会（仮称）

- ② 広義の意味での FD 活動を全教職員が認識することが重要：教職協働（FD/SD の連携）
の重要性 （教育の目標実現のための教員団の職能開発と日常的な教育改善活動）

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (理学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(2) 教育方法等</p> <p>1) F D 活動について、大学院研究科では、全学的な取り組みが行われておらず、各研究科においても、海洋学研究科、理学研究科、経済学研究科、法学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、理工学研究科では、組織的・恒常的な取り組みが十分とはいえないので、改善が望まれる。</p> <p>2) シラバスについて、理学部、産業工学部、理学研究科、医学研究科、健康科学研究科、理工学研究科においては、教員間の記述の精粗や、成績評価基準などにあいまいな記載が認められるので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>1) 項目番号 82)</p> <p><u>教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み (ファカルティ・ディベロップメント (FD)) 及びその有効性</u></p> <p>教員は 3 年ごとに「大学院研究指導教員資格再審査」を受ける。また、教員の教育活動、研究活動、学内外活動といった教育・研究のアクティビティを計る総合的業績評価制度もある。さらには、毎年度に業績自己申告書で、教育と研究指導の実績についての報告と自己評価を行っている。各専攻内の会議ではシラバスの内容を点検し、教育方法について議論している。このような組織的取り組みによって教員が教育・研究の指導方法を見直す取り組みを行っている。</p>

		<p>2) 項目番号 83)</p> <p><u>シラバスの作成と活用状況</u></p> <p>2008 年度以前のシラバスには授業科目の概要しか示していなかったが、2009 年度のシラバスには授業要旨・概要、授業スケジュール、成績評価法、留意事項を記入して公開している。学生には、授業期間の初めのガイダンスでこのシラバスを配布してその内容に従って授業を進めている。たとえば、科目履修の仕方、授業の予習、全体の授業の中での各時間の授業内容の位置づけ等に役立て教育効果を図っている。</p>
	<p>評価後の改善状況</p>	<p>1) 第三者評価での指摘助言を受け、2012 年度から FD 研究会を 2 回開催することをミッション・シェアリング・シートに追加設定した。2012 年度は、2012 年 6 月 22 日に第 1 回 FD 研究会を、2012 年 12 月 21 日に第 2 回 FD 研究会を開催し、授業アンケートの内容・結果や科目到達度・成績評価指標のシラバスへの明記について話し合った。2013 年度も、FD 研究会を 2 回開催した（第 1 回 2013 年 6 月 21 日、第 2 回 2014 年 1 月 17 日）。実際に行動する組織は理学研究科 FD 委員会と各専攻、検証する組織は理学研究科主任会であった。</p> <p>2) 2011 年度春学期に、シラバスに科目到達度と成績評価指標を記載するよう各教員に周知した。シラバスへの記載の有無、記載内容や分かりやすさは、教務委員、常任教務委員が相互チェックを行った。</p> <p>実際に行動する組織は理学研究科各専攻、検証する組織は理学研究科主任会であった。</p> <p>2009 年度シラバスに関し、第三者評価で記述の精粗や成績評価基準について一部で曖昧な記述があると指摘助言を受けた。</p> <p>2010 年度にシラバスをチェックした結果、「科目の学習の到達度」の記載は、数理科学専攻は 29.0%、物理学専攻は 18.5%、化学専攻は 40.5%、「成績評</p>

2012 年度 第 1 回 理学研究科 F D 研究会

日時：平成 24 年 6 月 22 日 16：50～17：20
場所：6C-104
テーマ：FD 研究会
対象及び参加人数： 対 象：理学研究科 専任・非常勤教員 参加人数：20 名（内、教育支援課 1 名）
主催団体（学科名，委員会名など）：理学研究科 FD 委員会 講師，外部協力者など：特になし

概要：

本研究会では，ミッション・シェアリングシートに基づき，今後の教育体制について検討する事を目的とした．具体的には，まず，昨年度，第三者評価より指摘された，「授業アンケート結果の授業へのフィードバック」に重点を置き，アンケート結果を公表することで，さらなる授業の改善を試みる．次に，修士課程修了者の進路を公開し，学科間の進路の違いや，就職未定者に対する指導について問題提起した．

授業アンケート結果では，専攻間では授業評価に差が見いだせなかった．しかし，自由意見にて，学生からの改善要望が盛り込まれており，当該授業の担当者の参考になったものと思われる．

就職に関しては，就職希望でありながら進路未定で修了する学生が，毎年複数人存在する事が判明し，その対策について検討するべきであるとの認識が共有できた．

今後の検討課題：

▼物理学科では，理論系と実験系で分けてアンケート調査を実施したが，理論系のデータ数は 4 であったため，今後も分けるか否かを委員会で検討する．

▼進路調査内容は，専攻毎にばらつきが出ないよう，同条件で揃える．

2012 年度 第 2 回 理学研究科 FD 研究会

日時： 2012 年 12 月 21 日（金） 16:50～17:20
場所： 6 号館 C 棟 6C-104 教室
テーマ： FD 研究会
対象及び参加人数： 理学部教職員，非常勤講師 ならびに他学部教職員 参加人数 43 名
主催団体： 理学研究科 FD 委員会
講師： 理学研究科物理学専攻 鄭 和翊先生

1. 理学研究科 FD 活動について (理学研究科常任 FD 委員 松井泰子)

2012 年度の理学研究科の FD 活動が，ミッション・シェアリング・シートの計画目標である，「シラバス内容の 95%実施」，「授業アンケート実施率 85%」，「FD 研究会を春学期と秋学期に実施」の項をほぼ充足している事が確認された。

今後の課題として，専攻別のアンケート項目の検討や，学生の国際交流(国際会議での発表を契機とした提携等)が挙げられた。

2. 授業アンケート結果，及び学生の学会発表件数と論文数について (同 松井泰子)

2012 年度春学期分の授業アンケート結果が公表された。アンケート回収率は 81%で，5 段階評価の項目に関しては，各専攻とも，5 と 4 を合算した件数が全体の 8 割」前後を占められていた。このことから，大学院講義に対し，学生からは概ね良い評価を得られている事が確認された。

また，各専攻における 2011 年度の学生の学会発表件数と論文数について報告された。

3. 物理学専攻における学生の教育指導について (物理学専攻 鄭 和翊)

自身のご専門を平易な言葉でご説明頂いた後，研究室を取り巻く環境(海外を含む共同研究の件数や JST からの補助金交付)，研究室の規模についてご紹介がなされた。さらに，研究体制や学生に義務付けている役割（年 2 回の発表，企業に提出する報告書の作成）について示され，熱意ある研究・教育が伺えた。

4. 質疑応答

特になし。

以上
報告書作成 理学研究科常任FD委員 松井泰子

シラバスへの学習到達度及び成績評価指標の記載状況

「科目の学習の到達度」の記載

	数理科学専攻	物理学専攻	化学専攻	理学研究科
2010年度	29.0%	18.5%	40.5%	29.3%
2011年度	94.0%	93.8%	100.0%	95.8%
2012年度	83.7%	95.4%	100.0%	94.1%
2013年度	97.9%	95.5%	100.0%	97.5%

「成績評価指標」の記載

	数理科学専攻	物理学専攻	化学専攻	理学研究科
2010年度	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
2011年度	84.0%	100.0%	100.0%	95.8%
2012年度	93.9%	94.3%	100.0%	96.0%
2013年度	93.6%	95.5%	100.0%	96.5%

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (経済学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(2) 教育方法等</p> <p>1) F D活動について、大学院研究科では、全学的な取り組みが行われておらず、各研究科においても、海洋学研究科、理学研究科、経済学研究科、法学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、理工学研究科では、組織的・恒常的な取り組みが十分とはいえないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 82)</p> <p><u>教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み (ファカルティ・ディベロップメント (FD)) およびその有効性</u></p> <p>現在までのところ、カリキュラムの整備および論文指導における複数指導体制の確立がその中心であった。2009 年度からは、必修科目の内容・指導方法・評価における標準化および専門科目の評価における標準化の作業を始めている。また、同時に 2012 年度のカリキュラム改定の準備も進めている。</p>
	評価後の改善状況	<p>上記の取り組みの内、前者についてはこの数年間在籍院生数の減少と外国人留学生の増加(博士前期課程は 2011 年度入学者 2 名、2012 年度入学者 2 名、2013 年度入学者 1 名、2014 年度入学者 1 名でありすべて外国人留学生である。博士後期課程は同期間の入学者 0 名)に伴い、受講している学生の学力や日本語などのレベルに合わせた授業を展開せざるを得なくなったため、その実施と検証が難しくなっている。後者に関しては大学</p>

2013年度東海大学
FD活動報告書
(大学院)

2013年度 東海大学大学院常任FD委員会

2013年度 経済学研究科 FD活動報告書

2014年2月20日作成

経済学研究科：遠藤 誠二

1. 組織における本年度のFD委員会の活動に関して

- (1) FD委員の構成および人数

委員長 1名（経営）

政治経済学部 大学院担当専任教員 10名

- (2) 委員会の開催日時（複数記述可）

2014年 1月29日（水）17:35 － 18:30 3号館9階セミナー・ルーム

検討課題：最近の学生の現状について 学生カウンセリングの現場から

参加者：政治経済学部教員 32名

2013年 月一回開催の大学院委員会にて 18:00～18:30 3号館9階会議室

検討課題：大学院生修学情報交換

参加者：政治経済学部大学院教員 11名

- (3) 2013年度の主な活動内容

学部・大学院全体及び各学科のFD委員会の定期的な会合を行い、大学院生の状況を把握した。

さらに、他学部FD研究会の情報収集および組織内での情報共有及び学外FD関連研修会の情報収集および組織内での情報共有を行った。

- (4) 2013年度の活動による成果や活動の結果から効果があったと思われる点について

様々なFD研究会活動及び学外FD関連研修会の情報収集および組織内での情報共有を行い、多くのファカルティーに刺激を与えたと考えられる。

- (5) その他・特記事項

特になし。

2. 組織における本年度のFD 研究会・研修会等について

研究科・専攻・学部・学科・センターでの開催について

(複数回開催された場合は、それぞれについてご記入ください。)

主催組織名：FD研究会（政治経済学部・政治学研究科・経済学研究科開催）

テーマ：最近の学生の現状について 学生カウンセリングの現場から

日時：2014年 1月29日（水）17:35 － 18:30

場所：3号館9階ディベートルーム

参加人数：政治経済学部教員32名

概要・概略

最近の学生の現状について 学生カウンセリングの様々なデーターを提示して説明をし、その後教員との意見交換を行った。

以上

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (法学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(2) 教育方法等</p> <p>1) F D 活動について、大学院研究科では、全学的な取り組みが行われておらず、各研究科においても、海洋学研究科、理学研究科、経済学研究科、法学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、理工学研究科では、組織的・恒常的な取り組みが十分とはいえないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 82)</p> <p><u>教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み (ファカルティ・ディベロプメント (FD)) およびその有効性</u></p> <p>研究科長が中心となって自己点検評価を行い、その結果を研究年報へ掲載しかつ Web 上でも公開している。従来、学部評価委員会が大学院の FD についても担当していたが、2009 年度より専攻主任を委員長とする大学院 FD 活動部会を新たに設置した。</p> <p>同部会は、大学院に入学する学生の目的・関心・能力の多様化 (ここ数年、修士論文の質のバラつきが指摘される) に対応するために、教育・研究指導方法を改善する必要があることを認識し、シラバスの内容改善を不完全ながら図っている。</p>
	評価後の改善状況	<p>大学院 FD 活動部会を FD 委員会とし、FD 活動のための体制を整備した。今年度は、授業に関するアンケート調査を積極的に行った。</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>・ 2013 年度法学研究科 FD 活動報告書</p>		

2013年度 法学研究科 FD 活動報告書

2014年 2月 25日作成

法学研究科：吉川和宏

1. 組織における本年度のFD委員会の活動に関して

(1) FD委員の構成および人数

名称：法学研究科FD活動委員会

委員長 1名

委員 3名

ただし、研究科教授会時に開催するため、学部・研究科の全教員が出席する。

(2) 委員会の開催日時（複数記述可）

1. 2013年5月22日 17:30～18:30 11号館3階会議室

検討課題：2013年度の活動計画について

参加人数：21名（研究科教授会時に開催）

2. 2014年2月25日 16:00～17:00 11号館3階会議室

検討課題：2013年度の活動結果について（報告）

参加人数：21名（研究科教授会時に開催）

(3) 2013年度の主な活動内容

1. 2013年9月18日 ガイダンス時に口頭で授業に関するアンケート調査を実施

2. 2013年11月13日 問題を抱える学生に対する支援に関する講演及び検討会（学部主催）
に研究科としても参加（学部・研究科教授会後に開催されたため全教員が参加した。）

3. 2013年11月5日 17:00～19:00 修士論文中間報告会 11号館3階会議室

個別指導の下で行われる修士論文の作成に関し、複数の教員による集団指導の観点から、法学研究科発足以来継続している。

参加教員：6名

4. 2014年1月 記述式による授業アンケートを実施 回収率75%

5. 学部との合同研究会の実施（研究教育内容向上のための学術研究会）

第1回研究会：5月22日 17:30～19:30 11号館3階会議室

第2回研究会：1月22日 17:30～19:30 11号館3階会議室

いずれも大学院生も参加。

(4) 2013年度の活動による成果や活動の結果から効果があったと思われる点について

・アンケート調査では学生の授業に対する満足度が再確認された。また、5限授業時に空調がストップする点が指摘されたので、来年度の学習環境整備に反映させる予定である。

・講演会に関しては法学部の報告書を参照されたい。

(5) その他・特記事項

法学研究科の学生は極めて少数なため、日々のマンツーマンの講義の中で授業改善がなされている。そのため、組織としての授業改善活動の必要性があまり大きくないといわざるをえない。

また、カリキュラムの改正が広い意味での授業改善活動の帰結であるとするれば、今年度はこの検討（12月研究科教授会時）もなされた。

2. 組織における本年度のFD研究会・研修会について

研究科・専攻・学部・学科・センターでの開催について

（複数回開催された場合は、それぞれについてご記入ください。）

主催組織名：法学部FD委員会・法学研究科FD委員会

テーマ：第1回法学部FD委員会・法学研究科FD委員会共同研究会

「昨今の学生の心と不適応ー学生カウンセリングの現場から」（講演会）

日時：2013年11月13日 17:30～19:00

場所：14号館3階 14-301教室

参加人数：教職員21名

概要・概略

概要：問題を抱える学生への対応と昨今の学生への支援方法

問題を抱える学生に対して教職員がどのように支援するか。その際、学内の別組織との連携（学生支援課など）をどのように強化し、どのように具体的な学生支援を通じての教育力・指導力向上に結び付けるか。不適応学生への支援・教育に関する意識をファカルティー全体で高め共有可能にするための意識改革の必要、など。

(5) その他・特記事項

法学研究科の学生は極めて少数なため、日々のマンツーマンの講義の中で授業改善がなされている。そのため、組織としての授業改善活動の必要性があまり大きくないといわざるをえない。

また、カリキュラムの改正が広い意味での授業改善活動の帰結であるとするれば、今年度はこの検討（12月研究科教授会時）もなされた。

2. 組織における本年度のFD研究会・研修会について

研究科・専攻・学部・学科・センターでの開催について

（複数回開催された場合は、それぞれについてご記入ください。）

主催組織名：法学部FD委員会・法学研究科FD委員会

テーマ：第1回法学部FD委員会・法学研究科FD委員会共同研究会

「昨今の学生の心と不適応ー学生カウンセリングの現場から」（講演会）

日時：2013年11月13日 17:30～19:00

場所：14号館3階 14-301教室

参加人数：教職員21名

概要・概略

概要：問題を抱える学生への対応と昨今の学生への支援方法

問題を抱える学生に対して教職員がどのように支援するか。その際、学内の別組織との連携（学生支援課など）をどのように強化し、どのように具体的な学生支援を通じての教育力・指導力向上に結び付けるか。不適応学生への支援・教育に関する意識をファカルティー全体で高め共有可能にするための意識改革の必要、など。

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (国際地域学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(2) 教育方法等</p> <p>1) FD活動について、大学院研究科では、全学的な取り組みが行われておらず、各研究科においても、海洋学研究科、理学研究科、経済学研究科、法学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、理工学研究科では、組織的・恒常的な取り組みが十分とはいえないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 82)</p> <p><u>教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み(ファカルティ・ディベロップメント (FD))およびその有効性</u></p> <p>研究科における FD 活動は活発ではなく今後の課題である。</p>
	評価後の改善状況	<p>FD 活動と組織的対応・教育の公開性については、FD 研修会を学部と大学院との共催にて年間 2～3 回開催し、教育の質改善に向けた各自の取り組み、教授法や講義における各自の創意工夫、修了研究発表の公開性や組織的指導・複数指導体制による教育効果のアップや公開性による教育の「質」確保と担保、公開性による相互支援などの項目クリアを目指してきた。その年度に開講された授業科目・演習等について、教員各自が個別に PDCA サイクルを確立し、研究科全体として組織的に授業改善・シラバス改善が図られるように絶えず努力してきた。</p> <p>大学院教授会ののち、年間 4～6 回の頻度で、当</p>

2013 年度国際地域学研究科FD委員会

2013 年度 第 1 回 国際地域学研究科FD委員会

(大学院国際地域学研究科教授会終了直後)

「大学院教育での授業評価、PDCAサイクルを考える」 出席者 8 名

2013 年 5 月 8 日 12:40-13:12 札幌校舎 メッセ棟 M1211

2013 年度 第 2 回国際地域学研究科FD委員会

(大学院国際地域学研究科教授会終了直後)

「大学院における複数指導体制の意義と効果について」 出席者 7 名

2013 年 8 月 28 日 13:40-14:34 札幌校舎 メッセ棟 M1211

2013 年度 第 3 回 国際地域学研究科FD委員会

(大学院国際地域学研究科教授会終了直後)

「修士論文の成果発表と公開性」 出席者 7 名

2013 年 11 月 20 日 12:35-13:12 札幌校舎 メッセ棟 M1211

2013 年度 第 4 回国際地域学研究科FD委員会

(大学院国際地域学研究科教授会終了直後)

「大学院における教育「質向上」について」 出席者 8 名

2013 年 12 月 18 日 12:35-13:15 札幌校舎 メッセ棟 M1211

2013 年度国際文化学部・国際地域学研究科FD研修会

2013 年度 第 1 回 国際文化学部・国際地域学研究科FD研修会

「新入生研修を考える」 出席者 19 名

2013 年 7 月 3 日 16:40-17:40 札幌校舎 メッセ棟 M1212
地域創造学科 服部正明教授、
国際コミュニケーション学科 マークハミルトン准教授、
デザイン文化学科 中尾紀行教授、
国際地域学研究科 谷本一志教授

2013 年度 第 2 回国際文化学部・国際地域学研究科FD研修会

「卒業研究発表会を考える」 出席者 23 名

2013 年 2 月 26 日 15:00-17:20 札幌校舎 M1211
地域創造学科 山田秀樹教授、
国際コミュニケーション学科 武田昌之 教授、
デザイン文化学科 杉浦理恵 主任代行准教授、
国際地域学研究科 谷本一志 教授

2014 年度第 1 回 国際文化学部・国際地域学研究科 FD 研修会

「ゆとり教育を考える」 寺脇研 京都芸術工科大学教授講演

2014 年 5 月 29 日 16:40-18:30: N211 講義室 出席者 32 名

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (芸術工学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(2) 教育方法等</p> <p>1) F D 活動について、大学院研究科では、全学的な取り組みが行われておらず、各研究科においても、海洋学研究科、理学研究科、経済学研究科、法学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、理工学研究科では、組織的・恒常的な取り組みが十分とはいえないので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 82)</p> <p><u>教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み (ファカルティ・ディベロップメント (FD)) 及びその有効性</u></p> <p>本学全体として総合的業績評価システム、特別研究休暇制度 (サバティカル)、教員相互の授業公開の実施、FD 活動の義務化を明文化し、組織的な取り組みを行っている。大学院においては3年に1度の大学院研究指導教員資格再審査制度を義務づけ、大学院研究指導教員の資質の維持・向上に努めている。</p> <p>学生に課せられた3度の公開発表会では大学院担当全教員のもとで活発な教育的指導と意見交換が行われる。このことにより研究の深化と教員側の指導力の改善・向上が図られている。これは本研究科独自の FD 活動と判断される。</p>
	評価後の改善状況	<p>外部評価年度の翌年には、学部の募集停止が決定し、続いて研究科の募集停止も機関決定された。しかし、指摘を受けた FD 活動の組織的な取り組みは行っていない。</p>
改善状況を示す具体的な根拠・データ等		

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学

(評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (理工学研究科)

No.	種 別	内 容
ふ	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(2) 教育方法等</p> <p>1) F D活動について、大学院研究科では、全学的な取り組みが行われておらず、各研究科においても、海洋学研究科、理学研究科、経済学研究科、法学研究科、国際地域学研究科、芸術工学研究科、理工学研究科では、組織的・恒常的な取り組みが十分とはいえないので、改善が望まれる。</p> <p>2) シラバスについて、理学部、産業工学部、理学研究科、医学研究科、健康科学研究科、理工学研究科においては、教員間の記述の精粗や、成績評価基準などにあいまいな記載が認められるので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 82)</p> <p><u>教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み (ファカルティ・ディベロップメント (FD)) およびその有効性</u></p> <p>本研究科では、大学院生の入学時に指導教員から教育研究指導計画書を提出させている。提出された計画書は、専攻主任、研究科長の査読、捺印の後、研究科長の下に保管される。また、修業途中に記載内容からの乖離が生じた場合は、再度提出することになっている。また、修士2年次の4月に中間発表会を実施し、研究の進捗状況について報告させている。</p> <p>授業方法について研究会、教員相互の授業参観および新任教員のための研修会等は、研究科としてはまだ実施していないが、本研究科の基礎となる生物理工学部として取り組まれているので、これ</p>

	<p>らの取り組みについての実施方法、開催状況等については学部の当該項目を参照願いたい。</p> <p>項目番号 83)</p> <p><u>シラバスの作成と活用状況</u></p> <p>シラバスについては、定型フォーマットを使用しており、講義科目については、授業内容（到達目標およびテーマ、授業概要）、教材（教科書、参考書等）、成績評価の方法、講義計画（全 15 回の授業のスケジュール）等が明示されたものが、2009 年度から学生に公開されている。また、2010 年度から Web 上で公開されることになっている。学生は各シラバスを比較検討し、指導教員の指導のもと履修する科目を決定している。</p>
評価後の改善状況	<p>1) 授業改善のための FD 研究会を春学期と秋学期に実施した。</p> <p>2) 電子情報工学専攻および環境生物科学専攻の両専攻において、新しく規程化された「教育研究上の目的及び養成する人材像」に基づいて 2011 年度より毎年、専攻主任によるシラバスの整合性チェックが行われた。その結果「シラバスが研究科の目標と整合していない」と判断された科目は、2013 年度の春学期および秋学期に開講された電子情報工学専攻の科目では 1 つもなかった。従って、整合している割合は 100% となり、MS シートの目標を達成している。また環境生物科学専攻については、2013 年度春学期に開講された 2 科目、2013 年度秋学期の 3 科目が専攻主任によって整合性が不十分であると判定された。当該科目の担当教員に改善が求められ、5 科目すべてのシラバスが修正された。</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>1) 2013 年度 FD 活動報告書（大学院編）</p>	

2) 東海大学オフィシャルホームページ：シラバスサイト http://www12.tsc.u-tokai.ac.jp/ 「研究科専攻一覧から検索する」⇒理工学研究科 へ進んでください。					
<大学基準協会使用欄>					
検討所見	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○				
改善状況に対する評価	1	2	3	4	5

2013年度東海大学
FD活動報告書
(大学院)

2013年度 東海大学大学院常任FD委員会

2013年度 理工学研究科 FD活動報告書

2014年2月25日作成

理工学研究科：網野真一

(常任FD委員)

1. 組織における本年度のFD委員会の活動に関して

(1) FD委員の構成および人数

委員長 1名

委員 3名

(2) 委員会の開催日時（複数記述可）

メール等による意見交換や打合せのみで、会議としては開催実績なし

(3) 2013年度の主な活動内容

研修会2回 テーマ「修士論文発表会における評価基準ルーブリックについて」

第1回：2013年7月18日（木） 理工学研究科教授会後

札幌キャンパス M1212

第2回：2014年1月16日（木） 理工学研究科教授会内審議事項として

札幌キャンパス M1212

(4) 2013年度の活動による成果や活動の結果から効果があったと思われる点について

修士論文発表会におけるルーブリック評価について、以下がなされた。

- 1) ルーブリックについての一般的議論に関する認識の共有
- 2) 本研究科の修士論文審査におけるルーブリックの位置づけの再確認
- 3) 2013年度発表会に向けたルーブリックの改訂
- 4) 改訂ルーブリックによる修士論文発表会審査の実施

(5) その他・特記事項

2. 組織における本年度のFD研究会・研修会等について

研究科・専攻・学部・学科・センターでの開催について

(複数回開催された場合は、それぞれについてご記入ください。)

主催組織名： 理工学研究科

テーマ：修士論文発表会における評価基準ルーブリックについて

日時： 2013年7月18日(木) 理工学研究科教授会終了後

概ね 17:15-18:15

場所： 札幌キャンパスM1212会議室

参加人数： 19名 (研究科内クローズドで開催)

概要・概略： 以下の配布資料により、一般的なルーブリックの位置づけ、作成法、運用法などについての認識を共有するとともに、質的転換、アセスメントポリシーなどのキーワードがある潮流のなかで、本研究科における修士論文発表会でのルーブリックの運用、審査内規などについて再確認した。

配布資料： 現行のルーブリック、および以下の図書からの関係ページの写し

田中耕治編 『よく分かる教育評価』 ミネルヴァ書房

バーバラ・ウォルード著 『大学教育アセスメント入門』 ナカニシヤ出版

主催組織名： 理工学研究科

テーマ：修士論文発表会における評価基準ルーブリックについて (続)

日時： 2014年1月16日(木) 理工学研究科教授会内

17:04-17:32

場所： 札幌キャンパスM1212会議室

参加人数： 16名 (研究科内クローズドで開催)

概要・概略： 本研究科では、教育におけるPDCAサイクルのひとつとして、修士論文審査、特に発表会におけるルーブリックの見直しをMSシートにも掲げているところであるが、昨年度の使用実績や第1回のFD研修会における研究科教授会メンバーの認識の共有を受けて、2013年度修士論文審査におけるルーブリックを検討し、改訂を行った。

配布資料： ルーブリックの改訂案、改訂趣旨

現行のルーブリック

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (理学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(2) 教育方法等</p> <p>2) シラバスについて、理学部、産業工学部、理学研究科、医学研究科、健康科学研究科、理工学研究科においては、教員間の記述の精粗や、成績評価基準などにあいまいな記載が認められるので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 42)</p> <p>シラバスの作成と活用状況</p> <p>全科目のシラバスには大学共通のフォーマットに従って、授業概要 (育成したい力・スキル、授業要旨、学修の到達目標)、授業計画 (授業スケジュール、履修のポイントおよび担当教員への連絡先・方法)、成績評価の方法、教科書・参考文献等を明示している。シラバスは常時 Web 上で公開しているが、第 1 回目の授業開始時に履修者に配布し、これに従って授業を進め、成績評価を行っている。</p>
	評価後の改善状況	<p>シラバスに関して 2009 年度の第三者評価で助言があった。2010 年度からはカリキュラムポリシーと育成する人材像を授業要覧に明記し、新カリキュラムのシラバスに明記するようにした。</p> <p>2010 年度春学期のシラバスには、助言の対象となった記入されていない項目やわかりにくい書き方が一部にあった。2011 年度春および秋学期のシラバスでは学部内でシラバスのチェック項目を決めた。シラバスは学科内でチェックし、記載内容を変更したシラバスは学科間 (主任および教務委員)</p>

	<p>で相互にチェックを実施した。2013年度の春学期と秋学期のシラバスについて、必要な事項の記載を教員に求め、2012年度までと同様に記述をチェックした。</p> <p>実際に行動する組織は各学科主任および教務委員、検証する組織は理学部主任会であった。</p> <p>2013年度では必要な内容が明記されていたシラバスの全シラバスの中での割合は、学部全体として97.6%（数学科は97.4%、情報数理学科は100%、物理学科は91.7%、化学科は100%）であった。</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等 東海大学オフィシャル HP 内シラバス http://www12.tsc.u-tokai.ac.jp/</p>	
<大学基準協会使用欄>	
検討所見	<div style="text-align: center;"> ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○ </div>
改善状況に対する評定	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 1 2 3 4 5 </div>

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (産業工学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	(2) 教育方法等 2) シラバスについて、理学部、産業工学部、理学研究科、医学研究科、健康科学研究科、理工学研究科においては、教員間の記述の精粗や、成績評価基準などにあいまいな記載が認められるので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 42) シラバスの作成と活用状況 本学では、履修申告は Web 登録であり、学生は各科目のシラバスを参照しながら、履修申告を行う。Web に登録するシラバスは、全体の授業の概要とねらい、各回の授業の内容、成績評価方法、参考資料など詳細にわたって記述されている。また、最初の授業時に、学生に詳細なシラバスを配布して、授業の内容について学生に伝えている。
	評価後の改善状況	毎年、全教員に対して実施アンケートを取るとともに、学科主任は学科全体のシラバスを確認した後、公開を承認している。全専門科目の内容を同一記述書式、同一記述内容にしてシラバスで明記している。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 東海大学オフィシャルホームページ シラバスサイト http://www12.tsc.u-tokai.ac.jp/	

提言に対する改善報告書

大学名称 _____ (評価申請年度 _____)

1. 助言について (医学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	(2) 教育方法等 2) シラバスについて、理学部、産業工学部、理 学研究科、 医学研究科 、健康科学研究科、理工学 研究科においては、教員間の記述の精粗や、成績 評価基準などにあいまいな記載が認められるの で、改善が望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 83) <u>シラバスの作成と活用状況</u> 「教員に多大な負担をかけるという理由からシ ラバスを作成していない」という指摘が 2003 年 の大学院基準協会からの助言としてあったが、 2009 年度にシラバスは完成している。
	評価後の改善状況	2012 年度に引き続き、2013 年度も大学院医学研 究科内の教育委員会が中心となり、必須科目・選 択科目についてシラバスの改訂を行った。育成す る人材像の明文化は 2012 年度に加味されてい る。 成績評価指標に関する統一化を図るために、シラ バスに科目到達目標と科目到達度に対する成績 評価指標を明示することを徹底し、可能な限り成 績評価指標を記載した。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 ・東海大学オフィシャルホームページ http://www12.tsc.u-tokai.ac.jp/	
<大学基準協会使用欄>		
検討所見		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (健康科学研究科)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	<p>(2) 教育方法等</p> <p>2) シラバスについて、理学部、産業工学部、理学研究科、医学研究科、健康科学研究科、理工学研究科においては、教員間の記述の精粗や、成績評価基準などにあいまいな記載が認められるので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 83)</p> <p><u>シラバスの作成と活用状況</u></p> <p>研究科共通のシラバス様式に、教員の連絡先と相談時間、科目概要、授業の進め方、課題と評価基準、教科書・参考書、各回の授業内容を具体的に明記し、春semesterガイダンス時に、通年分の全シラバスと「学修の手引き」の小冊子形式のものを大学院生と教職員に配布している。</p> <p>大学院生は、修士論文作成過程の把握、履修選択や履修計画、事前学習等に、教職員も教育の内容・方法の立案時に参考になり、効率のよいプランニングができ、有効に活用されている。</p>
	評価後の改善状況	<p>シラバスについて、ご指摘のように記載方法が統一されていない項目があったため、教務委員会を中心として、検討し、統一を図ってきた。</p> <p>シラバスについては、看護学専攻、保健福祉学専攻ともに、従来、紙ベースで作成したものを印刷して配布していたが、現在は Web 上で閲覧できるようにしてある。</p> <p>シラバス概要の書き方については、両専攻共に教務委員会を中心として、書式の統一を図り、シラバスの概要として、①授業科目名、②必修・選</p>

	<p>扱の別、③授業科目の区分、④担当教員名及び連絡先、⑤授業の目標、⑥成績評価の方法（成績評価については、シラバスの詳細に記載している）、⑦履修のポイント、⑧留意事項を記載している。</p> <p>シラバス詳細の書き方については</p> <p>①基本事項 （ i 年度、 ii 開講クラス、 iii 授業科目名、 iv 曜日 時限、 v 授業の期間、 vi テーマ、 vii キーワード、②授業で育成する力・スキル、③授業要旨または授業概要、④学習の到達目標 、⑤授業スケジュール、⑥成績評価の基準および方法、⑦教科書・参考書、⑧その他の教材、⑨担当教員の連絡先、⑩授業担当教員からの改善点・コメント、⑪科目 G P A （科目の成績平均値）、⑫成績評価付与時のコメントを記載している。</p>
改善状況を示す具体的な根拠・データ等 シラバス概要については、 http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/risyuu_syllabus/syllabus_gM.html の中の、健康科学研究科・看護学科および保健福祉学専攻の欄をご覧ください。 資料 1 に例を添付します。 なお保健福祉学専攻の「保健福祉研究概論 1」「保健福祉研究概論 2」は Web 登録されていませんので、資料 2、資料 3 に添付します。	
シラバス詳細については https://www24.tsc.u-tokai.ac.jp/syllabus/syplss011 をご覧ください。 なお、資料 4 に例を添付します。	
<大学基準協会使用欄>	
検討所見	<div style="text-align: center;"> ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○ </div>
改善状況に対する評定	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 1 2 3 4 5 </div>

資料 1

資料 1 シラバス-概要 看護理論

http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/risyuu_syllabus/2013M54456.html

を参照してください。

授業内容・計画(概要)の情報

授業科目名	看護理論	学部・学科	必修／選択の別
授業科目の区分	大学院科目 大学院科目	健康科学研究科 看護学専攻 修士課程	必修
担当教員名及び連絡先	寺山範子 3号館3-2 深谷安子 3号館3-8 筒井真由美 小川典子		
授業の目標	より専門的で卓越した看護実践には、理論に裏付けられた現象の捉え方や判断基準、対象との関係の持ち方などが不可欠である。本科目では、「理論」あるいは		

	<p>「看護理論」とは何か、時代や社会との関係の中でその意味と意義を教授し、人間の健康を増進するために適切な理論についての理解を深める。また理論分析の演習を通して、時代の変化および日本の文化の中で、これらの理論を適用する上での課題について探求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護近代史の主な流れを概観することにより看護学の歴史的変遷を理解する。 2. ナイチンゲールの看護理論について、理論の背景・源泉・概要を明確にする。 3. 理論とは何か、理論の種類とは何かを理解する。 4. 理論分析の視点 (clarity, consistency, simplicity, usefulness, generality)を明確にし、理論の評価とは何かを理解する。 5. 履修生の専門領域から関心のある理論を取り上げて分析を行い、理論の理解を深める。
成績評価の方法	
履修	<p>●履修のポイント、留意事項</p> <p>前半は、講義題目に対する教員側からの問題提起による討論形式を中心に進める。</p> <p>後半は、履修生個々の専門領域に関連した、あるいは関心のある理論を選択した理論分</p>

ト 留 意 事 項	析の演習を中心に進める。
-----------------------	--------------

履修学生配布用（2014 年度）

授 業 科 目 名	保健福祉研究概論 1				
担 当 者	西村昌記、船水浩行、小原真知子、小林理、中野いずみ、舘哲郎、堀越由紀子、妻鹿ふみ子、谷口幸一、菅野和恵、				
実 施 時 間	春学期（月曜 6 限）				
開 講 学 科	保健福祉専攻	必 選 の 別	必須	単 位 数	2
学 生 と の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					
使 用 教 室	担当教員の研究室		他 学 科 履 修 の 可 否		
【授業の概要】					
<p>本科目は、保健福祉学専攻の 2010 年度から開講されたカリキュラムの柱となる科目で、後期の「保健福祉研究概論 2」に繋がる連続開講科目の「その 1」となる科目である。</p> <p>保健、福祉、医療の各領域は、その歴史と各専門領域が異なるゆえに、それぞれの視点に基づく援助観、用いる専門用語も異なる。しかし、これらの各領域を統合する視点は、今日求められている患者、利用者のもつ多様化複合化されたニーズに応えるためのチームアプローチにおいては、必要かつ重要である。さらに保健福祉学の領域に限定しても、この分野が参画する場合は、施設、病院、教育の場と多様であり、その対象も子どもから高齢者まで、また健康度も障害・老化領域から健常域まで多様な広がりを持っている。</p> <p>保健福祉学専攻の全教員がオムニバスで参加する本講義では、保健福祉学を構築している研究領域について、担当教員の専門分野を中心に解説することで、本専攻で学ぶ学生が、どのような研究分野が各自に適しているか、また今後の活躍の場や修士論文研究課題を確認できる機会とすることを狙いとしている。</p>					
【講義スケジュール】					
01 回目	4／14	西村	保健福祉研究入門(1)		
02 回目	4／21	西村	保健福祉研究入門(2)		
03 回目	4／28	西村	保健福祉研究入門(3)		
04 回目	5／12	西村	保健福祉研究入門(4)		
05 回目	5／19	西村	保健福祉研究入門(5)		
06 回目	5／26	西村	老いと社会(1)		
07 回目	6／2	小林	子ども家庭と福祉(1)		
08 回目	6／9	小原	保健医療福祉の現状と課題(1)		
09 回目	6／16	船水	社会保障構造改革の動向と課題(1)		
10 回目	6／23	中野	現代社会と介護福祉(1)		
11 回目	6／30	舘	心の病気と治療(1)		
12 回目	7／7	堀越	ソーシャルワーク実践の現在(1)		
13 回目	7／14	妻鹿	地域における新たな支え合いのあり方(1)		
14 回目	7／21	谷口	高齢者の心のケアに関する課題(1)		
15 回目	7／28	菅野	障害児・者の心理と支援(1)		
成績評価の方法：					
各回担当教員の課題に対する評価点 80 ポイント＋出席点 20 ポイントを合計し、その平均点を最終評価とする。講義中のディスカッションへの参加度を重視する。					

資料 3

S Y L L A B U S

授業内容・計画

履修学生配布用（2014 年度）

授 業 科 目 名	保健福祉研究概論 2				
担 当 者	西村昌記、船水浩行、小原真知子、小林理、中野いずみ、舘哲郎、堀越由紀子、妻鹿ふみ子、菅野和恵、東奈美、森久保俊満、稗田里香、阿部政昭				
実 施 時 間	秋学期（月曜 6 限）				
開 講 学 科	保健福祉専攻	必 選 の 別	必須	単 位 数	2
学 生 と の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					
使 用 教 室	担当教員の研究室		他 学 科 履 修 の 可 否		
【授業の概要】					
<p>本科目は、保健福祉学専攻の 2010 年度から開講されたカリキュラムの柱となる科目で、後期の「保健福祉研究概論 2」に繋がる連続開講科目の「その 2」となる科目である。</p> <p>保健、福祉、医療の各領域は、その歴史と各専門領域が異なるゆえに、それぞれの視点に基づく援助観、用いる専門用語も異なる。しかし、これらの各領域を統合する視点は、今日求められている患者、利用者のもつ多様化複合化されたニーズに応えるためのチームアプローチにおいては、必要かつ重要である。さらに保健福祉学の領域に限定しても、この分野が参画する場合は、施設、病院、教育の場と多様であり、その対象も子どもから高齢者まで、また健康度も障害・老化領域から健常域まで多様な広がりを持っている。</p> <p>保健福祉学専攻の全教員がオムニバスで参加する本講義では、保健福祉学を構築している研究領域について、担当教員の専門分野を中心に解説することで、本専攻で学ぶ学生が、どのような研究分野が各自に適しているか、また今後の活躍の場や修士論文研究課題を確認できる機会とすることを狙いとしている。</p>					
【講義スケジュール】					
01 回目	9／22	西村	保健福祉研究入門(6)		
02 回目	9／29	小林	子ども家庭と福祉(2)		
03 回目	10／6	小原	保健医療福祉の現状と課題(2)		
04 回目	10／13	船水	社会保障構造改革の動向と課題(2)		
05 回目	10／20	中野	現代社会と介護福祉(2)		
06 回目	10／27	舘	研究のすすめ方		
07 回目	11／10	堀越	ソーシャルワーク実践の現在(2)		
08 回目	11／17	妻鹿	地域における新たな支え合いのあり方(1)		
09 回目	11／24	妻鹿	地域における新たな支え合いのあり方(2)		
10 回目	12／1	菅野	障害児・者の心理と支援(2)		
11 回目	12／8	東	地域社会の変化と高齢者支援システム		
12 回目	12／15	西村	老いと社会(2)		
13 回目	12／22	阿部	社会の産業化と介護		
14 回目	1／19	森久保	地域活性化の新たな方策		
15 回目	1／26	稗田	精神障害にチャレンジする人のリカバリーとソーシャルワーク		
成績評価の方法：					
各回担当教員の課題に対する評価点 80 ポイント＋出席点 20 ポイントを合計し、その平均点を最終評価とする。講義中のディスカッションへの参加度を重視する。					

シラバス詳細 例 家族看護学特論

<https://www24.tsc.u-tokai.ac.jp/syllabus/syplssso016>

を参照してください。

1. 基本事項

2013 年度	春 学期	
開講クラス	健康科学研究科・健康科学研究科-看護学専攻-修士課程	
授業科目名	家族看護学特論	
曜日 時限	水-4 水-5	
集中授業の 期間	開始:2013/04/10	
	終了:2013/07/24	
テーマ	わが国の保健医療福祉制度の中で、家族看護が果たす役割、位置づけの明確化	
キーワード	保健医療福祉システム	保健医療福祉行政と施策 家族社会学

2. 授業で育成する力・スキル

現代家族の現状と特徴を多分野から理解し、保健医療福祉制度の中で家族看護の果たす役割や今後の課題を明確にすることができる。具体的には保健としての家族ヘルスプロモーション、多問題家族の成り立ち、患者家族を中心に添えた医療を理解し、必要な社会制度や組織の調整の視点を養う。

3. 授業要旨または授業概要

本科目は、家族看護学を理解するための導入部分である。そのため近年の家族を取り巻く社会や地域の状況、家族看護に関連のある保健医療福祉制度や施策を理解する。またわが国の看護の歴史のなかで、家族のニーズとして捉えられてきたものは何か、それらに対し

てどのような資源があり、ケアが行われてきたのか、家族看護の発展と応用を理解する。

これらに基づき、現在の保健医療福祉制度の中で果たす家族看護の役割や課題、さらに今後の発展や展開を考え、医療組織の中で家族に対する介入、調整能力の視点を養う。

4. 学習の到達目標

- ①現代社会における家族看護学の発展とニーズについて理解できる。
- ②家族社会学の立場から、日本社会における家族の歴史・特徴と課題を明確にできる。
- ③保健医療における家族のヘルスプロモーションの概念が理解できる。
- ④臨牀場面におけるソーシャルワークの視点から家族支援の視点が理解できる。
- ⑤患者・家族をケアの中心と捉えた医療を展開するための施策と資源を理解できる。
- ⑥家族に対する支援場面において多角的な視点に基づき家族問題を分析し、系統的に多職種間の調整を論考することができる。

5. 授業スケジュール

1, 2 回 4/10 オリエンテーション 医療の中の家族看護の位置づけ 家族看護学と関連領域文献の紹介と科目の進め方のオリエンテーション。医療の中での家族看護の発展と現代社会における位置づけを関連領域をふまえ理解する。

(井上玲子 柳原清子)

3, 4 回 4/24 当事者中心医療① 医療行政
わが国の患者・家族を中心とした医療行政を、がん対策基本法から具体的取り組みを解説する。(井上玲子)

5, 6 回 5/15 家族のヘルスプロモーション

家族のヘルプ・モーションの概念を学ぶ。わが国の家族の保健医療システムの概要を理解する。（井上玲子）

7, 8 回 5/29 当事者中心医療② 医療組織と社会資源
わが国の患児・家族を中心とした医療改革の成り立ちと、医療組織と当事者との協働の具体的取り組みを解説する。小児慢性特定疾患、小児が拠点病院を中心とした小児特有の資源と施策。
（井上玲子）

9, 10 回 6/12 現代家族の理解

11, 12 回 現代家族の特徴を統計的資料を用い、社会学的観点から理解する。
（村瀬暁子 柳原清子 井上玲子）

13, 14 回 7/10 家族と保健医療福祉システム①
健康障害をもつ患者・家族を取り巻く保健医療福祉の中の施策を理解する。（小林理 井上玲子）

15, 16 回 7/24 家族と保健医療福祉システム②
健康障害をもつ患者の家族へのソーシャルワーク
（堀越由紀子 井上玲子 柳原清子）

6. 成績評価の基準および方法

プレゼンテーション 30% レポート 30% ディスカッションへの参加度 30% 出席 10%

7. 教科書・参考書

区分	書 名	著者名	発行元	定価
----	-----	-----	-----	----

参 考 書	Family Nursing-Research,Theory,Practice,5th	M.M.Friendman		
参 考 書	Nurse and Family Health Promotion	Perri.J	W.B.Saundders Compamy	
参 考 書	ネットワークとしての家族	吉田あけみ他	ミネルヴァ書 房	
参 考 書	パートナーシップの家族社会学	島村忠義、岡 元行雄	学文社	
参 考 書	ライフコースと世代	森岡清美、青 井和夫	垣内出版	
参 考 書	家族ライフスタイルの社会学	Devid.C 著、 野々山久也訳	ミネルヴァ書 房	
参 考 書	家族社会学の分析視座	野々山久也編	ミネルヴァ書 房	
参 考 書	家族生活研究—家族の景色とその見 方	宮本みち子、 清水新二	放送大学教育 振興会	
参 考 書	患者の声を医療に生かす	患者の声を医 療に生かす	医学書院	
参 考 書	健康と医療の社会学	山崎喜比呂	東京大学出版 会	
参 考 書	個人化する家族	目黒依子	勁草書房	

参 考 書	新版 データで読む家族問題	湯沢雅彦	NHKブックス	
参 考 書	生活構造の理論	青井和夫他	有斐閣	
参 考 書	対人援助のためのソーシャルサポ ートシステム	L.マグワイア (著)/小松源 助・稲沢公一 (訳)	川島書店	
参 考 書	論点ハンドブック 家族社会学	野々山久也編	世界思想社	

8. その他の教材

9. 担当教員の連絡先

井上玲子研究室 2-18 内線 4395 E-Mail
rinoue@is.icc.u-tokai.ac.jp

10. 授業担当教員からの改善点・コメント

11. 科目GPA(科目の成績平均値)

この科目の科目GPAの表示は行いません

12. 成績評価付与時のコメント

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	2 教育内容・方法
	指摘事項	(3) 学位授与・課程修了の認定 1) 全研究科(専門職大学院を除く)において、学位授与方針ならびに学位論文審査基準が学生に明示されていないので、『大学院要項』などに明示することが望まれる。
	評価当時の状況	2010 年度までの大学院要項における、研究科ごとの掲載内容は、以下の通りでした。 ・教育目標、養成しようとする人材 ・カリキュラム ・所属教員(専門分野・授業科目を含む)
	評価後の改善状況	大学院要項掲載内容の見直しを行い、関係委員会等の審議を経て、2011 年度大学院要項より従来の掲載内容に加え、「学位授与方針ならびに学位論文審査基準」を、全ての研究科において掲載することとしました。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 ・2014 年度大学院要項(Ⅰ)(別冊資料6) ・2014 年度大学院要項(Ⅱ)(別冊資料7)	
	<大学基準協会使用欄>	
	検討所見	
改善状況に対する評価		1 2 3 4 5

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	3 学生の受け入れ
	指摘事項	3) 医学部医学科において、2 年次の編入学試験を定員 40 名で実施しているが、編入学定員が学則に定められていないので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 112) <u>学生収容定員と在籍学生数、(編)入学定員と(編)入学者数の比率の適切性</u> 編入学については、定員を設けて入試を行う医学部、健康科学部の編入学試験と、これ以外の学部で定員を設けずに実施している編入学試験がある。定員を設けて実施している医学部、健康科学部では概ね定員確保ができています。定員を設けていない編入学試験については、出願できる学科が毎年異なることもあり、各学科数名程度の出願となっている。このため、この試験で入学する者が在籍学生に占める割合は定員充足に影響のあるものではない。
	評価後の改善状況	1988 年度に開始した制度であるが、当初 5 名（若干名）であったものが、10 名、20 名、40 名と増加後、2012 年度では、30 名、2014 年度では、20 名と募集人数を減少させてきている。学則に記載するかどうかは、募集人数と社会情勢、医学教育の動向等を鑑み再考したいと考えている。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学

(評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	3 学生の受け入れ
	指摘事項	<p>1) 学部における入学定員に対する入学者数比率(過去5年間平均)について、定員超過に関しては、学部では体育学部が 1.22 と高く、学科では文学部広報メディア学科が 1.30、理学部数学科が 1.28 と高くなっている。一方、未充足に関しては、学部では、総合経営学部が 0.52、芸術工学部が 0.41、産業工学部が 0.31、生物理工学部が 0.59 と低く、学科では、工学部の光・画像工学科が 0.73、エネルギー工学科が 0.72、材料科学科が 0.65、土木工学科が 0.68、精密工学科が 0.78、情報理工学部のコンピュータ応用工学科が 0.64 と低くなっているため、改善が望まれる。</p> <p>また、収容定員に対する在籍学生数比率は、定員超過に関しては、学部では体育学部が 1.22、学科では文学部広報メディア学科が 1.32、海洋学部水産学科が 1.27 と高くなっている。一方、未充足に関しては、学部では総合経営学部が 0.51、芸術工学部が 0.41、産業工学部が 0.31、生物理工学部が 0.58 と低く、学科では工学部光・画像工学科が 0.70、材料科学科が 0.62、土木工学科が 0.65、精密工学科が 0.76 と低くなっているため、改善が望まれる。</p> <p>2) 工学部生命化学科の推薦入試、理学部情報数理科の推薦入試、教養学部人間環境学科および芸術学科のAO入試については、複数年度にわたり定員の2倍程度の学生を入学させているため、改善が望まれる。</p>

		<p>4) 大学院研究科における収容定員に対する在籍学生数比率について、定員超過に関しては、体育学研究科が 2.80 と高くなっているため、学位論文指導に支障をきたさぬよう配慮し、改善することが望まれる。また、定員未充足に関しても、修士（博士前期）課程では、産業工学研究科が 0.44 が、博士（博士後期）課程では、文学研究科が 0.30、政治学研究科が 0.07、経済学研究科が 0.07、法学研究科が 0.07 と低くなっているため、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>項目番号 112)</p> <p><u>学生収容定員と在籍学生数、(編)入学定員と(編)入学者数の比率の適切性</u></p> <p>学生収容定員に対する在籍学生数の比率は、2009 年度では 97%、2008 年度では 99%となっている。また、各学部においては、文部科学省の大学設置認可の上限である収容定員の 130%を超過することなく、最大で 120%程度となっている。</p> <p>本学は 20 学部を擁する大規模な総合大学であり多様な学問分野を展開するため、学部間での入学者の偏りが発生している。地域性の問題もあるが、とくに北海道および九州地区に展開している学部収容定員の半数に満たない学部が存在する。旭川に設置している芸術工学部は収容定員の 43%、熊本に設置している産業工学部は 42%程度の入学生の確保にとどまっている。</p> <p>編入学については、定員を設けて入試を行う医学部、健康科学部の編入学試験と、これ以外の学部で定員を設けずに実施している編入学試験がある。定員を設けて実施している医学部、健康科学部では概ね定員確保ができています。定員を設けていない編入学試験については、出願できる学科が毎年異なることもあり、各学科数名程度の出願となっている。このため、この試験で入学する者が在籍学生に占める割合は定員充足に影響のあるものではない。</p>

	<p>項目番号 113)</p> <p><u>著しい欠員ないし定員超過が恒常的に生じている学部における対応策とその有効性</u></p> <p>定員充足率が 3 年連続で 50% に達しなかった学科については、原則、統廃合することが検討され、2007 年度に理事会で決定された。定員の見直しも含め、改組改変を通じた改革により、定員の充足を図ることとしている。</p> <p>この方針に基づき、2008 年度に情報デザイン工学部、2009 年度に開発工学部、海洋学部海洋建設工学科および海洋学部環境情報工学科の募集停止がなされた。これらの学部学科のうち開発工学部医用生体工学科は工学部に移設された。海洋学部は募集停止された 2 学科を除いた 7 学科全体の入学定員充足率が 2009 年度は 79% であり、現在改革案を作成中である。</p> <p>また、芸術工学部（2009 年度の入学定員充足率 41%）、生物理工学部（2009 年度の入学定員充足率 59%）、情報理工学部（2009 年度の入学定員充足率 89%）、総合経営学部（2009 年度の入学定員充足率 53%）、産業工学部（2009 年度の入学定員充足率 24%）、農学部（2009 年度の入学定員充足率 94%）と入学定員の充足が図られていない学部がある。これらの学部に対して、類似学科の統合も踏まえた改革案を検討中である。</p> <p>広報活動としては、2007 年度後半より、広報課、アドミッションオフィス、入試事務課を入試センターとして再編して、入学広報課、入試事務課の 2 課体制にし、さらに 2009 年度より北海道地区、九州地区、清水地区に入学広報課を新設し、全学的な入試広報活動を実施した。その結果 6 月・7 月・8 月・11 月のオープンキャンパス参加者数が 2007 年度 12,418 人、2008 年度 14,796 人、2009 年度 15,810 人と増加している。</p> <p>項目番号 124)</p> <p><u>大学院研究科における収容定員に対する在籍学</u></p>
--	--

		<p><u>生数の比率および学生確保のための措置の適切性</u></p> <p>修士課程、博士課程前期では、全体的には収容定員を上回る在籍者を確保している。しかしながら、その内訳には大きな格差がある。理学、工学といった理工系の研究科や芸術学研究科については、概ね 1.3 倍程度の超過率となっている。しかしながら、経済学、法学、産業工学の各研究科においては、0.5 倍を切る状況となっている。</p> <p>博士課程、博士課程後期については、定員充足に至っていない状況である。唯一、医学研究科のみが収容定員の 50%程度を確保しているのみである。他の研究科にあつては、数名の在籍しかない研究科もあり、定員確保は難しい状況にあると言える。</p> <p>項目番号 125)</p> <p><u>著しい欠員ないし定員超過が恒常的に生じている大学院研究科における対応策とその有効性</u></p> <p>学部においては定員充足率が 3 年連続して 50%に達しなかった学科については原則として統廃合することとしているが、研究科各専攻に対しては、未だそうした方向性は示されていない。むしろ、大学院教育の充実および大学院修了後の進路に関する就職指導等の徹底などにより、学部の学生が進学しやすい状況確立する方向で検討がなされている。</p> <p>また、理工系大学においては現在、修士課程と博士課程が異なる研究科に設置されているが、これに対して研究指導の継続性、研究内容の最適性の観点からの組織の再編を含めた検討がなされている。</p> <p>ティーチング・アシスタント制度を設定し、学部学生の助言、教育補助業務を行わせ経済的支援と教員・研究者となるためのトレーニングの機会を設定している。また、医学研究科では、2009 年度より臨床研修大学院コースを開設し、経済的</p>
--	--	---

		<p>支援を行いながら臨床スキルの修得および医科学研究への探求心の向上を図るプログラムを設定した。医学研究科の収容定員の充足率が 2008 年度 65%から 2009 年度 90%と変化している。本学の大学院研究科の定員充足に関しては、各研究科および各専攻における格差が広がっている。こうした問題に対しては、2012 年度における第Ⅲ期改革が進められており、改善には多少の時間が必要なものの、プロジェクトが設置されて検討が進められている。</p>
	評価後の改善状況	<p>1) 学部における入学定員に対する入学者数比率について、体育学部は、(2010 年度～2014 年度の平均が) 1.17、文学部広報メディア学科は、1.17、理学部数学科は、1.17 と改善されている。総合経営学部、芸術工学部、産業工学部、生物理工学部、エネルギー工学科は募集停止となった。工学部の光・画像工学科は、(2010 年度～2014 年度の平均が) が 0.95 (2014 年度は 1.13)、材料科学科は、1.07、土木工学科は、0.73 (2014 年度は 1.14)、精密工学科は、0.95、情報理工学部のコンピュータ応用工学科は、0.94 (2014 年度は 1.02) とそれぞれ改善されてきている。</p> <p>収容定員に対する在籍学生数比率は、体育学部が 2010 年度～2014 年度の間に、1.23、1.24、1.23、1.19、1.15 と、文学部広報メディア学科が 1.33、1.30、1.23、1.15、1.14 と改善されてきている。海洋学部水産学科は、改組前の旧学科の在籍者がおり、在籍学生が多い側面があった。適切な指導により、改組前の旧学科の在籍者もその多くが卒業している。このこともあり、海洋学部水産学科の収容定員は、1.27、1.28、1.27、1.27、1.22 と徐々にではあるが、改善されてきている。総合経営学部、芸術工学部、産業工学部、生物理工学部は募集停止となった。2010 年度～2014 年度の間に、工学部光・画像工学科が 0.78、0.87、0.88、0.88、0.99、材料科学科が 0.65、0.74、0.89、1.01、1.12、土木工学科が 0.55、0.52、0.52、</p>

	<p>0.63、0.79、精密工学科が 0.76、0.76、0.79、0.90、1.01 と収容定員に対する在籍学生数比率が徐々にではあるが改善されてきている。</p> <p>2) 工学部生命化学科の推薦入試では、附属校推薦入学試験の募集人数を増加させることも行い、2014 年度で 1.5 倍と改善されている。理学部情報数理学科、教養学部人間環境学科、芸術学科は共に、一般入試での受験生確保において苦戦をしており、定員確保の側面から、推薦入試および A0 入試での入学者が増えてしまう側面がある。そのため、理学部情報数理学科では、附属校推薦入学試験の募集人数を増加させ、教養学部人間環境学科、芸術学科では、A0 入学試験の募集人数を増加させている。これらの変更もあり、理学部情報数理学科の推薦入試では、2014 年度で 2.1 倍と多少の改善が見られ、教養学部人間環境学科および芸術学科の A0 入試についても多少の改善が見られる。今後より一層の改善を目指したい。</p> <p>4) 大学院研究科における収容定員に対する在籍学生数比率について体育学研究科では、2010 年度～2014 年度において、2.50、2.05、2.05、2.05、1.52 と改善された。</p> <p>修士（博士前期）課程の産業工学研究科には、その母体となる産業工学部の募集停止および一般社会における経済不況の影響を受け、入学者の確保に難しい側面がある。この点を踏まえた改善を図りたいと考えている。</p> <p>博士（博士後期）課程の文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、法学研究科には、一般社会における経済不況および博士課程後期卒業生の就職難の影響を受け、入学者の確保に難しい側面がある。この点を踏まえた改善を図りたいと考えている。</p>
	<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>大学基礎データ表 13、14、18</p>
	<p><大学基準協会使用欄></p>

Ⅲ 学生の受け入れ

学部・学科の志願者・合格者・入学者数の推移

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する入学者数の比率(2010～2014年平均)
文学部 (春学期)	文明学科	一般入試	志願者		151	176	303	231	261	
			合格者		92	110	153	106	112	
			入学者(A)		37	40	33	31	28	
			入学定員(B)		32	32	32	32	32	
			A/B*100		115.6	125.0	103.1	96.9	87.5	
			志願者		9	12	8	17	17	
			合格者		9	11	7	17	15	
			入学者(A)		9	11	7	17	15	
			入学定員(B)		7	7	7	7	7	
			A/B*100		128.6	157.1	100.0	242.9	214.3	
			志願者		21	20	17	14	23	
			合格者		21	20	17	14	23	
			入学者(A)		21	20	17	13	23	
			入学定員(B)		18	18	18	18	18	
			A/B*100		116.7	111.1	94.4	72.2	127.8	
			志願者		4	3	7	4	6	
			合格者		4	3	7	4	6	
			入学者(A)		4	3	7	4	6	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
			志願者		2	2	4	5	4	
			合格者		2	2	4	5	4	
			入学者(A)		2	2	4	4	4	
			入学定員(B)		3	3	3	3	3	
			A/B*100		66.7	66.7	133.3	133.3	133.3	
			志願者		0	0	0	0	1	
			合格者		0	0	0	0	0	
			入学者(A)		0	0	0	0	0	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
	学科計	志願者			187	213	339	271	312	120.7
		合格者			128	146	188	146	160	
		入学者(A)			73	76	68	69	76	
		入学定員(B)			60	60	60	60	60	
		A/B*100			121.7	126.7	113.3	115.0	126.7	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部 (春学期)	アジア 文明学科	一般入試	志願者		115	118	241	219	184	
			合格者		65	72	133	116	110	
			入学者(A)		17	16	28	24	20	
			入学定員(B)		32	32	32	32	32	
			A/B*100		53.1	50.0	87.5	75.0	62.5	
		A O入試	志願者		18	13	27	12	14	
			合格者		18	13	21	12	14	
			入学者(A)		18	13	21	12	14	
			入学定員(B)		7	7	7	7	7	
			A/B*100		257.1	185.7	300.0	171.4	200.0	
		附属校推薦	志願者		11	14	8	9	15	
			合格者		11	14	8	9	15	
			入学者(A)		11	14	8	9	15	
			入学定員(B)		18	18	18	18	18	
			A/B*100		61.1	77.8	44.4	50.0	83.3	
		指定校推薦	志願者		2	4	6	4	6	
			合格者		2	4	6	4	6	
			入学者(A)		2	4	6	4	6	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		1	1	1	1	3	
			合格者		1	1	1	1	3	
			入学者(A)		1	1	1	1	3	
			入学定員(B)		3	3	3	3	3	
			A/B*100		33.3	33.3	33.3	33.3	100.0	
		留学生入試	志願者		0	2	0	0	0	
			合格者		0	2	0	0	0	
			入学者(A)		0	2	0	0	0	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		その他 (スポーツ優秀者特 別)	志願者			0	0	1	1	
			合格者			0	0	1	1	
			入学者(A)			0	0	1	1	
			入学定員(B)			0	0	0	0	
			A/B*100			-	-	-	-	
	学科計	志願者			147	152	283	246	223	91.0
		合格者			97	106	169	143	149	
		入学者(A)			49	50	64	51	59	
		入学定員(B)			60	60	60	60	60	
		A/B*100			81.7	83.3	106.7	85.0	98.3	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	ヨーロッパ 文明学科	一般入試	志願者	294	196	400	330	292	114.3	
			合格者	101	110	141	144	142		
			入学者(A)	25	32	34	36	32		
			入学定員(B)	37	37	37	37	37		
			A/B*100	67.6	86.5	91.9	97.3	86.5		
		A O 入 試	志願者	21	14	19	15	23		
			合格者	20	13	13	15	13		
			入学者(A)	19	13	13	12	13		
			入学定員(B)	7	7	7	7	7		
			A/B*100	271.4	185.7	185.7	171.4	185.7		
		附属校推薦	志願者	25	26	16	16	28		
			合格者	25	26	16	16	28		
			入学者(A)	25	26	16	16	28		
			入学定員(B)	21	21	21	21	21		
			A/B*100	119.0	123.8	76.2	76.2	133.3		
		指定校推薦	志願者	6	4	6	6	4		
			合格者	6	4	6	6	4		
			入学者(A)	6	4	6	6	4		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
		公募推薦入試	志願者	6	10	11	5	11		
			合格者	6	8	9	5	6		
			入学者(A)	6	8	9	5	6		
			入学定員(B)	5	5	5	5	5		
			A/B*100	120.0	160.0	180.0	100.0	120.0		
		留学生入試	志願者	0	0	0	0	0		
			合格者	0	0	0	0	0		
			入学者(A)	0	0	0	0	0		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
学科計	志願者	352	250	452	372	358				
	合格者	158	161	185	186	193				
	入学者(A)	81	83	78	75	83				
	入学定員(B)	70	70	70	70	70				
	A/B*100	115.7	118.6	111.4	107.1	118.6				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部 (春学期)	アメリカ文明学科	一般入試	志願者		169	189	263	298	176	
			合格者		90	127	161	123	103	
			入学者(A)		40	42	52	35	20	
			入学定員(B)		32	32	32	32	32	
			A/B*100		125.0	131.3	162.5	109.4	62.5	
		A O入試	志願者		8	8	9	10	15	
			合格者		8	6	7	10	12	
			入学者(A)		8	6	7	9	12	
			入学定員(B)		7	7	7	7	7	
			A/B*100		114.3	85.7	100.0	128.6	171.4	
		附属校推薦	志願者		13	8	6	13	25	
			合格者		13	8	6	13	25	
			入学者(A)		13	8	6	13	25	
			入学定員(B)		18	18	18	18	18	
			A/B*100		72.2	44.4	33.3	72.2	138.9	
		指定校推薦	志願者		1	3	2	2	4	
			合格者		1	3	2	2	4	
			入学者(A)		1	3	2	2	4	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		4	2	2	3	1	
			合格者		4	2	2	3	1	
			入学者(A)		4	2	2	3	1	
			入学定員(B)		3	3	3	3	3	
			A/B*100		133.3	66.7	66.7	100.0	33.3	
		留学生入試	志願者		0	0	0	0	0	
			合格者		0	0	0	0	0	
			入学者(A)		0	0	0	0	0	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		その他 (スポーツ優秀者特別)	志願者			0	2	2	0	
			合格者			0	2	2	0	
			入学者(A)			0	2	2	0	
			入学定員(B)			0	0	0	0	
			A/B*100			-	-	-	-	
	学科計	志願者			195	210	284	328	221	108.0
		合格者			116	146	180	153	145	
		入学者(A)			66	61	71	64	62	
		入学定員(B)			60	60	60	60	60	
		A/B*100			110.0	101.7	118.3	106.7	103.3	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部 (春学期)	北欧学科	一般入試	志願者		220	203	305	350	241	
			合格者		147	154	178	156	151	
			入学者(A)		49	46	53	32	34	
			入学定員(B)		32	32	32	32	32	
			A/B*100		153.1	143.8	165.6	100.0	106.3	
		A O 入試	志願者		7	12	12	16	14	
			合格者		7	11	11	15	13	
			入学者(A)		7	11	11	15	12	
			入学定員(B)		7	7	7	7	7	
			A/B*100		100.0	157.1	157.1	214.3	171.4	
		附属校推薦	志願者		11	7	10	11	12	
			合格者		11	7	10	11	12	
			入学者(A)		11	7	10	11	12	
			入学定員(B)		18	18	18	18	18	
			A/B*100		61.1	38.9	55.6	61.1	66.7	
		指定校推薦	志願者		3	3	1	1	0	
			合格者		3	3	1	1	0	
			入学者(A)		3	3	1	1	0	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		5	3	3	5	4	
			合格者		5	3	2	5	4	
			入学者(A)		5	3	2	5	4	
			入学定員(B)		3	3	3	3	3	
			A/B*100		166.7	100.0	66.7	166.7	133.3	
		留学生入試	志願者		0	1	0	0	0	
			合格者		0	0	0	0	0	
			入学者(A)		0	0	0	0	0	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
	学科計	志願者			246	229	331	383	271	116.0
		合格者			173	178	202	188	180	
		入学者(A)			75	70	77	64	62	
		入学定員(B)			60	60	60	60	60	
		A/B*100			125.0	116.7	128.3	106.7	103.3	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部（春学期）	歴史学科	日本史専攻	一般入試	志願者	430	449	550	520	446	
				合格者	104	78	81	68	100	
				入学者(A)	28	19	18	12	17	
				入学定員(B)	32	32	32	32	33	
				A/B*100	87.5	59.4	56.3	37.5	51.5	
			AO入試	志願者	19	13	26	21	25	
				合格者	10	8	8	13	8	
				入学者(A)	10	8	8	11	8	
				入学定員(B)	7	7	7	7	6	
				A/B*100	142.9	114.3	114.3	157.1	133.3	
			附属校推薦	志願者	26	27	28	25	27	
				合格者	26	27	28	25	27	
				入学者(A)	24	27	28	25	27	
				入学定員(B)	13	13	13	13	13	
				A/B*100	184.6	207.7	215.4	192.3	207.7	
			指定校推薦	志願者	4	2	6	5	2	
				合格者	4	2	6	5	2	
				入学者(A)	4	2	6	5	2	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
			公募推薦入試	志願者	13	12	14	3	16	
				合格者	6	7	4	2	9	
				入学者(A)	5	7	4	2	9	
				入学定員(B)	3	3	3	3	3	
				A/B*100	166.7	233.3	133.3	66.7	300.0	
			留学生入試	志願者	0	1	0	0	0	
				合格者	0	1	0	0	0	
				入学者(A)	0	1	0	0	0	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
		専攻計		志願者	492	504	624	574	516	115.3
				合格者	150	123	127	113	146	
				入学者(A)	71	64	64	55	63	
				入学定員(B)	55	55	55	55	55	
				A/B*100	129.1	116.4	116.4	100.0	114.5	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する入学者数の比率（2010～2014年平均）
文学部（春学期）	歴史学科	東洋史専攻	一般入試	志願者	197	197	237	234	162	112.0
				合格者	114	101	129	129	114	
				入学者(A)	43	29	43	20	21	
				入学定員(B)	22	22	22	22	22	
				A/B*100	195.5	131.8	195.5	90.9	95.5	
			A O 入試	志願者	2	8	3	6	7	
				合格者	2	7	3	6	7	
				入学者(A)	2	7	3	5	7	
				入学定員(B)	6	6	6	6	6	
				A/B*100	33.3	116.7	50.0	83.3	116.7	
			附属校推薦	志願者	5	5	8	7	1	
				合格者	5	5	8	7	1	
				入学者(A)	5	5	8	7	1	
				入学定員(B)	9	9	9	9	9	
				A/B*100	55.6	55.6	88.9	77.8	11.1	
			指定校推薦	志願者	2	4	2	1	1	
				合格者	2	4	2	1	1	
				入学者(A)	2	4	2	1	1	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
			公募推薦入試	志願者	1	3	1	0	4	
				合格者	1	3	1	0	3	
				入学者(A)	1	3	1	0	3	
				入学定員(B)	3	3	3	3	3	
				A/B*100	33.3	100.0	33.3	0.0	100.0	
			留学生入試	志願者	0	0	0	0	0	
				合格者	0	0	0	0	0	
				入学者(A)	0	0	0	0	0	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
		専攻計	志願者	207	217	251	248	175		
			合格者	124	120	143	143	126		
			入学者(A)	53	48	57	33	33		
			入学定員(B)	40	40	40	40	40		
			A/B*100	132.5	120.0	142.5	82.5	82.5		

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	歴史学科	西洋史専攻	一般入試	志願者	358	312	377	466	357	116.4
				合格者	121	128	136	158	141	
				入学者(A)	28	30	33	37	26	
				入学定員(B)	27	27	27	27	27	
				A/B*100	103.7	111.1	122.2	137.0	96.3	
			A O 入試	志願者	11	11	16	15	12	
				合格者	9	10	10	9	9	
				入学者(A)	9	10	10	8	9	
				入学定員(B)	7	7	7	7	7	
				A/B*100	128.6	142.9	142.9	114.3	128.6	
			附属校推薦	志願者	20	14	9	6	12	
				合格者	20	14	9	6	12	
				入学者(A)	19	14	9	5	12	
				入学定員(B)	13	13	13	13	13	
				A/B*100	146.2	107.7	69.2	38.5	92.3	
			指定校推薦	志願者	1	2	2	0	4	
				合格者	1	2	2	0	4	
				入学者(A)	1	2	2	0	4	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
			公募推薦入試	志願者	9	6	8	5	5	
				合格者	5	5	7	4	2	
				入学者(A)	5	5	7	4	2	
				入学定員(B)	3	3	3	3	3	
				A/B*100	166.7	166.7	233.3	133.3	66.7	
			留学生入試	志願者	0	0	1	1	0	
				合格者	0	0	1	0	0	
				入学者(A)	0	0	0	0	0	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
専攻計	志願者	399	345	413	493	390				
	合格者	156	159	165	177	168				
	入学者(A)	62	61	61	54	53				
	入学定員(B)	50	50	50	50	50				
	A/B*100	124.0	122.0	122.0	108.0	106.0				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	歴史学科	考古学専攻	一般入試	志願者	160	207	297	257	249	
				合格者	63	69	70	72	84	
				入学者(A)	19	22	16	22	23	
				入学定員(B)	20	20	20	20	20	
				A/B*100	95.0	110.0	80.0	110.0	115.0	
			A O 入試	志願者	4	3	8	11	5	
				合格者	4	3	3	7	3	
				入学者(A)	4	3	3	4	3	
				入学定員(B)	3	3	3	3	3	
				A/B*100	133.3	100.0	100.0	133.3	100.0	
			附属校推薦	志願者	6	5	8	10	9	
				合格者	6	5	8	10	9	
				入学者(A)	6	5	8	10	9	
				入学定員(B)	5	5	5	5	5	
				A/B*100	120.0	100.0	160.0	200.0	180.0	
			指定校推薦	志願者	0	0	0	0	0	
				合格者	0	0	0	0	0	
				入学者(A)	0	0	0	0	0	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
			公募推薦入試	志願者	7	4	9	2	1	
				合格者	4	3	5	1	1	
				入学者(A)	4	3	5	1	1	
				入学定員(B)	2	2	2	2	2	
				A/B*100	200.0	150.0	250.0	50.0	50.0	
			留学生入試	志願者	1	1	0	0	2	
				合格者	1	1	0	0	2	
				入学者(A)	1	1	0	0	2	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
専攻計	志願者	178	220	322	280	266	116.7			
	合格者	78	81	86	90	99				
	入学者(A)	34	34	32	37	38				
	入学定員(B)	30	30	30	30	30				
	A/B*100	113.3	113.3	106.7	123.3	126.7				
学 科 計	志願者	1,276	1,286	1,610	1,595	1,347	115.1			
	合格者	508	483	521	523	539				
	入学者(A)	220	207	214	179	187				
	入学定員(B)	175	175	175	175	175				
	A/B*100	125.7	118.3	122.3	102.3	106.9				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	日本文学科	一般入試	志願者	392	528	542	616	436	113.1	
			合格者	169	214	210	137	166		
			入学者(A)	46	64	51	33	40		
			入学定員(B)	49	49	49	49	50		
			A/B*100	93.9	130.6	104.1	67.3	80.0		
		A O 入 試	志願者	17	14	9	35	14		
			合格者	17	11	9	21	10		
			入学者(A)	17	11	9	19	10		
			入学定員(B)	7	7	7	7	6		
			A/B*100	242.9	157.1	128.6	271.4	166.7		
		附属校推薦	志願者	34	31	25	33	35		
			合格者	34	31	25	33	35		
			入学者(A)	33	30	25	31	35		
			入学定員(B)	28	28	28	28	28		
			A/B*100	117.9	107.1	89.3	110.7	125.0		
		指定校推薦	志願者	2	5	4	5	5		
			合格者	2	5	4	5	5		
			入学者(A)	2	5	4	5	5		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
		公募推薦入試	志願者	4	6	13	12	10		
			合格者	2	4	11	10	8		
			入学者(A)	2	4	11	9	8		
			入学定員(B)	6	6	6	6	6		
			A/B*100	33.3	66.7	183.3	150.0	133.3		
		留学生入試	志願者	1	0	0	0	0		
			合格者	0	0	0	0	0		
			入学者(A)	0	0	0	0	0		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
	学 科 計	志願者	450	584	593	701	500			
		合格者	224	265	259	206	224			
		入学者(A)	100	114	100	97	98			
		入学定員(B)	90	90	90	90	90			
		A/B*100	111.1	126.7	111.1	107.8	108.9			

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部 (春学期)	文芸創作学科	一般入試	志願者		276	278	294	302	224	
			合格者		65	77	106	81	83	
			入学者(A)		23	22	30	19	24	
			入学定員(B)		32	32	32	32	32	
			A/B*100		71.9	68.8	93.8	59.4	75.0	
		AO入試	志願者		13	11	21	16	16	
			合格者		9	10	14	14	10	
			入学者(A)		9	9	14	11	10	
			入学定員(B)		7	7	7	7	7	
			A/B*100		128.6	128.6	200.0	157.1	142.9	
		附属校推薦	志願者		27	25	14	21	20	
			合格者		27	25	14	21	20	
			入学者(A)		27	25	14	21	20	
			入学定員(B)		13	13	13	13	13	
			A/B*100		207.7	192.3	107.7	161.5	153.8	
		指定校推薦	志願者		1	1	3	2	2	
			合格者		1	1	3	2	2	
			入学者(A)		1	1	3	2	2	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		14	11	7	6	4	
			合格者		8	8	3	4	4	
			入学者(A)		8	7	3	4	4	
			入学定員(B)		3	3	3	3	3	
			A/B*100		266.7	233.3	100.0	133.3	133.3	
		留学生入試	志願者		0	1	0	0	0	
			合格者		0	1	0	0	0	
			入学者(A)		0	1	0	0	0	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
	学 科 計	志願者			331	327	339	347	266	114.2
		合格者			110	122	140	122	119	
		入学者(A)			68	65	64	57	60	
		入学定員(B)			55	55	55	55	55	
		A/B*100			123.6	118.2	116.4	103.6	109.1	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	英語文化コミュニケーション学科	一般入試	志願者	284	222	469	443	415	114.7	
			合格者	59	94	93	101	118		
			入学者(A)	13	34	18	34	16		
			入学定員(B)	49	49	49	49	50		
			A/B*100	26.5	69.4	36.7	69.4	32.0		
		A O 入試	志願者	24	14	24	15	22		
			合格者	20	12	11	14	12		
			入学者(A)	20	11	11	11	12		
			入学定員(B)	7	7	7	7	6		
			A/B*100	285.7	157.1	157.1	157.1	200.0		
		附属校推薦	志願者	57	60	61	54	51		
			合格者	57	60	61	54	51		
			入学者(A)	57	60	61	54	51		
			入学定員(B)	28	28	28	28	28		
			A/B*100	203.6	214.3	217.9	192.9	182.1		
		指定校推薦	志願者	3	2	5	1	4		
			合格者	3	2	5	1	4		
			入学者(A)	3	2	5	1	4		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
		公募推薦入試	志願者	17	5	7	7	11		
			合格者	9	4	6	6	8		
			入学者(A)	9	4	6	6	8		
			入学定員(B)	6	6	6	6	6		
			A/B*100	150.0	66.7	100.0	100.0	133.3		
		留学生入試	志願者	7	1	0	0	0		
			合格者	4	1	0	0	0		
			入学者(A)	4	1	0	0	0		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
学 科 計	志願者	392	304	566	520	503				
	合格者	152	173	176	176	193				
	入学者(A)	106	112	101	106	91				
	入学定員(B)	90	90	90	90	90				
	A/B*100	117.8	124.4	112.2	117.8	101.1				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部（春学期）	広報メディア学科	一般入試	志願者		346	474	611	473	500	
			合格者		84	107	118	99	128	
			入学者(A)		42	44	35	33	39	
			入学定員(B)		59	59	59	59	60	
			A/B*100		71.2	74.6	59.3	55.9	65.0	
		AO入試	志願者		13	12	31	34	25	
			合格者		13	12	11	16	15	
			入学者(A)		13	12	11	15	15	
			入学定員(B)		7	7	7	7	6	
			A/B*100		185.7	171.4	157.1	214.3	250.0	
		附属校推薦	志願者		60	60	58	54	54	
			合格者		60	60	58	54	54	
			入学者(A)		60	60	57	54	54	
			入学定員(B)		35	35	35	35	35	
			A/B*100		171.4	171.4	162.9	154.3	154.3	
		指定校推薦	志願者		6	5	5	5	5	
			合格者		6	5	5	5	5	
			入学者(A)		6	5	5	5	5	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		9	23	15	19	8	
			合格者		8	11	10	10	6	
			入学者(A)		8	11	10	10	6	
			入学定員(B)		9	9	9	9	9	
			A/B*100		88.9	122.2	111.1	111.1	66.7	
		留学生入試	志願者		14	5	2	7	11	
			合格者		8	1	1	6	8	
			入学者(A)		8	1	1	6	6	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
	学 科 計	志願者			448	579	722	592	603	115.8
		合格者			179	196	203	190	216	
		入学者(A)			137	133	119	123	125	
		入学定員(B)			110	110	110	110	110	
		A/B*100			124.5	120.9	108.2	111.8	113.6	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	心理・社会学科	一般入試	志願者		376	551	721	700	599	
			合格者		115	145	172	134	151	
			入学者(A)		35	37	43	31	42	
			入学定員(B)		56	56	56	56	57	
			A/B*100		62.5	66.1	76.8	55.4	73.7	
		A O 入試	志願者		16	17	34	33	26	
			合格者		12	13	14	16	12	
			入学者(A)		12	13	14	13	12	
			入学定員(B)		7	7	7	7	6	
			A/B*100		171.4	185.7	200.0	185.7	200.0	
		附属校推薦	志願者		55	53	51	49	47	
			合格者		55	53	51	49	47	
			入学者(A)		55	53	50	49	47	
			入学定員(B)		31	31	31	31	31	
			A/B*100		177.4	171.0	161.3	158.1	151.6	
		指定校推薦	志願者		1	2	2	4	2	
			合格者		1	2	2	4	2	
			入学者(A)		1	2	2	4	2	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		14	22	8	22	14	
			合格者		8	10	7	11	10	
			入学者(A)		8	10	7	11	10	
			入学定員(B)		6	6	6	6	6	
			A/B*100		133.3	166.7	116.7	183.3	166.7	
		留学生入試	志願者		3	4	1	5	9	
			合格者		2	4	1	4	5	
			入学者(A)		2	4	1	3	4	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	0.0	
	学 科 計	志願者		465	649	817	813	697	115.4	
		合格者		193	227	247	218	227		
		入学者(A)		113	119	117	111	117		
		入学定員(B)		100	100	100	100	100		
		A/B*100		113.0	119.0	117.0	111.0	117.0		
学 部 合 計（春学期）	志願者		4,489	4,783	6,336	6,168	5,301	113.3		
	合格者		2,038	2,203	2,470	2,251	2,345			
	入学者(A)		1,088	1,090	1,073	996	1,020			
	入学定員(B)		930	930	930	930	930			
	A/B*100		117.0	117.2	115.4	107.1	109.7			

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（秋学期）	文 明 学 科	附属校推薦	志願者		0	0				
			合格者		0	0				
			入学者(A)		0	0				
			入学定員(B)		0	0				
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者		0	0	0	0		
			合格者		0	0	0	0		
			入学者(A)		0	0	0	0		
			入学定員(B)		0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-			
	学科計	志願者		0	0	0	0		-	
		合格者		0	0	0	0			
		入学者(A)		0	0	0	0			
		入学定員(B)		0	0	0	0			
		A/B*100	-	-	-	-				
	ア ジ ア 文 明 学 科	附属校推薦	志願者		0	0				
			合格者		0	0				
			入学者(A)		0	0				
			入学定員(B)		0	0				
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者		0	0	0	0		
			合格者		0	0	0	0		
			入学者(A)		0	0	0	0		
			入学定員(B)		0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-			
	学科計	志願者		0	0	0	0		-	
		合格者		0	0	0	0			
		入学者(A)		0	0	0	0			
		入学定員(B)		0	0	0	0			
		A/B*100	-	-	-	-				
	ヨ ー ロ ッ パ 文 明 学 科	附属校推薦	志願者		0	0				
			合格者		0	0				
			入学者(A)		0	0				
			入学定員(B)		0	0				
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者		0	0	0	0		
合格者				0	0	0	0			
入学者(A)				0	0	0	0			
入学定員(B)				0	0	0	0			
A/B*100			-	-	-	-				
学科計	志願者		0	0	0	0		-		
	合格者		0	0	0	0				
	入学者(A)		0	0	0	0				
	入学定員(B)		0	0	0	0				
	A/B*100	-	-	-	-					

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（秋学期）	ア 文 メ 明 リ 学 カ 科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学科計	志願者	0	0	0	0			-	
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
	北 欧 学 科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学科計	志願者	0	0	0	0			-	
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
歴 史 学 科	日 本 史 専 攻	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	専攻計	志願者	0	0	0	0			-	
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対す る入学者数の比 率（2010～2014 年平均）	
文学部（秋学期）	歴史学科	東洋史専攻	附属校推薦	志願者	0	0					
				合格者	0	0					
				入学者(A)	0	0					
				入学定員(B)	0	0					
				A/B*100	-	-					
			留学生入試	志願者	0	0	0	0			
				合格者	0	0	0	0			
				入学者(A)	0	0	0	0			
				入学定員(B)	0	0	0	0			
				A/B*100	-	-	-	-			
		専攻計	志願者	0	0	0	0		-		
			合格者	0	0	0	0				
			入学者(A)	0	0	0	0				
			入学定員(B)	0	0	0	0				
			A/B*100	-	-	-	-				
		西洋史専攻	附属校推薦	志願者	0	0					
				合格者	0	0					
				入学者(A)	0	0					
				入学定員(B)	0	0					
				A/B*100	-	-					
			留学生入試	志願者	0	0	0	0			
				合格者	0	0	0	0			
				入学者(A)	0	0	0	0			
				入学定員(B)	0	0	0	0			
				A/B*100	-	-	-	-			
		専攻計	志願者	0	0	0	0		-		
			合格者	0	0	0	0				
			入学者(A)	0	0	0	0				
			入学定員(B)	0	0	0	0				
			A/B*100	-	-	-	-				
		考古学専攻	附属校推薦	志願者	0	0					
				合格者	0	0					
				入学者(A)	0	0					
				入学定員(B)	0	0					
				A/B*100	-	-					
			留学生入試	志願者	0	0	0	0			
合格者	0			0	0	0					
入学者(A)	0			0	0	0					
入学定員(B)	0			0	0	0					
A/B*100	-			-	-	-					
専攻計	志願者	0	0	0	0		-				
	合格者	0	0	0	0						
	入学者(A)	0	0	0	0						
	入学定員(B)	0	0	0	0						
	A/B*100	-	-	-	-						
学 科 計	志願者	0	0	0	0			-			
	合格者	0	0	0	0						
	入学者(A)	0	0	0	0						
	入学定員(B)	0	0	0	0						
	A/B*100	-	-	-	-						

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（秋学期）	日本文学科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学 科 計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
	文芸創作学科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学 科 計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
英語コミュニケーション学科	附属校推薦	志願者	0	0						
		合格者	0	0						
		入学者(A)	0	0						
		入学定員(B)	0	0						
		A/B*100	-	-						
	留学生入試	志願者	1	0	0	0				
		合格者	1	0	0	0				
		入学者(A)	1	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
学 科 計	志願者	1	0	0	0					
	合格者	1	0	0	0					
	入学者(A)	1	0	0	0					
	入学定員(B)	0	0	0	0					
	A/B*100	-	-	-	-					

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（秋学期）	広報メディア学科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	2	2	1	0			
			合格者	2	2	1	0			
			入学者(A)	2	2	1	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学 科 計	志願者	2	2	1	0				
		合格者	2	2	1	0				
		入学者(A)	2	2	1	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
	心理・社会学科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学 科 計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
学 部 合 計（秋学期）	志願者	3	2	1	0					
	合格者	3	2	1	0					
	入学者(A)	3	2	1	0					
	入学定員(B)	0	0	0	0					
	A/B*100	-	-	-	-					
文明学科 総 計	志願者	187	213	339	271	312	120.7			
	合格者	128	146	188	146	160				
	入学者(A)	73	76	68	69	76				
	入学定員(B)	60	60	60	60	60				
	A/B*100	121.7	126.7	113.3	115.0	126.7				
アジア文明学科 総 計	志願者	147	152	283	246	223	91.0			
	合格者	97	106	169	143	149				
	入学者(A)	49	50	64	51	59				
	入学定員(B)	60	60	60	60	60				
	A/B*100	81.7	83.3	106.7	85.0	98.3				
ヨーロッパ文明学科 総 計	志願者	352	250	452	372	358	114.3			
	合格者	158	161	185	186	193				
	入学者(A)	81	83	78	75	83				
	入学定員(B)	70	70	70	70	70				
	A/B*100	115.7	118.6	111.4	107.1	118.6				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
アメリカ文明学科	総 計	志願者		195	210	284	328	221	108.0	
		合格者		116	146	180	153	145		
		入学者(A)		66	61	71	64	62		
		入学定員(B)		60	60	60	60	60		
		A/B*100		110.0	101.7	118.3	106.7	103.3		
北欧学科	総 計	志願者		246	229	331	383	271	116.0	
		合格者		173	178	202	188	180		
		入学者(A)		75	70	77	64	62		
		入学定員(B)		60	60	60	60	60		
		A/B*100		125.0	116.7	128.3	106.7	103.3		
歴史学科日本史専攻	総 計	志願者		492	504	624	574	516	115.3	
		合格者		150	123	127	113	146		
		入学者(A)		71	64	64	55	63		
		入学定員(B)		55	55	55	55	55		
		A/B*100		129.1	116.4	116.4	100.0	114.5		
歴史学科東洋史専攻	総 計	志願者		207	217	251	248	175	112.0	
		合格者		124	120	143	143	126		
		入学者(A)		53	48	57	33	33		
		入学定員(B)		40	40	40	40	40		
		A/B*100		132.5	120.0	142.5	82.5	82.5		
歴史学科西洋史専攻	総 計	志願者		399	345	413	493	390	116.4	
		合格者		156	159	165	177	168		
		入学者(A)		62	61	61	54	53		
		入学定員(B)		50	50	50	50	50		
		A/B*100		124.0	122.0	122.0	108.0	106.0		
歴史学科考古学専攻	総 計	志願者		178	220	322	280	266	116.7	
		合格者		78	81	86	90	99		
		入学者(A)		34	34	32	37	38		
		入学定員(B)		30	30	30	30	30		
		A/B*100		113.3	113.3	106.7	123.3	126.7		
日本文学科	総 計	志願者		450	584	593	701	500	113.1	
		合格者		224	265	259	206	224		
		入学者(A)		100	114	100	97	98		
		入学定員(B)		90	90	90	90	90		
		A/B*100		111.1	126.7	111.1	107.8	108.9		
文芸創作学科	総 計	志願者		331	327	339	347	266	114.2	
		合格者		110	122	140	122	119		
		入学者(A)		68	65	64	57	60		
		入学定員(B)		55	55	55	55	55		
		A/B*100		123.6	118.2	116.4	103.6	109.1		
英語文化コミュニケーション学科	総 計	志願者		393	304	566	520	503	114.9	
		合格者		153	173	176	176	193		
		入学者(A)		107	112	101	106	91		
		入学定員(B)		90	90	90	90	90		
		A/B*100		118.9	124.4	112.2	117.8	101.1		
広報メディア学科	総 計	志願者		450	581	723	592	603	116.7	
		合格者		181	198	204	190	216		
		入学者(A)		139	135	120	123	125		
		入学定員(B)		110	110	110	110	110		
		A/B*100		126.4	122.7	109.1	111.8	113.6		

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
心理・社会学科 総 計				志願者	465	649	817	813	697	115.4
				合格者	193	227	247	218	227	
				入学者(A)	113	119	117	111	117	
				入学定員(B)	100	100	100	100	100	
				A/B*100	113.0	119.0	117.0	111.0	117.0	
学 部 総 合 計				志願者	4,492	4,785	6,337	6,168	5,301	113.4
				合格者	2,041	2,205	2,471	2,251	2,345	
				入学者(A)	1,091	1,092	1,074	996	1,020	
				入学定員(B)	930	930	930	930	930	
				A/B*100	117.3	117.4	115.5	107.1	109.7	

大学基準協会〔注〕

- 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 「一般入試」欄には大学入試センター試験を含めてください。
- 3 「その他」欄には上記の表に該当しない入試の状況を記入してください。その際、該当する入試の名称を（ ）内に記入してください。ただし、相当数の学生（約一割以上）を入学させている入試方法がある場合は、「その他」に含めず適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 4 セメスター制の採用により、秋学期入学など、年に複数回の入学時期を設定している場合は、それぞれの学期について作表してください。
- 5 学部が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて各学科の「計」欄の総数を「志願者」「合格者」「入学者」「入学定員」ごとに記入してください。また、学科内に専攻等を設け、その専攻等ごとに入学定員を設定している場合は、専攻等ごとに作表してください。複数学部を設置している大学の場合は、「大学合計」欄を設け、「学部合計」と同様に記入してください。
- 6 入試の種類ごとに「入学定員に対する入学者」の割合を算出してください。
- 7 5カ年の「入学定員に対する入学者」の割合を合計し、5で除した数値を「入学定員に対する入学者数の比率（2010～2014年度平均）」欄に記入してください。
- 8 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 9 各入学（募集）定員が若干名の場合は「0」として記入してください。

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する入学者数の比率（2010～2014年平均）
--	--	--	-------	--	--------	--------	--------	--------	--------	-------------------------------

東海大学〔注〕

- 1 年度については、次の例を参考に作成してください。（例）2014年度欄には、「2014年度入試」（2013年度実施）を記入。
- 2 「入学定員」欄には、募集定員を記入してください（大学基準協会の指示）。
 なお、入試種別ごとに募集定員が定められていない場合は、それぞれの入試種別の「入学定員」欄に「-（ハイフン）」を入れた上で、学科または課程計の欄に記入してください。また併せて、下記（データについて〔注〕）に入試種別ごとに募集定員が定められていない旨を注記してください。
- 3 「入学者」欄には、当該年度4月1日現在の入学手続者数を記入してください（大学基準協会の指示）。
- 4 原則として、2010年4月から2014年4月までの間に設置されている組織を記入しています（2010年4月の時点で募集停止されている組織は除いてあります）。確認の上、必要に応じて組織を追加・削除してください。

表14

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次			第6年次	
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)		学生数	留年者数 (内数)
文学部	文明学科		60	-	240	-	292	2	1.22	-	69	-	67	-	70	-	86	17	-	-	-	-	
	アジア文明学科		60	-	240	-	222	0	0.93	-	51	-	59	-	50	-	62	19	-	-	-	-	
	ヨーロッパ文明学科		70	-	280	-	316	2	1.13	-	75	-	77	-	77	-	87	10	-	-	-	-	
	アメリカ文明学科		60	-	240	-	249	0	1.04	-	64	-	65	-	57	-	63	11	-	-	-	-	
	北欧学科		60	-	240	-	276	2	1.15	-	64	-	75	-	63	-	74	4	-	-	-	-	
	歴史学科	日本史専攻	55	-	220	-	250	0	1.14	-	55	-	62	-	58	-	75	9	-	-	-	-	
		東洋史専攻	40	-	160	-	185	0	1.16	-	33	-	52	-	44	-	56	10	-	-	-	-	
		西洋史専攻	50	-	200	-	238	0	1.19	-	54	-	56	-	54	-	74	14	-	-	-	-	
		考古学専攻	30	-	120	-	141	0	1.18	-	37	-	32	-	31	-	41	11	-	-	-	-	
	日本文学科		90	-	360	-	413	2	1.15	-	97	-	96	-	109	-	111	14	-	-	-	-	
	文芸創作学科		55	-	220	-	252	1	1.15	-	57	-	64	-	62	-	69	8	-	-	-	-	
	英語文化コミュニケーション学科		90	-	360	-	421	6	1.17	-	106	-	99	-	107	-	109	5	-	-	-	-	
広報メディア学科		110	-	440	-	506	0	1.15	-	123	-	117	-	131	-	135	4	-	-	-	-		
心理・社会学科		100	-	400	-	473	2	1.18	-	111	-	116	-	120	-	126	9	-	-	-	-		
計			930	-	3720	-	4234	17	1.14	-	996	-	1037	-	1033	-	1168	145	-	-	-	-	
観光学部	観光学科		195	10	800	20	924	9	1.16	0.45	221	-	230	-	240	-	233	-	-	-	-	-	
計			195	10	800	20	924	9	1.16	0.45	221	-	230	-	240	-	233	-	-	-	-	-	
政治経済学部	政治学科		150	-	600	-	714	0	1.19	-	186	-	162	-	157	-	209	35	-	-	-	-	
	経済学科		150	-	600	-	711	0	1.19	-	161	-	177	-	161	-	212	38	-	-	-	-	
	経営学科		150	-	600	-	713	1	1.19	-	158	-	178	-	169	-	208	17	-	-	-	-	
計			450	-	1800	-	2138	1	1.19	-	505	-	517	-	487	-	629	90	-	-	-	-	
総合経営学部	※マネジメント学科		-	-	600	-	332	10	0.55	-	-	-	105	-	118	-	109	15	-	-	-	-	
計			-	-	600	-	332	10	0.55	-	-	-	105	-	118	-	109	15	-	-	-	-	
経営学部（2013年度新設）	経営学科		150	-	150	-	158	0	1.05	-	158	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	観光ビジネス学科		80	-	80	-	49	0	0.61	-	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計			230	-	230	-	207	0	0.90	-	207	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
法学部	法律学科		300	-	1200	-	1373	0	1.14	-	317	-	305	-	319	-	432	76	-	-	-	-	
計			300	-	1200	-	1373	0	1.14	-	317	-	305	-	319	-	432	76	-	-	-	-	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数										備 考	
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次 学生数	第 2 年次 学生数	第 3 年次 学生数	第 4 年次 学生数	第 5 年次 学生数	第 6 年次 学生数						
																	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)		留年者数 (内数)
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	160	-	640	-	322	1	0.50	-	78	-	78	-	71	-	95	8	-	-	-	-
		社会環境課程					457	5	0.71	-	101	-	104	-	123	-	129	10	-	-	-	-
	芸術学科	音楽学課程	90	-	360	-	136	0	0.38	-	35	-	33	-	30	-	38	1	-	-	-	-
		美術学課程					79	1	0.22	-	16	-	20	-	18	-	25	1	-	-	-	-
		デザイン学課程					165	0	0.46	-	47	-	37	-	40	-	41	2	-	-	-	-
	国際学科		80	-	320	-	382	4	1.19	-	93	-	85	-	91	-	113	7	-	-	-	-
計			330	-	1320	-	1541	11	1.17	-	370	-	357	-	373	-	441	29	-	-	-	-
国際文化学部	地域創造学科		110	-	440	-	504	0	1.15	-	132	-	122	-	110	-	140	9	-	-	-	-
	国際コミュニケーション学科		80	-	360	-	237	0	0.66	-	73	-	61	-	47	-	56	7	-	-	-	-
	デザイン文化学科		70	-	140	-	115	0	0.82	-	49	-	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計			260	-	940	-	856	0	0.91	-	254	-	249	-	157	-	196	16	-	-	-	-
理学部	数学科		80	-	320	-	375	1	1.17	-	95	-	90	-	88	-	102	12	-	-	-	-
	情報数理学科		80	-	320	-	383	0	1.20	-	90	-	94	-	96	-	103	12	-	-	-	-
	物理学科		80	-	320	-	409	0	1.28	-	105	-	97	-	97	-	110	15	-	-	-	-
	化学科		80	-	320	-	395	2	1.23	-	92	-	92	-	102	-	109	10	-	-	-	-
計			320	-	1280	-	1562	3	1.22	-	382	-	373	-	383	-	424	49	-	-	-	-
情報理工学部	情報科学科		100	-	400	-	503	0	1.26	-	127	-	119	-	118	-	139	18	-	-	-	-
	※情報メディア学科		-	-	-	-	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-
	※ソフトウェア開発工学科		-	-	-	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
	※経営システム工学科		-	-	-	-	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-
	コンピュータ応用工学科		100	-	400	-	374	1	0.94	-	108	-	90	-	94	-	82	13	-	-	-	-
計			200	-	800	-	882	1	1.10	-	235	-	209	-	212	-	226	36	-	-	-	-
情報通信学部	情報メディア学科		80	-	320	-	377	0	1.18	-	90	-	95	-	89	-	103	5	-	-	-	-
	組込みソフトウェア工学科		80	-	320	-	330	0	1.03	-	85	-	79	-	94	-	72	5	-	-	-	-
	経営システム工学科		80	-	320	-	379	0	1.18	-	86	-	100	-	85	-	108	7	-	-	-	-
	通信ネットワーク工学科		80	-	320	-	371	0	1.16	-	88	-	97	-	95	-	91	12	-	-	-	-
計			320	-	1280	-	1457	0	1.14	-	349	-	371	-	363	-	374	29	-	-	-	-

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数												備 考
					総 数 (A)	うち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	うち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次		第 6 年次		
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
工学部	生命化学科		100	-	400	-	469	2	1.17	-	112	-	116	-	114	-	127	12	-	-	-	-	
	応用化学科		80	-	320	-	391	1	1.22	-	85	-	93	-	111	-	102	10	-	-	-	-	
	光・画像工学科		60	-	240	-	212	0	0.88	-	48	-	66	-	52	-	46	6	-	-	-	-	
	※エネルギー工学科		-	-	-	-	11	0	-	-	-	-	-	-	-	-	11	10	-	-	-	-	
	原子力工学科		40	-	160	-	149	0	0.93	-	29	-	42	-	38	-	40	-	-	-	-	-	
	電気電子工学科		140	-	560	-	686	12	1.23	-	160	-	162	-	172	-	192	20	-	-	-	-	
	材料科学科		80	-	320	-	324	0	1.01	-	93	-	87	-	76	-	68	7	-	-	-	-	
	建築学科		200	-	800	-	840	4	1.05	-	229	-	196	-	198	-	217	27	-	-	-	-	
	土木工学科		120	-	480	-	303	1	0.63	-	101	-	70	-	63	-	69	18	-	-	-	-	
	精密工学科		80	-	320	-	287	1	0.90	-	96	-	71	-	48	-	72	12	-	-	-	-	
	機械工学科		150	-	600	-	657	4	1.10	-	161	-	163	-	156	-	177	22	-	-	-	-	
	動力機械工学科		200	-	800	-	800	9	1.00	-	205	-	195	-	201	-	199	26	-	-	-	-	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	100	-	400	-	458	4	1.15	-	114	-	113	-	105	-	126	20	-	-	-	-	
		航空操縦学専攻	50	-	200	-	148	0	0.74	-	36	-	32	-	35	-	45	6	-	-	-	-	
	医用生体工学科		60	-	240	-	271	3	1.13	-	68	-	64	-	62	-	77	-	-	-	-	-	
計			1460	-	5840	-	6006	41	1.03	-	1537	-	1470	-	1431	-	1568	196	-	-	-	-	
芸術工学部	※くらしデザイン学科		-	-	-	-	51	0	-	-	-	-	-	-	13	-	38	6	-	-	-	-	
	※建築・環境デザイン学科		-	-	-	-	16	0	-	-	-	-	-	-	6	-	10	1	-	-	-	-	
計			-	-	-	-	67	0	-	-	-	-	-	-	19	-	48	7	-	-	-	-	
産業工学部	※環境保全学科		-	-	180	-	51	0	0.28	-	-	-	13	-	21	-	17	1	-	-	-	-	
	※電子知能システム工学科		-	-	270	-	74	2	0.27	-	-	-	26	-	27	-	21	1	-	-	-	-	
	※機械システム工学科		-	-	240	-	46	0	0.19	-	-	-	16	-	13	-	17	2	-	-	-	-	
	※建築学科		-	-	210	-	46	1	0.22	-	-	-	15	-	18	-	13	1	-	-	-	-	
計			-	-	900	-	217	3	0.24	-	-	-	70	-	79	-	68	5	-	-	-	-	
基盤工学部（2013年度新設）	電気電子情報工学科		80	-	80	-	71	0	0.89	-	71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	医療福祉工学科		60	-	60	-	69	0	1.15	-	69	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計			140	-	140	-	140	0	1.00	-	140	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
開発工学部	※情報通信工学科		-	-	-	-	4	0	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-	-	-	-	-	
計			-	-	-	-	4	0	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-	-	-	-	-	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B／A	D／C	在 籍 学 生 数												備 考
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次		第 6 年次		
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
海洋学部	海洋文明学科		80	-	320	-	280	0	0.88	-	82	-	65	-	63	-	70	7	-	-	-	-	
	環境社会学科		80	-	240	-	225	0	0.94	-	84	-	74	-	67	-	-	-	-	-	-	-	
	海洋地球科学科		80	-	240	-	244	0	1.02	-	90	-	90	-	64	-	-	-	-	-	-	-	
	※海洋建設工学科		-	-	-	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	
	※環境情報工学科		-	-	-	-	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	
	※船舶海洋工学科		-	-	50	-	14	3	0.28	-	-	-	-	-	-	-	14	1	-	-	-	-	
	※海洋資源学科		-	-	80	-	41	1	0.51	-	-	-	-	-	-	-	41	5	-	-	-	-	
	※海洋科学科		-	-	80	-	65	0	0.81	-	-	-	-	-	-	-	65	11	-	-	-	-	
	水産学科	生物生産学専攻	120	-	450	-	296	0	0.66	-	91	-	99	-	106	-	-	-	-	-	-	-	
		食品科学専攻		-		-	147	0	0.33	-	51	-	50	-	46	-	-	-	-	-	-	-	
	※水産学科		-	-	-	-	130	0	-	-	-	-	-	-	-	-	130	27	-	-	-	-	
	海洋生物学科		90	-	360	-	429	1	1.19	-	97	-	116	-	104	-	112	12	-	-	-	-	
	航海工学科	航海学専攻	20	-	60	-	68	0	1.13	-	23	-	20	-	25	-	-	-	-	-	-	-	
		海洋機械工学専攻	60	-	180	-	55	3	0.31	-	21	-	8	-	26	-	-	-	-	-	-	-	
※航海学科	航海専攻	-	-	20	-	26	0	1.30	-	-	-	-	-	-	-	26	0	-	-	-	-		
	国際物流専攻	-	-	60	-	42	0	0.70	-	-	-	-	-	-	-	42	7	-	-	-	-		
計			530	-	2140	-	2065	8	0.96	-	539	-	522	-	501	-	503	73	-	-	-	-	
生物理工学部	※生物工学科		-	-	140	-	94	0	0.67	-	-	-	-	-	56	-	38	2	-	-	-	-	
	※海洋生物科学科		-	-	120	-	88	0	0.73	-	-	-	-	-	44	-	44	4	-	-	-	-	
	※生体機能科学科		-	-	140	-	26	0	0.19	-	-	-	-	-	12	-	14	0	-	-	-	-	
計			-	-	400	-	208	0	0.52	-	-	-	-	-	112	-	96	6	-	-	-	-	
生物学部	生物学科		70	-	140	-	166	0	1.19	-	71	-	95	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	海洋生物科学科		70	-	140	-	171	0	1.22	-	78	-	93	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計			140	-	280	-	337	0	1.20	-	149	-	188	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学部	応用植物科学科		80	-	320	-	370	2	1.16	-	88	-	83	-	97	-	102	7	-	-	-	-	
	応用動物科学科		80	-	320	-	372	1	1.16	-	85	-	98	-	88	-	101	6	-	-	-	-	
	バイオサイエンス学科		70	-	280	-	309	0	1.10	-	71	-	82	-	77	-	79	4	-	-	-	-	
計			230	-	920	-	1051	3	1.14	-	244	-	263	-	262	-	282	17	-	-	-	-	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次 学生数	留年者数 (内数)	第 2 年次 学生数	留年者数 (内数)	第 3 年次 学生数	留年者数 (内数)	第 4 年次 学生数	留年者数 (内数)	第 5 年次 学生数	留年者数 (内数)		第 6 年次 学生数	留年者数 (内数)
体育学部	体育学科		100	-	370	-	428	1	1.16	-	105	-	108	-	103	-	112	3	-	-	-	-	
	競技スポーツ学科		130	-	490	-	584	1	1.19	-	146	-	139	-	148	-	151	8	-	-	-	-	
	武道学科		55	-	205	-	234	0	1.14	-	55	-	61	-	58	-	60	1	-	-	-	-	
	生涯スポーツ学科		100	-	370	-	448	1	1.21	-	113	-	107	-	116	-	112	3	-	-	-	-	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		55	-	205	-	252	1	1.23	-	61	-	61	-	67	-	63	3	-	-	-	-	
計			440	-	1640	-	1946	4	1.19	-	480	-	476	-	492	-	498	18	-	-	-	-	
医学部	医学科		110	-	656	-	669	171	1.02	-	90	0	137	20	115	14	114	6	103	6	110	6	
計			110	-	656	-	669	171	1.02	-	90	0	137	20	115	14	114	6	103	6	110	6	
健康科学部	看護学科		75	20	335	50	343	26	1.02	0.52	79	-	80	-	89	-	95	10	-	-	-	-	
	社会福祉学科		85	10	360	20	387	6	1.08	0.30	92	-	101	-	90	-	104	12	-	-	-	-	
計			160	30	695	70	730	32	1.05	0.46	171	-	181	-	179	-	199	22	-	-	-	-	
合 計			6,745	40	#####	90	#####	314	1.05	3.49	7,186	0	7,060	20	6,875	14	7,612	839	103	6	110	6	

専攻科	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数								備 考
			総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
									学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
乗船実習課程	30	-	30	-	17	-	0.57	-	17	-	-	-	-	-	-	-	
計	30	-	30	-	17	-	0.57	-	17	-	-	-	-	-	-	-	

別科	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数								備 考
			総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
									学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
別科 日本語研修課程	120	-	200	-	41	-	0.21	-	41	-	-	-	-	-	-	-	2013年5月1日現在
	80	-		-	63	-	0.32	-	63	-	-	-	-	-	-	-	2012年10月1日現在
計	200	-	200	-	104	0	0.52	-	104	-	-	-	-	-	-	-	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B / A	D / C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次			第 6 年次	
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)		学生数	留年者数 (内数)

大学基準協会〔注〕

- 1 昼夜開講制をとっている学部については、昼間主コースと夜間主コースにそれぞれ分けて記入してください。
- 2 収容定員は、定員変更などにより、現在の入学定員の4倍（6年制の学部は6倍）ではない場合がありますので、該当する年度ごとの入学定員、編入定員に注意してください。
- 3 現在の在籍学生に関わる入学定員及び編入定員に変更があった場合には、「備考」欄に注記してください。
- 4 修業年限を6年とする学部・学科の場合には、第6年次まで作表してください。
- 5 編入定員を設定している場合は、備考欄にその受け入れ年次を記入してください。
- 6 「B/A」及び「D/C」欄については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 7 通信教育課程、専攻科、別科等についても学部の表に準じて作成してください。

東海大学〔注〕

- 1 2013年5月1日現在のデータを記入してください。
- 2 乗船実習課程は、備考欄に学年の区分けがない旨を明記の上、第1年次欄に在籍学生数を記入してください。
- 3 別科の在籍学生数は、東海大学が入学資格を与えている学生数を記載してください。併せて、備考欄に東海大学の入学資格を明記をお願いします。また、学年の区分けがない旨を明記の上、第1年次欄に在籍学生数を記入してください。

データについて〔注〕

- 1 海洋学部 航海学科国際物流専攻の在籍学生数は、海洋学部 航海工学科国際物流専攻の数を含む。
- 2 乗船実習課程生の身分は科目等履修生であるため、履修定員を入学定員とした
- 3 別科 日本語研修課程の「留年者数」は、在籍延長数を記載。

大学院研究科の学生定員及び在籍学生数

(表18)

研 究 科	専 攻	入学定員		収容定員		在籍学生数											
		修士 課程	博士 課程	修士 課程 (A)	博士 課程 (B)	修士課程						博士課程					
						一般	社会人	留学生	その他	計(C)	C/A	一般	社会人	留学生	その他	計(D)	D/B
実務法学研究科（専門職）	実務法律学専攻(専門職)	-	30	-	90	-	-	-	-	-	-	23	0	0	0	23	0.26
計		-	30	-	90	-	-	-	-	-	-	23	0	0	0	23	0.26
総合理工学研究科	総合理工学専攻	-	35	-	105	-	-	-	-	-	-	38	13	0	0	51	0.49
計		-	35	-	105	-	-	-	-	-	-	38	13	0	0	51	0.49
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	-	10	-	30	-	-	-	-	-	-	5	3	0	0	8	0.27
計		-	10	-	30	-	-	-	-	-	-	5	3	0	0	8	0.27
生物科学研究科	生物科学専攻	-	10	-	30	-	-	-	-	-	-	4	1	0	0	5	0.17
計		-	10	-	30	-	-	-	-	-	-	4	1	0	0	5	0.17
文学研究科	文明研究専攻	8	4	16	12	7	1	0	0	8	0.50	3	0	0	0	3	0.25
	史学専攻	8	4	16	12	6	0	0	0	6	0.38	4	0	0	0	4	0.33
	日本文学専攻	8	4	16	12	12	1	0	0	13	0.81	0	0	0	0	0	0.00
	英文学専攻	4	2	8	6	4	2	0	0	6	0.75	3	0	0	0	3	0.50
	コミュニケーション学専攻	8	4	16	12	17	5	0	0	22	1.38	0	3	0	0	3	0.25
計		36	18	72	54	46	9	0	0	55	0.76	10	3	0	0	13	0.24
政治学研究科	政治学専攻	10	5	20	15	2	0	0	0	2	0.10	3	0	0	0	3	0.20
計		10	5	20	15	2	0	0	0	2	0.10	3	0	0	0	3	0.20
経済学研究科	応用経済学専攻	10	5	20	15	4	0	0	0	4	0.20	0	0	0	0	0	0.00
計		10	5	20	15	4	0	0	0	4	0.20	0	0	0	0	0	0.00

(表18)

研 究 科	専 攻	入学定員		収容定員		在籍学生数											
		修士 課程	博士 課程	修士 課程 (A)	博士 課程 (B)	修士課程						博士課程					
						一般	社会人	留学生	その他	計(C)	C／A	一般	社会人	留学生	その他	計(D)	D／B
法学研究科	法律学専攻	10	5	20	15	3	0	0	0	3	0.15	2	0	0	0	2	0.13
計		10	5	20	15	3	0	0	0	3	0.15	2	0	0	0	2	0.13
人間環境学研究科	人間環境学専攻	10	-	20	-	22	0	0	0	22	1.10	-	-	-	-	-	-
計		10	-	20	-	22	0	0	0	22	1.10	-	-	-	-	-	-
芸術学研究科	音響芸術専攻	4	-	8	-	10	0	0	0	10	1.25	-	-	-	-	-	-
	造型芸術専攻	4	-	8	-	13	0	0	0	13	1.63	-	-	-	-	-	-
	計	8	-	16	-	23	0	0	0	23	1.44	-	-	-	-	-	-
国際地域学研究科	国際地域学専攻	4	-	8	-	4	0	0	0	4	0.50	-	-	-	-	-	-
計		4	-	8	-	4	0	0	0	4	0.50	-	-	-	-	-	-
理学研究科	数理学専攻	8	-	16	-	12	0	0	0	12	0.75	-	-	-	-	-	-
	物理学専攻	12	-	24	-	45	0	0	0	45	1.88	-	-	-	-	-	-
	化学専攻	12	-	24	-	29	0	0	0	29	1.21	-	-	-	-	-	-
計		32	-	64	-	86	0	0	0	86	1.34	-	-	-	-	-	-
情報通信学研究科	情報通信学専攻	30	-	60	-	51	0	0	0	51	0.85	-	-	-	-	-	-
計		30	-	60	-	51	0	0	0	51	0.85	-	-	-	-	-	-
工学研究科	情報理工学専攻	30	-	60	-	44	0	0	0	44	0.73	-	-	-	-	-	-
	電気電子システム工学専攻	30	-	60	-	35	1	0	0	36	0.60	-	-	-	-	-	-
	情報通信制御システム工学専攻	-	-	-	-	1	0	0	0	1	-	-	-	-	-	-	-
	応用理学専攻	20	-	40	-	14	0	0	0	14	0.35	-	-	-	-	-	-
	光工学専攻	12	-	24	-	17	0	0	0	17	0.71	-	-	-	-	-	-
	工業化学専攻	8	-	16	-	64	1	0	0	65	4.06	-	-	-	-	-	-
	金属材料工学専攻	16	-	32	-	29	0	0	0	29	0.91	-	-	-	-	-	-
	建築学専攻	12	-	24	-	45	0	0	0	45	1.88	-	-	-	-	-	-
	土木工学専攻	8	-	16	-	15	0	0	0	15	0.94	-	-	-	-	-	-
	機械工学専攻	24	-	48	-	123	1	0	0	124	2.58	-	-	-	-	-	-

(表18)

研 究 科	専 攻	入学定員		収容定員		在籍学生数											
		修士 課程	博士 課程	修士 課程 (A)	博士 課程 (B)	修士課程						博士課程					
						一般	社会人	留学生	その他	計(C)	C／A	一般	社会人	留学生	その他	計(D)	D／B
	航空宇宙学専攻	16	-	32	-	43	0	0	0	43	1.34	-	-	-	-	-	-
	経営工学専攻	-	-	-	-	3	0	0	0	3	-	-	-	-	-	-	-
計		176	-	352	-	433	3	0	0	436	1.24	-	-	-	-	-	-
※芸術工学研究科	※生活デザイン専攻	-	-	-	-	1	0	0	0	1	-	-	-	-	-	-	-
計		-	-	-	-	1	0	0	0	1	-	-	-	-	-	-	-
産業工学研究科	生産工学専攻	8	-	16	-	1	0	0	0	1	0.06	-	-	-	-	-	-
	情報工学専攻	8	-	16	-	2	0	0	0	2	0.13	-	-	-	-	-	-
	社会開発工学専攻	8	-	16	-	1	0	0	0	1	0.06	-	-	-	-	-	-
計		24	-	48	-	4	0	0	0	4	0.08	-	-	-	-	-	-
開発工学研究科	情報通信工学専攻	10	-	20	-	0	0	0	0	0	0.00	-	-	-	-	-	-
	素材工学専攻	6	-	12	-	1	0	0	0	1	0.08	-	-	-	-	-	-
	生物工学専攻	6	-	12	-	2	0	0	0	2	0.17	-	-	-	-	-	-
	医用生体工学専攻	4	-	8	-	6	0	0	0	6	0.75	-	-	-	-	-	-
計		26	-	52	-	9	0	0	0	9	0.17	-	-	-	-	-	-
海洋学研究科	海洋工学専攻	16	-	32	-	5	0	0	0	5	0.16	-	-	-	-	-	-
	水産学専攻	8	-	16	-	24	0	0	0	24	1.50	-	-	-	-	-	-
	海洋科学専攻	8	-	16	-	8	0	0	0	8	0.50	-	-	-	-	-	-
	海洋生物科学専攻	8	-	16	-	4	0	0	0	4	0.25	-	-	-	-	-	-
計		40	-	80	-	41	0	0	0	41	0.51	-	-	-	-	-	-
理工学研究科	電子情報工学専攻	6	-	12	-	2	0	0	0	2	0.17	-	-	-	-	-	-
	環境生物科学専攻	6	-	12	-	3	0	0	0	3	0.25	-	-	-	-	-	-
計		12	-	24	-	5	0	0	0	5	0.21	-	-	-	-	-	-
農学研究科	農学専攻	12	-	24	-	22	0	0	0	22	0.92	-	-	-	-	-	-

(表18)

研 究 科	専 攻	入学定員		収容定員		在籍学生数											
		修士 課程	博士 課程	修士 課程 (A)	博士 課程 (B)	修士課程						博士課程					
						一般	社会人	留学生	その他	計(C)	C／A	一般	社会人	留学生	その他	計(D)	D／B
計		12	－	24	－	22	0	0	0	22	0.92	－	－	－	－	－	－
体育学研究科	体育学専攻	10	－	20	－	37	4	0	0	41	2.05	－	－	－	－	－	－
計		10	－	20	－	37	4	0	0	41	2.05	－	－	－	－	－	－
医学研究科	先端医科学専攻	－	35	－	140	－	－	－	－	－	－	56	0	0	0	56	0.40
	医科学専攻	10	－	20	－	11	0	0	0	11	0.55	－	－	－	－	0	－
計		10	35	20	140	11	0	0	0	11	0.55	56	0	0	0	56	0.40
健康科学研究科	看護学専攻	10	－	20	－	23	0	0	0	23	1.15	－	－	－	－	－	－
	保健福祉学専攻	10	－	20	－	9	0	0	0	9	0.45	－	－	－	－	－	－
計		20	－	40	－	32	0	0	0	32	0.80	－	－	－	－	－	－
合 計		480	153	960	494	836	16	0	0	852	0.89	141	20	0	0	161	0.33

大学基準協会 [注]

- 1 博士課程を前期と後期に区分している場合は、前期課程は修士課程の欄に後期課程は博士課程の欄に記載してください。
また、5年一貫制の博士課程は博士課程の欄に記載してください。
- 2 専門職学位課程については、該当する研究科・専攻名の後に「（専門職）」と付記し、付与する学位の種類に対応する欄に記載してください。
- 3 科目等履修生、聴講生、研究生は、在籍学生数には含めないでください。
- 4 「収容定員に対する在籍学生数比率」（C／AおよびD／B）欄については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。

データについて [注]

- 1 「在籍学生数」欄の「一般」「社会人」「留学生」「その他」は入学試験種別である。なお、「一般」には、一般入学試験と推薦入学試験の合計数を記載。
- 2 組込み技術研究科組込み技術専攻は2012年度より募集停止
- 3 工学研究科情報通信制御システム工学専攻・経営工学専攻は2012年度より募集停止
- 4 情報通信学研究科は2012年度開設
- 5 芸術工学研究科は2013年度より募集停止

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010)

1. 助言について (健康科学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 研究環境
	指摘事項	1) 健康科学部 、総合経営学部、産業工学部、生物理工学部、農学部において、教員の担当授業時間数が多く、研究時間の確保が不十分となっているので、研究活動の活性化に向けて、研究環境を整備するよう対策が望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 155) <u>教員の研究時間を確保させる方途の適切性</u> 全教員に研究日を1日保証している。授業責任は、年平均1週当たり6～9コマに収まるよう、教員全体でバランスをとっている。社会福祉学科介護コースの担当教員は、例外的に10コマになっているが、学内の委員会活動等を減らして、研究時間が確保できるよう配慮している。
	評価後の改善状況	教員の講義時間に関しては、資格に関する授業時間は、規則の改訂により、増加の一方である。従って、研究に伴う教員の事務作業等の時間を軽減するために、2009年のミッションシェアリングシートの3)-(2)-①に「研究活動の充実に向けて、ソフト面での研究環境を整えられるよう、科研費補助金獲得(3)と連動させる。」をあげ、2012年から実施計画に「予算の範囲内で研究をサポートする人材を導入する。」をかかげ、科研間接経費で研究補助事務員を雇用し、2013年度3名、2014年度2名を雇用している。

雇入通知書(雇用契約書)

氏名	[redacted]		生年月日	[redacted]	教職員番号	[redacted]
現住所	〒252-0314 [redacted] TEL 090-1207-8581					
学校法人東海大学臨時教職員勤務規則に従い、下記の勤務条件で雇用します						
雇用期間	2014年4月1日～2015年3月31日					
資格	臨時3種	職種	事務職員			
所属	健康科学部 看護学科	就業場所				
業務内容	研究補助業務					
公的資格						
勤務日	月曜日 09:00～15:00(実労働時間 5時間00分、休憩時間 1時間00分)					
勤務時間	火曜日 09:00～15:00(実労働時間 5時間00分、休憩時間 1時間00分)					
休憩時間	水曜日 09:00～15:00(実労働時間 5時間00分、休憩時間 1時間00分)					
休日	木曜日 休み					
	金曜日 09:00～15:00(実労働時間 5時間00分、休憩時間 1時間00分)					
	土曜日 休み					
	日曜日 休み					
	但し、祝日は休み。					
所定外労働	1.所定外労働をさせることがあり 2.休日労働をさせることがあり					
休暇	学校法人東海大学臨時教職員勤務規則による					
基本手当	時給 900 円					
諸手当	通勤手当					
時間外手当	学校法人東海大学臨時教職員勤務規則による					
賃金締切	月末	支払日	毎月28日	支払方法	銀行振込	
昇給	なし	賞与	なし	退職金	なし	
雇用保険	一般被保険者	健康保険・年金	なし			
退職に関する事項	学校法人東海大学臨時教職員勤務規則による					
更新の有無	更新の見込みあり 契約の更新は次のいずれかにより判断する ・契約期間満了時の業務量 ・被雇用者の勤務成績・態度 ・被雇用者の能力 ・使用者の経営状況 ・従事している業務の進捗状況 ・補助金等による雇用の場合、当該補助事業等の継続の有無					
その他	所得制限あり					

2014年4月1日
東海大学
伊勢原人事課長 野寺 隆史



上記のとおり、相違ないことを確認いたしました。



確認印	研究代表者印	当該職員印

雇入通知書(雇用契約書)

氏 名	[REDACTED]		生年月日	[REDACTED]	教職員番号	[REDACTED]
現住所	〒257-0004 [REDACTED] 静岡県浜松市下大塚4-10-1-7-502		TEL 080-5015-2600			
学校法人東海大学臨時教職員勤務規則に従い、下記の勤務条件で雇用します						
雇 用 期 間	2014年4月1日～2015年3月31日					
資 格	臨時3種		職 種	事務職員		
所 属	健康科学部 看護学科		就業場所			
業 務 内 容	研究補助業務					
公 的 資 格						
勤 務 日	月曜日 09:00～17:00(実労働時間 7時間00分、休憩時間 1時間00分)					
勤 務 時 間	火曜日 09:00～17:00(実労働時間 7時間00分、休憩時間 1時間00分)					
休 憩 時 間	水曜日 09:00～17:00(実労働時間 7時間00分、休憩時間 1時間00分)					
休 日	木曜日 09:00～17:00(実労働時間 7時間00分、休憩時間 1時間00分)					
	金曜日 09:00～17:00(実労働時間 7時間00分、休憩時間 1時間00分)					
	土曜日 09:00～15:00(実労働時間 5時間00分、休憩時間 1時間00分)					
	日曜日 休み					
	但し、隔週土曜日、祝日は休み。					
所 定 外 労 働	1.所定外労働をさせることがあり 2.休日労働をさせることがなし					
休 暇	学校法人東海大学臨時教職員勤務規則による					
基 本 手 当	時給 900 円					
諸 手 当	通勤手当					
時 間 外 手 当	学校法人東海大学臨時教職員勤務規則による					
賃 金 締 切	月末	支 払 日	毎月28日	支 払 方 法	銀行振込	
昇 給	なし	賞 与	なし	退 職 金	なし	
雇 用 保 険	一般被保険者		健 康 保 険 ・ 年 金	日本私立学校振興・共済事業団		
退職に関する事項	学校法人東海大学臨時教職員勤務規則による					
更新の有無	更新の見込みあり 契約の更新は次のいずれかにより判断する ・契約期間満了時の業務量 ・被雇用者の勤務成績・態度 ・被雇用者の能力 ・使用者の経営状況 ・従事している業務の進捗状況 ・補助金等による雇用の場合、当該補助事業等の継続の有無					
そ の 他	所得制限なし					

2014年4月1日
東海大学
伊勢原人事課長 野寺 隆史

上記のとおり、相違ないことを確認いたしました。

確 認 印	研究 代表 者 印	当 該 職 員 印
		

No.	基本目標	達 成 目 標					行 動 目 標					備 考		
		目 標	達成目標の指標(数値目標)・達成年次					目 標	行動目標の指標(数値目標)・達成年次					
			2009	2010	2011	2012	2013		2009	2010	2011		2012	2013
	1)教育の目標＜学士課程教育＞	①多様な学生を受け入れるため、学生自身が必要と考える基礎学力やリテラシーを学べるような環境とシステムを整備すると同時に、学力に秀でた学生に対してより深く学べるような環境とシステムも整備する。						①自己学習能力と問題解決能力を養成する。 ・初年次教育としてゼミ単位でのレポートや論文作成の方法や技術の修得をはかる。 ・初年次教育の一環として、学習や研究等に必要図書館の活用法がわかるようガイダンスを実施し、支援する。	実施	到達目標を定め評価	評価と修正	実施と評価	実施と評価	
								②実践力の向上を図る。 ・実践力の到達目標を定め、全員が修得できるシステムを整え、全員が修得するよう指導する。	到達目標を定め修得方法を検討	試行	評価と修正	実施と評価	実施と評価	
		②カリキュラムポリシーの策定とその具体化を図る。 育成する人材像を学則や要覧に明文化し、授業要覧やシラバスに具体的な目標を明確に記載した教育プログラムを確立する。						①暖かい人間性と幅広い教養を身につけた人材を育成する。 ・人間理解のための科目を充実する。 ・一般教養知識の向上を図る。	該当科目及び内容の検討	試行	評価と修正	実施と評価	実施と評価	
								②人権擁護を基盤としたヒューマンケアを実践できる能力を育成する。 ・人権意識や権利擁護、倫理的判断を養う科目の導入と既存の科目においても学習内容として充実させる。 ・臨地実習など実践教育の中で、倫理的課題を学習項目に必ず取り入れる。	1科目導入 シラバス・実習要項に記載	内容の検討 演習・実習において実施 50%	評価と修正 演習・実習において実施 60%	評価と修正 演習・実習において実施 80%	評価 100%	
								③多職種間の連携チームの一員として活躍できる人材を育成する。 ・学部及び医学部との共通科目を2科目以上履修する。 ・連携教育科目である「看護福祉特講」の履修を高める。	対象学生の20%が履修	対象学生の30%が履修	対象学生の40%が履修	対象学生の50%が履修	対象学生の50%以上が履修	
								④国際的分野で活躍できる人材を育成する。 ・国際的視野や語学力を養う科目を充実する。 ・アメリカのミシガン大学、メイヨメディカルセンター等での海外研修を行う。 ・研修成果を他の学生と共有する機会を設ける。	共有する方法の検討	試行	評価と修正	実施と評価	修正と実施	
								⑤国家試験合格者を向上させる 結果の分析と学習支援体制を学科・学部として整える。	看護師 100% 保健師 95% 社会福祉士 40% 精神保健福祉士 40% 精神保健福祉士 60% 介護福祉士 60% 介護福祉士	看護師 100% 保健師 95% 社会福祉士 50% 精神保健福祉士 70% 介護福祉士 100%	看護師 100% 保健師 95% 社会福祉士 50% 精神保健福祉士 70% 介護福祉士 100%	看護師 100% 保健師 95% 社会福祉士 50% 精神保健福祉士 80% 介護福祉士 100%	看護師 100% 保健師 95% 社会福祉士 60% 精神保健福祉士 80% 介護福祉士 100%	

No.	基本目標	達 成 目 標					行 動 目 標					備 考		
		目 標	達成目標の指標(数値目標)・達成年次					目 標	行動目標の指標(数値目標)・達成年次					
			2009	2010	2011	2012	2013		2009	2010	2011		2012	2013
		③教育の質保証のためのPDCAサイクルを定着させる。 科目到達度と成績評価指標を明示し、学力実態に応じた授業の改善を行う。また、総合的業績評価制度、ミッション・シェアリング・シートを連動させた						①シラバスに科目到達度と成績評価指標の明示を徹底する。	授業評価結果が前年と比し向上する	授業評価結果が前年と比し向上する	授業評価結果が前年と比し向上する	授業評価結果が前年と比し向上する	授業評価結果が前年と比し向上する	
								②評価委員会を中心に授業評価、卒業時及び卒業生によるカリキュラム評価結果からの要修正事項を全教員にフィードバックし、全教員で改善に向けた検討を行う。	年1回教員会で実施	年1回教員会で実施	年1回教員会で実施	年1回教員会で実施	年1回教員会で実施	
		④多様な学生に対応するために、学生一人ひとりへの対応システムを構築し、指導教員制度の充実と、学生支援システムの活用を定着させる。						①指導教員による学生指導の充実化を図る ・個別面接年2回実施 ・将来志望に応じた進路指導 ・個別能力に応じた学習計画助言	実施と卒業時アンケートにおける満足度評価	前年比5%増	前年比5%増	前年比5%増	満足度60%	
								②心理的問題抱えた学生への権利擁護と総合的なサポートのため学生相談室との連携システムを構築する。	検討会の実施	検討と学部内コンセンサスの形成	試行及び評価修正	実施と評価	実施と評価	
	3) 研究の目標【6.研究環境】	①大学及び学部等において、新たな社会的価値の創造に貢献できる研究テーマに対し研究費の重点配算を行う。	1件	1件	1件	1件	1件	①研究費の効果的配算を検討し、実施する。	検討会の実施	検討と学部内コンセンサスの形成	試行及び評価修正	実施と評価	実施	
		②研究活動を充実させ、外部資金獲得へつなげられるよう施設の改修、増築を計画する。						②研究活動充実のため既存施設の効果的な活用を検討する。	検討会の実施	検討と学部内コンセンサスの形成	試行及び評価修正	実施と評価	実施	
		③科学研究費獲得件数を増やすため、学部等における5年後の申請率(応募件数／専任教員数)を、50%以上にする。	15件	20件	20件	25件	25件	③科学研究費申請件数を増やすための学部FD活動を行う。	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	
		④各キャンパスにおいて、地域と密着した研究を推進し、業績件数を増やす。	1件	1件	2件	2件	2件	④伊勢原市との連携事業である東海大学健康クラブを基盤にした研究を行う。	1件	1件	2件	2件	2件	
		⑤産学連携活動を通じて知的財産マインドの醸成に務め、実施可能な特許の出願に務めると共に技術移転活動を活発に行い、実施許諾率を向上する。					1件	⑤医療・福祉関係の外部研究費情報の提供と申請を推進するための学部FD活動を行う。	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	
		⑥研究活動を活性化するために、外部機関や学部間の人材(研究者)交流を推進し、交流件数を増やす。	2件	3件	5件	5件	5件	⑥他学科・学部あるいは他大学教員・研究者との共同研究の実施を推進する。	2件	3件	5件	5件	5件	

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (総合経営学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 研究環境
	指摘事項	1) 健康科学部、総合経営学部、産業工学部、生物理工学部、農学部において、教員の担当授業時間数が多く、研究時間の確保が不十分となっているので、研究活動の活性化に向けて、研究環境を整備するよう対策が望まれる。
	評価当時の状況	<p>項目番号 155)</p> <p><u>教員の研究時間を確保させる方途の適切性</u></p> <p>本学では、教員の研究時間を確保するために、「特別研究休暇」制度および「国内外研究派遣計画制度 (A 計画、B 計画、C 計画)」を設けている。その制度は以下のようになっている。</p> <p>ア. A 計画：若手・中堅研究者の外国・学会旅費補助、最大 15 万円以内/人、前・後期各 5 名。</p> <p>イ. B 計画：若手・中堅研究者の外国・学術調査研究経費補助、最大 30 万円以内/人、年間 2 名。</p> <p>ウ. C 計画：若手・中堅研究者の国内外・研究機関への研究留学、最長 1 年間、最大 200 万円、年間 1 名。</p> <p>エ. 特別研究休暇制度：10 年以上継続勤務した者、研究研修費最大 250 万円。</p> <p>本学部の教員の申請・採択状況は次の通りである。A 計画：前期 1 名申請、1 名採択。B 計画：1 名申請、1 名採択。C 計画：1 名申請、1 名採択。特別研究休暇制度：申請者 0。</p> <p>近年、特別研究休暇制度を利用する教員はいないが、C 計画を利用し、研究時間を確保する機会があることは評価できる。</p> <p>専門学科の教員の標準・責任担当コマ数は、各学</p>

	<p>期原則として 6.0 コマであり、この基準に沿うように、時間割の編成を心がけているが、教員のなかには、一般教養の文理融合科目、体育実技科目等を手伝うことを求められている者もあり、担当コマ数が 6.0 コマを超過する事態が発生している。授業担当コマ数が独立行政法人国立大学等と比較して 2 倍弱となっていて、通常はなかなか研究時間を取れないのが実情である。教員の研究時間を確保させる制度は十分に整っているとはいえない。</p>
評価後の改善状況	<p>2013 年度から総合経営学部は募集停止となり、2014 年度に開設した経営学部に移行した。その結果、本学部所属教員は 2 名となった。カリキュラムは漸次消滅していくために授業担当コマ数は減っている。</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>・ 2014 年度教員所属表（総合経営学部：抜粋）</p>	
< 大学基準協会使用欄 >	
検討所見	<p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p>
改善状況に対する評価	<p>1 2 3 4 5</p>

2014年度 教員所属表

● 東 海 大 学 ・ ・ ・ 1～99

実務法学研究科 (専門職大学院)	1	健康科学部	77
文学部	2	チャレンジセンター	79
観光学部	7	総合教育センター	80
政治経済学部	8	外国語教育センター	82
総合経営学部	10	国際教育センター	86
経営学部	11	情報教育センター	87
法学部	12	課程資格教育センター	88
教養学部	13	高輪教養教育センター	教養教育センター -1-
国際文化学部	15	清水教養教育センター	教養教育センター -2-
理学部	17	熊本教養教育センター	教養教育センター -4-
情報理工学部	21	阿蘇教養教育センター	教養教育センター -5-
情報通信学部	22	札幌教養教育センター	教養教育センター -6-
工学部	24	創造科学技術研究機構	90
芸術工学部	32	海洋研究所	91
産業工学部	33	総合医学研究所	92
基盤工学部	34	糖鎖科学研究所	93
海洋学部	36	教育研究所	94
生物理工学部	39	スポーツ医科学研究所	95
生物学部	40	総合農学研究所	96
農学部	41	沖縄地域研究センター	97
体育学部	43	総合科学技術研究所	98
医学部	46	情報技術センター	99

● 東海大学短期大学部 ・ ・ ・ 100

● 東海大学医療技術短期大学 ・ ・ ・ 101

● 東海大学福岡短期大学 ・ ・ ・ 102

総合経営学部

カナ氏名

漢字氏名

資格

任用

教職員番号

総合経営学部マネジメント学科

熊本校舎

1	タキ イチロウ	高木 一郎	教授	専任	092169
2	ヤマサキ マツオ	山崎 松男	教授	専任	145867

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (産業工学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 研究環境
	指摘事項	1) 健康科学部、総合経営学部、産業工学部、生物理工学部、農学部において、教員の担当授業時間数が多く、研究時間の確保が不十分となっているので、研究活動の活性化に向けて、研究環境を整備するよう対策が望まれる。
	評価当時の状況	<p>項目番号 155)</p> <p><u>教員の研究時間を確保させる方途の適切性</u></p> <p>本学部の多くの教員は大学院にも所属しており、教育を実施しながら研究を推進することを要求されている。改組改編や大学の統合により学科のカリキュラムの大きな変更があった。そのための各教員の新たな教材作りや授業準備に追われる毎日となった。さらに、入学してくる学生の学力の多様化に伴い、従来にも増して工夫を要する授業やきめ細やかな面談が必要になってきた。このような状況から、必然的に多くの教員は研究時間を割いて教育に当たっている。さらに、本学部は 2008 年 4 月に新設されたばかりであり、2008 年度には新設に伴う実務が急増すると予想された。そのため、学科や学部の運営に関わる各種会議の効率化が重要となる。その一環として、学部内に「主任教授・教務委員会」を立ち上げ、学部長のリーダーシップのもと、分業体制で実務を効率的に処理することとした。委員会は月 1 回を基本とし、必要に応じて臨時に開催された。2007 年度までは、教務委員会等の各種委員会、学部主任会議などを別々に開催しており、互いの</p>

	調整にかなりの時間を消費し、会議の回数も多かった。「主任・教務委員会」を効率的に運営することにより、その調整および会議回数を減らすことができた。研究時間が確保できているかどうかのアンケート調査(学部教員 38 名)によると、研究時間がほぼ確保できている・・・36.8%、確保できていない・・・63.2%であった。従来、このようなアンケートをとっていないため、効果について過去との比較はできないが、必ずしも研究時間が確保できているとは言えない結果となっており、上記取り組みだけでは十分でないと思われる。
評価後の改善状況	2013 年に学部の募集停止となり、2015 年度の現年次生の卒業をもって終了する。産業工学部所属の教員は、2013 年度改組時にほとんどの教員が他学部等に異動したため、ご指摘を受けた点については異動先の学部等にて改善を図っていくことになる。産業工学部に所属している教員は、2013 年度 7 名、2014 年度 3 名、2015 年度 1 名(予定)となっている。学部の募集停止後、年次進行で下位年度の授業科目が開講中止となり、学部所属している教員の授業時間数も年々減少し、会議の回数も減少している。そのため、研究に従事する時間も確保できつつあると考えられる。
改善状況を示す具体的な根拠・データ等	
<大学基準協会使用欄>	
検討所見	<div> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> </div> <div> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> </div>
改善状況に対する評価	<div> 12345 </div>

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (生物理工学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 研究環境
	指摘事項	1) 健康科学部、総合経営学部、産業工学部、 生物理工学部 、農学部において、教員の担当授業時間数が多く、研究時間の確保が不十分となっているので、研究活動の活性化に向けて、研究環境を整備するよう対策が望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 155) 教員の研究時間を確保させる方途の適切性 専任教員には週平均 6 コマ (卒論指導を行わない教員は 8 コマ) の持ちコマ数を担当するという義務はあるが、持ちコマの上限を定め研究時間を確保させる方途は取っていない。また、ある一定期間教育義務と学内行政義務を免除し研究に専念させるために特別研究休暇制度や国内外研究派遣制度があるが、2008 年度、2009 年度にこの制度を利用した教員はいない。
	評価後の改善状況	生物理工学部は 2011 年度を最終年度として学生募集を停止し、2014 年度の現 4 年生の卒業をもって終了する。生物理工学部所属教員は、順次他学部等へ異動となっているため、ご指摘を受けた点については、異動先の学部等で改善していくことになる。2012 年度の所属教員は 3 名、2013 年度、2014 年度は 2 名である。 この 2 名の週平均持ちコマは、2009 年度以降相当減少しており、大学院の研究指導、講義を除くと既定のコマ数以下になっている。2014 年度は、さらに少なくなる見込みである。

2013年度 教員所属表

● 東 海 大 学 . . . 1~103

実務法学研究科 (専門職大学院)	1	健康科学部	79
文学部	2	チャレンジセンター	82
観光学部	7	総合教育センター	83
政治経済学部	8	外国語教育センター	85
総合経営学部	10	国際教育センター	89
経営学部	11	情報教育センター	90
法学部	12	課程資格教育センター	91
教養学部	13	高輪教養教育センター	教養教育センター -1-
国際文化学部	15	清水教養教育センター	教養教育センター -2-
理学部	17	熊本教養教育センター	教養教育センター -4-
情報理工学部	22	阿蘇教養教育センター	教養教育センター -6-
情報通信学部	23	札幌教養教育センター	教養教育センター -7-
工学部	25	創造科学技術研究機構	93
芸術工学部	33	海洋研究所	94
産業工学部	34	総合医学研究所	95
基盤工学部	35	糖鎖科学研究所	96
開発工学部	36	教育研究所	97
海洋学部	38	スポーツ医科学研究所	98
生物理工学部	42	総合農学研究所	99
生物学部	43	北方生活研究所	100
農学部	44	沖縄地域研究センター	101
体育学部	46	総合科学技術研究所	102
医学部	49	情報技術センター	103

● 東海大学短期大学部 . . . 104

● 東海大学医療技術短期大学 . . . 106

● 東海大学福岡短期大学 . . . 107

生物理工学部

カナ氏名

漢字氏名

資格

任用

教職員番号

生物理工学部生物工学科

札幌校舎

	カナ氏名	漢字氏名	資格	任用	教職員番号
1	マツヤマ ヒデトシ	松山 英俊	教授	専任	081037

生物理工学部生体機能科学科

札幌校舎

	カナ氏名	漢字氏名	資格	任用	教職員番号
1	シモノ テツオ	下野 哲雄	教授	専任	086055

生物理工学部所属教員 各年度授業担当時間

	年度	春学期	秋学期	年平均
下野哲雄	2008	22.4	14.27	18.34
	2009	14.67	10.27	12.47
	2010	12.53	12.27	12.4
	2011	14.4	14.8	14.6
	2012	14.67	14.27	14.47
	2013	14	14	14

松山英俊	2008	17.21	14	15.61
	2009	13.45	8	10.73
	2010	11.49	12	11.75
	2011	11.49	10	10.75
	2012	13.49	12.65	13.07
	2013	13.36	8	10.68

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (農学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 研究環境
	指摘事項	1) 健康科学部、総合経営学部、産業工学部、生物理工学部、農学部において、教員の担当授業時間数が多く、研究時間の確保が不十分となっているので、研究活動の活性化に向けて、研究環境を整備するよう対策が望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 155) 教員の研究時間を確保させる方途の適切性 各学期の責任担当コマ数は、原則として学科等の卒業研究担当教員が 6 コマ、その他卒業研究を担当しない教員が 8 コマであり、平均担当コマ数はおおむね適正である。
	評価後の改善状況	2009 年度における専任教員の最高授業時間数は他学部と比べて非常に多くなっている。その要因としては一部の教員が生物科学研究科(博士課程)および農学研究科(修士課程)の双方において研究指導を行っていたためであると考えられる。2009 年度における農学部教員の平均授業時間数は約 19.5 時間 (9.75 コマ) であり、突出して多いとは考え難い。なお、カリキュラム変更を実施した 2013 年度では約 18.4 時間 (9.2 コマ) を示し、僅かながら減少した。 学問分野の性質上、多くの実験・実習科目を開講しているが、それらのほとんどをオムニバス形式で実施している。また、原則として土曜日には授業を開講しないようにしている。このようにして、実験・実習の担当日以外の平日や土曜日には研究・調査に集中できる時間を確保し易いように工夫している。

	氏名	年間平均時間数	
		2009年度	2013年度
1	小松 春喜	25.21	15.73
2	片野 學	13.48	11.60
3	長野 克也	13.47	12.46
4	田中 孝幸	21.14	15.49
5	村田 達郎	25.48	20.40
6	星 良和	29.46	19.53
7	松浦 朝奈	11.61	11.87
8	松田 靖	20.34	15.07
9	村田 浩平	26.06	27.93
10	片岡 正実	0.00	6.20
11	小柳 深	15.67	0.00
12	森友 靖生	13.94	19.81
13	芝田 猛	9.33	0.00
14	岡本 智伸	23.07	21.41
15	栳田 聖孝	31.47	20.01
16	飛岡 久弥	21.20	15.13
17	河原崎 達雄	0.00	18.67
18	伊藤 秀一	20.94	24.28
19	仁木 隆博	16.41	25.14
20	プラダン・ラジブ	15.28	15.87
21	谷 峰人	0.00	9.56
22	荒木 朋洋	27.40	28.40
23	井越 敬司	19.40	15.00
24	小野 政輝	22.13	21.86
25	山下 秀次	26.26	20.20
26	吉田 政博	13.40	19.94
27	永井 竜児	0.00	19.27
28	安田 伸	13.80	21.46
29	多賀 直彦	14.20	16.27
30	米田 一成	15.01	26.19
31	河村 俊介	22.41	0.00
合計		527.57	514.75
教員数		27	28
平均		19.54	18.38

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 研究環境
	指摘事項	2) 提出された資料によると、工学部、体育学部、国際文化学部において、研究活動が不活発な教員が一部に見られる。また、科学研究費補助金の申請件数についても、体育学部および芸術工学部において活発でないので、研究活動のさらなる促進を図るよう、組織的な取り組みが望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 145) <u>論文等研究成果の発表状況</u> 本学部における論文等研究成果の発表状況(2009年3月末現在・過去3年間集計)は、表4-1のとおり被表彰数が61件、学会等の招待講演が107件、著作・著書・学術論文が1,582件、学会学術集会発表が2,878件である。専任教員1人あたり平均すると、著作・著書・学術論文が年間3.8件、学会学術集会発表が6.9件となる。
	評価後の改善状況	2010年度の大学基準協会による第三者評価結果を受けて、工学部の研究活動における、当該対象者の追跡ならびにその後の対象得者に関する調査を行った。 まず、2010年度の評価に利用した資料は2009年度の東海大学基礎データ(表24:個人個表)によると考えられ、その結果、研究活動の登録が無い工学部教員は146名中11名であった。 その理由の内訳は、 1. 新任教員であったため、研究業績が少ない者:1名 2. 病気療養中であり、研究業績がない/登録で

	<p>きない者：3 名</p> <p>3. 設置目的が目標修得指向型の学科専攻（医用生体工学科や航空宇宙学科 航空操縦学専攻など）における専門技術者教育に従事しており、学術論文等の研究業績がなかった者：7 名であった。</p> <p>大学基準協会による第三者評価：提言を受けた後の推移として、直近の 2013 年度における（役職等による業績登録除外者・退職者を除いた）研究活動が未登録ならびに評価ポイントが 5 段階中 2 以下の工学部教員は 157 名（特任を含む）中 14 名であった。</p> <p>その理由の内訳は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 着任して間もないため、研究業績が少ない者：1 名 2. 病気療養中であり、研究業績がない／登録できない者：1 名 3. サバティカル中のため、研究業績が少ない者：1 名 4. 近隣市町村からの依頼分析を継続的に行っており、成果を論文等の研究業績として公表できない者：1 名 5. 設置目的が目標修得指向型の学科専攻などにおける専門技術者教育に従事しており、学術論文等の研究業績がなかった者：10 名（内訳：医用生体工学科 3 名、航空宇宙学科 航空宇宙学専攻 1 名・航空操縦学専攻 4 名、航空宇宙学建築学科 1 名、動力機械工学科 1 名）であった。 <p>この結果、病気療養中で教育研究に就けない者を除き、研究を行っていないという教員は皆無であり、ほとんどが航空操縦学専攻などの学科専攻であって、専門技術者教育や地域連携等の理由から研究教育成果として得にくい・公表しにくい教員もいることが判明した。しかし、今後は教育関係の学協会に投稿するなど指導する。</p>
--	---

改善状況を示す具体的な根拠・データ等						
<ul style="list-style-type: none"> ・東海大学教育研究年報 資料編 研究業績一覧 ・2013 年度工学部自己点検・評価報告書 						
<大学基準協会使用欄>						
検討所見		○ ○				
改善状況に対する評価		1	2	3	4	5

2013 年度 工学部 自己点検・評価報告書

基本目標	3) 研究の目標
達成目標	①大学及び学部等において、新たな社会的価値の創造に貢献できる研究テーマに対し研究費の重点配算を行う。

目 標 : MS シートの行動計画内容

工学部の方針・目標を反映した研究テーマについて、学部が用意できる予算内で学内教員による研究費助成を定着させる。

現状説明 : 行動計画内容に沿った具体的な取り組み

工学部では、東海大学中期目標の達成のため、その一つの施策「工学部研究教育補助金（公募）」による研究活動の推進を行っている。この施策は、各学科専攻において教育研究の特徴を伸長させていく過程で、外部資金の獲得を意識しながら社会的価値の創造に寄与する研究テーマを具体的に推進させることにあり、さらに学外広報にも強く結び付けるための研究推進活動である。この活動のための研究費は、学部が用意できる予算から工学部新任教員や若手教員を対象とした研究支援活動費を差し引いた残額の中から充当させている。そのため、工学部の方針・目標を反映した研究テーマについて、学部が用意できる予算内で学内教員による研究費助成を定着させることを行動計画内容とした。

この行動計画内容の達成は、2013 年度までに年間 1 件以上の有効な研究活動（工学部研究教育助成金による研究活動）の推進を定着させることとし、そのため工学部長の強いリーダーシップ力に基づいて実際に学科専攻が組織単位で行動し、それを工学部長が検証した。なお、2009～2013 年度に実施した施策は次の通りである。

2009 年度（4 件採択）

- ①「ヒト O - マンノース型糖鎖生合成に関与する酵素間の相互作用の解析（研究組織 生命化学科、助成金 2,100,000 円）」
- ②「低環境負荷を考慮した次世代型固体電解質の合成とイオン電導性に関する研究（研究組織 応用化学科、助成金 700,000 円）」
- ③「新規無痛針の創製技術の開発（研究組織 精密工学科、助成金 1,400,000 円）」
- ④「小型人工衛星による柔軟薄膜の無重力展開実験（研究組織 航空宇宙学専攻、助成金 700,000 円）」

2010 年度（3 件採択）

- ①「スペースプレーン用エンジンの研究（研究組織 航空宇宙学専攻、助成金 500,000 円）」
- ②「小型無人機用パルスデトネーションエンジンの基礎研究（研究組織 航空宇宙学専攻、助成金 1,000,000 円）」
- ③「ハイブリッドシステムに関する研究（研究組織 動力機械工学科、助成金 1,000,000 円）」

2011 年度（4 件採択）

- ①「銀ナノ粒子薄膜の新規な発色方法（院）（研究組織 光・画像工学科、助成金 1,500,000 円）」
- ②「本質的安全性を有する高機能動力義手の開発（院）（研究組織 機械工学科、助成金 1,500,000 円）」
- ③「高効率熱音響機関の研究（院）（研究組織 動力機械工学科、助成金 1,500,000 円）」
- ④「ラグランジェ型乱流解析手法を応用した空力形状最適化手法の構築に向けた検討（院）（研究組織 航空宇宙学科航空宇宙専攻、助成金 1,000,000 円）」

2012 年度（9 件採択）

- ①「過酷環境において優れた化学的安定性と自己修復性を有する高機能性被膜の開発（院）（研究組織 原子力工学科、助成金 500,000 円）」
- ②「マイクロトモグラフィ法によるヒト脳組織の三次元構造解析（研究組織 生命化学科、助成金 700,000 円）」
- ③「温度勾配を積極的に利用した新しいろう付プロセスの基礎的検討（院）（研究組織 材料科学科、助成金 700,000 円）」
- ④「ガソリンを燃料とする固体酸化物形燃料電池の燃料極の研究（研究組織 動力機械工学科、助成金 700,000 円）」
- ⑤「自立積層薄膜型の固体酸化物燃料電池用の微細構造を制御した多孔質 Ni 燃料極の創生（研究組織 動力機械工学科、助成金 700,000 円）」
- ⑥「静脈血栓症およびリンパ浮腫に対する低周波治療ハイブリッド弾性被覆の研究開発（研究組織 医用生体工学科、助成金 700,000 円）」
- ⑦「大気圧プラズマジェットを用いた廃水中の難分解性有害有機物の分解（研究組織 電気電子工学科、助成金 900,000 円）」
- ⑧「東日本大震災被災地における水環境調査と定点観測カメラによる環境再生モニタリング（院）（研究組織 土木工学科、助成金 700,000 円）」
- ⑨「マイクロバイオデバイス技術を応用した細胞動態観察システムの構築（研究組織 機械工学科、助成金 700,000 円）」

2013 年度（10 件採択）

- ①「低雑音位相感応型光増幅器に関する研究（研究組織 電気電子工学科、助成金 600,000 円）」
- ②「構造技術者オヴ・アラップによる言説を通してみられる建築構造技術思想の考察（研究組織 建築学科、助成金 650,000 円）」
- ③「高精度な工具経路間隔決定法の開発とその CAD/CAM システムへの応用（研究組織 精密工学科、助成金 600,000 円）」
- ④「ロール・ツー・ロール・プリンティッドエレクトロニクス技術の確立を目指した基礎研究（研究組織 機械工学科、助成金 600,000 円）」
- ⑤「電動車両を用いた次世代エネルギーシステム技術の実証的研究（研究組織 動力機械工学科、助成金 900,000 円）」
- ⑥「ガソリンを燃料とする固体酸化物形燃料電池の燃料極の研究（研究組織 動力機械工学科、助成金 900,000 円）」

- ⑦「近未来型高速輸送機械のための非定常流体の能動制御技術の基礎研究（研究組織 動力機械工学科、助成金 540,000 円）」
- ⑧「インドア型の飛翔体群制御の研究（研究組織 航空宇宙学科航空宇宙学専攻、助成金 900,000 円）」
- ⑨「ラグランジェ型乱流解析手法を応用した非定常運動する物体周りの流れと解析（研究組織 航空宇宙学科航空宇宙学専攻、助成金 900,000 円）」
- ⑩「航空気象情報の見える化に関する研究（研究組織 航空宇宙学科航空操縦学専攻、助成金 900,000 円）」

上記の研究テーマのうち、2009～2012 年度における各テーマの研究活動は維持・展開状態へと推移している。また 2013 年度の各テーマは目標達成のため各々活動期に入っている。これらは工学部研究教育助成金による有効な研究活動として定着させるための試行段階を終え、工学部の活動として定着したことから、2009～2013 年度は各年ともに目標とした指標を達成できた状況にある。

点検・評価： 行動計画内容の実現度、分析

＜行動計画内容の実現度＞ S

行動計画内容の指標・達成年次に掲げた事項は 2009～2013 年度にわたり達成されたため、実現度は「S」と自己評価した。具体的には、工学部の方針・目標を反映した研究テーマについて、学部が用意できる予算内で学内教員による有効な研究活動として定着した。

＜成果として認められる事項＞

工学部長の強いリーダーシップ力に基づいて実際に学科専攻の組織単位で行動できる仕組みと環境が整っている。

＜改善すべき事項＞

現状では特に見当たらない。

今後の改善・改革に向けた方策： 目標を達成するための具体策

＜長所の維持・伸長方法＞

各学科専攻における教育研究の特徴を伸長させるため、学科専攻を組織単位として外部資金の獲得を意識しながら各研究テーマの具体的な推進が定着した。今後も学部が用意できる予算内で本活動を継続する。

＜改善方策＞

競争的資金獲得のためには、工学部と東海大学大学院（修士課程および博士課程）と連携した組織的活動の推進を展開する必要がある。

2013 年度 工学部 自己点検・評価報告書

基本目標	3) 研究の目標
達成目標	②研究活動を充実させ、外部資金獲得へつなげられるよう施設の改修、増築を計画する。

目 標 : MS シートの行動計画内容

工学部施設設備検討委員会において競争的資金獲得のための施設等整備計画を策定する。

現状説明 : 行動計画内容に沿った具体的な取り組み

この行動計画内容は、東海大学中期目標を達成するため、前項3) ①の達成目標と行動計画内容（「工学部研究教育補助金（公募）」による研究活動の推進）に連動させた活動でもあり、工学部の教育研究の特徴を伸長させながら社会的価値の創造に寄与する研究テーマの具体的な推進を進めている過程で、外部資金の獲得につながる教育研究施設の整備を計画することにある。目標達成のために工学部施設設備検討委員会が組織され、実際、現状の施設を調査しながら適切な計画の策定行動と検証に就いている。

2009 年度は目標とした指標が「施設整備の状況を調査」であり、工学部の現状教育研究施設の調査が行われ目標を達成した。2010 年度は目標とした指標が「施設整備の状況を検討」であり、教育研究施設の利用状況等を把握しながら検討の活動に入り、当該年度の目標をほぼ達成した。2011 年度の目標指標は「競争的資金獲得のための組織的な活動を展開する」、「計画策定の準備」であったが、新実験棟計画は大学として進めてられていたものの、震災の影響等もあり、具体的な計画の提示はなされなかった。2012 年度になり理工系施設設備整備事業がスタートした。工学部施設設備検討委員会委員長ならびに一部学科の委員が「(仮称) 18 号館新築計画」を策定すべく建設委員会に参画した。

2013 年度には 18 号館新築計画の内容が明らかになり、工学部では生命化学科と応用化学科の学生実験室が研究実験館 A より 18 号館 4 階へ移動することとなった。そこで、工学部施設設備検討委員会の委員長ならびに生命化学科と応用化学科の委員が建設委員会に参画、基本計画から基本設計を経て、実施設計（各室各部寸法・面積・家具配置計画等）について関係者・設計者を交えて審議・議論・意見交換を行い、理工系施設設備事業を進めた。今後は理工系施設設備整備事業の第Ⅱ期として、「(仮称) 19 号館新築計画（工学部新実験棟）」がスタートする予定である。

点検・評価 : 行動計画内容の実現度、分析

<行動計画内容の実現度> S

行動計画内容の指標・達成年次に掲げた事項は具体的には、工学部の教育研究施設の現状が調査され、教育研究施設の利用状況等を把握しながら検討が行われているため、2009 年度が達成、2010 年度がほぼ達成された状況にある。なお、2012 年度以降から「18 号館新築計画」について工学部として計画への提言・参画を行ったため実現度は「S」と自己評価した。

<成果として認められる事項>

この行動計画内容に連動した他の行動計画内容（前記3）①「工学部研究教育補助金（公

募)」による研究活動の推進)と併行して、競争的資金獲得のための組織的な活動が展開できる環境と施設整備が実現した。

＜改善すべき事項＞

現状では特に見当たらない。

今後の改善・改革に向けた方策 ： 目標を達成するための具体策

＜長所の維持・伸長方法＞

目標達成のために、理工系施設設備整備事業の第Ⅱ期として予定されている、「(仮称)19号館新築計画(工学部新実験棟)」に関して、教育研究施設の調査と共に具体的な施設計画の策定を進める。

＜改善方策＞

競争的資金獲得のための施設等整備計画を策定するためには、工学部のみによる活動に頼れるものではない。研究活動が中心の東海大学大学院等と連携し、組織的な活動を推進・展開する必要がある。

2013 年度 工学部 自己点検・評価報告書

基本目標	3) 研究の目標
達成目標	③科学研究費獲得件数を増やすため、学部等における 5 年後の申請率（応募件数／専任教員数）を、50%以上にする。

目 標 : MS シートの行動計画内容

外部資金関連情報を教員に周知する仕組みを整え、科学研究費を含めた外部資金への応募をしやすい環境整備を定着させる。

現状説明 : 行動計画内容に沿った具体的な取り組み

科学研究費補助金の申請件数について専任教員数からみると、「活発な教員」と「不活発な教員（第三者評価機関による弁）」が混在している。科学研究費を含む外部資金の獲得支援については、研究支援・知的財産本部が主催する外部研究資金獲得に向けた講習会の開催、競争的研究資金公募のメーリングリストによる配信、図書館主催のデータベース検索講習会など学内研修会の機会と仕組みは整えられつつあった。しかし、科学研究費補助金の申請率は年々低下の傾向にあり、教員に対して申請の意識高揚がなければ 2010 年度以降の申請率が 50%を下回ることが危惧されていた。そこで、第 I 期中期目標を達成するため、まず 2013 年度までに申請資格者の科学研究費申請率（継続分含む）を 50%以上定着させることを目標とした。目標達成のために実際に行動する組織は各学科専攻であり、実際に申請を必ず行うように学科主任の指示が教員へ強く促され、工学部主任会が検証した。

2009 年度および 2010 年度は目標とした指標が「申請資格者の科学研究費申請率（継続含む）50%」とした。結果、2009 年度における平成 22 年度分の申請率は 53.4%（申請・継続の合計 78 件／所属人数 146 名）、2010 年度における平成 23 年度分の申請率は 52.6%（申請・継続の合計 81 件／所属人数 154 名）、2011 年度における平成 24 年度分の申請率は 62.5%（申請・継続の合計 95 件／所属人数 152 名）であった。なお、2011 年度の目標指標のうち「未申請者の未申請者の理由を調査する」件について全教員へアンケートを実施した結果、「外部資金を獲得している」という理由が最も多かった。

アンケート結果を受けて、2012 年度初頭の工学部教授会において、工学部長が『文部科学省の私学助成補助金をはじめとする諸予算が「科研費の申請・採択の実績に応じて配算される傾向にある」ため、科研費の申請を奨励する』旨、工学部全教員へ周知した。結果として、平成 25 年度分の申請率は前年比 9.9 ポイント増加の 68.5%（申請・継続者 102 名／所属人数 149 名）となり、目標の「申請率 50%」を達成・維持できた。

2013 年度は達成目標を「新規申請・継続分を含め 50%以上」と再定義した。その結果、平成 26 年度分の申請率は前年比 1.6 ポイント増加の 70.1%（新規申請 74 名＋継続 36 件／所属人数 157 名（特任含む））となり、目標の「新規申請・継続分を含め 50%以上」を達成・維持できた。

点検・評価 : 行動計画内容の実現度、分析

<行動計画内容の実現度> S

行動計画内容の指標・達成年次に掲げた事項は 2009～2013 年度にわたり達成された状況にあり、実現度は「S」と自己評価した。具体的には、工学部長による周知徹底ならび

に学科主任等による教員個々への申請指示が組織的に行われるなどの改善も見られ、2010年度の申請率が50%を下回る予想に対し、2010年度以降の申請率（継続分を含む）は50%を上回り維持された。

＜成果として認められる事項＞

学科専攻毎に科学研究費を含めた外部資金への応募が強く促され、申請に対する教員の意識が高められた。

＜改善すべき事項＞

現状では特に見当たらない。

今後の改善・改革に向けた方策　：　目標を達成するための具体策

＜長所の維持・伸長方法＞

現状における申請率（継続分を含む）の低下を来さないよう、また採択率の向上も見据えて、外部研究資金獲得に向けた講習会への参加など、科学研究費を含めた外部資金への応募をしやすい環境を活用する。

＜改善方策＞

科学研究費申請資格者のうち、未申請者に対して「科研費申請の必要性」を積極的・継続的に周知すると共に、「科研費以外の外部資金を獲得しているため、科研費を申請しなくても良い」という気運を払拭するために、教授会等で継続的に周知徹底する。

2013 年度 工学部 自己点検・評価報告書

基本目標	3) 研究の目標
達成目標	④各キャンパスにおいて、地域と密着した研究を推進し、業績件数を増やす。

目 標 : MS シートの行動計画内容

シンポジウム、展示会や公開講座の開催を定着させる。

現状説明 : 行動計画内容に沿った具体的な取り組み

工学部では、東海大学中期目標を達成するため、「東海大学学則第 15 章 公開講座」に定められているとおり、専門分野ならびにその産官学連携活動を中心とした公開講座やシンポジウム、セミナーの開催を行っている。その行動計画内容は、2013 年度までにシンポジウム、展示会や公開講座を年間開催数 2 回以上に定着させることとしている。特に、工学部公開講座は地域社会の一般市民を対象に開催している。目標達成のために実際に行動する組織は工学部広報委員会と工学部紀要委員会であり、両委員会が協働して、①タイムリーな内容、②工学部の研究・人材面での優位性を打ち出せるような企画テーマの探索を行っている。それを検証する組織は工学部評価委員会である。2009 年度から 2013 年度までの開催状況は表 3-1 に示したとおりである。

2009 年度は目標とした指標が「シンポジウム、展示会や公開講座等を年間で開催数 1 回」であったが 2 回開催、2010 年度は 3 回開催した。2011 年度は「工学部公開講座 震災・防災」というテーマで、先の大震災に学び・生き残るための術を本学および工学部の教育研究成果を交え、工学部公開シンポジウムとして実施した。

2012 年度は、工学部公開シンポジウムとして工学部公開講座：テーマ「東日本大震災からの復興と大震災への備え」を 2012 年 11 月 17 日(土)に松前記念館講堂で実施した結果、100 名の参加者を得た。また、原子力エネルギーに関する工学部セミナー：テーマ「一緒に考えませんか！ エネルギーのこと、廃棄物のこと」を 2012 年 10 月 25 日(土)に湘南校舎 12 号館 5 階工学部会議室で開催した結果、90 名の参加者を得た。この他にも、2011 年度の紀要工学部「防災震災特集」を受けて、2012 年度は紀要工学部「再生可能エネルギー特集」号を発刊した。

2013 年度は、工学部公開セミナーとして「原子力専門講座」を 2013 年 7 月 11 日(木)に湘南校舎 16 号館において講演会形式で実施した結果、100 名の参加者を得た。この他にも、建築学科が「東海大建築卒業設計展 2013」を 2013 年 4 月 12 日(金)～14 日(日)に横浜市「象の鼻テラス」で開催した結果、総数で 470 名の参加者を得た。ここで関連イベントとして 4 月 13 日には建築家の蜂屋景二、木島千嘉 両氏を迎え、講評会「卒業設計の情熱とは何か？」を、また 4 月 14 日には建築家・都市計画の専門家である山下貴成、菅原麻衣子、伊藤州平、野口直人、宮澤祐子 各氏を迎え、座談会「卒業設計の情熱と今の情熱！」を開催した。さらに、原子力工学科が「原子力シンポジウム」として特別講師として宇佐美德子氏(高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所)を迎え、2013 年 11 月 2 日(土)～3 日(日)に湘南校舎 16 号館で開催した結果、総数で 100 名の参加者を得た。

点検・評価：行動計画内容の実現度、分析

＜行動計画内容の実現度＞S

行動計画内容の指標・達成年次に掲げた事項は 2009 年度～2013 年度にわたり達成された状況にあり、実現度は「S」と自己評価した。具体的には、表 3－1 に示した公開講座等の開催が目標指標に合致して実現している。

＜成果として認められる事項＞

工学部公開講座は地域社会の一般市民を対象に開催されている。

＜改善すべき事項＞

より効果的な活動とするためには、地域自治体等と連携したテーマや広報活動が組織的にも実施される必要がある。

今後の改善・改革に向けた方策：目標を達成するための具体策

＜長所の維持・伸長方法＞

工学部が主催する公開講座やシンポジウム、セミナー等を経常的に実施する。

＜改善方策＞

シンポジウム、展示会や公開講座などの開催は地域市民の関心テーマを設定したうえ、参加者数を増加させるためにも、地域に向けて組織的な広報活動を実施する。

表 3－1 工学部の主催による公開講座等（2009～2012年12月まで）

年.月.日	開催名称・テーマ	受講 対象者	受講者 数	受講 料	実施場所
2009. 3. 20	KMUTT（タイ）とのジョイントセミナー・東海大学工学部とタイ国トンブリ工科大学との協定に学术交流として	両大学 教員	33	0	タイ・バンコク・モンティエン リバーサイドホテル
2009. 7. 4	工学部公開講座・エネルギー技術 革命を求めて 50 年-核拡散のな い液体トリウム原子炉-	一般	244	0	東海大学湘南校舎 12号館5階 12-1会議室
2010. 7. 9	トリウム資源の大規模利用に向け た次世代原子炉開発の展望	一般	70	0	東海大学高輪校舎 4202教室
2010. 11. 3	粒子線治療技術の今昔、そして未 来へ	一般	162	0	東海大学湘南校舎 16号館5階503教室
2010. 11. 5	トリウム燃料を有効利用する原子 炉概念	一般	70	0	東海大学高輪校舎 4304教室
2011. 12. 17	工学部公開講座 震災・防災 (工学部公開シンポジウム)	一般	70	0	東海大学湘南校舎 8 号館4階8-401教室
2012. 10. 25	一緒に考えませんか！ エネルギー のこと、廃棄物のこと (工学部セミナー)	一般 学生 教職員	90	0	東海大学湘南校舎 12号館5階 12-1会議室

2012. 11. 17	工学部公開講座 東日本大震災からの復興と大震災への備え (工学部公開シンポジウム)	一般	100	0	東海大学湘南校舎 松前記念館地下講堂
2013. 4. 12 ～4. 14	「東海大建築卒業設計展2013」 (建築学科) [4月13日：講評会「卒業設計の情熱とは何か？」 ゲスト：蜂屋景二氏、木島千嘉 氏] [4 月 14 日：座談会「卒業設計の情熱と今の情熱！」 ゲスト：山下貴成 氏、菅原麻衣子 氏、伊藤州平 氏、野口直人 氏、宮澤祐子 氏]	一般 学生	470	0	横浜市 「象の鼻テラス」
2013. 7. 11	「原子力専門講座」 (工学部公開セミナー)	一般 専門家 技術者	100	0	東海大学湘南校舎 16号館
2013. 11. 2 ～11. 3	「原子力シンポジウム」 (原子力工学科) [特別講師：宇佐美德子 氏（高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所）]	一般 学生 教職員	100	0	東海大学湘南校舎 16号館

2013 年度 工学部 自己点検・評価報告書

基本目標	3) 研究の目標
達成目標	⑤産学連携活動を通じて知的財産マインドの醸成に務め、実施可能な特許の出願に務めると共に技術移転活動を活発に行い、実施許諾率を向上する。

目 標 : MS シートの行動計画内容

産学連携活動およびそれに関わる特許実施許諾率の向上を目指した産学連携集会等での発表件数（教員数に対する参加発表実施率）を増やす。

（2010 年度までに実施計画目標を達成できたため、2011 年度から新たな実施計画に変更して伸長することとした）

現状説明 : 行動計画内容に沿った具体的な取り組み

工学部の教育研究活動は、「学校法人東海大学知的財産憲章」、「学校法人東海大学知的財産権取扱規程」および「学校法人東海大学知的財産権取扱規程実施細則」に基づき、大学で得られた発見や知見、技術を社会に活かすことを重要視している。産学連携活動およびそれに関わる特許実施許諾率を向上させるためには、通常、産学連携集会等での積極的な研究成果の発信が欠かせない。そこで、工学部では東海大学中期目標を達成するため、産学連携集会への参加をしやすい環境整備を定着させることを行動計画内容とした。目標達成のために実際に行動する組織は各学科専攻であり、それを検証する組織は工学部評価委員会である。

2009 年度は目標とした指標が「産学連携集会での発表件数が年間 1 件以上」であり、工学部における産学連携集会への参加回数は 104、発表回数は 89 であった。2010 年度は目標とした指標を「年間 2 件以上」とした結果、参加回数は 95、発表回数は 80 であり、これら各年度について目標を大きく達成できた。2011 年度は目標指標が「産学連携集会における参加・発表を伸長する」、「参加発表実施率 30%」であり、参加回数は 150、発表回数は 97、参加発表実施率は 163%であった。2012 年度は目標とした指標が「産学連携集会における参加・発表を伸長する」、「参加発表実施率 35%」であり、参加回数は 209、発表回数は 109、参加発表実施率は 213%であった。

2013 年度は目標とした指標が「産学連携集会における参加・発表を伸長する」、「参加発表実施率 40%」であるが、表 3-2 に示すように今年度の参加回数は 144、発表回数は 83、参加発表実施率は 152%と 2011 年度の状況まで減少した。この理由は現状では不明であるが、2013 年度の目標指標である「参加発表実施率 40%」は充分達成した。

点検・評価 : 行動計画内容の実現度、分析

<行動計画内容の実現度> S

行動計画内容の指標・達成年次に掲げた事項は 2009～2013 年度にわたり達成された状況にあり、実現度は「S」と自己評価した。具体的には、表 3-2 に示した産学連携集会への参加の現状から目標とした指標に合致して実現している。

<成果として認められる事項>

産学連携集会への参加が教育研究活動の成果として行われている。

<改善すべき事項>

現状では特に見当たらない。

今後の改善・改革に向けた方策：目標を達成するための具体策

<長所の維持・伸長方法>

産学連携集会での参加発表件数は、行動計画内容を設定した当初の件数を大幅に飛躍できたが、学科専攻により参加発表実施率には未だ広範な差違がみられることは、専門分野や社会情勢（景気動向）等によっても左右されるということが潜在している。今後も専任教員数に対する参加発表実施率が定着できるよう、産学連携活動を促していく。

<改善方策>

これまでの成果より、学科専攻により参加発表実施率には未だ広範な差違がみられることも事実である。今後、産学連携活動の成果として技術移転を展開するためには、工学部のみによる活動に頼るものではなく、研究活動が中心の東海大学大学院と連携した組織的活動が望まれる。

表 3－2 工学部における産学連携集会への参加現状

学科・専攻	2010年度 ※1		2013年度 ※2		
	参加回数	発表回数	参加回数	発表回数	実施率(%)
生命化学科	3	2	2	0	18
応用化学科	3	13	12	4	160
光・画像工学科	4	4	9	6	250
原子力工学科	12	6	16	9	278
電気電子工学科	10	8	7	7	93
材料科学科	5	5	9	5	140
建築学科	0	0	1	0	6
土木工学科	4	2	7	4	122
精密工学科	4	10	10	6	200
機械工学科	35	30	20	20	308
動力機械工学科	8	0	13	5	150
航空宇宙学科航空宇宙学専攻	0	0	9	8	142
航空宇宙学科航空操縦学専攻	0	0	17	3	333
医用生体工学科	7	0	12	6	164
計	95	80	144	83	152

(※1 集計期間は2010年4月から12月末まで、 ※2 集計期間は2013年4月から2014年3月末まで)

2013 年度 工学部 自己点検・評価報告書

基本目標	3) 研究の目標
達成目標	⑥研究活動を活性化するために、外部機関や学部間の人材（研究者）交流を推進し、交流件数を増やす。

目 標 : MS シートの行動計画内容

研究者の交流を目指した学会、研究集会への参加発表数を増やす。

現状説明 : 行動計画内容に沿った具体的な取り組み

外部機関等の交流を推進するには、日頃の研究成果が産業界を含む学外機関に向けて有意に発信できることが欠かせない。したがって東海大学中期目標を達成するため、工学部では研究者の交流を目指した学会、研究集会への参加発表数を増やすことを行動計画内容とした。目標達成のため実際に行動する組織は各学科専攻であり、それを検証する組織は工学部評価委員会である。

2009 年度は目標とした指標が「年間の参加発表件数を調査」、2010 年度は「2009 年度比 1 % 増」であり、各学科専攻の組織的な活動としてこれらの目標を達成した。2011 年度は目標とした指標が「2009 年度比 2 % 増」であるが、4 月～12 月末の集計によると 2009 年度比で著書・学術論文数は 72.4%、学会学術集会・作品演奏の発表数は 79.7%であり、暫定値とはいえ目標指標の「2009 年度比 2 % 増」を達成できなかった。しかし、共同研究・受託研究等の数は 110.9%と目標指標を十分に達成できた。2012 年度は目標とした指標が「2009 年度比 3%増」であるが、4 月～12 月末の集計によると 2009 年度比で著書・学術論文数は 64.8%、学会学術集会・作品演奏の発表数は 83.6%であり、暫定値とはいえ目標指標の「2009 年度比 3 % 増」を達成できなかったが、「日頃の研究成果が産業界を含む学外機関に向けて有意に発信」した結果が、「学外機関からの受託・共同研究」としてフィードバックされ、共同研究・受託研究等の数は 156.5%となり、目標指標を有意に達成できた。

2013 年度は目標指標を「2009 年度比 3 % 以上を定着」としたが、表 3-3 に示すように 2009 年度比で著書・学術論文数は 85.2%となり、目標指標を達成できなかった。なお、学会学術集会・作品演奏の発表数は 108%、共同研究・受託研究等の数は 144%となり目標指標を達成した（総合的な平均値は 112%となった）。

本結果より、著書・学術論文数は 2010 年度以降 2012 年度まで暫時件数は減少したが、2013 年度は上向きに転じている。これは、「基準値となる 2009 年度の成果が特異的」、あるいは「大学院生（修士）の学生数が 2009 年度を境に 100 名ほど減少し、研究のマンパワーや進捗に影響を受けた」等、様々な要因が考えられるが、いずれにせよ今後は「日頃の研究成果を著書・学術論文として公表する」ことを旨として、研究活動に邁進する必要があることを本結果は示している。

点検・評価 : 行動計画内容の実現度、分析

<行動計画内容の実現度> A

行動計画内容の指標・達成年次に掲げた事項は 2009 年度と 2010 年度の両年において達成された状況にある。しかし、前述したとおり 2011 年度と 2012 年度の結果は 9 か月分集計による暫定値であり、さらに暫定値であっても両年度の傾向はほぼ同様であった。さら

に、2013 年度は全体の平均値は目標指標を達成できたものの、「著書・学術論文数」のみ目標指標を達成できなかったため、実現度は「A」と自己評価した。具体的には、表 3－3 に示した工学部専任教員による研究および共同研究活動の現況から、著書・学術論文数の目標値を達成できなかったため、まず「C」と評価したが、学会学術集会・作品演奏の発表数や共同研究・受託研究等の数は目標値を大幅に上回ったため、それぞれ「S」と評価し、これらを総体的に再評価した結果、「A」とした。

＜成果として認められる事項＞

専任教員による研究活動・社会貢献活動が活発に行われている成果として、学会学術集会・作品演奏の発表数や共同研究・受託研究等の数は堅調に維持されている。

＜改善すべき事項＞

研究活動は、学部のみで推進できるものではない。組織的活動としても研究活動を中心とした東海大学大学院との連携、とりわけ大学院進学者の確保が望まれる。なお、前述したように、著書・学術論文数の「基準値（2009 年度）」や「大学院生（修士）の学生数の減少」などの要因については、東海大学大学院と共に今後、検証が必要となる。

今後の改善・改革に向けた方策 ： 目標を達成するための具体策

＜長所の維持・伸長方法＞

前述したように、学会学術集会・作品演奏の発表数や共同研究・受託研究等の数は堅調に維持しつつ、今後は「日頃の研究成果を著書・学術論文として公表する」ことを旨として、研究活動に邁進する必要がある。

＜改善方策＞

工学部と大学院修士課程および博士課程が連携して組織的な研究活動を推進する。

表 3－3 工学部専任教員による研究活動の現況

学科・専攻	2009年度			2013年度 ※1		
	著作・著書・学術論文数	学会学術集会・作品演奏の発表数	共同研究・受託研究等の数	著作・著書・学術論文数	学会学術集会・作品演奏の発表数	共同研究・受託研究等の数
生命化学科	34	47	19	30	38	20
応用化学科	26	74	9	17	84	13
光・画像工学科	9	37	17	28	82	21
原子力工学科	56	107	20	18	58	20
電気電子工学科	49	113	11	46	136	16
材料科学科	25	67	11	24	90	19
建築学科	62	103	17	36	108	10
土木工学科	26	38	5	31	26	13
精密工学科	15	44	14	12	20	13
機械工学科	59	116	12	56	161	19
動力機械工学科	28	79	3	26	64	28
航空宇宙学専攻	15	61	8	18	60	12
航空操縦学専攻	2	5	1	2	6	2
医用生体工学科 ※2	—	—	—	2	26	5
合計	406	891	147	263	959	211
	2009年度比			85.2%	108%	144%

(※1 集計期間は2013年4月から2014年3月末まで。 ※2 工学部医用生体工学科は2010年度開設)

⑬ 工学部

業績所属名	期間	著書 単独 (共同)	原著論文 単独 (共同)	総説 単独 (共同)	翻訳 単独 (共同)	学術書編 集・監修 単独 (共同)	作品及び演 奏発表等 単独 (共同)	フィール ドワーク 単独 (共同)	学会・学術集会 (記録あり) 単独 (共同)	学会・学術集会 (記録なし) 単独 (共同)	その 他 の 文筆活動 単独 (共同)	その他 単独 (共同)	小計 単独 (共同)	合計
	'12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
生命化学科	(0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0)	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	4	1
応用化学科	(0) (13) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (31) (0) (0) (1) (45)	1	0	3	0	0	0	0	7	1	0	0	12	49
光・画像工学科	(1) (11) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (64) (0) (0) (0) (76)	0	0	5	0	0	0	0	23	0	0	0	28	88
原子力工学科	(6) (12) (1) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (53) (0) (1) (0) (73)	1	0	0	0	0	0	4	7	4	10	0	26	101
電気電子工学科	(1) (19) (0) (1) (0) (0) (3) (0) (0) (73) (0) (2) (0) (99)	1	3	2	0	0	2	0	21	1	9	0	39	125
材料科学科	(3) (42) (1) (0) (0) (1) (9) (0) (0) (108) (0) (0) (0) (164)	2	3	1	0	0	0	0	18	0	1	0	25	203
建築学科	(3) (29) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (83) (0) (0) (0) (115)	3	5	10	0	0	5	1	17	6	6	1	54	140
土木工学科	(3) (19) (0) (0) (0) (0) (7) (1) (0) (80) (4) (3) (0) (117)	0	0	0	0	0	0	0	8	2	0	0	10	171
精密工学科	(0) (42) (0) (0) (0) (0) (0) (5) (0) (30) (1) (0) (0) (78)	0	0	3	0	0	0	0	6	0	0	0	9	88
機械工学科	(0) (29) (1) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (32) (0) (0) (0) (62)	0	4	5	0	0	0	0	23	2	1	0	35	71
動力機械工学科	(2) (52) (4) (0) (0) (0) (1) (0) (0) (124) (0) (0) (0) (183)	0	3	1	0	0	0	0	9	1	2	0	16	218
航空宇宙学科航空 宇宙学専攻	(1) (39) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (61) (0) (0) (0) (101)	0	1	0	0	0	0	0	10	4	0	0	15	117
航空宇宙学科航空 操縦学専攻	(0) (19) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (75) (3) (0) (0) (97)	0	1	0	0	0	0	0	3	2	0	0	6	112
医用生体工学科	(0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0)	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	4	6
	(1) (5) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (12) (0) (0) (0) (18)													22

⑭ 情報デザイン工学部

業績所属名	期間	著書 単独 (共同)	原著論文 単独 (共同)	総説 単独 (共同)	翻訳 単独 (共同)	学術書編 集・監修 単独 (共同)	作品及び演 奏発表等 単独 (共同)	フィール ドワーク 単独 (共同)	学会・学術集会 (記録あり) 単独 (共同)	学会・学術集会 (記録なし) 単独 (共同)	その 他 の 文筆活動 単独 (共同)	その他 単独 (共同)	小計 単独 (共同)	合計
情報システム学科	'12	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3	
	(1) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (6) (0) (0) (0) (7)													10
建築デザイン学科	'12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0)													0

⑮ 芸術工学部

業績所属名	期間	著書 単独 (共同)	原著論文 単独 (共同)	総説 単独 (共同)	翻訳 単独 (共同)	学術書編 集・監修 単独 (共同)	作品及び演 奏発表等 単独 (共同)	フィール ドワーク 単独 (共同)	学会・学術集会 (記録あり) 単独 (共同)	学会・学術集会 (記録なし) 単独 (共同)	その 他 の 文筆活動 単独 (共同)	その他 単独 (共同)	小計 単独 (共同)	合計
くらしデザイン学 科	'12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0)													0
建築・環境デザイ ン学科	'12	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	
	(0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0)													3

提言に対する改善報告書

大学名称：東海大学

(評価申請年度：2010 年度)

1. 助言について (体育学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 研究環境
	指摘事項	2) 提出された資料によると、工学部、 体育学部 、国際文化学部において、研究活動が不活発な教員が一部に見られる。また、科学研究費補助金の申請件数についても、体育学部および芸術工学部において活発でないので、研究活動のさらなる促進を図るよう、組織的な取り組みが望まれる。
	評価当時の状況	<p>項目番号 145)</p> <p><u>論文など研究成果の発表状況</u></p> <p>本学「総合的業績システム」の稼動(2000 年)以降における著書・原著論文・学会発表などについては、年間約 50 件から徐々に増加し、直近の3 年間では年間約 100 件を前後している。学部紀要においては、2006 年度は計 35 件、2007 年度は計 24 件、2008 年度は計 35 件の掲載があった。</p> <p>科学研究費補助金申請においては、2008 年度は 10 件の申請で採択件数は 1 件であった。科学研究費補助金額は 10,400,000 円である。その他の学外研究費獲得金額は、16,477,500 円、総額 26,877,500 円であった。</p>
	評価後の改善状況	<p>本学部の研究活動の推進は、研究委員会(各学科より 1 名選出され、研究活動の活性化や体育学部紀要の編集を主な業務とする学部長直轄の学部内組織)を中心に、大学院体育学研究科と連携しながら、推進した。</p> <p>研究活動を活発にするために、2011 年度から学部等研究教育補助金の研究計画申請種別に「プロジェクト研究」を加えた。これは、学部内の研究者(教員)がグループをつくり、体育・スポー</p>

		<p>ツ科学特有の研究を推進することを意図したものであり、その成果を必ず公表することとした。このことにより、学部内での研究の峰と研究者（教員）間の横のつながりが形成され、研究に関わる教員が増加し、例えば、『東海大学紀要（体育学部）』へ掲載された論文、研究資料、報告等は、2011 年度は 16 件であったが、2013 年度には 19 件となった。</p> <p>さらに、科研費申請・採択のための講習会を毎年 2～3 回（7 月・9 月・10 月）実施してきた。その結果、年々申請件数は増加し、大学目標値を上回り、採択件数も確実に増加している。すなわち、2011 年度は、科学研究費申請数 24 件（教員数 57 名の 42.1%）、採択数 5 件（総額 5,000,000 円）であったが、2014 年度（5 月 1 日時点）には申請件数 35 件（教員数 59 名の 59.3%）、採択件数 12 件、総採択金額 10,100,000 円となり、2011 年度のほぼ 2 倍に達している。</p> <p>加えて、これらの研究成果は学会や論文発表にとどまらず、東海大学体育・スポーツ科学セミナーや各種講習会などを通じて、地域社会に還元されている。</p>
	<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部等研究教育補助金についての取り決め ・ 科研費新規・継続 内定件数／配分予定額一覧 (H23-H26) 	
	＜大学基準協会使用欄＞	
	検討所見	
	改善状況に対する評価	<div>1</div> <div>2</div> <div>3</div> <div>4</div> <div>5</div>

2011/06/07

学部等研究教育補助金についての取り決め

体育学部長

制定 2004. 10. 05.

改訂 2005. 05. 09.

2008. 06. 10.

2009. 06. 30.

2011. 06. 07.

1. 当補助金は、体育学部の研究教育活動を支援するために、各教員の申請に基づく下記の4種類の活動に対して資金援助を行う。但し、より多くの教員の研究教育活動を支援することを目的とすることから、科研費（文部科学省及び日本学術振興会科学研究費補助金）の交付との重複を勘案する。
2. 資金援助の対象となる活動は、プロジェクト研究、活動A、活動B、活動Cとする。
なお、プロジェクト研究は3年度を限度とし、活動A、活動B、活動Cは、単年度で完結するものとする。
3. プロジェクト研究：次の各項を満たすこと。
 - 1) 体育学領域を中心とした学際的研究であること。
 - 2) 体育学部教員（専任・特任）を筆頭者とし、体育学部教員で構成される研究グループで行う研究であること。
 - 3) 研究成果は、学外の研究誌へ投稿、又は学会発表すること。紀要（東海大学紀要体育学部）への投稿も可であるが、学外での公表を優先すること。また、毎年度、研究成果と進捗状況を学部内（学部セミナー等）で報告し、紀要（東海大学紀要体育学部）に投稿すること。
 - 4) 前項3)に関し、学外の研究誌に投稿、あるいは学会で発表した場合は、当該補助金による研究であることを記載して紀要に概要を報告すること（1頁、1800字以内）。なお、論文を紀要に投稿した場合は、文末にその旨を記載すること。
4. 活動A：次の各項を満たすこと。
 - 1) 体育学領域の学問的研究であること。
 - 2) 筆頭者の要件。
 - ①体育学部教員（専任・特任）であること。
 - ②科研費（文部科学省及び日本学術振興会科学研究費補助金）の申請があり（要・写し）、原則として交付を得られなかった者であること。^{※-1)}
 - 3) 研究成果を学外の研究誌へ投稿、又は学会発表すること。紀要（東海大学紀要・体育学部）

への投稿も可であるが、学外での公表を優先すること。

- 4) 前項 3) に関し、学外の研究誌に投稿、あるいは学会で発表した場合は、当該補助金による研究であることを記載して紀要に概要を報告すること（1 頁、1800 字以内）。なお、論文を紀要に投稿した場合は、文末にその旨を記載すること。

5. 活動 B：次の各項を満たすこと。

- 1) 体育学に関連する研究の一環として行う、学科・学部又は研究科の教育に関わる事項であること。注-2)
- 2) 筆頭者は体育学部教員（専任・特任）であること。
- 3) 活動内容と成果の概要を紀要に投稿すること（1 頁、1800 字以内）。その際、当補助金による活動であることを文末に記載すること。

6. 活動 C：次の各項を満たすこと。

- 1) 学科、学部又は研究科に関わる FD 活動の活性化や学生募集・入試広報に資する事項であること。注-3)
- 2) (筆頭者は前項 5-2) と同)
- 3) (活動報告は前項 5-3) と同)

7. 研究委員会は、学部長から審査の委託を受けた場合、個別計画書の内容を検討し、学部長にその結果（優先順位、補助金額など）を報告する。

注-1) 科研費の交付を受けている筆頭者（今年度採択、又は継続中を含む）は、活動 A の筆頭者として申請できません。共同研究者としては差し支えありません。

注-2) 実際の教育現場で生起する事象を対象とする研究が該当します。

注-3) 教員活動の多くは当該範疇に入ります。対象となる事案は広範囲に亘るために具体例を示しにくいですが、但し、成果は明確に記述することが求められていますから、計画立案は慎重を期してください。

以上

平成23年度科研費新規・継続 内定件数/配分予定額一覧

(単位:千円)

所属	平成23年度申請状況			平成23年度交付内定					
	2010年11月10日現在			2011年4月28日現在					
	所属人数(新資格者数)	(継続含む)	申請件数(新規)	新規内定数	新規内定額	継続内定数	継続内定額	採択件数	内定総額
実務法学研究科	15 [0]	4	3	1	1,300	1	600	2	1,900
組込み技術研究科	9 [0]	3	3	0	0	0	0	0	0
文学部	92 [0]	23	15	3	6,600	8	15,710	11	22,310
観光学部	15 [0]	4	4	0	0	0	0	0	0
政治経済学部	37 [0]	14	11	5	5,600	3	2,100	8	7,700
総合経営学部	16 [0]	7	6	0	0	1	1,200	1	1,200
法学部	22 [0]	5	5	4	4,700	0	0	4	4,700
教養学部	54 [0]	22	18	0	0	4	2,900	4	2,900
国際文化学部	27 [0]	8	7	1	1,300	1	500	2	1,800
理学部	70 [0]	48	36	7	11,500	12	24,650	19	36,150
情報理工学部	21 [0]	10	3	2	3,100	7	7,400	9	10,500
情報通信学部	35 [0]	12	8	2	3,900	4	3,500	6	7,400
工学部	154 [0]	81	56	10	29,400	25	20,340	35	49,740
情報デザイン工学部	3 [0]	1	1	0	0	0	0	0	0
芸術工学部	24 [0]	8	6	0	0	2	2,300	2	2,300
産業工学部	34 [0]	22	19	3	6,600	3	2,200	6	8,800
開発工学部	28 [0]	10	7	1	1,600	3	3,000	4	4,600
海洋学部	80 [0]	56	45	4	4,800	11	8,900	15	13,700
生物理工学部	30 [0]	22	18	2	3,300	4	1,900	6	5,200
農学部	28 [0]	23	19	3	5,000	4	2,500	7	7,500
体育学部	57 [0]	24	21	2	2,600	3	2,400	5	5,000
医学部	581 [11]	247	176	42	90,900	71	180,600	113	271,500
健康科学部	57 [0]	34	23	7	11,100	11	13,900	18	25,000
チャレンジセンター	7 [0]	2	1	0	0	1	288	1	288
総合教育センター	26 [0]	9	6	1	1,600	3	1,500	4	3,100
外国語教育センター	66 [0]	14	9	1	1,700	5	6,500	6	8,200
国際教育センター	16 [0]	2	2	0	0	0	0	0	0
情報教育センター	13 [1]	8	5	1	1,300	3	2,100	4	3,400
課程資格教育センター	13 [0]	3	2	1	900	1	500	2	1,400
高輪教養教育センター	10 [0]	3	3	1	500	0	0	1	500
沼津教養教育センター	6 [0]	1	0	0	0	1	800	1	800
清水教養教育センター	28 [0]	13	12	1	1,100	1	1,000	2	2,100
熊本教養教育センター	13 [0]	3	3	1	2,700	0	0	1	2,700
阿蘇教養教育センター	10 [0]	4	4	1	1,600	0	0	1	1,600
札幌教養教育センター	7 [0]	4	3	1	300	1	700	2	1,000
創造科学技術研究機構	1 [0]	1	1	1	2,200	0	0	1	2,200
海洋研究所	5 [1]	5	5	0	0	0	0	0	0
総合医学研究所	1 [0]	1	0	0	0	1	1,300	1	1,300
糖鎖科学研究所	7 [3]	8	8	2	3,100	0	0	2	3,100
教育研究所	13 [0]	2	0	0	0	2	1,600	2	1,600
スポーツ医科学研究所	3 [0]	2	2	1	700	0	0	1	700
総合農学研究所	1 [0]	1	1	0	0	0	0	0	0
沖縄地域研究センター	1 [0]	1	1	1	2,200	0	0	1	2,200
総合科学技術研究所	4 [0]	3	3	0	0	0	0	0	0
情報技術センター	1 [1]	1	1	0	0	0	0	0	0
実験動物センター	1 [1]	1	1	0	0	0	0	0	0
医学部付属病院	1 [1]	1	1	0	0	0	0	0	0
合計	1,743 [19]	781	584	113	213,200	197	312,888	310	526,088

参考:前年度比、新規・内定比各表

	新規内定数	新規内定額	継続内定数	継続内定額	採択件数	内定総額
平成22年度科学研究費補助金 新規・継続 内定金額/配分予定額	88	172,500	166	218,770	254	391,270
対平成22年度科学研究費補助金 新規・継続 内定金額/配分予定額 増減	25	40,700	31	94,118	56	134,818

平成23年度申請状況は、2011年度の所属に置き換えています。退職者は2010年度の所属でカウント。[]は内数。

医学部の所属人数は出向者を含まず。転入は含まず。

特別研究員奨励費及び奨励研究は含まず。

平成24年度科学研究費助成事業新規・継続 内定件数/配分予定額一覧

(単位:千円)

所属	平成24年度申請状況				平成24年度交付内定					
	2012年1月1日現在				2012年4月1日現在					
	所属人数(新資格者数)	(継続含む)	申請件数(新規)	新規内定数	新規内定額	継続内定数	継続内定額	採択件数	内定総額	
実務法学研究科	16 [0]	3	2	2	1,400	1	1,300	3	2,700	
組込み技術研究科	5 [0]	0	0	0	0	0	0	0	0	
文学部	96 [0]	25	18	9	10,300	7	13,400	16	23,700	
観光学部	15 [0]	3	3	2	3,300	0	0	2	3,300	
政治経済学部	36 [0]	16	9	2	1,700	7	6,300	9	8,000	
総合経営学部	17 [0]	4	3	0	0	1	900	1	900	
法学部	22 [0]	5	1	1	900	4	3,500	5	4,400	
教養学部	52 [0]	24	21	2	2,900	3	1,400	5	4,300	
国際文化学部	26 [0]	6	4	1	1,000	2	2,300	3	3,300	
理学部	68 [1]	53	40	5	8,000	13	11,900	18	19,900	
情報理工学部	19 [0]	10	7	3	8,400	3	2,700	6	11,100	
情報通信学部	37 [0]	13	9	2	2,300	4	3,700	6	6,000	
工学部	152 [0]	95	72	17	34,800	23	22,700	40	57,500	
情報デザイン工学部	3 [0]	1	1	0	0	0	0	0	0	
芸術工学部	10 [0]	0	0	0	0	0	0	0	0	
産業工学部	36 [0]	19	13	1	800	6	4,600	7	5,400	
開発工学部	28 [0]	7	6	0	0	1	1,400	1	1,400	
海洋学部	80 [0]	63	54	14	18,400	9	9,400	23	27,800	
生物理工学部	6 [0]	0	0	0	0	0	0	0	0	
生物学部	16 [0]	13	12	0	0	1	1,600	1	1,600	
農学部	27 [0]	24	21	4	7,500	3	2,100	7	9,600	
体育学部	61 [1]	28	24	6	15,700	4	2,800	10	18,500	
医学部	602 [9]	257	188	38	94,500	69	149,600	107	244,100	
健康科学部	57 [0]	36	24	8	14,600	12	12,600	20	27,200	
チャレンジセンター	7 [0]	5	4	1	300	1	600	2	900	
総合教育センター	22 [0]	8	5	1	1,100	3	2,300	4	3,400	
外国語教育センター	64 [0]	14	10	1	900	4	6,100	5	7,000	
国際教育センター	14 [0]	1	1	0	0	0	0	0	0	
情報教育センター	12 [0]	8	6	2	2,200	2	1,700	4	3,900	
課程資格教育センター	15 [0]	4	1	0	0	3	2,600	3	2,600	
高輪教養教育センター	10 [0]	4	3	0	0	1	700	1	700	
沼津教養教育センター	5 [0]	1	1	1	900	0	0	1	900	
清水教養教育センター	28 [0]	16	15	1	1,000	1	800	2	1,800	
熊本教養教育センター	12 [0]	2	1	1	1,100	1	700	2	1,800	
阿蘇教養教育センター	11 [0]	5	3	1	500	2	2,300	3	2,800	
札幌教養教育センター	26 [0]	15	10	0	0	5	3,300	5	3,300	
創造科学技術研究機構	4 [0]	8	4	0	0	4	9,000	4	9,000	
海洋研究所	5 [1]	6	6	1	1,400	0	0	1	1,400	
総合医学研究所	1 [0]	2	1	0	0	1	700	1	700	
糖鎖科学研究所	7 [2]	8	6	2	3,000	2	2,500	4	5,500	
教育研究所	14 [0]	7	5	2	2,000	2	1,800	4	3,800	
スポーツ医学研究所	3 [0]	2	1	0	0	1	600	1	600	
総合農学研究所	1 [0]	1	1	0	0	0	0	0	0	
北方生活研究所	1 [0]	0	0	0	0	0	0	0	0	
沖縄地域研究センター	1 [0]	1	0	0	0	1	900	1	900	
総合科学技術研究所	4 [0]	3	3	1	1,800	0	0	1	1,800	
情報技術センター	1 [1]	1	1	1	3,200	0	0	1	3,200	
実験動物センター	3 [3]	3	3	0	0	0	0	0	0	
医学部付属病院	9 [9]	9	9	0	0	0	0	0	0	
合計	1,767 [27]	839	632	133	245,900	207	290,800	340	536,700	

参考: 前年度比、新規・内定比各表

	新規内定数	新規内定額	継続内定数	継続内定額	採択件数	内定総額
平成23年度科学研究費補助金 新規・継続 内定金額/配分予定額	113	213,200	197	312,888	310	526,088
対平成23年度科学研究費補助金 新規・継続 内定金額/配分予定額 増減	20	32,700	10	-22,088	30	10,612

平成24年度申請状況は、2012年度の所属に置き換えています。退職者は2011年度の所属でカウント。[]は内数。
医学部の所属人数は出向者を含まず。転入は含まず。
特別研究員奨励費及び奨励研究は含まず。

平成25年度科学研究費助成事業新規・継続 内定件数/配分予定額一覧

(単位:千円)

所属		平成25年度申請状況			平成25年度交付内定					
		2012年11月9日現在			2013年4月1日現在					
		所属人数(新資格者数)	申請件数 (継続含む)	申請件数 (新規)	新規内定数	新規内定額	継続内定数	継続内定額	採択件数	内定総額
湖南	文学部	93 [0]	32	21	6	7,500	11	12,000	17	19,500
	政治経済学部	38 [0]	17	10	2	1,500	7	5,900	9	7,400
	法学部	21 [0]	7	2	1	800	5	3,700	6	4,500
	教養学部	54 [0]	30	27	1	400	3	2,400	4	2,800
	理学部	66 [0]	53	38	3	2,000	15	13,300	18	15,300
	情報理工学部	20 [0]	14	8	2	2,600	6	6,100	8	8,700
	工学部	153 [0]	107	79	15	32,100	28	37,300	43	69,400
	体育学部	59 [0]	34	28	5	5,700	6	6,700	11	12,400
	チャレンジセンター	7 [0]	5	4	0	0	1	500	1	500
	総合教育センター	24 [0]	9	6	2	1,800	3	2,800	5	4,600
	外国語教育センター	64 [0]	29	26	2	1,300	3	4,800	5	6,100
	国際教育センター	14 [0]	4	4	1	700	0	0	1	700
	情報教育センター	13 [0]	8	4	0	0	4	4,700	4	4,700
	課程資格教育センター	15 [0]	4	3	2	1,700	1	800	3	2,500
	創造科学技術研究機構	1 [0]	2	1	1	1,600	1	1,100	2	2,700
	健康科学研究所	5 [0]	4	3	0	0	1	1,300	1	1,300
	教育研究所	6 [0]	3	2	0	0	1	800	1	800
	スポーツ医科学研究所	3 [0]	1	0	0	0	1	600	1	600
	総合科学技術研究所	4 [0]	3	2	0	0	1	1,500	1	1,500
	小計	660 [0]	366	268	43	59,700	98	106,300	141	166,000
代々木	実務法学研究科	16 [0]	3	0	0	0	3	3,100	3	3,100
	観光学部	16 [0]	7	5	1	1,800	2	2,100	3	3,900
	教育研究所	6 [0]	4	3	1	1,000	1	700	2	1,700
	沖縄地域研究センター	1 [0]	1	1	1	5,700	0	0	1	5,700
	情報技術センター	2 [1]	1	0	0	0	1	2,000	1	2,000
	小計	41 [1]	16	9	3	8,500	7	7,900	10	16,400
高輪	組込み技術研究科	3 [0]	0	0	0	0	0	0	0	0
	情報通信学部	35 [0]	18	13	1	1,200	5	5,500	6	6,700
	高輪教養教育センター	9 [0]	5	5	1	1,400	0	0	1	1,400
小計	47 [0]	23	18	2	2,600	5	5,500	7	8,100	
沼津	開発工学部	21 [0]	5	5	0	0	0	0	0	0
	沼津教養教育センター	3 [0]	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	24 [0]	5	5	0	0	0	0	0	0
清水	海洋学部	77 [0]	58	42	4	4,100	16	16,780	20	20,880
	清水教養教育センター	29 [0]	19	17	1	300	2	1,600	3	1,900
	海洋研究所	5 [1]	5	4	0	0	1	1,200	1	1,200
	小計	111 [1]	82	63	5	4,400	19	19,580	24	23,980
伊勢原	医学部	619 [16]	273	196	43	84,100	77	169,800	120	253,700
	健康科学部	57 [0]	39	27	8	12,000	12	10,300	20	22,300
	創造科学技術研究機構	4 [0]	8	6	3	4,300	2	8,600	5	12,900
	総合医学研究所	1 [0]	2	2	0	0	0	0	0	0
	実験動物センター	1 [1]	1	1	0	0	0	0	0	0
	医学部付属病院	12 [12]	12	12	2	1,900	0	0	2	1,900
	小計	694 [29]	335	244	56	102,300	91	188,500	147	290,800
熊本	経営学部	14 [0]	4	4	0	0	0	0	0	0
	総合経営学部	4 [0]	1	1	1	1,300	0	0	1	1,300
	基盤工学部	14 [0]	12	9	0	0	3	2,100	3	2,100
	産業工学部	14 [0]	2	2	1	1,600	0	0	1	1,600
	熊本教養教育センター	22 [0]	8	5	1	800	3	2,300	4	3,100
	小計	68 [0]	27	21	3	3,700	6	4,400	9	8,100
阿蘇	農学部	29 [1]	28	19	4	6,300	9	12,900	13	19,200
	阿蘇教養教育センター	10 [0]	5	3	0	0	2	1,600	2	1,600
	総合農学研究所	1 [0]	1	1	0	0	0	0	0	0
	小計	40 [1]	34	23	4	6,300	11	14,500	15	20,800
札幌	国際文化学部	36 [0]	13	10	0	0	3	2,400	3	2,400
	生物学部	16 [0]	12	11	1	500	1	800	2	1,300
	生物理工学部	3 [0]	0	0	0	0	0	0	0	0
	札幌教養教育センター	17 [0]	6	6	2	2,900	0	0	2	2,900
	北方生活研究所	1 [0]	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	73 [0]	31	27	3	3,400	4	3,200	7	6,600
旭川	芸術工学部	6 [0]	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	6 [0]	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1,764 [32]	919	678	119	190,900	241	349,880	360	540,780

参考:前年度比、新規・内定比各表

	新規内定数	新規内定額	継続内定数	継続内定額	採択件数	内定総額
平成24年度科学研究費補助金 新規・継続 内定金額/配分予定額	135	249,300	207	290,800	342	540,100
対平成24年度科学研究費補助金 新規・継続 内定金額/配分予定額 増減	-16	-58,400	34	59,080	18	680

平成25年度申請状況は、2013年度の所属に置き換えている。退職者は2012年度の所属でカウント。[]は内数。

医学部の所属人数は出向者を含まず。転入は含まず。

特別研究員奨励費及び奨励研究は含まず。

平成26年度科学研究費助成事業新規・継続 内定件数/配分予定額一覧

(単位:千円)

所属		平成26年度申請状況			平成26年度交付内定					
		2013年11月8日現在			2014年4月1日現在					
		所属人数(新資格者数)	(継続含む)	申請件数(新規)	新規内定数	新規内定額	継続内定数	継続内定額	採択件数	内定総額
湖南	文学部	95〔 0 〕	36	23	4	4,300	13	14,800	17	19,100
	政治経済学部	38〔 0 〕	17	12	3	2,900	5	3,800	8	6,700
	法学部	20〔 0 〕	6	4	2	2,300	2	1,200	4	3,500
	教養学部	50〔 0 〕	29	25	3	3,500	4	3,300	7	6,800
	理学部	66〔 0 〕	58	47	9	17,700	11	9,400	20	27,100
	情報理工学部	20〔 0 〕	13	7	2	5,200	6	6,000	8	11,200
	工学部	157〔 1 〕	110	74	12	21,200	36	37,000	48	58,200
	体育学部	59〔 0 〕	35	27	4	5,300	8	4,800	12	10,100
	チャレンジセンター	6〔 0 〕	4	3	0	0	1	500	1	500
	総合教育センター	20〔 0 〕	9	6	1	700	3	2,600	4	3,300
	外国語教育センター	61〔 0 〕	37	32	4	3,500	5	5,800	9	9,300
	国際教育センター	13〔 0 〕	4	3	1	1,100	1	500	2	1,600
	情報教育センター	12〔 0 〕	8	5	1	1,400	3	2,200	4	3,600
	課程資格教育センター	14〔 0 〕	3	1	0	0	2	1,000	2	1,000
	創造科学技術研究機構	2〔 0 〕	3	1	1	2,300	2	2,300	3	4,600
	鶴岡科学研究所	6〔 1 〕	5	5	0	0	0	0	0	0
	教育研究所	5〔 0 〕	3	2	0	0	1	1,400	1	1,400
	スポーツ医科学研究所	3〔 0 〕	2	2	1	400	0	0	1	400
	沖縄地域研究センター	1〔 0 〕	1	0	0	0	1	3,400	1	3,400
	総合科学技術研究所	4〔 0 〕	3	2	0	0	1	700	1	700
	小計	652〔 2 〕	386	281	48	71,800	105	100,700	153	172,500
代々木	実務法学研究科	16〔 0 〕	3	1	0	0	2	1,700	2	1,700
	観光学部	16〔 0 〕	8	5	1	600	3	4,800	4	5,400
	教育研究所	1〔 0 〕	0	0	0	0	0	0	0	0
	情報技術センター	2〔 1 〕	1	0	0	0	1	2,700	1	2,700
小計	35〔 1 〕	12	6	1	600	6	9,200	7	9,800	
高輪	情報通信学部	34〔 0 〕	23	21	2	3,000	2	1,800	4	4,800
	高輪教養教育センター	11〔 0 〕	8	6	0	0	2	1,500	2	1,500
小計	45〔 0 〕	31	27	2	3,000	4	3,300	6	6,300	
沼津	開発工学部	9〔 0 〕	0	0	0	0	0	0	0	0
	沼津教養教育センター	4〔 0 〕	4	4	1	1,700	0	0	1	1,700
	小計	13〔 0 〕	4	4	1	1,700	0	0	1	1,700
清水	海洋学部	73〔 0 〕	50	34	6	6,700	16	13,000	22	21,700
	清水教養教育センター	29〔 0 〕	16	14	1	1,500	2	1,300	3	2,800
	海洋研究所	4〔 0 〕	4	3	1	1,000	1	1,200	2	2,200
	小計	106〔 0 〕	70	51	8	11,200	19	15,500	27	26,700
伊勢原	医学部	638〔 15 〕	244	164	37	64,100	80	167,800	117	231,900
	健康科学部	56〔 0 〕	40	24	5	8,100	16	17,700	21	25,800
	創造科学技術研究機構	5〔 2 〕	8	6	2	5,000	2	3,000	4	8,000
	総合医学研究所	1〔 0 〕	1	1	0	0	0	0	0	0
	実験動物センター	2〔 2 〕	2	2	0	0	0	0	0	0
	医学部付属病院	12〔 12 〕	11	10	2	2,500	1	600	3	3,100
小計	714〔 31 〕	306	207	46	79,700	99	189,100	145	268,800	
熊本	経営学部	22〔 0 〕	11	11	2	3,100	0	0	2	3,100
	総合経営学部	2〔 0 〕	1	0	0	0	1	1,300	1	1,300
	基盤工学部	17〔 0 〕	16	15	1	2,500	1	800	2	3,300
	産業工学部	7〔 0 〕	1	0	0	0	1	1,300	1	1,300
	熊本教養教育センター	20〔 0 〕	6	4	0	0	2	3,400	2	3,400
	小計	68〔 0 〕	35	30	3	5,600	5	6,800	8	12,400
阿蘇	農学部	29〔 1 〕	26	16	2	3,200	10	11,800	12	15,000
	阿蘇教養教育センター	10〔 0 〕	4	4	0	0	0	0	0	0
	総合農学研究所	1〔 0 〕	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	40〔 1 〕	30	20	2	3,200	10	11,800	12	15,000
札幌	国際文化学部	37〔 0 〕	12	11	1	1,200	1	700	2	1,900
	生物学部	17〔 0 〕	11	9	1	1,500	2	2,100	3	3,600
	生物理工学部	2〔 0 〕	0	0	0	0	0	0	0	0
	札幌教養教育センター	16〔 0 〕	5	3	3	2,100	2	1,400	5	3,500
	小計	72〔 0 〕	28	23	5	4,800	5	4,200	10	9,000
旭川	芸術工学部	2〔 0 〕	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	2〔 0 〕	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1,747〔 35 〕	902	649	116	181,600	253	340,600	369	522,200

参考:前年度比、新規・内定比各表

	新規内定数	新規内定額	継続内定数	継続内定額	採択件数	内定総額
平成25年度科学研究費補助金 新規・継続 内定金額/配分予定額	119	190,900	241	349,880	360	540,780
対平成25年度科学研究費補助金 新規・継続 内定金額/配分予定額 増減	-3	-9,300	12	-9,280	9	-18,580

平成26年度申請状況は、2014年度の所属に置き換えている。退職者は2013年度の所属でカウント。[]は内数。
医学部の所属人数は出向者を含まず。転入は含まず。
特別研究員奨励費及び奨励研究は含まず。

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学

(評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (国際文化学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 研究環境
	指摘事項	2) 提出された資料によると、工学部、体育学部、 国際文化学部 において、研究活動が不活発な教員が一部に見られる。また、科学研究費補助金の申請件数についても、体育学部および芸術工学部において活発でないので、研究活動のさらなる促進を図るよう、組織的な取り組みが望まれる。
	評価当時の状況	<p>項目番号 145)</p> <p><u>論文等研究成果の発表状況</u></p> <p>2008 年度の学部全体での論文発表本数は 20 本、その他の発表件数は 25 件となっており、23 名の教員数に比して十分とはいえないのが現状である。年間 1 本の論文は最低限度として要求したいところであるが、現状では厳しい状況である。</p> <p>項目番号 148)</p> <p><u>研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況</u></p> <p>2008 年度に学外および学内の研究助成を得て行われた研究プログラムは、特定の教員に集中しており、学部全体としての取り組みは不十分である。特に科学研究費補助金への応募がほとんどないため、学部長が応募を指導しているが、応募書類作成時間さえ十分確保できないという内部からの批判もある。</p>
	評価後の改善状況	<p>本学部は 2012 年に改組し、これまでの地域創造学科、国際コミュニケーション学科に、新たにデザイン文化学科が加わった。このため論文だけで前回の状況と比べるのも妥当ではないが、2013 年度の学部全体での論文数は 13 本であるも</p>

2013年度 組織単位別研究実績件数

2014年06月25日作成

1ページ

No	組織单位名称	区 分	著書	原著論文 (査読有り)	原著論文 (査読無し)	論文総説	翻訳	学術書編集 学術書監修	作品・演奏 発表	フィールド ワーク	学会・学術集会 (記録に残るもの)	学会・学術集会 (記録に残らないもの)	その他の 文筆活動	その他	小計
1	東海大学国際文化学部	当該組織所属の研究業績件数													
		単独で発表された研究業績件数													
		共同で発表された研究業績件数													
2	東海大学国際文化学部 地域創造学科	当該組織所属の研究業績件数	2	4	1	1					9		15		32
		単独で発表された研究業績件数	1	2		1					6		15		25
		共同で発表された研究業績件数	1	2	1						3				7
3	東海大学国際文化学部 国際コミュニケーション学科	当該組織所属の研究業績件数	2	1		1			4	1	1		2		12
		単独で発表された研究業績件数	1	1					4	1	1		1		9
		共同で発表された研究業績件数	1			1							1		3
4	東海大学国際文化学部 デザイン文化学科	当該組織所属の研究業績件数		1					19	4	2		13		39
		単独で発表された研究業績件数							18	4	2		12		36
		共同で発表された研究業績件数		1					1				1		3

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学

(評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について (芸術工学部)

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 研究環境
	指摘事項	2) 提出された資料によると、工学部、体育学部、国際文化学部において、研究活動が不活発な教員が一部に見られる。また、科学研究費補助金の申請件数についても、体育学部および芸術工学部において活発でないので、研究活動のさらなる促進を図るよう、組織的な取り組みが望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 145) <u>論文などの研究成果の発表状況</u> 外部資金、特に科学研究費補助金についてその獲得に努めているが、応募状況は芳しくない(応募件数 2009 年度分 3 件/18 名:約 17%、特任教員は 2 件/6 名:約 33%)。しかし、北方生活研究所が中心となっていく、旭川市からの委託研究「デザイン力次世代継承事業」等の成果はある。
	評価後の改善状況	芸術工学部は 2012 年度に学生募集を停止し、本指摘当時の芸術工学部所属教員は、国際文化学部への異動・退職等により、現在は芸術工学部所属教員はいない状況である。(授業等は国際文化学部と芸術工学部の両方を担当) 2010 年度の科学研究費補助金の応募状況は(応募件数 5 件/24 名:約 20.8%)。2011 年度は(応募件数 3 件/24 名:約 12.5%)。となっていたので、2009 年度よりは改善が見られたとは言えないが、学部閉鎖に伴う諸作業が進められている時期でもあり異動・退職等により申請にも困難があった。
改善状況を示す具体的な根拠・データ等		

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	5 教員組織
	指摘事項	1) 専任教員の年齢構成について、文学部の 41～50 歳が 35.1%、51～60 歳が 33.0%、工学部の 51～60 歳が 35.0%、海洋学部の 51～60 歳が 44.9%、教養学部の 41～50 歳が 30.9%、51～60 歳が 36.3%、医学部の 31～40 歳が 46.4%、41～50 歳が 34.2%、法学部の 51～60 歳が 38.1%、健康科学部の 41～50 歳が 38.1%、情報理工学部の 61 歳以上が 43.4%、総合経営学部の 41～50 歳が 35.3%、国際文化学部の 51～60 歳が 35.7%、情報通信学部の 51～60 歳が 33.3%、61 歳以上が 30.6%、芸術工学部の 51～60 歳が 33.3%、61 歳以上が 33.3%、産業工学部の 51～60 歳が 48.6%、生物理工学部の 41～50 歳が 33.3%、51～60 歳が 40.0%、農学部の 51～60 歳が 48.1%、開発工学部の 51～60 歳が 38.3%と高いので、全体的なバランスを保つよう、今後の教員採用計画等において、改善の努力が望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 182) <u>教員組織の年齢構成の適切性</u> (年齢構成については、大学基礎データ表 21 参照) ア. 文学部 専任教員数は 94 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 10 名 (11%)、41～50 歳 33 名 (35%)、51～60 歳 31 名 (33%)、61 歳以上 20 名 (21%)である。41～50 歳が 35%、51～60 歳が 33%となり、年齢構成に偏りが見られる。

	<p>イ. 政治経済学部</p> <p>専任教員数は 39 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 11 名 (28%)、41～50 歳 11 名 (28%)、51～60 歳 11 名 (28%)、61 歳以上 6 名 (15%) であり、年齢構成は適切である。</p> <p>ウ. 総合経営学部</p> <p>専任教員数は 17 名で、30 歳以下 2 名 (12%)、31～40 歳 1 名 (6%)、41～50 歳 6 名 (35%)、51～60 歳 5 名 (29%)、61 歳以上 3 名 (18%) である。41～50 歳が 35% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>エ. 法学部</p> <p>専任教員数は 21 名で、30 歳以下 1 名 (5%)、31～40 歳 3 名 (14%)、41～50 歳 6 名 (29%)、51～60 歳 8 名 (38%)、61 歳以上 3 名 (14%) である。51～60 歳が 38% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>オ. 教養学部</p> <p>専任教員数は 55 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 6 名 (11%)、41～50 歳 17 名 (31%)、51～60 歳 20 名 (36%)、61 歳以上 12 名 (22%) である。41～50 歳が 31%、51～60 歳が 36% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>カ. 国際文化学部</p> <p>専任教員数は 28 名で、30 歳以下 2 名 (7%)、31～40 歳 3 名 (11%)、41～50 歳 8 名 (29%)、51～60 歳 10 名 (36%)、61 歳以上 5 名 (18%) である。51～60 歳が 36% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>キ. 理学部</p> <p>専任教員数は 67 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 14 名 (21%)、41～50 歳 20 名 (30%)、51～60 歳 19 名 (28%)、61 歳以上 14 名 (21%) であり、年齢構成は適切である。</p> <p>ク. 情報理工学部</p> <p>専任教員数は 23 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 3 名 (13%)、41～50 歳 6 名 (26%)、</p>
--	---

	<p>51～60 歳 4 名 (17%)、61 歳以上 10 名 (43%) である。61 歳以上が 43% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>ケ. 情報通信学部</p> <p>専任教員数は 36 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 3 名 (8%)、41～50 歳 10 名 (28%)、 51～60 歳 12 名 (33%)、61 歳以上 11 名 (31%) である。51～60 歳が 33%、61 歳以上が 31% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>コ. 工学部</p> <p>専任教員数は 143 名で、30 歳以下 2 名 (1%)、 31～40 歳 16 名 (11%)、41～50 歳 42 名 (29%)、 51～60 歳 50 名 (35%)、61 歳以上 33 名 (23%) である。51～60 歳が 35% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>サ. 情報デザイン工学部</p> <p>2009 年度より学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止する学部であり、設置基準上の教員数は 0 名で良いが、専任教員は 5 名所属し、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 1 名 (20%)、41～50 歳 2 名 (40%)、51～60 歳 2 名 (40%)、61 歳以上 0 名 (0%) である。</p> <p>シ. 芸術工学部</p> <p>専任教員数は 24 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 3 名 (13%)、41～50 歳 5 名 (21%)、 51～60 歳 8 名 (33%)、61 歳以上 8 名 (33%) である。51～60 歳が 33%、61 歳以上が 33% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>ス. 産業工学部</p> <p>専任教員数は 37 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 3 名 (8%)、41～50 歳 7 名 (19%)、 51～60 歳 18 名 (49%)、61 歳以上 9 名 (24%) である。51～60 歳が 49% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>セ. 開発工学部</p> <p>専任教員数は 47 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 5 名 (11%)、41～50 歳 13 名 (28%)、</p>
--	---

	<p>51～60 歳 18 名 (38%)、61 歳以上 11 名 (23%) である。51～60 歳が 38%となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>ソ. 海洋学部</p> <p>専任教員数は 78 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 7 名 (9%)、41～50 歳 18 名 (23%)、 51～60 歳 35 名 (45%)、61 歳以上 18 名 (23%) である。51～60 歳が 45%となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>タ. 生物理工学部</p> <p>専任教員数は 30 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 1 名 (3%)、41～50 歳 10 名 (33%)、 51～60 歳 12 名 (40%)、61 歳以上 7 名 (23%) である。41～50 歳が 33%、51～60 歳が 40%と なり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>チ. 農学部</p> <p>専任教員数は 27 名で、30 歳以下 1 名 (4%)、 31～40 歳 4 名 (15%)、41～50 歳 8 名 (30%)、 51～60 歳 13 名 (48%)、61 歳以上 1 名 (4%) である。51～60 歳が 48%となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>ツ. 体育学部</p> <p>専任教員数は 59 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 13 名 (22%)、41～50 歳 17 名 (29%)、 51～60 歳 17 名 (29%)、61 歳以上 12 名 (20%) であり、年齢構成は適切である。</p> <p>テ. 医学部</p> <p>専任教員数は 726 名で、30 歳以下 21 名 (3%)、 31～40 歳 337 名 (46%)、41～50 歳 248 名 (34%)、51～60 歳 103 名 (14%)、61 歳以上 17 名 (2%) である。31～40 歳が 46%、41～50 歳が 34%となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>ト. 健康科学部</p> <p>専任教員数は 55 名で、30 歳以下 1 名 (2%)、 31～40 歳 10 名 (18%)、41～50 歳 21 名 (38%)、 51～60 歳 15 名 (27%)、61 歳以上 8 名 (15%) である。41～50 歳が 38%となり、年齢構成に</p>
--	--

		偏りが見られる。
評価後の改善状況	<p>教員人事計画の検討に当たり、学科別・センター・研究所別に教員構成表（身分、年齢を表記）を作成しており、現状の身分分布、年齢分布の確認をしている。</p> <p>この教員構成表を基に、各学部・学科・センター等から提出された教員人事計画の適否を、学長を中心に検討し、採用を許可する場合には、若手教員、女性教員などの条件を付して、許可をしている。さらに、教員人事という重要案件であるため、法人本部の高等教育部にも確認し適正化を図っている。</p> <p>なお、年齢構成は、1～2年程度の人事計画では是正できないため、定年退職者を視野に入れながら、長期的視点で採用の許可を与えている。</p>	
改善状況を示す具体的な根拠・データ等		
<大学基準協会使用欄>		
検討所見	<p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p>	
改善状況に対する評価	1	2 3 4 5

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	5 教員組織
	指摘事項	1) 専任教員の年齢構成について、文学部の 41～50 歳が 35.1%、51～60 歳が 33.0%、工学部の 51～60 歳が 35.0%、海洋学部の 51～60 歳が 44.9%、教養学部の 41～50 歳が 30.9%、51～60 歳が 36.3%、医学部の 31～40 歳が 46.4%、41～50 歳が 34.2%、法学部の 51～60 歳が 38.1%、健康科学部の 41～50 歳が 38.1%、情報理工学部の 61 歳以上が 43.4%、総合経営学部の 41～50 歳が 35.3%、国際文化学部の 51～60 歳が 35.7%、情報通信学部の 51～60 歳が 33.3%、61 歳以上が 30.6%、芸術工学部の 51～60 歳が 33.3%、61 歳以上が 33.3%、産業工学部の 51～60 歳が 48.6%、生物理工学部の 41～50 歳が 33.3%、51～60 歳が 40.0%、農学部の 51～60 歳が 48.1%、開発工学部の 51～60 歳が 38.3%と高いので、全体的なバランスを保つよう、今後の教員採用計画等において、改善の努力が望まれる。
	評価当時の状況	項目番号 182) <u>教員組織の年齢構成の適切性</u> (年齢構成については、大学基礎データ表 21 参照) ア. 文学部 専任教員数は 94 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 10 名 (11%)、41～50 歳 33 名 (35%)、51～60 歳 31 名 (33%)、61 歳以上 20 名 (21%)である。41～50 歳が 35%、51～60 歳が 33%となり、年齢構成に偏りが見られる。

	<p>イ. 政治経済学部</p> <p>専任教員数は 39 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 11 名 (28%)、41～50 歳 11 名 (28%)、51～60 歳 11 名 (28%)、61 歳以上 6 名 (15%) であり、年齢構成は適切である。</p> <p>ウ. 総合経営学部</p> <p>専任教員数は 17 名で、30 歳以下 2 名 (12%)、31～40 歳 1 名 (6%)、41～50 歳 6 名 (35%)、51～60 歳 5 名 (29%)、61 歳以上 3 名 (18%) である。41～50 歳が 35% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>エ. 法学部</p> <p>専任教員数は 21 名で、30 歳以下 1 名 (5%)、31～40 歳 3 名 (14%)、41～50 歳 6 名 (29%)、51～60 歳 8 名 (38%)、61 歳以上 3 名 (14%) である。51～60 歳が 38% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>オ. 教養学部</p> <p>専任教員数は 55 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 6 名 (11%)、41～50 歳 17 名 (31%)、51～60 歳 20 名 (36%)、61 歳以上 12 名 (22%) である。41～50 歳が 31%、51～60 歳が 36% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>カ. 国際文化学部</p> <p>専任教員数は 28 名で、30 歳以下 2 名 (7%)、31～40 歳 3 名 (11%)、41～50 歳 8 名 (29%)、51～60 歳 10 名 (36%)、61 歳以上 5 名 (18%) である。51～60 歳が 36% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>キ. 理学部</p> <p>専任教員数は 67 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 14 名 (21%)、41～50 歳 20 名 (30%)、51～60 歳 19 名 (28%)、61 歳以上 14 名 (21%) であり、年齢構成は適切である。</p> <p>ク. 情報理工学部</p> <p>専任教員数は 23 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 3 名 (13%)、41～50 歳 6 名 (26%)、</p>
--	---

	<p>51～60 歳 4 名 (17%)、61 歳以上 10 名 (43%) である。61 歳以上が 43% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>ケ. 情報通信学部</p> <p>専任教員数は 36 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 3 名 (8%)、41～50 歳 10 名 (28%)、 51～60 歳 12 名 (33%)、61 歳以上 11 名 (31%) である。51～60 歳が 33%、61 歳以上が 31% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>コ. 工学部</p> <p>専任教員数は 143 名で、30 歳以下 2 名 (1%)、 31～40 歳 16 名 (11%)、41～50 歳 42 名 (29%)、 51～60 歳 50 名 (35%)、61 歳以上 33 名 (23%) である。51～60 歳が 35% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>サ. 情報デザイン工学部</p> <p>2009 年度より学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止する学部であり、設置基準上の教員数は 0 名で良いが、専任教員は 5 名所属し、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 1 名 (20%)、41～50 歳 2 名 (40%)、51～60 歳 2 名 (40%)、61 歳以上 0 名 (0%) である。</p> <p>シ. 芸術工学部</p> <p>専任教員数は 24 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 3 名 (13%)、41～50 歳 5 名 (21%)、 51～60 歳 8 名 (33%)、61 歳以上 8 名 (33%) である。51～60 歳が 33%、61 歳以上が 33% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>ス. 産業工学部</p> <p>専任教員数は 37 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 3 名 (8%)、41～50 歳 7 名 (19%)、 51～60 歳 18 名 (49%)、61 歳以上 9 名 (24%) である。51～60 歳が 49% となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>セ. 開発工学部</p> <p>専任教員数は 47 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、 31～40 歳 5 名 (11%)、41～50 歳 13 名 (28%)、</p>
--	---

	<p>51～60 歳 18 名 (38%)、61 歳以上 11 名 (23%) である。51～60 歳が 38%となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>ソ. 海洋学部</p> <p>専任教員数は 78 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 7 名 (9%)、41～50 歳 18 名 (23%)、51～60 歳 35 名 (45%)、61 歳以上 18 名 (23%) である。51～60 歳が 45%となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>タ. 生物理工学部</p> <p>専任教員数は 30 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 1 名 (3%)、41～50 歳 10 名 (33%)、51～60 歳 12 名 (40%)、61 歳以上 7 名 (23%) である。41～50 歳が 33%、51～60 歳が 40%となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>チ. 農学部</p> <p>専任教員数は 27 名で、30 歳以下 1 名 (4%)、31～40 歳 4 名 (15%)、41～50 歳 8 名 (30%)、51～60 歳 13 名 (48%)、61 歳以上 1 名 (4%) である。51～60 歳が 48%となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>ツ. 体育学部</p> <p>専任教員数は 59 名で、30 歳以下 0 名 (0%)、31～40 歳 13 名 (22%)、41～50 歳 17 名 (29%)、51～60 歳 17 名 (29%)、61 歳以上 12 名 (20%) であり、年齢構成は適切である。</p> <p>テ. 医学部</p> <p>専任教員数は 726 名で、30 歳以下 21 名 (3%)、31～40 歳 337 名 (46%)、41～50 歳 248 名 (34%)、51～60 歳 103 名 (14%)、61 歳以上 17 名 (2%) である。31～40 歳が 46%、41～50 歳が 34%となり、年齢構成に偏りが見られる。</p> <p>ト. 健康科学部</p> <p>専任教員数は 55 名で、30 歳以下 1 名 (2%)、31～40 歳 10 名 (18%)、41～50 歳 21 名 (38%)、51～60 歳 15 名 (27%)、61 歳以上 8 名 (15%) である。41～50 歳が 38%となり、年齢構成に</p>
--	--

		偏りが見られる。
	評価後の改善状況	<p>教員人事計画の検討に当たり、学科別・センター・研究所別に教員構成表（身分、年齢を表記）を作成しており、現状の身分分布、年齢分布の確認をしている。</p> <p>この教員構成表を基に、各学部・学科・センター等から提出された教員人事計画の適否を、学長を中心に検討し、採用を許可する場合には、若手教員、女性教員などの条件を付して、許可をしている。さらに、教員人事という重要案件であるため、法人本部の高等教育部にも確認し適正化を図っている。</p> <p>なお、年齢構成は、1～2年程度の人事計画では是正できないため、定年退職者を視野に入れながら、長期的視点で採用の許可を与えている。</p> <p>ア. 文学部</p> <p>専任教員数は93名で、30歳以下は、0名(0.0%)、31-40歳9名(9.7%)、41-50歳28名(24.7%)、51-60歳42名(45.2%)、61歳以上19名(20.6%)となり、61歳以上は33%から20.6%と改善されている。</p> <p>イ. 政治経済学部</p> <p>専任教員数は37名で、30歳以下は、1名(2.7%)、31-40歳7名(18.9%)、41-50歳9名(24.3%)、51-60歳9名(24.3%)、61歳以上11名(29.7%)であり、年齢構成は適切である。</p> <p>ウ. 総合経営学部</p> <p>学生募集停止であるため、専任教員数は2名で、30歳以下は、0名(0.0%)、31-40歳0名(0.0%)、41-50歳0名(0.0%)、51-60歳0名(0.0%)、61歳以上2名(100.0%)の構成である。</p> <p>エ. 法学部</p> <p>専任教員数は21名で、30歳以下は、0名(0.0%)、31-40歳4名(19.1%)、41-50歳4名(19.1%)、51-60歳7名(33.3%)、61歳以上6名(28.5%)であり、年齢構成は適切である。</p> <p>オ. 教養学部</p>

	<p>専任教員数は 48 名で、30 歳以下は、0 名 (0.0%)、31-40 歳 4 名 (8.4%)、41-50 歳 15 名 (31.3%)、51-60 歳 21 名 (43.8%)、61 歳以上 8 名 (16.7%) であり、51-60 歳において偏りが見られ、改善が進んでいない状況である。</p> <p>カ. 国際文化学部</p> <p>専任教員数は 34 名で、30 歳以下は、1 名 (2.9%)、31-40 歳 4 名 (11.8%)、41-50 歳 7 名 (20.6%)、51-60 歳 18 名 (52.9%)、61 歳以上 4 名 (11.8%) 51-60 歳において偏りが見られ、改善が進んでいない状況である。</p> <p>キ. 理学部</p> <p>専任教員数は 67 名で、30 歳以下は、1 名 (1.5%)、31-40 歳 12 名 (17.9%)、41-50 歳 23 名 (34.3%)、51-60 歳 19 名 (28.3%)、61 歳以上 12 名 (17.9%) であり、年齢構成は適切である。</p> <p>ク. 情報理工学部</p> <p>専任教員数は 20 名で、30 歳以下は、0 名 (0.0%)、31-40 歳 2 名 (10.0%)、41-50 歳 8 名 (40.0%)、51-60 歳 6 名 (30.0%)、61 歳以上 4 名 (20.0%) であり、61 歳以上では改善され、適切な年齢構成である。</p> <p>ケ. 情報通信学部</p> <p>専任教員数は 35 名で、30 歳以下は、1 名 (2.9%)、31-40 歳 6 名 (17.1%)、41-50 歳 9 名 (25.7%)、51-60 歳 12 名 (34.2%)、61 歳以上 7 名 (20.0%) であり、61 歳以上では改善されているが、51-60 歳において割合が増えている。</p> <p>コ. 工学部</p> <p>専任教員数は 157 名で、30 歳以下は、2 名 (1.3%)、31-40 歳 21 名 (13.3%)、41-50 歳 46 名 (29.3%)、51-60 歳 58 名 (37.0%)、61 歳以上 30 名 (19.1%) 61 歳以上では改善されているが、51-60 歳の割合が増加している。</p> <p>サ. 情報デザイン学部</p> <p>廃止している。</p> <p>シ. 芸術工学部</p> <p>学生募集停止のため、専任教員数は 1 名で、30</p>
--	---

	<p>歳以下は、0 名 (0.0%)、31-40 歳 0 名 (0.0%)、41-50 歳 0 名 (0.0%)、51-60 歳 0 名 (0.0%)、61 歳以上 1 名 (100.0%) の構成である。</p> <p>ス. 産業工学部</p> <p>学生募集停止のため、専任教員数は 3 名で、30 歳以下は、0 名 (0.0%)、31-40 歳 0 名 (0.0%)、41-50 歳 0 名 (0.0%)、51-60 歳 0 名 (0.0%)、61 歳以上 3 名 (100.0%) の構成である。</p> <p>セ. 開発工学部</p> <p>廃止している。</p> <p>ソ. 海洋学部</p> <p>専任教員数は 75 名で、30 歳以下は、0 名 (0.0%)、31-40 歳 11 名 (14.7%)、41-50 歳 20 名 (26.6%)、51-60 歳 24 名 (32.0%)、61 歳以上 20 名 (26.6%) であり、51-60 歳で 45%から 32%へと改善され、適切な年齢構成となっている。</p> <p>タ. 生物理工学部</p> <p>学生募集停止のため、専任教員数は 2 名で、30 歳以下は、0 名 (0.0%)、31-40 歳 0 名 (0.0%)、41-50 歳 0 名 (0.0%)、51-60 歳 0 名 (0.0%)、61 歳以上 2 名 (100.0%) の構成である。</p> <p>チ. 農学部</p> <p>専任教員数は 28 名で、30 歳以下は、0 名 (0.0%)、31-40 歳 3 名 (10.7%)、41-50 歳 9 名 (32.1%)、51-60 歳 9 名 (32.1%)、61 歳以上 7 名 (25.0%) であり、51-60 歳で 48%から 32.1%へと改善されている。</p> <p>ツ. 体育学部</p> <p>専任教員数は 60 名で、30 歳以下は、0 名 (0.0%)、31-40 歳 12 名 (20.0%)、41-50 歳 21 名 (35.0%)、51-60 歳 17 名 (28.4%)、61 歳以上 10 名 (16.7%) であり、従前は適正であったが、41-50 歳の割合が増加している。</p> <p>テ. 医学部</p> <p>専任教員数は 827 名で、30 歳以下は、19 名 (2.3%)、31-40 歳 372 名 (45.0%)、41-50 歳 247 名 (29.9%)、51-60 歳 162 名 (19.6%)、61</p>
--	--

	<p>歳以上 27 名 (3.3%) であり、41-50 歳で改善が見られたが、31-40 歳の割合が増加している。</p> <p>ト. 健康科学部</p> <p>専任教員数は 54 名で、30 歳以下は、1 名 (1.9%)、31-40 歳 6 名 (11.1%)、41-50 歳 22 名 (40.8%)、51-60 歳 22 名 (40.7%)、61 歳以上 3 名 (5.6%) であり、61 歳以上において改善されており、年齢構成は適切ある。</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>大学基礎データ 表 21 (2014 年度)</p>	
<大学基準協会使用欄>	
検討所見	<p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p>
改善状況に対する評価	<p>1 2 3 4 5</p>

専任教員年齢構成

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
文学部	教 授	1	8	9	14	21	3	1	0	0	0	57
		1.8%	14.0%	15.8%	24.6%	36.8%	5.3%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	1	1	5	7	5	1	1	0	21
		0.0%	0.0%	4.8%	4.8%	23.8%	33.3%	23.8%	4.8%	4.8%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	1	0	1	6	6	1	0	15
		0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	40.0%	40.0%	6.7%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	1	8	10	16	26	11	12	7	2	0	93
		1.1%	8.6%	10.8%	17.2%	28.0%	11.8%	12.9%	7.5%	2.2%	0.0%	100%
観光学部	教 授	0	0	7	2	1	1	0	0	0	0	11
		0.0%	0.0%	63.6%	18.2%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	0	7	2	1	1	0	4	1	0	16
		0.0%	0.0%	43.8%	12.5%	6.3%	6.3%	0.0%	25.0%	6.3%	0.0%	100%
政治経済学部	教 授	0	2	8	2	4	4	0	1	0	0	21
		0.0%	9.5%	38.1%	9.5%	19.0%	19.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	1	0	3	1	3	5	0	0	13
		0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	23.1%	7.7%	23.1%	38.5%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	2	9	2	7	5	4	7	0	1	37
		0.0%	5.4%	24.3%	5.4%	18.9%	13.5%	10.8%	18.9%	0.0%	2.7%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
総合経営学部	教 授	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
経営学部	教 授	0	1	3	4	3	2	0	0	0	0	13
		0.0%	7.7%	23.1%	30.8%	23.1%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	1	3	1	2	0	0	7
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
法学部	教 授	0	2	4	4	2	3	0	0	0	0	15
		0.0%	13.3%	26.7%	26.7%	13.3%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	5
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	2	4	4	3	3	1	3	1	0	21
		0.0%	9.5%	19.0%	19.0%	14.3%	14.3%	4.8%	14.3%	4.8%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
教養学部	教 授	0	2	6	12	8	1	2	0	0	0	31
		0.0%	6.5%	19.4%	38.7%	25.8%	3.2%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	1	0	8	3	2	0	0	14
		0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	57.1%	21.4%	14.3%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	2	6	13	8	9	6	3	1	0	48
		0.0%	4.2%	12.5%	27.1%	16.7%	18.8%	12.5%	6.3%	2.1%	0.0%	100%
国際文化学部	教 授	0	0	4	8	8	0	1	0	0	0	21
		0.0%	0.0%	19.0%	38.1%	38.1%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	2	0	0	4	1	0	0	7
		0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	100%
	学部計	0	0	4	10	8	0	7	2	2	1	34
		0.0%	0.0%	11.8%	29.4%	23.5%	0.0%	20.6%	5.9%	5.9%	2.9%	100%
理学部	教 授	1	2	9	6	10	9	2	0	0	0	39
		2.6%	5.1%	23.1%	15.4%	25.6%	23.1%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	1	2	4	5	3	0	0	15
		0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	13.3%	26.7%	33.3%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	1	2	4	5	0	12
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	16.7%	33.3%	41.7%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
	学部計	1	2	9	7	12	14	9	7	5	1	67
		1.5%	3.0%	13.4%	10.4%	17.9%	20.9%	13.4%	10.4%	7.5%	1.5%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
情報理工学部	教 授	0	2	2	3	3	4	1	0	0	0	15
		0.0%	13.3%	13.3%	20.0%	20.0%	26.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
情報通信学部	教 授	0	2	5	5	3	4	1	0	0	0	20
		0.0%	10.0%	25.0%	25.0%	15.0%	20.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	1	2	1	2	1	1	0	8
		0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	1	1	0	1	3	0	6
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	50.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
工学部	教 授	0	2	5	6	6	6	3	2	4	1	35
		0.0%	5.7%	14.3%	17.1%	17.1%	17.1%	8.6%	5.7%	11.4%	2.9%	100%
	准教授	1	3	26	32	24	22	4	0	0	0	112
		0.9%	2.7%	23.2%	28.6%	21.4%	19.6%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	8	11	6	1	0	26
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	30.8%	42.3%	23.1%	3.8%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	2	1	0	5	8	0	16
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	6.3%	0.0%	31.3%	50.0%	0.0%	100%
工学部	学部計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	100%
	学部計	1	3	26	32	26	31	15	12	9	2	157
		0.6%	1.9%	16.6%	20.4%	16.6%	19.7%	9.6%	7.6%	5.7%	1.3%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
芸術工学部	教 授	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
産業工学部	教 授	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
基盤工学部	教 授	0	0	2	5	3	2	2	0	0	0	14
		0.0%	0.0%	14.3%	35.7%	21.4%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
	学部計	0	0	2	5	4	3	2	2	0	0	18
		0.0%	0.0%	11.1%	27.8%	22.2%	16.7%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
生物学部	教 授	0	0	4	3	1	3	0	0	0	0	11
		0.0%	0.0%	36.4%	27.3%	9.1%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	0	4	4	2	5	0	1	1	0	17
		0.0%	0.0%	23.5%	23.5%	11.8%	29.4%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%	100%
農学部	教 授	0	0	7	5	1	3	0	0	0	0	16
		0.0%	0.0%	43.8%	31.3%	6.3%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	2	3	2	1	1	0	9
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	33.3%	22.2%	11.1%	11.1%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100%
	学部計	0	0	7	6	3	6	3	1	2	0	28
		0.0%	0.0%	25.0%	21.4%	10.7%	21.4%	10.7%	3.6%	7.1%	0.0%	100%
体育学部	教 授	0	0	10	6	9	5	2	0	0	0	32
		0.0%	0.0%	31.3%	18.8%	28.1%	15.6%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	1	1	5	7	1	0	0	15
		0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	6.7%	33.3%	46.7%	6.7%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	2	8	2	0	12
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100%
	学部計	0	0	10	7	10	10	11	9	3	0	60
		0.0%	0.0%	16.7%	11.7%	16.7%	16.7%	18.3%	15.0%	5.0%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
医学部	教 授	0	0	25	34	26	5	2	0	0	0	92
		0.0%	0.0%	27.2%	37.0%	28.3%	5.4%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	10	44	30	17	4	0	0	105
		0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	41.9%	28.6%	16.2%	3.8%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	2	9	23	50	55	59	1	0	199
		0.0%	0.0%	1.0%	4.5%	11.6%	25.1%	27.6%	29.6%	0.5%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	2	14	33	55	157	151	19	431
		0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	3.2%	7.7%	12.8%	36.4%	35.0%	4.4%	100%
健康科学部	教 授	0	0	3	7	3	2	0	0	0	0	15
		0.0%	0.0%	20.0%	46.7%	20.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	3	7	3	6	1	0	0	20
		0.0%	0.0%	0.0%	15.0%	35.0%	15.0%	30.0%	5.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	2	6	4	1	2	1	16
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	37.5%	25.0%	6.3%	12.5%	6.3%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100%
実務法学研究科	教 授	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	5
		0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	学部計	0	0	3	0	2	0	2	0	0	0	7
		0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
健康科学研究科	教 授											0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	准教授											0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	専任講師											0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教											0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
チャレンジセンター	教 授	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	4
		0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	専任講師	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
総合教育センター	教 授	0	0	3	2	4	1	0	0	0	0	10
		0.0%	0.0%	30.0%	20.0%	40.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	2	1	3	3	1	0	0	10
		0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	10.0%	30.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	0	3	4	5	4	3	1	0	0	20
		0.0%	0.0%	15.0%	20.0%	25.0%	20.0%	15.0%	5.0%	0.0%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
外国語教育センター	教 授	0	0	3	4	2	1	0	0	0	0	10
		0.0%	0.0%	30.0%	40.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	1	2	8	4	5	5	0	0	25
		0.0%	0.0%	4.0%	8.0%	32.0%	16.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	1	5	13	8	0	0	27
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	18.5%	48.1%	29.6%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	0	4	6	11	10	18	13	0	0	62
		0.0%	0.0%	6.5%	9.7%	17.7%	16.1%	29.0%	21.0%	0.0%	0.0%	100%
国際教育センター	教 授	0	0	3	2	2	0	0	0	0	0	7
		0.0%	0.0%	42.9%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100%
	学部計	0	0	3	2	3	1	1	2	1	0	13
		0.0%	0.0%	23.1%	15.4%	23.1%	7.7%	7.7%	15.4%	7.7%	0.0%	100%
情報教育センター	教 授	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	4
		0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	0	3	2	0	3	4	0	0	0	12
		0.0%	0.0%	25.0%	16.7%	0.0%	25.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
課程資格教育センター	教 授	0	1	2	3	0	1	0	0	0	0	7
		0.0%	14.3%	28.6%	42.9%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	5
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
高輪教養教育センター	教 授	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	4
		0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
清水教養教育センター	教 授	0	0	3	4	6	1	0	0	0	0	14
		0.0%	0.0%	21.4%	28.6%	42.9%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	1	2	4	2	0	0	0	9
		0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	22.2%	44.4%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0	5
		0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	0	4	5	8	5	4	2	0	0	28
		0.0%	0.0%	14.3%	17.9%	28.6%	17.9%	14.3%	7.1%	0.0%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
熊本教養教育センター	教 授	0	0	4	3	2	0	0	0	0	0	9
		0.0%	0.0%	44.4%	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
阿蘇教養教育センター	教 授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	准教授	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	2	1	1	0	1	0	0	5
		0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
札幌教養教育センター	教 授	0	1	3	2	1	1	0	0	0	0	8
		0.0%	12.5%	37.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	1	3	3	2	4	0	1	0	0	14
		0.0%	7.1%	21.4%	21.4%	14.3%	28.6%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
海洋研究所	教 授	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
総合医学研究所	教 授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	准教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
糖鎖科学研究所	教 授	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	4
		0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	1	2	0	1	0	0	1	0	0	5
		0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
教育研究所	教 授	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	4
		0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
スポーツ医科学研究所	教 授	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3
		0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
総合農学研究所	教 授	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
学部計	学部計	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	4
		0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
沖縄地域研究センター	教 授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	准教授	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
総合科学技術研究所	教 授	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
		0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	4
		0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%

(表21)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
情報技術センター	教 授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	准教授	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	学部計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
大学合計		3	31	203	237	298	295	270	327	198	26	1,888
		0.2%	1.6%	10.8%	12.6%	15.8%	15.6%	14.3%	17.3%	10.5%	1.4%	100%
定年 歳												

大学基準協会〔注〕

- 「Ⅳ 1 全学の教員組織」（表19）中、学部、大学院研究科（及びその他の組織）に記載の専任教員について、所属組織ごとに作成してください。
ただし、教養教育担当者が学部に分属しているものの教養教育は全学共通で行っている場合は、その教員数を学部から除き、教養教育担当者の表を学部準じて別個に作成してください。
- 各欄の下段にはそれぞれ「計」欄の数値に対する割合を記入してください。

東海大学〔注〕

- 教養教育センター兼務の教員については、本務所属ではなく、実際に業務を行っている兼務先で算出してください。
- 特任教員第4種・5種については、表19の脚注に従い、任期制教員として捉えるため、表21でも除外してください。
- 「授業を担当しない教員」については、本表に含めないでください。

データについて〔注〕 ※第三者にも分かるよう、必要に応じて注記してください。

提言に対する改善報告書

大学名称 _____ (評価申請年度 _____)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	5 教員組織
	指摘事項	2) 専任教員 1 人あたりの学生数が、工学部動力機械工学科で 40.6 人と多くなっているため、改善が望まれる。
	評価当時の状況	2009 年度当時、当該学科の在籍学生数 893 人、教員数は、学科 15 人、センター系 7 人(大学基準協会の按分教員数)であった。したがって教員 1 人あたりの学生数は 40.6 人であった。
	評価後の改善状況	学生の入学受け入れ数を適正にした結果、2014 年 5 月 1 日現在、工学部動力機械工学科の一人当たりの学生数は、37.0 人となり改善された。 在籍学生 813 人、教員数 22 人(按分教員数 7 名含む)より。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 大学基礎データ 表 14、19-2(2014)	
	<大学基準協会使用欄>	
	検討所見	<div style="text-align: center;"> ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ </div>
改善状況に対する評価	<div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> 1 2 3 4 5 </div>	

(表14)																							
学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 定 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数												備 考
					総 数 (A)	う ち 編 入 学 生 数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学 生 数 (D)			第 1 年 次		第 2 年 次		第 3 年 次		第 4 年 次		第 5 年 次		第 6 年 次		
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
文学部	文明学科		60	—	240	—	284	0	1.18	—	76	—	69	—	61	—	78	11	—	—	—	—	
	アジア文明学科		60	—	240	—	219	0	0.91	—	59	—	49	—	57	—	54	6	—	—	—	—	
	ヨーロッパ文明学科		70	—	280	—	316	1	1.13	—	83	—	75	—	75	—	83	5	—	—	—	—	
	アメリカ文明学科		60	—	240	—	240	0	1.00	—	62	—	61	—	57	—	60	6	—	—	—	—	
	北欧学科		60	—	240	—	267	2	1.11	—	62	—	61	—	73	—	71	11	—	—	—	—	
	歴史学科	日本史専攻	55	—	220	—	242	1	1.10	—	63	—	54	—	59	—	66	12	—	—	—	—	
		東洋史専攻	40	—	160	—	170	0	1.06	—	33	—	32	—	49	—	56	14	—	—	—	—	
		西洋史専攻	50	—	200	—	234	0	1.17	—	53	—	54	—	55	—	72	17	—	—	—	—	
		考古学専攻	30	—	120	—	141	0	1.18	—	38	—	37	—	31	—	35	5	—	—	—	—	
	日本文学科		90	—	360	—	405	1	1.13	—	98	—	91	—	93	—	123	14	—	—	—	—	
	文芸創作学科		55	—	220	—	245	1	1.11	—	60	—	55	—	63	—	67	5	—	—	—	—	
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360	—	411	3	1.14	—	91	—	103	—	100	—	117	10	—	—	—	—	
広報メディア学科		110	—	440	—	503	0	1.14	—	125	—	120	—	118	—	140	8	—	—	—	—		
心理・社会学科		100	—	400	—	465	2	1.16	—	117	—	106	—	116	—	126	7	—	—	—	—		
計			930	—	3,720	—	4,142	11	1.11	—	1,020	—	967	—	1,007	—	1,148	131	—	—	—	—	
観光学部	観光学科		200	—	795	10	926	9	1.16	0.90	228	—	222	—	225	—	251	10	—	—	—	—	
計			200	—	795	10	926	9	1.16	0.90	228	—	222	—	225	—	251	10	—	—	—	—	
政治経済学部	政治学科		150	—	600	—	671	0	1.12	—	154	—	178	—	149	—	190	29	—	—	—	—	
	経済学科		150	—	600	—	676	0	1.13	—	159	—	154	—	175	—	188	31	—	—	—	—	
	経営学科		150	—	600	—	678	1	1.13	—	164	—	158	—	173	—	183	17	—	—	—	—	
計			450	—	1,800	—	2,025	1	1.13	—	477	—	490	—	497	—	561	77	—	—	—	—	
総合経営学部	※マネジメント学科		—	—	400	—	242	12	0.61	—	—	—	—	—	108	—	134	18	—	—	—	—	
計			0	—	400	—	242	12	0.61	—	—	—	—	—	108	—	134	18	—	—	—	—	
経営学部（2013年度新設）	経営学科		150	—	300	—	325	0	1.08	—	175	—	150	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	観光ビジネス学科		80	—	160	—	98	0	0.61	—	51	—	47	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計			230	—	460	—	423	0	0.92	—	226	—	197	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
法学部	法律学科		300	—	1,200	—	1,324	0	1.10	—	331	—	309	—	290	—	394	74	—	—	—	—	
計			300	—	1,200	—	1,324	0	1.10	—	331	—	309	—	290	—	394	74	—	—	—	—	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 定 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次			第6年次	
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)		学生数	留年者数 (内数)
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	160	—	640	—	319	0	0.50	—	83	—	79	—	76	—	81	13	—	—	—	—	
		社会環境課程					433	2	0.68		100	—	99	—	103	—	131	10	—	—	—	—	
	芸術学科	音楽学課程	90	—	360	—	135	0	0.38	—	37	—	35	—	32	—	31	2	—	—	—	—	
		美術学課程					66	2	0.18		12	—	15	—	20	—	19	1	—	—	—	—	
		デザイン学課程					167	0	0.46		45	—	45	—	34	—	43	2	—	—	—	—	
	国際学科		80	—	320	—	378	4	1.18	—	95	—	89	—	86	—	108	8	—	—	—	—	
計			330	—	1,320	—	1,498	8	1.13	—	372	—	362	—	351	—	413	36	—	—	—	—	
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440	—	485	0	1.10	—	122	—	128	—	117	—	118	8	—	—	—	—	
	国際コミュニケーション学科		80	—	340	—	231	0	0.68	—	54	—	68	—	56	—	53	8	—	—	—	—	
	デザイン文化学科		70	—	210	—	154	1	0.73	—	40	—	49	—	65	—	—	—	—	—	—	—	
計			260	—	990	—	870	1	0.88	—	216	—	245	—	238	—	171	16	—	—	—	—	
理学部	数学科		80	—	320	—	359	0	1.12	—	86	—	92	—	89	—	92	8	—	—	—	—	
	情報数理学科		80	—	320	—	369	0	1.15	—	86	—	89	—	93	—	101	6	—	—	—	—	
	物理学科		80	—	320	—	385	0	1.20	—	84	—	96	—	93	—	112	17	—	—	—	—	
	化学科		80	—	320	—	372	1	1.16	—	82	—	92	—	88	—	110	11	—	—	—	—	
計			320	—	1,280	—	1,485	1	1.16	—	338	—	369	—	363	—	415	42	—	—	—	—	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	—	478	1	1.20	—	108	—	125	—	117	—	128	14	—	—	—	—	
	経営システム工学科		—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	
	コンピュータ応用工学科		100	—	400	—	403	2	1.01	—	102	—	108	—	90	—	103	14	—	—	—	—	
計			200	—	800	—	882	3	1.10	—	210	—	233	—	207	—	232	29	—	—	—	—	
情報通信学部	情報メディア学科		80	—	320	—	371	1	1.16	—	96	—	85	—	94	—	96	9	—	—	—	—	
	組込みソフトウェア工学科		80	—	320	—	355	0	1.11	—	89	—	83	—	76	—	107	12	—	—	—	—	
	経営システム工学科		80	—	320	—	375	0	1.17	—	96	—	81	—	96	—	102	18	—	—	—	—	
	通信ネットワーク工学科		80	—	320	—	380	0	1.19	—	95	—	84	—	89	—	112	18	—	—	—	—	
計			320	—	1,280	—	1,481	1	1.16	—	376	—	333	—	355	—	417	57	—	—	—	—	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 定 員	編 入 定 員	収容定員		在籍学生数		B／A	D／C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次			第 6 年次	
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)		学生数	留年者数 (内数)
工学部	生命化学科		100	—	400	—	454	1	1.14	—	110	—	109	—	114	—	121	10	—	—	—	—	
	応用化学科		80	—	320	—	371	1	1.16	—	83	—	83	—	91	—	114	5	—	—	—	—	
	光・画像工学科		60	—	240	—	237	0	0.99	—	68	—	47	—	66	—	56	4	—	—	—	—	
	原子力工学科		40	—	160	—	154	0	0.96	—	43	—	27	—	42	—	42	3	—	—	—	—	
	※エネルギー工学科		—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	
	電気電子工学科		140	—	560	—	672	8	1.20	—	154	—	160	—	165	—	193	20	—	—	—	—	
	材料科学科		80	—	320	—	358	0	1.12	—	99	—	91	—	88	—	80	5	—	—	—	—	
	建築学科		200	—	800	—	867	1	1.08	—	225	—	225	—	191	—	226	31	—	—	—	—	
	土木工学科		120	—	480	—	380	6	0.79	—	137	—	97	—	73	—	73	11	—	—	—	—	
	精密工学科		80	—	320	—	322	5	1.01	—	97	—	94	—	74	—	57	11	—	—	—	—	
	機械工学科		150	—	600	—	657	5	1.10	—	169	—	158	—	160	—	170	24	—	—	—	—	
	動力機械工学科		200	—	800	—	813	5	1.02	—	203	—	197	—	189	—	224	24	—	—	—	—	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	100	—	400	—	462	3	1.16	—	116	—	112	—	108	—	126	21	—	—	—	—	
		航空操縦学専攻	50	—	200	—	156	0	0.78	—	44	—	37	—	32	—	43	3	—	—	—	—	
	医用生体工学科		60	—	240	—	267	3	1.11	—	63	—	69	—	64	—	71	10	—	—	—	—	
計			1,460	—	5,840	—	6,171	38	1.06	—	1,611	—	1,506	—	1,457	—	1,597	183	—	—	—	—	
芸術工学部	※くらしデザイン学科		—	—	100	—	14	0	0.14	—	—	—	—	—	—	—	14	1	—	—	—	—	
	※建築・環境デザイン学科		—	—	60	—	5	0	0.08	—	—	—	—	—	—	—	5	0	—	—	—	—	
計			—	—	160	—	19	0	0.12	—	—	—	—	—	—	—	19	1	—	—	—	—	
産業工学部	※環境保全学科		—	—	120	—	32	0	0.27	—	—	—	—	—	12	—	20	0	—	—	—	—	
	※電子知能システム工学科		—	—	180	—	50	2	0.28	—	—	—	—	—	24	—	26	0	—	—	—	—	
	※機械システム工学科		—	—	160	—	28	0	0.18	—	—	—	—	—	15	—	13	1	—	—	—	—	
	※建築学科		—	—	140	—	33	1	0.24	—	—	—	—	—	15	—	18	0	—	—	—	—	
計			—	—	600	—	143	3	0.24	—	0	0	0	0	66	0	77	1	—	—	—	—	
基盤工学部（2013年度新設）	電気電子情報工学科		80	—	160	—	125	0	0.78	—	58	—	67	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	医療福祉工学科		60	—	120	—	136	0	1.13	—	69	—	67	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計			140	—	280	—	261	0	0.93	—	127	—	134	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	海洋文明学科		80	—	320	—	295	1	0.92	—	79	—	75	—	65	—	76	13	—	—	—	—	
	環境社会学科		80	—	320	—	304	0	0.95	—	89	—	77	—	71	—	67	—	—	—	—	—	
	海洋地球科学科		80	—	320	—	334	0	1.04	—	91	—	90	—	89	—	64	—	—	—	—	—	
	※海洋建設工学科		—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 定 員	収容定員		在籍学生数		B / A	D / C	在 籍 学 生 数												備 考
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次		第 6 年次		
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
海洋学部	※海洋資源学科		—	—	—	—	3	0	—	—	—	—	—	—	—	—	3	3	—	—	—	—	
	※海洋科学科		—	—	—	—	11	0	—	—	—	—	—	—	—	—	11	10	—	—	—	—	
	水産学科	生物生産学専攻	120	—	480	—	382	0	0.80	—	92	—	90	—	97	—	103	—	—	—	—	—	
		食品科学専攻		—		182	0	0.38	—	41	—	50	—	48	—	43	—	—	—	—	—		
	※水産学科		—	—	—	—	21	0	—	—	—	—	—	—	—	—	21	21	—	—	—	—	
	海洋生物学科		90	—	360	—	423	0	1.18	—	98	—	95	—	116	—	114	9	—	—	—	—	
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	—	87	0	1.09	—	21	—	21	—	20	—	25	—	—	—	—	—	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	—	88	7	0.37	—	30	—	21	—	11	—	26	—	—	—	—	—	
	※航海学科	航海専攻	—	—	—	—	6	0	—	—	—	—	—	—	—	—	6	6	—	—	—	—	
国際物流専攻		—	—	—	—	3	0	—	—	—	—	—	—	—	—	3	2	—	—	—	—		
計			530	—	2,120	—	2,140	8	1.01	—	541	—	519	—	517	—	563	65	—	—	—	—	
生物理工学部	※生物工学科		—	—	70	—	59	0	0.84	—	—	—	—	—	—	—	59	5	—	—	—	—	
	※海洋生物科学科		—	—	60	—	50	0	0.83	—	—	—	—	—	—	—	50	5	—	—	—	—	
	※生体機能科学科		—	—	70	—	12	0	0.17	—	—	—	—	—	—	—	12	0	—	—	—	—	
計			—	—	200	—	121	0	0.61	—	—	—	—	—	—	—	121	10	—	—	—	—	
生物学部	生物学科		70	—	210	—	241	0	1.15	—	75	—	71	—	95	—	—	—	—	—	—	—	
	海洋生物科学科		70	—	210	—	253	0	1.20	—	84	—	77	—	92	—	—	—	—	—	—	—	
計			140	—	420	—	494	0	1.18	—	159	—	148	—	187	—	—	—	—	—	—	—	
農学部	応用植物科学科		80	—	320	—	358	1	1.12	—	83	—	87	—	79	—	109	11	—	—	—	—	
	応用動物科学科		80	—	320	—	369	2	1.15	—	91	—	84	—	98	—	96	9	—	—	—	—	
	バイオサイエンス学科		70	—	280	—	314	0	1.12	—	76	—	69	—	79	—	90	13	—	—	—	—	
計			230	—	920	—	1,041	3	1.13	—	250	—	240	—	256	—	295	33	—	—	—	—	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 定 員	編入定員	収容定員		在籍学生数		B／A	D／C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次			第 6 年次	
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)		学生数	留年者数 (内数)
体育学部	体育学科		100	—	380	—	434	0	1.14	—	114	—	102	—	108	—	110	7	—	—	—	—	
	競技スポーツ学科		130	—	500	—	577	1	1.15	—	142	—	146	—	137	—	152	8	—	—	—	—	
	武道学科		55	—	210	—	237	0	1.13	—	58	—	55	—	60	—	64	6	—	—	—	—	
	生涯スポーツ学科		100	—	380	—	445	0	1.17	—	106	—	113	—	106	—	120	4	—	—	—	—	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		55	—	210	—	247	0	1.18	—	59	—	61	—	60	—	67	2	—	—	—	—	
計			440	—	1,680	—	1,940	1	1.15	—	479	—	477	—	471	—	513	27	—	—	—	—	
医学部	医学科		115	—	671	—	671	153	1.00	—	102	0	123	23	117	7	111	3	114	4	104	8	
計			115	—	671	—	671	153	1.00	—	102	0	123	23	117	7	111	3	114	4	104	8	
健康科学部	看護学科		75	20	330	40	348	21	1.05	0.53	87	—	77	—	87	—	97	8	—	—	—	—	
	社会福祉学科		85	10	360	20	378	5	1.05	0.25	93	—	92	—	101	—	92	8	—	—	—	—	
計			160	30	690	60	726	26	1.05	0.43	180	—	169	—	188	—	189	16	—	—	—	—	
合 計			6,755	30	27,626	70	29,025	279	1.05	3.99	7,243	0	7,043	23	6,900	7	7,621	829	114	4	104	8	

専攻科	入定学員	編入定員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在籍学生数								備考
			総数 (A)	うち編入学生数 (C)	総数 (B)	うち編入学生数 (D)			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
									学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
乗船実習課程	30	—	30	—	17	—	0.57	—	17	—	—	—	—	—	—	—	学年の区分けなし
計	30	—	30	—	17	—	0.57	—	17	—	—	—	—	—	—	—	

別科	入 学 員 定 員	編 入 定 員	収容定員		在籍学生数		B / A	D / C	在 籍 学 生 数								備 考
			総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		
									学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
別科 日本語研修課程	200	0	200	0	58	0	0.29	0.00	58	—	—	—	—	—	—	—	2014年5月1日現在
計	200	0	200	0	58	0	0.29	0.00	58	—	—	—	—	—	—	—	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 定 員	収容定員		在籍学生数		B / A	D / C	在 籍 学 生 数										備 考	
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次	第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次		第 6 年次		
												学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数		留年者数 (内数)

大学基準協会〔注〕

- 1 昼夜開講制をとっている学部については、昼間主コースと夜間主コースにそれぞれ分けて記入してください。
- 2 収容定員は、定員変更などにより、現在の入学定員の4倍（6年制の学部は6倍）ではない場合がありますので、該当する年度ごとの入学定員、編入定員に注意してください。
- 3 現在の在籍学生に関わる入学定員及び編入定員に変更があった場合には、「備考」欄に注記してください。
- 4 修業年限を6年とする学部・学科の場合には、第6年次まで作表してください。
- 5 編入定員を設定している場合は、備考欄にその受け入れ年次を記入してください。
- 6 「B / A」及び「D / C」欄については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 7 通信教育課程、専攻科、別科等についても学部の表に準じて作成してください。

東海大学〔注〕

- 1 2014年5月1日現在のデータを記入してください。
- 2 乗船実習課程は、備考欄に学年の区分けがない旨を明記の上、第1年次欄に在籍学生数を記入してください。
- 3 別科の在籍学生数は、東海大学が入学資格を与えている学生数を記載してください。併せて、備考欄に東海大学の入学資格を明記をお願いします。
また、学年の区分けがない旨を明記の上、第1年次欄に在籍学生数を記入してください。

データについて〔注〕

- 1 海洋学部 航海学科国際物流専攻の在籍学生数は、海洋学部 航海工学科国際物流専攻の数を含む。
- 2 乗船実習課程生の身分は科目等履修生であるため、履修定員を入学定員とした
- 3 別科 日本語研修課程の「留年者数」は、在籍延長数を記載。

学部・教員組織

(表19-2)

学部・学科等			専任教員数									助手	設置基準上 必要専任教員数	専任教員1人 当たりの 在籍学生数 (表14(B)/計 (A))	兼 任 教員数	備 考	
			教授		准教授		講 師		助教		計 (A)						
				特任等 (内数)		特任等 (内数)		特任等 (内数)		特任等 (内数)							特任等 (内数)
文学部	文明学科		3	0	1	0	2	0	0	0	6	0	0	6	44.5	12	
	アジア文明学科		5	1	1	0	1	0	0	0	7	1	0	6		12	
	ヨーロッパ文明学科		3	0	1	0	3	0	0	0	7	0	0	6		8	
	アメリカ文明学科		3	0	2	0	1	0	0	0	6	0	0	6		5	
	北欧学科		4	0	1	0	1	0	0	0	6	0	0	6		9	
	歴史学科	日本史専攻	2	1	2	0	1	0	0	0	5	1	0	9		8	
		東洋史専攻	3	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0			9	
		西洋史専攻	4	0	1	0	0	0	0	0	5	0	0			8	
		考古学専攻	4	2	1	0	1	0	0	0	6	2	0			8	
	日本文学科		5	1	2	0	0	0	0	0	7	1	0	6		20	
	文芸創作学科		5	2	1	0	1	1	0	0	7	3	0	6		4	
	英語文化コミュニケーション学科		4	1	3	0	0	0	0	0	7	1	0	6		10	
	広報メディア学科		7	1	3	0	0	0	0	0	10	1	0	10		0	
	心理・社会学科		5	0	2	0	3	0	0	0	10	0	0	10		15	
	文学部 計			57	9	21	0	15	1	0	0	93	10	0		77	128
観光学部	観光学科		11	1	2	0	3	0	0	0	16	1	0	14	57.9	6	
観光学部 計			11	1	2	0	3	0	0	0	16	1	0	14		6	
政治経済学部	政治学科		9	1	6	0	0	0	0	0	15	1	0	14	54.7	11	
	経済学科		7	2	2	0	2	0	0	0	11	2	0	10		15	
	経営学科		5	1	5	0	1	0	0	0	11	1	0	10		8	
政治経済学部 計			21	4	13	0	3	0	0	0	37	4	0	34		34	
総合経営学部	マネジメント学科		2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	27.7	5		
総合経営学部 計			2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0		5		
経営学部	経営学科		6	2	3	0	2	0	0	0	11	2	0	10	27.7	0	
	観光ビジネス学科		7	0	4	0	0	0	0	0	11	0	0	10		1	
経営学部 計			13	2	7	0	2	0	0	0	22	2	0	20		1	

法学部	法律学科		15	2	5	0	1	0	0	0	21	2	0	17	63.0	7	
法学部 計			15	2	5	0	1	0	0	0	21	2	0	17		7	
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	6	1	3	0	0	0	0	0	9	1	0	12	31.2	23	
		社会環境課程	7	1	3	0	1	0	0	0	11	1	0			5	
	芸術学科	音楽学課程	5	1	2	0	0	0	0	0	7	1	0	10		41	
		美術学課程	3	0	1	0	1	0	0	0	5	0	0			19	
		デザイン学課程	4	0	1	0	1	0	0	0	6	0	0			25	
	国際学科		6	0	4	0	0	0	0	0	10	0	0	8		9	
	教養学部 計			31	3	14	0	3	0	0	0	48	3	0		30	122
国際文化学部	地域創造学科		7	0	2	0	2	0	3	3	14	3	0	14	25.4	12	
	国際コミュニケーション学科		6	0	3	0	1	0	0	0	10	0	0	10		7	
	デザイン文化学科		8	0	2	0	0	0	0	0	10	0	0	10		13	
国際文化学部 計			21	0	7	0	3	0	3	3	34	3	0	34		32	
理学部	数学科		9	3	0	0	5	0	0	0	14	3	0	8	22.2	12	湘南：5 清水：2 高輪：5
	情報数理学科		6	0	6	0	2	0	0	0	14	0	0	8		9	
	物理学科		14	0	2	0	1	0	0	0	17	0	0	8		21	湘南：12 清水：5 高輪：1 札幌：3
	化学科		9	0	4	0	3	0	1	0	17	0	0	8		4	
	基礎教育研究室		1	0	3	0	1	0	0	0	5	0	0			0	
理学部 計			39	3	15	0	12	0	1	0	67	3	0	32		46	
情報理工学部	情報科学科		7	1	2	0	2	0	0	0	11	1	0	9	44.1	2	
	コンピュータ応用工学科		8	1	0	0	1	0	0	0	9	1	0	9		11	
情報理工学部 計			15	2	2	0	3	0	0	0	20	2	0	18		13	
情報通信学部	情報メディア学科		6	0	1	0	2	0	0	0	9	0	0	8	42.3	5	
	組込みソフトウェア工学科		5	2	1	0	3	0	0	0	9	2	0	8		2	
	経営システム工学科		5	1	3	1	1	0	0	0	9	2	0	8		6	
	通信ネットワーク工学科		4	0	3	0	0	0	1	0	8	0	0	8		5	
情報通信学部学部 計			20	3	8	1	6	0	1	0	35	4	0	32		18	

工学部	工学部		4	0	0	0	0	0	0	4	0	0		39.3		
	生命化学科		5	0	2	0	2	0	0	9	0	0	9		1	RA:1
	応用化学科		7	0	3	0	0	0	0	10	0	0	8		1	
	光・画像工学科		6	1	1	0	1	0	0	8	1	0	8		12	
	原子力工学科		8	1	2	0	0	0	0	10	1	0	8		5	
	電気電子工学科		10	0	1	0	4	0	0	15	0	0	10		8	
	材料科学科		8	0	2	0	0	0	0	10	0	0	8		4	
	建築学科		12	0	4	0	1	0	0	17	0	0	12		40	
	土木工学科		7	1	2	0	1	0	0	10	1	0	10		9	
	精密工学科		6	0	1	0	1	0	0	8	0	0	8		5	
	機械工学科		6	0	3	0	2	0	1	12	0	0	11		13	
	動力機械工学科		10	2	1	0	2	0	2	15	2	0	12		16	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	8	0	2	0	1	0	0	11	0	0	11		3	
		航空操縦学専攻	6	1	1	0	0	0	0	7	1	0			4	
	医用生体工学科		9	0	1	0	1	0	0	11	0	0	8		2	
工学部 計			112	6	26	0	16	0	3	0	157	6	0	123	123	
芸術工学部	くらしデザイン学科		1	1	0	0	0	0	0	1	1	0		25.4	2	
	建築・環境デザイン学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	
芸術工学部 計			1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0		2	
産業工学部	環境保全学科		2	0	0	0	0	0	0	2	0	0		19.2	2	
	電子知能システム工学科		1	0	0	0	0	0	0	1	0	0			3	
	機械システム工学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			9	
	建築学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			3	
産業工学部 計			3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0		17	
基盤工学部	電気電子情報工学科		7	0	1	0	0	0	0	8	0	0	8	19.2	0	
	医療福祉工学科		7	0	1	0	1	0	1	10	0	0	8		5	
基盤工学部 計			14	0	2	0	1	0	1	0	18	0	0	16	5	
	海洋文明学科		5	1	4	1	1	0	0	10	2	0	9		4	
	環境社会学科		6	0	1	0	3	0	0	10	0	0	9		3	
	海洋地球科学科		10	0	2	0	2	0	0	14	0	0	8		9	

海洋学部	海洋建設工学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28.5	1			
	環境情報工学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			
	船舶海洋工学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			
	海洋資源学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			
	海洋科学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	2		
	水産学科	生物生産学専攻	4	0	5	0	1	0	0	0	10	0		0	10	6	
		食品科学専攻	6	1	0	0	0	0	0	0	6	1		0		2	
	水産学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0		
	海洋生物学科		5	0	2	0	3	0	0	0	10	0		0	9	6	
	航海工学科	航海学専攻	3	1	1	0	2	0	0	0	6	1		0	8	2	
		海洋機械工学専攻	3	0	3	0	0	0	0	0	6	0		0		8	
	航海学科	航海専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	
		国際物流専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	
	海洋フロンティア教育センター		1	0	0	0	2	0	0	0	3	0		0		10	
海洋学部 計			43	3	18	1	14	0	0	0	75	4	0	53	53		
生物理工学部	生物工学科		1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	32.4	1		
	海洋生物科学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		3		
	生体機能科学科		1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0		0		
生物理工学部 計			2	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0		4		

生物学部	生物学科	5	0	3	0	1	0	0	0	9	0	0	8	32.4	11	
	海洋生物科学科	6	0	0	0	2	0	0	0	8	0	0	8		4	
	生物学部 計	11	0	3	0	3	0	0	0	17	0	0	16		15	
農学部	応用植物科学科	6	1	4	0	0	0	0	0	10	1	0	8	37.2	7	
	応用動物科学科	5	0	2	0	1	0	1	0	9	0	0	8		3	
	バイオサイエンス学科	5	0	3	0	1	0	0	0	9	0	0	8		3	
農学部 計		16	1	9	0	2	0	1	0	28	1	0	24		13	
体育学部	体育学科	9	0	3	0	0	0	0	0	12	0	0	9	32.3	5	
	競技スポーツ学科	7	0	5	0	5	1	1	0	18	1	0	10		9	
	武道学科	6	0	2	0	3	0	0	0	11	0	0	8		8	
	生涯スポーツ学科	5	0	4	0	2	1	0	0	11	1	0	9		4	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科	5	0	1	0	2	0	0	0	8	0	0	8		0	
	一般体育研究室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			35	湘南：17 清水：10 高輪：6 熊本：1 阿蘇：1
体育学部 計		32	0	15	0	12	2	1	0	60	2	0	44		61	
医学部	医学科	92	0	105	1	199	2	431	2	827	5	0	140	0.8	168	
医学部 計		92	0	105	1	199	2	431	2	827	5	0	140		168	
健康科学部	看護学科	7	0	12	0	12	1	2	0	33	1	0	12	13.4	49	
	社会福祉学科	8	1	8	0	4	0	1	1	21	2	0	14		22	
健康科学部 計		15	1	20	0	16	1	3	1	54	3	0	26			71
(その他の学部教育担当組織)																
チャレンジセンター		4	1	0	0	4	0	0	0	8	1	0			5	
チャレンジセンター 計		4	1	0	0	4	0	0	0	8	1	0			5	
総合教育センター		10	0	10	0	0	0	0	0	20	0	0			15	湘南：6 清水：2 高輪：3 熊本：1 札幌：3
総合教育センター 計		10	0	10	0	0	0	0	0	20	0	0			15	
外国語教育センター		10	0	25	0	27	18	0	0	62	18	0			222	湘南：148 清水：29 高輪：15 熊本：12 阿蘇：4 札幌：14
外国語教育センター 計		10	0	25	0	27	18	0	0	62	18	0			222	
国際教育センター		7	1	4	1	1	0	1	1	13	3	0			25	湘南：24 熊本：1
国際教育センター 計		7	1	4	1	1	0	1	1	13	3	0			25	

情報教育センター	4	1	4	0	4	1	0	0	12	2	0			19	
情報教育センター 計	4	1	4	0	4	1	0	0	12	2	0			19	

課程資格教育センター	7	4	3	0	5	0	0	0	15	4	0			55	湘南：32 清水：13 熊本：2 阿蘇：4 札幌：4
課程資格教育センター 計	7	4	3	0	5	0	0	0	15	4	0			55	
高輪教養教育センター	4	0	4	0	3	1	0	0	11	1	0			0	
高輪教養教育センター 計	4	0	4	0	3	1	0	0	11	1	0			0	
清水教養教育センター	14	0	9	0	5	3	0	0	28	3	0			0	
清水教養教育センター 計	14	0	9	0	5	3	0	0	28	3	0			0	
熊本教養教育センター	9	0	4	0	4	0	0	0	17	0	0			0	
熊本教養教育センター 計	9	0	4	0	4	0	0	0	17	0	0			0	
阿蘇教養教育センター	0	0	4	0	5	2	0	0	9	2	0			0	
阿蘇教養教育センター 計	0	0	4	0	5	2	0	0	9	2	0			0	
札幌教養教育センター	8	2	4	0	2	0	0	0	14	2	0			0	
札幌教養教育センター 計	8	2	4	0	2	0	0	0	14	2	0			0	
創造科学技術研究機構	0	0	6	6	2	2	0	0	8	8	0			0	
創造科学技術研究機構 計	0	0	6	6	2	2	0	0	8	8	0			0	
社会連携イノベーションセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	
社会連携イノベーションセンター 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	
文明研究所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	
文明研究所 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	
海洋研究所	2	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0			0	
海洋研究所 計	2	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0			0	
総合医学研究所	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0			0	
総合医学研究所 計	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0			0	
糖鎖科学研究所	4	2	1	1	0	0	0	0	5	3	0			0	
糖鎖科学研究所 計	4	2	1	1	0	0	0	0	5	3	0			0	
教育研究所	4	1	2	0	0	0	1	1	7	2	0			0	
教育研究所 計	4	1	2	0	0	0	1	1	7	2	0			0	
スポーツ医科学研究所	3	1	0	0	1	1	0	0	4	2	0			0	
スポーツ医科学研究所 計	3	1	0	0	1	1	0	0	4	2	0			0	
総合農学研究所	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0			0	

総合農学研究所 計	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0			0	
-----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	---	--

沖縄地域研究センター	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0			0	
沖縄地域研究センター 計	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0			0	
総合科学技術研究所	3	1	1	0	0	0	0	0	4	1	0			0	
総合科学技術研究所 計	3	1	1	0	0	0	0	0	4	1	0			0	
情報技術センター	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0			0	
情報技術センター 計	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0			0	
乗船実習課程	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			0	
乗船実習課程 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			0	
別科 日本語研修課程	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			0	
別科 日本語研修課程 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			0	
大学全体の収容定員に応じ 定める専任教員数												214			
合 計	680	56	376	11	378	35	447	8	1,881	110	0	750		1,285	

大学基準協会〔注〕

- 1 「専任教員数」については、（表19）のうち、学部教育を担当する専任教員について作表してください。
- 2 教養教育科目、外国語科目、保健体育科目、教職科目等の学部教育を担当する独立の組織がある場合には、「（その他の学部教育担当組織）」欄に、その名称を記載し、専任教員数を記入してください。
- 3 「専任教員数」欄には、大学院研究科等の専任で、その研究科の基礎となる学部・学科等においても専任として授業を担当している教員数も含めて記入してください。その場合、（表19-3）及び（表19-4）の専任教員が、本表においても専任教員に算入されます。
たとえば、大学院研究科に専任教員が配置され、学部教育が専ら研究科の専任教員によって行われている場合がこの典型的な例です。
- 4 教育組織と教員組織が異なる場合も、大学設置基準における必要専任教員数に留意して、学部教育担当専任教員数を適切に記入してください。
- 5 当該学部・学科の専任であっても、大学設置基準第11条にいう「授業を担当しない教員」については、専任教員数には含めないでください。
- 6 「大学の教員等の任期に関する法律」に基づく任期制教員を除き、特任教授、客員教授など任用期間のある教員については、専任者（研究条件等において専任教員と同等の者）のみを「専任教員数」欄の「教授」「准教授」「講師」「助教」の該当する欄（左側）に含めて記入するとともに、その数を「特任等（内数）」欄に内数で示してください。専任者以外の特任者等については「兼任教員数」欄に含めて記入してください。
- 7 「専任教員数」欄については、本表内では1人の専任教員を複数の組織に重複記入しないでください。
- 8 「兼任教員数」欄には、学外からのいわゆる非常勤教員数を記入してください。併設短期大学からの兼務者も「兼任教員数」の欄に含めてください。
なお、国立大学所属教員については、「兼任」「兼任」を共に「併任」としている場合もありますが、学外からの併任者は「兼任教員数」欄に記入してください。
同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合は、それぞれ記入してください（重複可）。大学の状況によっては、兼任教員数の欄は学科ごとではなく学部全体で記述しても結構です。
- 9 「設置基準上必要専任教員数」欄には、大学設置基準別表第一、第二をもとに算出した数値を記入してください。同表に基づかない算出方法により設置認可を得ている場合にはその数値を記入するとともに備考欄にその旨を記述してください。
- 10 「助手」欄には、大学院研究科等の専任で学部の業務にも従事している助手数も含めて記入してください。
- 11 専任教務補助員（例えば、いわゆる副手、実験補助員等）、ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

東海大学〔注〕

- 1 教養教育センター兼務の教員については、本務所属ではなく、実際に業務を行っている兼務先で算出してください。
- 2 大学基準協会〔注〕6にある「専任者」の定義は、①研究室がある ②研究費が支給されている ③教授会に出席できる、この3項目が揃っていることが条件となります。
- 3 特任教員第1種・第2種・第3種については、「専任教員数」の該当する欄に含めて記入するとともに、その数を「特任等（内数）」欄に記入し、それ以外の特任教員第4種・第5種については「任期制教員」として取り扱うことを原則とします。ただし、特任教員第4種・第5種がいる組織については、その総数を備考欄に記入してください。
- 4 本務所属教員がいない組織（例：研究科、研究所）については、在籍0名で記入願います。
- 5 非常勤教員のうち教養教育センター兼務の教員については、兼務発令がないので、本務所属でカウントの上、備考欄に兼務先校舎の内訳を記入してください。

データについて〔注〕

- 1 東海大学教育補助学生規程により、T Aは原則として本学大学院に在籍する学生のうちから選考されるため、19-3「大学院研究科の教員組織（専門職大学院は除く）」及び表19-4「専門職大学院の教員組織」に記載する。
- 2 総合経営学部及び経営学部の「専任教員 1 人あたりの在籍学生数（表14（B）／計（A）」は、学部学科の改組改編が行われていることから、「総合経営学部＋経営学部の在籍学生数（表14（B））／総合経営学部＋経営学部の専任教員数（計（A））」で算出している。
- 3 国際文化学部及び芸術工学部の「専任教員 1 人あたりの在籍学生数（表14（B）／計（A）」は、学部学科の改組改編が行われていることから、「国際文化学部＋芸術工学部の在籍学生数（表14（B））／国際文化学部＋芸術工学部の専任教員数（計（A））」で算出している。
- 4 産業工学部及び基盤工学部の「専任教員 1 人あたりの在籍学生数（表14（B）／計（A））」は、学部学科の改組改編が行われていることから、「産業工学部＋基盤工学部の在籍学生数（表14（B））／産業工学部＋基盤工学部の専任教員数（計（A））」で算出している。
- 5 生物理工学部及び生物学部の「専任教員 1 人あたりの在籍学生数（表14（B）／計（A））」は、学部学科の改組改編が行われていることから、「生物理工学部＋生物学部の在籍学生数（表14（B））／生物理工学部＋生物学部の専任教員数（計（A））」で算出している。

提言に対する改善報告書

大学名称 東海大学 (評価申請年度 2010 年度)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	6 施設・設備
	指摘事項	1) 旧耐震基準の下で建設されている建物について、耐震診断・補強計画が策定されているが、現在、耐震診断が未実施である建物が多く、中には 2014 (平成 26) 年度に耐震診断を予定している建物もあるため、早期に耐震対策を進めることが望まれる。
	評価当時の状況	<p>項目番号 220)</p> <p><u>大学・学部、大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性</u></p> <p>本学は、2008 年 4 月より東海大学、九州東海大学、北海道東海大学が統合し、専門職大学院 2 研究科、大学院 21 研究科 50 専攻および、20 学部 87 学科専攻課程を擁する総合大学である。</p> <p>所在地は 1 都 1 道 3 県にまたがり、湘南校舎（神奈川県平塚市）、代々木校舎（東京都渋谷区）、高輪校舎（東京都港区）、沼津校舎（静岡県沼津市）、清水校舎（静岡県静岡市）、伊勢原校舎（神奈川県伊勢原市）、熊本校舎（熊本県熊本市）、阿蘇校舎（熊本県阿蘇郡）、札幌校舎（北海道札幌市）、旭川校舎（北海道旭川市）の 10 校舎が設置されている。また、医学部付属の病院を神奈川県伊勢原市（804 床）、同中郡大磯町（358 床）、東京都渋谷区（131 床）、同八王子市（500 床）に設置し、医学教育・研究・診療にあたっている。</p> <p>校地・校舎面積は、校地 2,735,616.0 m²、校舎 690,068.0 m²、大学院生を含む収容定員 1 人あたりの校地面積は 89.7 m²、校舎面積は 22.6 m²</p>

	<p>である。校地・校舎とも大学設置基準第 34 条に規定されている「校地は、教育にふさわしい環境を持ち、校舎の敷地には、学生が休息その他に利用するのに適当な空地を有するものとする」との条件（校地 291,848.00 m²、校舎 291,300 m²）を十分に満たしている。各校舎の校地面積および延床面積は表 1 の通りである。</p> <p>また、群馬県嬭恋村に研修宿泊用建物や多目的グラウンドなどを備えた、定員 493 名の嬭恋高原研修センター、山梨県山中湖村に宿泊室とセミナールーム等を備えた、定員 90 名の山中湖セミナーハウス等の教育・研修施設を有している。</p> <p>なお、学園環境の整備と施設設備の充実施策は、東海大学キャンパス利用計画委員会にて審議のうえ、方針を決定している。委員会は、企画・キャンパス連携担当の副学長が委員長を務め、学長室長、研究支援・知的財産本部長、事務部長、清水事務部長、九州事務部長、北海道事務部長、教務部長、委員長が指名した学部長（2～3名）、ファシリティ課長の委員構成となっている。</p> <p>各校舎の特徴および実情については以下に記す。</p>																																				
	<p>表 1 校舎別校地面積・延床面積</p> <table><tr><th>校舎</th><th>校地面積</th><th>延床面積</th><th>校舎</th><th>校地面積</th><th>延床面積</th></tr><tr><td>湘南校舎</td><td>508,074.9 m²</td><td>267,849.8 m²</td><td>伊勢原校舎</td><td>118,828.5 m²</td><td>172,504.0 m²</td></tr><tr><td>代々木校舎</td><td>11,014.1 m²</td><td>20,955.1 m²</td><td>熊本校舎</td><td>86,322.9 m²</td><td>42,556.1 m²</td></tr><tr><td>高輪校舎</td><td>10,040.3 m²</td><td>13,371.7 m²</td><td>阿蘇校舎</td><td>748,393.4 m²</td><td>33,531.3 m²</td></tr><tr><td>沼津校舎</td><td>243,149.0 m²</td><td>27,844.1 m²</td><td>札幌校舎</td><td>483,953.0 m²</td><td>28,911.9 m²</td></tr><tr><td>清水校舎</td><td>177,671.9 m²</td><td>56,151.7 m²</td><td>旭川校舎</td><td>348,168.0 m²</td><td>20,098.0 m²</td></tr></table>	校舎	校地面積	延床面積	校舎	校地面積	延床面積	湘南校舎	508,074.9 m ²	267,849.8 m ²	伊勢原校舎	118,828.5 m ²	172,504.0 m ²	代々木校舎	11,014.1 m ²	20,955.1 m ²	熊本校舎	86,322.9 m ²	42,556.1 m ²	高輪校舎	10,040.3 m ²	13,371.7 m ²	阿蘇校舎	748,393.4 m ²	33,531.3 m ²	沼津校舎	243,149.0 m ²	27,844.1 m ²	札幌校舎	483,953.0 m ²	28,911.9 m ²	清水校舎	177,671.9 m ²	56,151.7 m ²	旭川校舎	348,168.0 m ²	20,098.0 m ²
校舎	校地面積	延床面積	校舎	校地面積	延床面積																																
湘南校舎	508,074.9 m ²	267,849.8 m ²	伊勢原校舎	118,828.5 m ²	172,504.0 m ²																																
代々木校舎	11,014.1 m ²	20,955.1 m ²	熊本校舎	86,322.9 m ²	42,556.1 m ²																																
高輪校舎	10,040.3 m ²	13,371.7 m ²	阿蘇校舎	748,393.4 m ²	33,531.3 m ²																																
沼津校舎	243,149.0 m ²	27,844.1 m ²	札幌校舎	483,953.0 m ²	28,911.9 m ²																																
清水校舎	177,671.9 m ²	56,151.7 m ²	旭川校舎	348,168.0 m ²	20,098.0 m ²																																

	<p>〔湘南校舎〕</p> <p>文学部、政治経済学部、法学部、教養学部、理学部、情報理工学部、工学部、体育学部および、大学院総合理工学研究科（博士課程後期）、地球環境科学研究科（博士課程後期）、生物科学研究科（博士課程後期）、文学研究科（博士課程）、政治学研究科（博士課程）、経済学研究科（博士課程）、法学研究科（博士課程）、人間環境学研究科（修士課程）、芸術学研究科（修士課程）、理学研究科（修士課程）、工学研究科（修士課程）、体育学研究科（修士課程）が設置されている。</p> <p>学部（大学院研究科）各々の教育・研究施設占有面積および、全学部または複数学部が共用する施設の面積は表 2 のとおりであり、用途・目的に応じて整備されている。</p> <p>現在、2010 年 4 月の観光学部および工学部医学生体工学科の設置に向けて、教室および研究室等を整備している。</p> <p>さらに、1981 年以前に建設され、耐震補強が必要と診断された建物 28 棟について、年次計画に基づき補強工事を実施している。既に補強工事を終了した建物は 3 棟、2009 年度工事建物は 1 棟である</p> <p>2008 年度から進めてきた“他地点間 HD（High Definition）テレビ会議システム”は、8-401 教室と熊本校舎、阿蘇校舎との間で開設している。本システムは、授業の他にも講演会、研究会等において高い頻度で利用されており、その他の校舎間にも、財務状況を勘案しながら拡大していく。なお、旧来型のテレビ会議システムは全校舎に設置されている。</p> <p>また、教育研究の発展のために欠かすことのできない施設・設備である図書館の状況については、「11. 図書・電子媒体」の項にて詳述するが、蔵書量の増大から収蔵スペースが限界に達しており、抜本的な対策を検討すべきところである。しかし、現時点で具体的な方向性は定まってい</p>
--	--

		<p>ない。</p> <p>表 2 湘南校舎教育・研究施設面積</p> <p>学部・大学院施設 面積 共用施設 面積</p> <p>文学部 5,329.6 m² 講義演習室 37,271.5 m²</p> <p>政治経済学部 2,340.3 m² 実験実習室 47,381.0 m²</p> <p>法学部 2,266.8 m² 図書館 11,439.1 m²</p> <p>教養学部 6,911.9 m² 屋内体育施設 12,700.0 m²</p> <p>体育学部 2,747.3 m² 情報処理施設 5,873.8 m²</p> <p>理学部 8,264.5 m² 講堂 830.0 m²</p> <p>情報理工学部 10,815.7 m² 課外活動施設 5,632.2 m²</p> <p>工学部 23,450.1 m²</p> <p>〔代々木校舎〕</p> <p>情報デザイン工学部と専門職大学院実務法学研究科が設置されている。それぞれの占有面積は、情報デザイン工学部が 11,053.7 m²、実務法学研究科が 2,000.5 m²である。教室・実習室等の施設・設備については、在籍人員も多くないことから現状で十分であると考えている。</p> <p>〔高輪校舎〕</p> <p>情報通信学部と専門職大学院組込み技術研究科が設置されている。現在、第 1 期工事として 2010 年 3 月竣工を目指し、研究室、実習室、実験室、約 60 名収容可能な中講義室、図書館等を擁する校舎（延べ床面積 12,025.7 m²）を建設中である。さらに、第 2 期工事として 2011 年 9 月竣工を目指し、既存建物の一部を解体し、建物延床面積 2,304.0 m²の約 500 名収容可能な大講義室・実習室等の新築を予定している。</p> <p>〔沼津校舎〕</p> <p>開発工学部と大学院開発工学研究科（修士課程）が設置されている。講義演習室（3,694.8 m²）、実験実習室（5,550.4 m²）、図書館（1,590.6 m²）、屋内体育施設（3,830.9 m²）、情報処理施設（482.4 m²）等が用途・目的に応じ整備されている。現在、優先順位と費用対効果の判断に基づいて、教育研究装置・器材の整備を図っている。また、</p>
--	--	--

	<p>1981 年以前に建設された建物 3 棟の耐震診断を実施し、耐震補強工事を予定している。</p> <p>〔清水校舎〕</p> <p>海洋学部と大学院海洋学研究科（修士課程）が設置されている。講義演習室（4,415.0 m²）、実験実習室（16,963.0 m²）、図書館（2,839.6 m²）、屋内体育施設（3,774.9 m²）、情報処理施設（375.3 m²）、課外活動施設（2,029.1 m²）等が用途・目的に応じ整備されている。</p> <p>2008 年度には、一部研究室の整備工事等を行うことにより、それまで複数学科の研究室が混在していた不合理性を解消し、学科ごとに研究室を配置した。</p> <p>また、学生・教職員の安全確保の為、19 棟の耐震工事を必要としているが、年次計画に基づいて 3 棟を完了した。2009 年度にはさらに 1 棟の耐震補強工事行うべく計画中である。</p> <p>海洋学部の海洋調査研究船である望星丸（1,777 トン）及び小型舟艇 2 隻（南十字・北斗）は、航海の安全確保のための整備が必須であり、望星丸については船体整備 5 カ年計画に沿って実行している。また、船舶安全法上の中間検査を受検するため、継続的な船体整備に努めている。更に、年々、変化・増加する国際安全規則にも対応している。小型舟艇（南十字・北斗）も毎年、船体整備を実施している。</p> <p>〔伊勢原校舎〕</p> <p>医学部、健康科学部と大学院医学研究科（博士課程一貫／修士課程）、健康科学研究科（修士課程）及び付属病院（本院）が設置されている。教育・研究施設の占有面積は、38,041.2 m²である。講義演習室（5,287.0 m²）、実験実習室（14,865.5 m²）、図書館（2,580.7 m²）、屋内体育施設（2,446.6 m²）等が用途・目的に応じ整備されている。</p> <p>各教室において、プロジェクター、PC を活用できる環境設備の整備を進めており、講義教室への設置は完了している。</p>
--	--

	<p>また、医学部（1号館）の実験室は近年老朽化が目立ってきたが、その対策は近い将来の学部棟建て替えを勘案し、最低限の修繕に留めている。健康科学部の実習室、演習室の設備については更新を計画的に進めている。</p> <p>〔熊本校舎〕</p> <p>総合経営学部、産業工学部と大学院産業工学研究科（修士課程）が設置されている。教育・研究施設の占有面積は、38,949.4 m²である。講義演習室（6,390.0 m²）、実験実習室（9,108.9 m²）、図書館（1,411.7 m²）、屋内体育施（1,571.9 m²）等が用途・目的に応じ整備されている。現在、建築後20年以上を経過している建物も多いため、計画的な改修、更新工事を実施する必要がある。</p> <p>〔阿蘇校舎〕</p> <p>農学部と大学院農学研究科（修士課程）が設置されている。講義演習室（3,645.7 m²）、実験実習室（11,417.7 m²）、図書館（828.4 m²）、屋内体育施設（2,677.3 m²）等が用途・目的に応じ整備されている。更に2009年度には、研究室、微生物保管庫等、主に植物に関わる実験・研究施設である3号館が竣工した。</p> <p>ただし、普通教室や実験室については整備されているが、大学院生の研究室と実験室は共同利用となっており、完備されている状況にはない。また、1号館・体育館などは築後30年以上が経過して老朽化が進んでおり、計画的な改修・更新が必要になっている。なお、浄化槽設備は法令順守の観点から年次計画により改修工事を実施している。</p> <p>〔札幌校舎〕</p> <p>国際文化学部、生物理工学部と、大学院国際地域学研究科（修士課程）、理工学研究科（修士課程）が設置されている。教育・研究施設の占有面積は、8,599.8 m²である。</p> <p>講義演習室（4,071.8 m²）、実験実習室（5,066.3</p>
--	---

	<p>m²）、図書館（848.7 m²）、屋内体育施設（2,684.4 m²）等が用途・目的に応じ整備されている。</p> <p>現在、建築後 25 年以上を経過している建物が多いため、年次計画に基づき改修工事を実施している。</p> <p>〔旭川校舎〕</p> <p>芸術工学部と、大学院芸術工学研究科（修士課程）が設置されている。講義演習室（2,011.5 m²）、実験実習室（4,939.5 m²）、図書館（707.1 m²）、屋内体育施設（4,587.4 m²）等が用途・目的に応じ整備されている。</p> <p>研究室は、研究棟に 1 室 20.44 m²の個室が整備されている。また、同じ建物に大学院生室がある。</p>
評価後の改善状況	<p>耐震診断及び耐震補強に関しては、多くの学生が利用する建物から優先的に年次で計画を立案しており、毎年、見直しながら実施している。</p> <p>2010 年において、耐震診断及び耐震補強が実施されていない建物もあったが、各校舎で耐震診断及び耐震補強を実施し、主たる建物では耐震診断及び耐震補強がほぼ終了したが、小規模建物や倉庫として利用している建物が多少残っている。しかし、校舎によっては建替え検討も開始したため人的被害の可能性が少ない建物については、耐震診断及び耐震補強の実施について全体計画により実施の方向性を決めることとしている。</p> <p>【湘南校舎】</p> <p>2 号館及び、3 号館の耐震補強工事については、2011 年度に計画通り補強工事を実施した。</p> <p>11 号館及び、6 号館 A 棟の耐震補強工事については、2012 年度に計画通り補強工事を実施した。</p> <p>武道館の耐震補強工事については、2015 年度に計画していたが、2013 年度に早期に補強工事を実施した。</p> <p>現在、理工系エリアの新築計画を実施しており、</p>

	<p>18 号館が完成し引続き 19 号館の実施設計を開始する予定である。この 19 号館の計画と平行して湘南校舎全体のマスタープランを計画中であり、マスタープランが完成すれば、その計画にしたがい新築、建替え計画を実施する。</p> <p>【代々木校舎】</p> <p>4 号館の耐震補強工事を計画通りに 2011 年度に実施した。</p> <p>その他、1, 2, 3 号館の耐震診断を計画していたが、渋谷区から災害時帰宅困難者受入れの要望があったことを受け、建替えも考慮した計画を検討することとなったため、耐震診断及び補強工事は、見送ることとした。</p> <p>【清水校舎】</p> <p>4 号館の耐震診断を 2011 年度に、耐震補強工事を 2012 年度に計画していたが、2012 年度に耐震診断を実施した。その結果、ほぼ補強が不要なほど、耐震性能が確保されている建物であった。</p> <p>その他の建物は、低層であり倉庫等の利用で、不特定多数の人が利用する建物でないとともに、清水地区全体として一貫教育を考えた施設整備計画を行なうこととなったため、耐震関連の計画ではなく、建替えを含めた計画を検討することとなった。</p> <p>【伊勢原校舎】</p> <p>1 号館は、現在、建て替えを考えた計画を検討中である。</p> <p>【熊本校舎】</p> <p>本館の耐震診断については、2010 年度に計画し、2011 年度に耐震補強工事を計画していたが、耐震診断、補強工事ともに 1 年遅れで実施した。</p> <p>2 号館の耐震診断は、計画通り 2011 年度に実施したが、補強工事は 2012 年度計画を 2015 年度と</p>
--	--

	<p>した。その他の建物に関しては、低層で小規模なため、利用状況を確認し計画を決定する。</p> <p>【阿蘇校舎】 1 号館の耐震補強工事は、2011 年度に計画していたが 2012 年度に実施した。 体育館の耐震診断については、2012 年度に計画通り実施した。 また、農学基礎教育センターの耐震診断については、2012 年度に計画していたが、バリアフリー工事を優先することになり、耐震診断、補強工事とも延期することとなった。 農学基礎教育センターについては、2014 年度に耐震診断、2015 年度に補強工事を行なうように計画した。 その他、学生部室、第一動物舎、実験実習棟に関しては、利用状況を考慮して建替えも含めて計画を決定する。</p> <p>【札幌校舎】 当初、体育館の耐震関連の計画は、2011 年度に耐震診断を行ない、2012 年度に補強工事を計画していた。耐震診断は、計画通り 2011 年度に実施したが、補強工事に関しては新体育館新築工事を実施することとしたため、体育館の補強工事は 2015 年度に実施することとし、2014 年度に補強設計を行っている。</p> <p>【沼津校舎】 募集停止により、再利用決定時に耐震化を実施する計画であるが、今後の利用方法が未定であるため、現状維持又は、取り壊しとなる。</p> <p>【旭川校舎】 募集停止に伴い、再利用時のために 1 号館、第二実験館、第一実験館及び、総合体育館の耐震診断を計画していたが、建物の利用は行わず取り壊す</p>
--	--

		計画も検討されているため、耐震関連の計画は行なわないこととした。				
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 ＜東海大学耐震診断・補強計画書（全学）＞					
	＜大学基準協会使用欄＞					
	検討所見	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○				
	改善状況に対する評価	1	2	3	4	5

<東海大学耐震診断・補強計画書(全学)>

* 延床面積200㎡以上の建物対象

□ :新耐震以降、補強済、補強不要。 ●——● 耐震診断(実施済) ◆——◆ 耐震補強(実施済)
●.....● 耐震診断(計画中) ◆——◆ 耐震補強(計画中)

校舎	建物名	新築年月日	耐震診断状況	補強状況	延床面積(㎡)	地上階数	～2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016～	備考
札幌	体育館	S44.7.1	未診断	未補強	2,566	2								●	診断完了	◆				2013年度、新体育館建設のため2014年度に補強予定とした
	交流会館	S47.10.30	未診断	未補強	223	2								●	◆				
	1号館	S42.4.20	診断済	補強済	3,163	5	◆	◆												S63年に新耐震基準に基づく構造補強済。
	2号館	S43.5.15	診断済	補強済	8,133	7	◆	◆												同上
	本館	S63.7.31	新耐震	－	11,389	14														
	国際交流会館	H9.3.15	新耐震	－	2,373	4														
	部室	S62.7.20	新耐震	－	296	2														
旭川	1号館	S46.10.31	未診断	未補強	8,405	6								●					募集停止により、再利用決定時に耐震化を実施する予定
	第二実験館	S52.8.10	未診断	未補強	1,708	4									●	◆			同上
	第一実験館	S47.6.20	未診断	未補強	1,160	2										●	◆		同上
	総合体育館	S56.5.20	未診断	未補強	4,587	4											●	◆	同上
	芸術工学研究館	H5.2.25	新耐震	－	1,746	4														
	松前記念図書館	S58.8.10	新耐震	－	1,720	2														
代々木	4号館	S35.6.25	診断済	改修予定	7,919	5							●	◆	補強終了	◆				
	2号館	S33.4.3	未診断	未補強	4,934	5								●	◆				
	3号館	S34.4.20	未診断	未補強	1,617	3										●	◆		
	1号館	S30.11.12	未診断	未補強	974	3											●	◆	
	5号館	S58.8.4	新耐震	－	4,635	4														

<東海大学耐震診断・補強計画書(全学)>

* 延床面積200㎡以上の建物対象

 :新耐震以降、補強済、補強不要。
 ● 耐震診断(実施済)
 ◆ 耐震補強(実施済)

 ● 耐震診断(計画中)
 ◆ 耐震補強(計画中)

校舎	建物名	新築年月日	耐震診断状況	補強状況	延床面積(㎡)	地上階数	～2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016～	備考
清 水	4号館	S47.10.16	未診断	未補強	2,789	3								●	●	●	●	●	●	診断完了 新棟計画のため、補強計画は中断
	5号館	S41.5.4	未診断	未補強	795	2									●	●	●	●	●	新棟計画のため、補強計画は中断 低層、小規模。
	6号館	S43.5.7	未診断	未補強	697	2										●	●	●	●	新棟計画のため、補強計画は中断 同上
	部室A	S44.10.31	未診断	未補強	341	2											●	●	●	利用頻度が低い。
	部室B	S44.10.31	未診断	未補強	395	2											●	●	●	同上
	臨海実験所管理棟	S55.7.18	未診断	未補強	566	3												●	●	低層、小規模。
	7号館	S41.6.7	未診断	未補強	780	3													●	将来、倉庫として使用予定。
	第一水理実験棟	S44.10.30	未診断	未補強	756	1													●	平屋。使用者が限られる。
	第二水理実験棟	S45.11.20	未診断	未補強	658	1													●	同上
	第三水理実験棟	S45.12.20	未診断	未補強	203	1													●	同上
	総合資料センター1・5号館	S46.9.28	未診断	未補強	2,050	3													●	倉庫として使用。
	総合資料センター2号館	S38.3.30	未診断	未補強	1,320	3													●	同上
	総合資料センター2号館	S35.4.15	未診断	未補強	960	3													●	同上
	総合資料センター3号館	S47.3.15	未診断	未補強	1,079	3													●	同上
	総合資料センター4号館	S45.12.25	未診断	未補強	887	3													●	同上
	総合資料センター雨天投球練習場	S54.1.26	未診断	未補強	355	1													●	平屋。使用者が限られる。
	3号館	S46.9.25	診断済	補強済	4,940	5	●	●	●	●										
	2号館	S43.4.8	診断済	補強済	4,940	5	●	●	●	●	●									
	1号館	S40.4.10	診断済	補強済	2,701	4				●	●	●								
	8号館	S62.3.15	新耐震	－	15,763	4														
	8号館(カ7-)	S62.3.15	新耐震	－	475	4														
	9号館	H7.2.22	新耐震	－	2,572	4														
	体育館	H4.9.27	新耐震	－	3,467	3														
	海洋研究所先端技術センター	H9.2.28	新耐震	－	1,696	2														
	高圧無響水槽実験棟	S58.3.7	新耐震	－	237	2														
	総合資料センター6号館	S58.3.22	新耐震	－	741	3														
	総合資料センター部室	H2.5.29	新耐震	－	677	2														
	総合資料センター松前記念望星塾	H5.2.28	新耐震	－	1,672	4														

<東海大学耐震診断・補強計画書(全学)>

* 延床面積200㎡以上の建物対象

□ :新耐震以降、補強済、補強不要。 ●——● 耐震診断(実施済) ◆——◆ 耐震補強(実施済)
●- - - - ● 耐震診断(計画中) ◆- - - - ◆ 耐震補強(計画中)

校舎	建物名	新築年月日	耐震診断状況	補強状況	延床面積(㎡)	地上階数	～2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016～	備考
阿 蘇	1号館	S48.4.9	未診断	未補強	6,961	3							●——●	●——●	●——●					
	体育館・食堂	S48.11.26	未診断	未補強	4,305	3							●- - - - ●	●——●	●——●	●——●	●——●	●——●	●——●	●——●
	農学基礎教育センター	S49.8.10	未診断	未補強	2,995	3								●——●	●——●	●——●	●——●	●——●	●——●	
	学生部室	S50.12.20	未診断	未補強	202	2													●- - - - ●	低層、小規模。
	第一動物舎	S55.7.4	未診断	未補強	677	2													●- - - - ●	同上
	実験実習棟	S55.7.4	未診断	未補強	692	1													●- - - - ●	同上
	バイオテクノロジーセンター	H10.8.5	新耐震	－	4,929	5														
	実験館B棟	S51.3.9	未診断	取壊予定	4,269	4														
	阿蘇望星学塾	S63.10.20	新耐震	－	1,744	4														
	総合農学実習センター	S62.11.30	新耐震	－	922	2														
	農産加工場	S57.7.15	新耐震	－	811	2														
	肉用牛舎	S59.11.10	新耐震	－	617	2														
	農機具庫	S57.3.31	新耐震	－	559	1														
	観葉植物温室	S62.11.30	新耐震	－	436	1														
	実習温室棟	H7.12.19	新耐震	－	306	1														
	温室管理棟	S58.8.29	新耐震	－	237	1														
	実験用中家畜舎	H7.3.27	新耐震	－	231	1														
熊 本	本館	S55.4.1	未診断	未補強	8,489	7							●- - - - ●	●——●	●——●					診断結果により検討。
	2号館	S47.3.11	未診断	未補強	3,405	5							●- - - - ●	●——●	●——●	●——●				同上
	樺会館	S56.2.5	未診断	未補強	1,060	2								●——●	●——●	●——●	●——●	●——●	●——●	同上
	1号館	S40.3.28	未診断	未補強	846	3									●——●	●——●	●——●	●——●	●——●	同上
	4号館	S54.5.21	未診断	未補強	428	1										●——●	●——●	●——●	●——●	低層・小規模。
	7号館	S54.5.21	未診断	未補強	596	1											●——●	●——●	●——●	同上
	5号館	S54.5.21	未診断	未補強	402	1										●——●	●——●	●——●	●——●	同上
	立田山分室	S22.6.30			395	1														耐震補強の必要なし。
	新1号館	S61.9.21	新耐震	－	10,734	7														
	8号館	H3.9.21	新耐震	－	7,539	7														
	3号館	S57.4.1	新耐震	－	4,756	7														
	体育館	S58.9.30	新耐震	－	1,855	1														
	自動車整備工場	H2.8.20	新耐震	－	803	1														
	学生部室	H10.4.10	新耐震	－	648	2														
	水理実験室棟	S61.12.1	新耐震	－	365	2														

<東海大学耐震診断・補強計画書(全学)>



* 延床面積200㎡以上の建物対象



□ :新耐震以降、補強済、補強不要。 ●——● 耐震診断(実施済) ◆——◆ 耐震補強(実施済)
●- - -● 耐震診断(計画中) ◆- - -◆ 耐震補強(計画中)

校舎	建物名	新築年月日	耐震診断状況	補強状況	延床面積 (㎡)	地上 階数	～2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016～	備考	
湘 南	2号館	S39.12.12	診断済	未補強	12,595	4				●——●				●——● 補強完了							
	3号館	S41.11.30	診断済	未補強	11,869	15				●——●				●——● 補強完了							
	11号館	S56.4.8	診断済	未補強	17,187	6				●——●					●——● 補強完了						
	6号館A棟	S45.5.8	診断済	未補強	7,520	4				●——●					●——● 補強完了						
	9号館	S44.8.31	診断済	未補強	10,127	4				●——●					18号館、19号館の新築により解体を含め検討中						
	5号館	S43.4.17	診断済	未補強	8,987	3	●——●										◆——◆				
	4号館	S42.12.21	診断済	未補強	10,808	5	●——●											◆——◆	◆——◆		
	武道館	S41.10.30	診断済	未補強	3,379	1				●——●					設計完了	補強予定			◆——◆	◆——◆	
	研究実験館B	S40.6.30	診断済	未補強	2,204	2				●——●						18号館、19号館の新築により解体を含め検討中					低層・小規模。
	研究実験館C	S41.2.28	診断済	未補強	2,086	2				●——●						18号館、20号館の新築により解体を含め検討中					同上
	研究実験館F	S42.10.12	診断済	未補強	2,098	2				●——●						18号館、21号館の新築により解体を含め検討中					同上
	研究実験館G	S43.4.11	診断済	未補強	2,110	2				●——●						18号館、22号館の新築により解体を含め検討中					同上
	L館	S42.2.1	診断済	未補強	3,998	4				●——●										◆——◆	将来、建替計画検討中。
	国際会館	S43.3.28	診断済	未補強	2,138	4				●——●										◆——◆	同上
	J館	S39.2.28	診断済	未補強	4,705	4				●——●										◆——◆	使用者に限られる。
	部室第2棟(文連)	S42.3.31	未診断	未補強	445	2								●- - -●							
	部室第1棟(文連)	S42.10.12	未診断	未補強	445	2									●- - -●						
	部室第6棟(体育会)	S43.4.17	未診断	未補強	336	2										●- - -●					
	部室第7棟(体育会)	S54.8.20	未診断	未補強	358	2											●- - -●				
	国際友好会館	S55.7.28	未診断	未補強	2,089	5												●- - -●			
	柔道部望星学塾	S54.4.30	未診断	未補強	677	2													●- - -●	●- - -●	
	野球望星学塾	S51.1.22	未診断	未補強	1,248	3													●- - -●	●- - -●	
	チャレンジセンターものづくり館	S42.3.31	診断済	未補強	1,336	2				●——●					●——●	●——●					低層・小規模。
	第二実験実習棟	S41.4.16	未診断	未補強	1,618	3														●- - -●	将来計画検討中。
	第一実験実習棟	S42.1.10	未診断	未補強	2,198	2														●- - -●	同上
	第六実験実習棟	S43.4.4	診断済	耐震性能有	2,280	2								●——●	●——●						Is値>0.6のため、優先順位が低い。
	6号館C棟	S45.9.14	診断済	耐震性能有	1,934	2				●——●											同上
	1号館	S38.5.8	診断済	補強済	14,566	8				●——●		◆——◆		◆——◆							
	研究実験館E	S41.4.4	診断済	補強済	2,086	2				●——●		◆——◆		◆——◆							観光学部設置に伴う改修に伴い、耐震補強実施。
	湘南クラブハウス	S42.5.25	診断済	補強済	1,088	3				●——●	◆——◆	◆——◆									全面改修に伴い、耐震補強実施。
	6号館B棟-1	S46.1.11	診断済	耐震性能有	1,690	2				●——●											
	6号館B棟-2	S46.1.11	診断済	耐震性能有	1,021	1				●——●											
	7号館	S44.5.1	診断済	補強済	3,429	3	◆——◆	◆——◆													
	10号館	S45.5.8	診断済	補強済	5,425	3	◆——◆	◆——◆	◆——◆												
	8号館	S45.1.21	診断済	補強済	8,226	2	◆——◆	◆——◆	◆——◆												1995年度補強済。

<東海大学耐震診断・補強計画書(全学)>

* 延床面積200㎡以上の建物対象

☐ :新耐震以降、補強済、補強不要。
  耐震診断(実施済)
  耐震補強(実施済)

 耐震診断(計画中)
  耐震補強(計画中)

校舎	建物名	新 築年月日	耐震診断 状況	補強 状況	延床面積 (㎡)	地上 階数	～2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016～	備考
湘 南	総合体育館	S43. 8. 7	診断済	耐震性能有	6, 503	1														
	12号館	S61. 6. 30	新耐震	－	23, 380	12														
	14号館	H4. 8. 31	新耐震	－	16, 897	6														
	17号館	H12. 7. 12	新耐震	－	16, 509	6														
	15号館	H7. 1. 24	新耐震	－	15, 388	9														
	13号館	S63. 3. 15	新耐震	－	8, 262	2														
	16号館	H9. 8. 29	新耐震	－	6, 772	5														
	COM SQUARE	H14. 1. 28	新耐震	－	2, 941	2														
	松前記念館	S58. 10. 26	新耐震	－	2, 922	2														
	未来科学技術共同研究センター	H14. 3. 19	新耐震	－	1, 709	3														
	体操体育館	S58. 5. 10	新耐震	－	991	2														
	附属体育館	S59. 3. 30	新耐震	－	965	2														
	室内練習場	H16. 10. 30	新耐震	－	876	1														
	リフレ	H19. 10. 31	新耐震	－	664	1														
	中央防災監視センター・特別高圧受電室	S56. 2. 16	新耐震	－	492	1														
	部室第9棟(共用)	H7. 5. 29	新耐震	－	370	2														
	カフェテラス	H20. 10. 31	新耐震	－	347	1														
	部室第8棟(共用)	S61. 3. 31	新耐震	－	337	2														
	ロケハウス(学生食堂)	H2. 3. 27	新耐震	－	298	1														
	9号館別棟	S58. 3. 31	新耐震	－	243	1														
	グラスマ実験棟	S58. 10. 6	新耐震	－	235	1														

<東海大学耐震診断・補強計画書(全学)>

* 延床面積200㎡以上の建物対象

:新耐震以降、補強済、補強不要。

●————●

耐震診断(実施済)

◆————◆

耐震補強(実施済)

●.....●

耐震診断(計画中)

◆====◆

耐震補強(計画中)

校舎	建物名	新 築年月日	耐震診断 状況	補強 状況	延床面積 (㎡)	地上 階数	～2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016～	備考
沼 津	1号館	S48. 3. 31	診断済	－	5, 504	5	●————●													募集停止により、再利用決定時に耐震化を実施する予定
	2号館	S48. 3. 31	診断済	－	3, 084	4	●————●													同上
	3号館	S49. 3. 31	診断済	－	3, 817	5	●————●													同上
	部室	S50. 1. 13	未診断	－	650	3														同上
	付属便所	S48. 3. 31	未診断	－	392	5														同上
	4号館	H3. 2. 21	新耐震	－	9, 728	5														
	温室G棟	H3. 2. 21	新耐震	－	221	1														
伊勢原	1号館	S49. 10. 31	未診断	－	72, 409	13														建替検討中。

2. 勧告について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	1 学生の受け入れ
	指摘事項	1) 医学部では、入学定員に対する入学者数比率（過去5年間平均）が1.08、収容定員に対する在籍学生数比率が1.07と高い。また、海洋学部では、入学定員に対する入学者数比率（過去5年間平均）が0.74、収容定員に対する在籍学生数比率が0.72と低いので、これらについて是正されたい。
	評価当時の状況	<p>項目番号 112)</p> <p><u>学生収容定員と在籍学生数、(編)入学定員と(編)入学者数の比率の適切性</u></p> <p>学生収容定員に対する在籍学生数の比率は、2009年度では97%、2008年度では99%となっている。また、各学部においては、文部科学省の大学設置認可の上限である収容定員の130%を超過することなく、最大で120%程度となっている。本学は20学部を擁する大規模な総合大学であり多様な学問分野を展開するため、学部間での入学者の偏りが発生している。地域性の問題もあるが、とくに北海道および九州地区に展開している学部収容定員の半数に満たない学部が存在する。旭川に設置している芸術工学部は収容定員の43%、熊本に設置している産業工学部は42%程度の入学生の確保にとどまっている。</p> <p>編入学については、定員を設けて入試を行う医学部、健康科学部の編入学試験と、これ以外の学部で定員を設けずに実施している編入学試験がある。定員を設けて実施している医学部、健康科学部では概ね定員確保ができています。定員を設けていない編入学試験については、出願できる学科が毎年異なることもあり、各学科数名程度の出願となっている。このため、この試験で入学する者が在籍学生に占める割合は定員充足に影響のあるものではない。</p>

		<p>項目番号 113)</p> <p><u>著しい欠員ないし定員超過が恒常的に生じている学部における対応策とその有効性</u></p> <p>定員充足率が3年連続で50%に達しなかった学科については、原則、統廃合することが検討され、2007年度に理事会で決定された。定員の見直しも含め、改組改変を通じた改革により、定員の充足を図ることとしている。</p> <p>この方針に基づき、2008年度に情報デザイン工学部、2009年度に開発工学部、海洋学部海洋建設工学科および海洋学部環境情報工学科の募集停止がなされた。これらの学部学科のうち開発工学部医用生体工学科は工学部に移設された。海洋学部は募集停止された2学科を除いた7学科全体の入学定員充足率が2009年度は79%であり、現在改革案を作成中である。</p> <p>また、芸術工学部（2009年度の入学定員充足率41%）、生物理工学部（2009年度の入学定員充足率59%）、情報理工学部（2009年度の入学定員充足率89%）、総合経営学部（2009年度の入学定員充足率53%）、産業工学部（2009年度の入学定員充足率24%）、農学部（2009年度の入学定員充足率94%）と入学定員の充足が図られていない学部がある。これらの学部に対して、類似学科の統合も踏まえた改革案を検討中である。</p> <p>広報活動としては、2007年度後半より、広報課、アドミッションオフィス、入試事務課を入試センターとして再編して、入学広報課、入試事務課の2課体制にし、さらに2009年度より北海道地区、九州地区、清水地区に入学広報課を新設し、全学的な入試広報活動を実施した。その結果6月・7月・8月・11月のオープンキャンパス参加者数が2007年度12,418人、2008年度14,796人、2009年度15,810人と増加している。</p>
	評価後の改善状況	<p>医学部の入学定員に対する入学者数比率（2010年度から2014年度の平均）が1.05と改善されて</p>

	<p>いる。特に、2012 年度と 2013 年度は 1.04 である。入学定員に対する在籍学生数比率は、2010 年度～2014 年の間 1.06、1.04、1.05、1.02、1.00 と改善されてきている。</p> <p>海洋学部は、入定員に対する入学者数比率は、2010 年度～2014 年度の間 0.84、0.99、1.01、1.02、1.02 と改善されてきている。入学定員に対する在籍学生数比率は、2010 年度～2014 年の間に 0.72、0.70、0.85、0.96、1.01 と改善されてきている。</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等 大学基礎データ表 13.14</p>	
<大学基準協会使用欄>	
検討所見	<p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p>
改善状況に対する評価	<p>1 2 3 4 5</p>

Ⅲ 学生の受け入れ

学部・学科の志願者・合格者・入学者数の推移

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する入学者数の比率(2010～2014年平均)
文学部 (春学期)	文 明 学 科	一般入試	志願者		151	176	303	231	261	
			合格者		92	110	153	106	112	
			入学者(A)		37	40	33	31	28	
			入学定員(B)		32	32	32	32	32	
			A/B*100		115.6	125.0	103.1	96.9	87.5	
		A O 入試	志願者		9	12	8	17	17	
			合格者		9	11	7	17	15	
			入学者(A)		9	11	7	17	15	
			入学定員(B)		7	7	7	7	7	
			A/B*100		128.6	157.1	100.0	242.9	214.3	
		附属校推薦	志願者		21	20	17	14	23	
			合格者		21	20	17	14	23	
			入学者(A)		21	20	17	13	23	
			入学定員(B)		18	18	18	18	18	
			A/B*100		116.7	111.1	94.4	72.2	127.8	
		指定校推薦	志願者		4	3	7	4	6	
			合格者		4	3	7	4	6	
			入学者(A)		4	3	7	4	6	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		2	2	4	5	4	
			合格者		2	2	4	5	4	
			入学者(A)		2	2	4	4	4	
			入学定員(B)		3	3	3	3	3	
			A/B*100		66.7	66.7	133.3	133.3	133.3	
		留学生入試	志願者		0	0	0	0	1	
			合格者		0	0	0	0	0	
			入学者(A)		0	0	0	0	0	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
	学科計	志願者			187	213	339	271	312	120.7
		合格者			128	146	188	146	160	
		入学者(A)			73	76	68	69	76	
		入学定員(B)			60	60	60	60	60	
		A/B*100			121.7	126.7	113.3	115.0	126.7	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部 (春学期)	アジア 文明学科	一般入試	志願者		115	118	241	219	184	
			合格者		65	72	133	116	110	
			入学者(A)		17	16	28	24	20	
			入学定員(B)		32	32	32	32	32	
			A/B*100		53.1	50.0	87.5	75.0	62.5	
		A O入試	志願者		18	13	27	12	14	
			合格者		18	13	21	12	14	
			入学者(A)		18	13	21	12	14	
			入学定員(B)		7	7	7	7	7	
			A/B*100		257.1	185.7	300.0	171.4	200.0	
		附属校推薦	志願者		11	14	8	9	15	
			合格者		11	14	8	9	15	
			入学者(A)		11	14	8	9	15	
			入学定員(B)		18	18	18	18	18	
			A/B*100		61.1	77.8	44.4	50.0	83.3	
		指定校推薦	志願者		2	4	6	4	6	
			合格者		2	4	6	4	6	
			入学者(A)		2	4	6	4	6	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		1	1	1	1	3	
			合格者		1	1	1	1	3	
			入学者(A)		1	1	1	1	3	
			入学定員(B)		3	3	3	3	3	
			A/B*100		33.3	33.3	33.3	33.3	100.0	
		留学生入試	志願者		0	2	0	0	0	
			合格者		0	2	0	0	0	
			入学者(A)		0	2	0	0	0	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		その他 (スポーツ優秀者特 別)	志願者			0	0	1	1	
			合格者			0	0	1	1	
			入学者(A)			0	0	1	1	
			入学定員(B)			0	0	0	0	
			A/B*100			-	-	-	-	
	学科計	志願者			147	152	283	246	223	91.0
		合格者			97	106	169	143	149	
		入学者(A)			49	50	64	51	59	
		入学定員(B)			60	60	60	60	60	
		A/B*100			81.7	83.3	106.7	85.0	98.3	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	ヨーロッパ 文明学科	一般入試	志願者	294	196	400	330	292	114.3	
			合格者	101	110	141	144	142		
			入学者(A)	25	32	34	36	32		
			入学定員(B)	37	37	37	37	37		
			A/B*100	67.6	86.5	91.9	97.3	86.5		
		A O 入試	志願者	21	14	19	15	23		
			合格者	20	13	13	15	13		
			入学者(A)	19	13	13	12	13		
			入学定員(B)	7	7	7	7	7		
			A/B*100	271.4	185.7	185.7	171.4	185.7		
		附属校推薦	志願者	25	26	16	16	28		
			合格者	25	26	16	16	28		
			入学者(A)	25	26	16	16	28		
			入学定員(B)	21	21	21	21	21		
			A/B*100	119.0	123.8	76.2	76.2	133.3		
		指定校推薦	志願者	6	4	6	6	4		
			合格者	6	4	6	6	4		
			入学者(A)	6	4	6	6	4		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
		公募推薦入試	志願者	6	10	11	5	11		
			合格者	6	8	9	5	6		
			入学者(A)	6	8	9	5	6		
			入学定員(B)	5	5	5	5	5		
			A/B*100	120.0	160.0	180.0	100.0	120.0		
		留学生入試	志願者	0	0	0	0	0		
			合格者	0	0	0	0	0		
			入学者(A)	0	0	0	0	0		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
学科計	志願者	352	250	452	372	358				
	合格者	158	161	185	186	193				
	入学者(A)	81	83	78	75	83				
	入学定員(B)	70	70	70	70	70				
	A/B*100	115.7	118.6	111.4	107.1	118.6				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部 (春学期)	アメリカ文明学科	一般入試	志願者		169	189	263	298	176	
			合格者		90	127	161	123	103	
			入学者(A)		40	42	52	35	20	
			入学定員(B)		32	32	32	32	32	
			A/B*100		125.0	131.3	162.5	109.4	62.5	
		A O入試	志願者		8	8	9	10	15	
			合格者		8	6	7	10	12	
			入学者(A)		8	6	7	9	12	
			入学定員(B)		7	7	7	7	7	
			A/B*100		114.3	85.7	100.0	128.6	171.4	
		附属校推薦	志願者		13	8	6	13	25	
			合格者		13	8	6	13	25	
			入学者(A)		13	8	6	13	25	
			入学定員(B)		18	18	18	18	18	
			A/B*100		72.2	44.4	33.3	72.2	138.9	
		指定校推薦	志願者		1	3	2	2	4	
			合格者		1	3	2	2	4	
			入学者(A)		1	3	2	2	4	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		4	2	2	3	1	
			合格者		4	2	2	3	1	
			入学者(A)		4	2	2	3	1	
			入学定員(B)		3	3	3	3	3	
			A/B*100		133.3	66.7	66.7	100.0	33.3	
		留学生入試	志願者		0	0	0	0	0	
			合格者		0	0	0	0	0	
			入学者(A)		0	0	0	0	0	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		その他 (スポーツ優秀者特別)	志願者			0	2	2	0	
			合格者			0	2	2	0	
			入学者(A)			0	2	2	0	
			入学定員(B)			0	0	0	0	
			A/B*100			-	-	-	-	
	学科計	志願者			195	210	284	328	221	108.0
		合格者			116	146	180	153	145	
		入学者(A)			66	61	71	64	62	
		入学定員(B)			60	60	60	60	60	
		A/B*100			110.0	101.7	118.3	106.7	103.3	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	北欧学科	一般入試	志願者	220	203	305	350	241	116.0	
			合格者	147	154	178	156	151		
			入学者(A)	49	46	53	32	34		
			入学定員(B)	32	32	32	32	32		
			A/B*100	153.1	143.8	165.6	100.0	106.3		
		A O 入試	志願者	7	12	12	16	14		
			合格者	7	11	11	15	13		
			入学者(A)	7	11	11	15	12		
			入学定員(B)	7	7	7	7	7		
			A/B*100	100.0	157.1	157.1	214.3	171.4		
		附属校推薦	志願者	11	7	10	11	12		
			合格者	11	7	10	11	12		
			入学者(A)	11	7	10	11	12		
			入学定員(B)	18	18	18	18	18		
			A/B*100	61.1	38.9	55.6	61.1	66.7		
		指定校推薦	志願者	3	3	1	1	0		
			合格者	3	3	1	1	0		
			入学者(A)	3	3	1	1	0		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
		公募推薦入試	志願者	5	3	3	5	4		
			合格者	5	3	2	5	4		
			入学者(A)	5	3	2	5	4		
			入学定員(B)	3	3	3	3	3		
			A/B*100	166.7	100.0	66.7	166.7	133.3		
		留学生入試	志願者	0	1	0	0	0		
			合格者	0	0	0	0	0		
			入学者(A)	0	0	0	0	0		
入学定員(B)	0		0	0	0	0				
A/B*100	-		-	-	-	-				
学科計	志願者	246	229	331	383	271				
	合格者	173	178	202	188	180				
	入学者(A)	75	70	77	64	62				
	入学定員(B)	60	60	60	60	60				
	A/B*100	125.0	116.7	128.3	106.7	103.3				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部（春学期）	歴史学科	日本史専攻	一般入試	志願者	430	449	550	520	446	
				合格者	104	78	81	68	100	
				入学者(A)	28	19	18	12	17	
				入学定員(B)	32	32	32	32	33	
				A/B*100	87.5	59.4	56.3	37.5	51.5	
			AO入試	志願者	19	13	26	21	25	
				合格者	10	8	8	13	8	
				入学者(A)	10	8	8	11	8	
				入学定員(B)	7	7	7	7	6	
				A/B*100	142.9	114.3	114.3	157.1	133.3	
			附属校推薦	志願者	26	27	28	25	27	
				合格者	26	27	28	25	27	
				入学者(A)	24	27	28	25	27	
				入学定員(B)	13	13	13	13	13	
				A/B*100	184.6	207.7	215.4	192.3	207.7	
			指定校推薦	志願者	4	2	6	5	2	
				合格者	4	2	6	5	2	
				入学者(A)	4	2	6	5	2	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
			公募推薦入試	志願者	13	12	14	3	16	
				合格者	6	7	4	2	9	
				入学者(A)	5	7	4	2	9	
				入学定員(B)	3	3	3	3	3	
				A/B*100	166.7	233.3	133.3	66.7	300.0	
			留学生入試	志願者	0	1	0	0	0	
				合格者	0	1	0	0	0	
				入学者(A)	0	1	0	0	0	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
		専攻計		志願者	492	504	624	574	516	115.3
				合格者	150	123	127	113	146	
				入学者(A)	71	64	64	55	63	
				入学定員(B)	55	55	55	55	55	
				A/B*100	129.1	116.4	116.4	100.0	114.5	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	歴史学科	東洋史専攻	一般入試	志願者	197	197	237	234	162	112.0
				合格者	114	101	129	129	114	
				入学者(A)	43	29	43	20	21	
				入学定員(B)	22	22	22	22	22	
				A/B*100	195.5	131.8	195.5	90.9	95.5	
			A O入試	志願者	2	8	3	6	7	
				合格者	2	7	3	6	7	
				入学者(A)	2	7	3	5	7	
				入学定員(B)	6	6	6	6	6	
				A/B*100	33.3	116.7	50.0	83.3	116.7	
			附属校推薦	志願者	5	5	8	7	1	
				合格者	5	5	8	7	1	
				入学者(A)	5	5	8	7	1	
				入学定員(B)	9	9	9	9	9	
				A/B*100	55.6	55.6	88.9	77.8	11.1	
			指定校推薦	志願者	2	4	2	1	1	
				合格者	2	4	2	1	1	
				入学者(A)	2	4	2	1	1	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
			公募推薦入試	志願者	1	3	1	0	4	
				合格者	1	3	1	0	3	
				入学者(A)	1	3	1	0	3	
				入学定員(B)	3	3	3	3	3	
				A/B*100	33.3	100.0	33.3	0.0	100.0	
			留学生入試	志願者	0	0	0	0	0	
				合格者	0	0	0	0	0	
				入学者(A)	0	0	0	0	0	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
		専攻計	志願者	207	217	251	248	175		
			合格者	124	120	143	143	126		
			入学者(A)	53	48	57	33	33		
			入学定員(B)	40	40	40	40	40		
			A/B*100	132.5	120.0	142.5	82.5	82.5		

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部（春学期）	歴史学科	西洋史専攻	一般入試	志願者	358	312	377	466	357	
				合格者	121	128	136	158	141	
				入学者(A)	28	30	33	37	26	
				入学定員(B)	27	27	27	27	27	
				A/B*100	103.7	111.1	122.2	137.0	96.3	
			AO入試	志願者	11	11	16	15	12	
				合格者	9	10	10	9	9	
				入学者(A)	9	10	10	8	9	
				入学定員(B)	7	7	7	7	7	
				A/B*100	128.6	142.9	142.9	114.3	128.6	
			附属校推薦	志願者	20	14	9	6	12	
				合格者	20	14	9	6	12	
				入学者(A)	19	14	9	5	12	
				入学定員(B)	13	13	13	13	13	
				A/B*100	146.2	107.7	69.2	38.5	92.3	
			指定校推薦	志願者	1	2	2	0	4	
				合格者	1	2	2	0	4	
				入学者(A)	1	2	2	0	4	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
			公募推薦入試	志願者	9	6	8	5	5	
				合格者	5	5	7	4	2	
				入学者(A)	5	5	7	4	2	
				入学定員(B)	3	3	3	3	3	
				A/B*100	166.7	166.7	233.3	133.3	66.7	
			留学生入試	志願者	0	0	1	1	0	
				合格者	0	0	1	0	0	
				入学者(A)	0	0	0	0	0	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
		専攻計		志願者	399	345	413	493	390	116.4
				合格者	156	159	165	177	168	
				入学者(A)	62	61	61	54	53	
				入学定員(B)	50	50	50	50	50	
				A/B*100	124.0	122.0	122.0	108.0	106.0	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	(表10) 入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	歴史学科	考古学専攻	一般入試	志願者	160	207	297	257	249	
				合格者	63	69	70	72	84	
				入学者(A)	19	22	16	22	23	
				入学定員(B)	20	20	20	20	20	
				A/B*100	95.0	110.0	80.0	110.0	115.0	
			A O 入 試	志願者	4	3	8	11	5	
				合格者	4	3	3	7	3	
				入学者(A)	4	3	3	4	3	
				入学定員(B)	3	3	3	3	3	
				A/B*100	133.3	100.0	100.0	133.3	100.0	
			附属校推薦	志願者	6	5	8	10	9	
				合格者	6	5	8	10	9	
				入学者(A)	6	5	8	10	9	
				入学定員(B)	5	5	5	5	5	
				A/B*100	120.0	100.0	160.0	200.0	180.0	
			指定校推薦	志願者	0	0	0	0	0	
				合格者	0	0	0	0	0	
				入学者(A)	0	0	0	0	0	
				入学定員(B)	0	0	0	0	0	
				A/B*100	-	-	-	-	-	
			公募推薦入試	志願者	7	4	9	2	1	
				合格者	4	3	5	1	1	
				入学者(A)	4	3	5	1	1	
				入学定員(B)	2	2	2	2	2	
				A/B*100	200.0	150.0	250.0	50.0	50.0	
			留学生入試	志願者	1	1	0	0	2	
				合格者	1	1	0	0	2	
入学者(A)				1	1	0	0	2		
入学定員(B)				0	0	0	0	0		
A/B*100				-	-	-	-	-		
専攻計	志願者	178	220	322	280	266	116.7			
	合格者	78	81	86	90	99				
	入学者(A)	34	34	32	37	38				
	入学定員(B)	30	30	30	30	30				
	A/B*100	113.3	113.3	106.7	123.3	126.7				
学 科 計	志願者	1,276	1,286	1,610	1,595	1,347	115.1			
	合格者	508	483	521	523	539				
	入学者(A)	220	207	214	179	187				
	入学定員(B)	175	175	175	175	175				
	A/B*100	125.7	118.3	122.3	102.3	106.9				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学人数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部 (春学期)	日本文学科	一般入試	志願者		392	528	542	616	436	
			合格者		169	214	210	137	166	
			入学者(A)		46	64	51	33	40	
			入学定員(B)		49	49	49	49	50	
			A/B*100		93.9	130.6	104.1	67.3	80.0	
		AO入試	志願者		17	14	9	35	14	
			合格者		17	11	9	21	10	
			入学者(A)		17	11	9	19	10	
			入学定員(B)		7	7	7	7	6	
			A/B*100		242.9	157.1	128.6	271.4	166.7	
		附属校推薦	志願者		34	31	25	33	35	
			合格者		34	31	25	33	35	
			入学者(A)		33	30	25	31	35	
			入学定員(B)		28	28	28	28	28	
			A/B*100		117.9	107.1	89.3	110.7	125.0	
		指定校推薦	志願者		2	5	4	5	5	
			合格者		2	5	4	5	5	
			入学者(A)		2	5	4	5	5	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		4	6	13	12	10	
			合格者		2	4	11	10	8	
			入学者(A)		2	4	11	9	8	
			入学定員(B)		6	6	6	6	6	
			A/B*100		33.3	66.7	183.3	150.0	133.3	
		留学生入試	志願者		1	0	0	0	0	
			合格者		0	0	0	0	0	
			入学者(A)		0	0	0	0	0	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
	学 科 計	志願者			450	584	593	701	500	113.1
		合格者			224	265	259	206	224	
		入学者(A)			100	114	100	97	98	
		入学定員(B)			90	90	90	90	90	
		A/B*100			111.1	126.7	111.1	107.8	108.9	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	文芸創作学科	一般入試	志願者	276	278	294	302	224	114.2	
			合格者	65	77	106	81	83		
			入学者(A)	23	22	30	19	24		
			入学定員(B)	32	32	32	32	32		
			A/B*100	71.9	68.8	93.8	59.4	75.0		
		A O 入試	志願者	13	11	21	16	16		
			合格者	9	10	14	14	10		
			入学者(A)	9	9	14	11	10		
			入学定員(B)	7	7	7	7	7		
			A/B*100	128.6	128.6	200.0	157.1	142.9		
		附属校推薦	志願者	27	25	14	21	20		
			合格者	27	25	14	21	20		
			入学者(A)	27	25	14	21	20		
			入学定員(B)	13	13	13	13	13		
			A/B*100	207.7	192.3	107.7	161.5	153.8		
		指定校推薦	志願者	1	1	3	2	2		
			合格者	1	1	3	2	2		
			入学者(A)	1	1	3	2	2		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
		公募推薦入試	志願者	14	11	7	6	4		
			合格者	8	8	3	4	4		
			入学者(A)	8	7	3	4	4		
			入学定員(B)	3	3	3	3	3		
			A/B*100	266.7	233.3	100.0	133.3	133.3		
		留学生入試	志願者	0	1	0	0	0		
			合格者	0	1	0	0	0		
			入学者(A)	0	1	0	0	0		
入学定員(B)	0		0	0	0	0				
A/B*100	-		-	-	-	-				
学 科 計	志願者	331	327	339	347	266				
	合格者	110	122	140	122	119				
	入学者(A)	68	65	64	57	60				
	入学定員(B)	55	55	55	55	55				
	A/B*100	123.6	118.2	116.4	103.6	109.1				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	英語文化コミュニケーション学科	一般入試	志願者	284	222	469	443	415	114.7	
			合格者	59	94	93	101	118		
			入学者(A)	13	34	18	34	16		
			入学定員(B)	49	49	49	49	50		
			A/B*100	26.5	69.4	36.7	69.4	32.0		
		AO入試	志願者	24	14	24	15	22		
			合格者	20	12	11	14	12		
			入学者(A)	20	11	11	11	12		
			入学定員(B)	7	7	7	7	6		
			A/B*100	285.7	157.1	157.1	157.1	200.0		
		附属校推薦	志願者	57	60	61	54	51		
			合格者	57	60	61	54	51		
			入学者(A)	57	60	61	54	51		
			入学定員(B)	28	28	28	28	28		
			A/B*100	203.6	214.3	217.9	192.9	182.1		
		指定校推薦	志願者	3	2	5	1	4		
			合格者	3	2	5	1	4		
			入学者(A)	3	2	5	1	4		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
		公募推薦入試	志願者	17	5	7	7	11		
			合格者	9	4	6	6	8		
			入学者(A)	9	4	6	6	8		
			入学定員(B)	6	6	6	6	6		
			A/B*100	150.0	66.7	100.0	100.0	133.3		
		留学生入試	志願者	7	1	0	0	0		
			合格者	4	1	0	0	0		
			入学者(A)	4	1	0	0	0		
	入学定員(B)		0	0	0	0	0			
	A/B*100		-	-	-	-	-			
学 科 計	志願者	392	304	566	520	503				
	合格者	152	173	176	176	193				
	入学者(A)	106	112	101	106	91				
	入学定員(B)	90	90	90	90	90				
	A/B*100	117.8	124.4	112.2	117.8	101.1				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
文学部（春学期）	広報メディア学科	一般入試	志願者		346	474	611	473	500	
			合格者		84	107	118	99	128	
			入学者(A)		42	44	35	33	39	
			入学定員(B)		59	59	59	59	60	
			A/B*100		71.2	74.6	59.3	55.9	65.0	
		AO入試	志願者		13	12	31	34	25	
			合格者		13	12	11	16	15	
			入学者(A)		13	12	11	15	15	
			入学定員(B)		7	7	7	7	6	
			A/B*100		185.7	171.4	157.1	214.3	250.0	
		附属校推薦	志願者		60	60	58	54	54	
			合格者		60	60	58	54	54	
			入学者(A)		60	60	57	54	54	
			入学定員(B)		35	35	35	35	35	
			A/B*100		171.4	171.4	162.9	154.3	154.3	
		指定校推薦	志願者		6	5	5	5	5	
			合格者		6	5	5	5	5	
			入学者(A)		6	5	5	5	5	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		9	23	15	19	8	
			合格者		8	11	10	10	6	
			入学者(A)		8	11	10	10	6	
			入学定員(B)		9	9	9	9	9	
			A/B*100		88.9	122.2	111.1	111.1	66.7	
		留学生入試	志願者		14	5	2	7	11	
			合格者		8	1	1	6	8	
			入学者(A)		8	1	1	6	6	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
	学 科 計	志願者			448	579	722	592	603	115.8
		合格者			179	196	203	190	216	
		入学者(A)			137	133	119	123	125	
		入学定員(B)			110	110	110	110	110	
		A/B*100			124.5	120.9	108.2	111.8	113.6	

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（春学期）	心理・社会学科	一般入試	志願者		376	551	721	700	599	
			合格者		115	145	172	134	151	
			入学者(A)		35	37	43	31	42	
			入学定員(B)		56	56	56	56	57	
			A/B*100		62.5	66.1	76.8	55.4	73.7	
		A O 入試	志願者		16	17	34	33	26	
			合格者		12	13	14	16	12	
			入学者(A)		12	13	14	13	12	
			入学定員(B)		7	7	7	7	6	
			A/B*100		171.4	185.7	200.0	185.7	200.0	
		附属校推薦	志願者		55	53	51	49	47	
			合格者		55	53	51	49	47	
			入学者(A)		55	53	50	49	47	
			入学定員(B)		31	31	31	31	31	
			A/B*100		177.4	171.0	161.3	158.1	151.6	
		指定校推薦	志願者		1	2	2	4	2	
			合格者		1	2	2	4	2	
			入学者(A)		1	2	2	4	2	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	志願者		14	22	8	22	14	
			合格者		8	10	7	11	10	
			入学者(A)		8	10	7	11	10	
			入学定員(B)		6	6	6	6	6	
			A/B*100		133.3	166.7	116.7	183.3	166.7	
		留学生入試	志願者		3	4	1	5	9	
			合格者		2	4	1	4	5	
			入学者(A)		2	4	1	3	4	
			入学定員(B)		0	0	0	0	0	
			A/B*100		-	-	-	-	0.0	
	学 科 計	志願者		465	649	817	813	697	115.4	
		合格者		193	227	247	218	227		
		入学者(A)		113	119	117	111	117		
		入学定員(B)		100	100	100	100	100		
		A/B*100		113.0	119.0	117.0	111.0	117.0		
学 部 合 計（春学期）	志願者		4,489	4,783	6,336	6,168	5,301	113.3		
	合格者		2,038	2,203	2,470	2,251	2,345			
	入学者(A)		1,088	1,090	1,073	996	1,020			
	入学定員(B)		930	930	930	930	930			
	A/B*100		117.0	117.2	115.4	107.1	109.7			

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（秋学期）	文 明 学 科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学科計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
	ア ジ ア 文 明 学 科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学科計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
ヨ ー ロ ッ パ 文 明 学 科	附属校推薦	志願者	0	0						
		合格者	0	0						
		入学者(A)	0	0						
		入学定員(B)	0	0						
		A/B*100	-	-						
	留学生入試	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
学科計	志願者	0	0	0	0					
	合格者	0	0	0	0					
	入学者(A)	0	0	0	0					
	入学定員(B)	0	0	0	0					
	A/B*100	-	-	-	-					

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（秋学期）	ア 文 メ 明 リ 学 カ 科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0	0		
			入学者(A)	0	0	0	0	0		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-	-		
	学科計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
	北 欧 学 科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0	0		
			入学者(A)	0	0	0	0	0		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-			
	学科計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
歴 史 学 科	日 本 史 専 攻	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0	0		
			入学者(A)	0	0	0	0	0		
			入学定員(B)	0	0	0	0	0		
			A/B*100	-	-	-	-			
	専攻計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対す る入学者数の比 率（2010～2014 年平均）	
文学部（秋学期）	歴史学科	東洋史専攻	附属校推薦	志願者	0	0					
				合格者	0	0					
				入学者(A)	0	0					
				入学定員(B)	0	0					
				A/B*100	-	-					
			留学生入試	志願者	0	0	0	0			
				合格者	0	0	0	0			
				入学者(A)	0	0	0	0			
				入学定員(B)	0	0	0	0			
				A/B*100	-	-	-	-			
		専攻計	志願者	0	0	0	0		-		
			合格者	0	0	0	0				
			入学者(A)	0	0	0	0				
			入学定員(B)	0	0	0	0				
			A/B*100	-	-	-	-				
		西洋史専攻	附属校推薦	志願者	0	0					
				合格者	0	0					
				入学者(A)	0	0					
				入学定員(B)	0	0					
				A/B*100	-	-					
			留学生入試	志願者	0	0	0	0			
				合格者	0	0	0	0			
				入学者(A)	0	0	0	0			
				入学定員(B)	0	0	0	0			
				A/B*100	-	-	-	-			
		専攻計	志願者	0	0	0	0		-		
			合格者	0	0	0	0				
			入学者(A)	0	0	0	0				
			入学定員(B)	0	0	0	0				
			A/B*100	-	-	-	-				
		考古学専攻	附属校推薦	志願者	0	0					
				合格者	0	0					
				入学者(A)	0	0					
				入学定員(B)	0	0					
				A/B*100	-	-					
			留学生入試	志願者	0	0	0	0			
				合格者	0	0	0	0			
				入学者(A)	0	0	0	0			
				入学定員(B)	0	0	0	0			
				A/B*100	-	-	-	-			
専攻計	志願者	0	0	0	0		-				
	合格者	0	0	0	0						
	入学者(A)	0	0	0	0						
	入学定員(B)	0	0	0	0						
	A/B*100	-	-	-	-						
学 科 計	志願者	0	0	0	0			-			
	合格者	0	0	0	0						
	入学者(A)	0	0	0	0						
	入学定員(B)	0	0	0	0						
	A/B*100	-	-	-	-						

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（秋学期）	日本文学科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学 科 計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
	文芸創作学科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学 科 計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
英語文化コミュニケーション学科	附属校推薦	志願者	0	0						
		合格者	0	0						
		入学者(A)	0	0						
		入学定員(B)	0	0						
		A/B*100	-	-						
	留学生入試	志願者	1	0	0	0				
		合格者	1	0	0	0				
		入学者(A)	1	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
学 科 計	志願者	1	0	0	0					
	合格者	1	0	0	0					
	入学者(A)	1	0	0	0					
	入学定員(B)	0	0	0	0					
	A/B*100	-	-	-	-					

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
文学部（秋学期）	広報メディア学科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	2	2	1	0			
			合格者	2	2	1	0			
			入学者(A)	2	2	1	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学 科 計	志願者	2	2	1	0				
		合格者	2	2	1	0				
		入学者(A)	2	2	1	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
	心理・社会学科	附属校推薦	志願者	0	0					
			合格者	0	0					
			入学者(A)	0	0					
			入学定員(B)	0	0					
			A/B*100	-	-					
		留学生入試	志願者	0	0	0	0			
			合格者	0	0	0	0			
			入学者(A)	0	0	0	0			
			入学定員(B)	0	0	0	0			
			A/B*100	-	-	-	-			
	学 科 計	志願者	0	0	0	0				
		合格者	0	0	0	0				
		入学者(A)	0	0	0	0				
		入学定員(B)	0	0	0	0				
		A/B*100	-	-	-	-				
学 部 合 計（秋学期）	志願者	3	2	1	0			-		
	合格者	3	2	1	0					
	入学者(A)	3	2	1	0					
	入学定員(B)	0	0	0	0					
	A/B*100	-	-	-	-					
文明学科 総 計	志願者	187	213	339	271	312	120.7			
	合格者	128	146	188	146	160				
	入学者(A)	73	76	68	69	76				
	入学定員(B)	60	60	60	60	60				
	A/B*100	121.7	126.7	113.3	115.0	126.7				
アジア文明学科 総 計	志願者	147	152	283	246	223	91.0			
	合格者	97	106	169	143	149				
	入学者(A)	49	50	64	51	59				
	入学定員(B)	60	60	60	60	60				
	A/B*100	81.7	83.3	106.7	85.0	98.3				
ヨーロッパ文明学科 総 計	志願者	352	250	452	372	358	114.3			
	合格者	158	161	185	186	193				
	入学者(A)	81	83	78	75	83				
	入学定員(B)	70	70	70	70	70				
	A/B*100	115.7	118.6	111.4	107.1	118.6				

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比 率（2010～2014 年平均）
アメリカ文明学科	総 計	志願者		195	210	284	328	221	108.0	
		合格者		116	146	180	153	145		
		入学者(A)		66	61	71	64	62		
		入学定員(B)		60	60	60	60	60		
		A/B*100		110.0	101.7	118.3	106.7	103.3		
北欧学科	総 計	志願者		246	229	331	383	271	116.0	
		合格者		173	178	202	188	180		
		入学者(A)		75	70	77	64	62		
		入学定員(B)		60	60	60	60	60		
		A/B*100		125.0	116.7	128.3	106.7	103.3		
歴史学科日本史専攻	総 計	志願者		492	504	624	574	516	115.3	
		合格者		150	123	127	113	146		
		入学者(A)		71	64	64	55	63		
		入学定員(B)		55	55	55	55	55		
		A/B*100		129.1	116.4	116.4	100.0	114.5		
歴史学科東洋史専攻	総 計	志願者		207	217	251	248	175	112.0	
		合格者		124	120	143	143	126		
		入学者(A)		53	48	57	33	33		
		入学定員(B)		40	40	40	40	40		
		A/B*100		132.5	120.0	142.5	82.5	82.5		
歴史学科西洋史専攻	総 計	志願者		399	345	413	493	390	116.4	
		合格者		156	159	165	177	168		
		入学者(A)		62	61	61	54	53		
		入学定員(B)		50	50	50	50	50		
		A/B*100		124.0	122.0	122.0	108.0	106.0		
歴史学科考古学専攻	総 計	志願者		178	220	322	280	266	116.7	
		合格者		78	81	86	90	99		
		入学者(A)		34	34	32	37	38		
		入学定員(B)		30	30	30	30	30		
		A/B*100		113.3	113.3	106.7	123.3	126.7		
日本文学科	総 計	志願者		450	584	593	701	500	113.1	
		合格者		224	265	259	206	224		
		入学者(A)		100	114	100	97	98		
		入学定員(B)		90	90	90	90	90		
		A/B*100		111.1	126.7	111.1	107.8	108.9		
文芸創作学科	総 計	志願者		331	327	339	347	266	114.2	
		合格者		110	122	140	122	119		
		入学者(A)		68	65	64	57	60		
		入学定員(B)		55	55	55	55	55		
		A/B*100		123.6	118.2	116.4	103.6	109.1		
英語文化コミュニケーション学科	総 計	志願者		393	304	566	520	503	114.9	
		合格者		153	173	176	176	193		
		入学者(A)		107	112	101	106	91		
		入学定員(B)		90	90	90	90	90		
		A/B*100		118.9	124.4	112.2	117.8	101.1		
広報メディア学科	総 計	志願者		450	581	723	592	603	116.7	
		合格者		181	198	204	190	216		
		入学者(A)		139	135	120	123	125		
		入学定員(B)		110	110	110	110	110		
		A/B*100		126.4	122.7	109.1	111.8	113.6		

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する 入学者数の比率 (2010～2014 年平均)
心理・社会学科 総 計				志願者	465	649	817	813	697	115.4
				合格者	193	227	247	218	227	
				入学者(A)	113	119	117	111	117	
				入学定員(B)	100	100	100	100	100	
				A/B*100	113.0	119.0	117.0	111.0	117.0	
学 部 総 合 計				志願者	4,492	4,785	6,337	6,168	5,301	113.4
				合格者	2,041	2,205	2,471	2,251	2,345	
				入学者(A)	1,091	1,092	1,074	996	1,020	
				入学定員(B)	930	930	930	930	930	
				A/B*100	117.3	117.4	115.5	107.1	109.7	

大学基準協会〔注〕

- 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 「一般入試」欄には大学入試センター試験を含めてください。
- 3 「その他」欄には上記の表に該当しない入試の状況を記入してください。その際、該当する入試の名称を（ ）内に記入してください。ただし、相当数の学生（約一割以上）を入学させている入試方法がある場合は、「その他」に含めず適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 4 セメスター制の採用により、秋学期入学など、年に複数回の入学時期を設定している場合は、それぞれの学期について作表してください。
- 5 学部が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて各学科の「計」欄の総数を「志願者」「合格者」「入学者」「入学定員」ごとに記入してください。また、学科内に専攻等を設け、その専攻等ごとに入学定員を設定している場合は、専攻等ごとに作表してください。複数学部を設置している大学の場合は、「大学合計」欄を設け、「学部合計」と同様に記入してください。
- 6 入試の種類ごとに「入学定員に対する入学者」の割合を算出してください。
- 7 5カ年の「入学定員に対する入学者」の割合を合計し、5で除した数値を「入学定員に対する入学者数の比率（2010～2014年度平均）」欄に記入してください。
- 8 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 9 各入学（募集）定員が若干名の場合は「0」として記入してください。

(表13)

			入試の種類		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	入学定員に対する入学者数の比率（2010～2014年平均）
--	--	--	-------	--	--------	--------	--------	--------	--------	-------------------------------

東海大学〔注〕

- 1 年度については、次の例を参考に作成してください。（例）2014年度欄には、「2014年度入試」（2013年度実施）を記入。
- 2 「入学定員」欄には、募集定員を記入してください（大学基準協会の指示）。
 なお、入試種別ごとに募集定員が定められていない場合は、それぞれの入試種別の「入学定員」欄に「-（ハイフン）」を入れた上で、学科または課程計の欄に記入してください。また併せて、下記（データについて〔注〕）に入試種別ごとに募集定員が定められていない旨を注記してください。
- 3 「入学者」欄には、当該年度4月1日現在の入学手続者数を記入してください（大学基準協会の指示）。
- 4 原則として、2010年4月から2014年4月までの間に設置されている組織を記入しています（2010年4月の時点で募集停止されている組織は除いてあります）。確認の上、必要に応じて組織を追加・削除してください。

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次			第6年次	
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)		学生数	留年者数 (内数)
文学部	文明学科		60	-	240	-	292	2	1.22	-	69	-	67	-	70	-	86	17	-	-	-	-	
	アジア文明学科		60	-	240	-	222	0	0.93	-	51	-	59	-	50	-	62	19	-	-	-	-	
	ヨーロッパ文明学科		70	-	280	-	316	2	1.13	-	75	-	77	-	77	-	87	10	-	-	-	-	
	アメリカ文明学科		60	-	240	-	249	0	1.04	-	64	-	65	-	57	-	63	11	-	-	-	-	
	北欧学科		60	-	240	-	276	2	1.15	-	64	-	75	-	63	-	74	4	-	-	-	-	
	歴史学科	日本史専攻	55	-	220	-	250	0	1.14	-	55	-	62	-	58	-	75	9	-	-	-	-	
		東洋史専攻	40	-	160	-	185	0	1.16	-	33	-	52	-	44	-	56	10	-	-	-	-	
		西洋史専攻	50	-	200	-	238	0	1.19	-	54	-	56	-	54	-	74	14	-	-	-	-	
		考古学専攻	30	-	120	-	141	0	1.18	-	37	-	32	-	31	-	41	11	-	-	-	-	
	日本文学科		90	-	360	-	413	2	1.15	-	97	-	96	-	109	-	111	14	-	-	-	-	
	文芸創作学科		55	-	220	-	252	1	1.15	-	57	-	64	-	62	-	69	8	-	-	-	-	
	英語文化コミュニケーション学科		90	-	360	-	421	6	1.17	-	106	-	99	-	107	-	109	5	-	-	-	-	
広報メディア学科		110	-	440	-	506	0	1.15	-	123	-	117	-	131	-	135	4	-	-	-	-		
心理・社会学科		100	-	400	-	473	2	1.18	-	111	-	116	-	120	-	126	9	-	-	-	-		
計			930	-	3720	-	4234	17	1.14	-	996	-	1037	-	1033	-	1168	145	-	-	-	-	
観光学部	観光学科		195	10	800	20	924	9	1.16	0.45	221	-	230	-	240	-	233	-	-	-	-	-	
計			195	10	800	20	924	9	1.16	0.45	221	-	230	-	240	-	233	-	-	-	-	-	
政治経済学部	政治学科		150	-	600	-	714	0	1.19	-	186	-	162	-	157	-	209	35	-	-	-	-	
	経済学科		150	-	600	-	711	0	1.19	-	161	-	177	-	161	-	212	38	-	-	-	-	
	経営学科		150	-	600	-	713	1	1.19	-	158	-	178	-	169	-	208	17	-	-	-	-	
計			450	-	1800	-	2138	1	1.19	-	505	-	517	-	487	-	629	90	-	-	-	-	
総合経営学部	※マネジメント学科		-	-	600	-	332	10	0.55	-	-	-	105	-	118	-	109	15	-	-	-	-	
計			-	-	600	-	332	10	0.55	-	-	-	105	-	118	-	109	15	-	-	-	-	
経営学部（2013年度新設）	経営学科		150	-	150	-	158	0	1.05	-	158	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	観光ビジネス学科		80	-	80	-	49	0	0.61	-	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計			230	-	230	-	207	0	0.90	-	207	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
法学部	法律学科		300	-	1200	-	1373	0	1.14	-	317	-	305	-	319	-	432	76	-	-	-	-	
計			300	-	1200	-	1373	0	1.14	-	317	-	305	-	319	-	432	76	-	-	-	-	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次 学生数	第 2 年次 学生数	第 3 年次 学生数	第 4 年次 学生数	第 5 年次 学生数	第 6 年次 学生数							
																	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)		留年者数 (内数)	留年者数 (内数)
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	160	-	640	-	322	1	0.50	-	78	-	78	-	71	-	95	8	-	-	-	-	
		社会環境課程					457	5	0.71	-	101	-	104	-	123	-	129	10	-	-	-	-	
	芸術学科	音楽学課程	90	-	360	-	136	0	0.38	-	35	-	33	-	30	-	38	1	-	-	-	-	
		美術学課程					79	1	0.22	-	16	-	20	-	18	-	25	1	-	-	-	-	
		デザイン学課程					165	0	0.46	-	47	-	37	-	40	-	41	2	-	-	-	-	
	国際学科		80	-	320	-	382	4	1.19	-	93	-	85	-	91	-	113	7	-	-	-	-	
計			330	-	1320	-	1541	11	1.17	-	370	-	357	-	373	-	441	29	-	-	-	-	
国際文化学部	地域創造学科		110	-	440	-	504	0	1.15	-	132	-	122	-	110	-	140	9	-	-	-	-	
	国際コミュニケーション学科		80	-	360	-	237	0	0.66	-	73	-	61	-	47	-	56	7	-	-	-	-	
	デザイン文化学科		70	-	140	-	115	0	0.82	-	49	-	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計			260	-	940	-	856	0	0.91	-	254	-	249	-	157	-	196	16	-	-	-	-	
理学部	数学科		80	-	320	-	375	1	1.17	-	95	-	90	-	88	-	102	12	-	-	-	-	
	情報数理学科		80	-	320	-	383	0	1.20	-	90	-	94	-	96	-	103	12	-	-	-	-	
	物理学科		80	-	320	-	409	0	1.28	-	105	-	97	-	97	-	110	15	-	-	-	-	
	化学科		80	-	320	-	395	2	1.23	-	92	-	92	-	102	-	109	10	-	-	-	-	
計			320	-	1280	-	1562	3	1.22	-	382	-	373	-	383	-	424	49	-	-	-	-	
情報理工学部	情報科学科		100	-	400	-	503	0	1.26	-	127	-	119	-	118	-	139	18	-	-	-	-	
	※情報メディア学科		-	-	-	-	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	
	※ソフトウェア開発工学科		-	-	-	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	
	※経営システム工学科		-	-	-	-	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	
	コンピュータ応用工学科		100	-	400	-	374	1	0.94	-	108	-	90	-	94	-	82	13	-	-	-	-	
計			200	-	800	-	882	1	1.10	-	235	-	209	-	212	-	226	36	-	-	-	-	
情報通信学部	情報メディア学科		80	-	320	-	377	0	1.18	-	90	-	95	-	89	-	103	5	-	-	-	-	
	組込みソフトウェア工学科		80	-	320	-	330	0	1.03	-	85	-	79	-	94	-	72	5	-	-	-	-	
	経営システム工学科		80	-	320	-	379	0	1.18	-	86	-	100	-	85	-	108	7	-	-	-	-	
	通信ネットワーク工学科		80	-	320	-	371	0	1.16	-	88	-	97	-	95	-	91	12	-	-	-	-	
計			320	-	1280	-	1457	0	1.14	-	349	-	371	-	363	-	374	29	-	-	-	-	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数												備 考
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次 学生数	第 2 年次 学生数	第 3 年次 学生数	第 4 年次 学生数	第 5 年次 学生数	第 6 年次 学生数							
																	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	
工学部	生命化学科		100	-	400	-	469	2	1.17	-	112	-	116	-	114	-	127	12	-	-	-	-	
	応用化学科		80	-	320	-	391	1	1.22	-	85	-	93	-	111	-	102	10	-	-	-	-	
	光・画像工学科		60	-	240	-	212	0	0.88	-	48	-	66	-	52	-	46	6	-	-	-	-	
	※エネルギー工学科		-	-	-	-	11	0	-	-	-	-	-	-	-	-	11	10	-	-	-	-	
	原子力工学科		40	-	160	-	149	0	0.93	-	29	-	42	-	38	-	40	-	-	-	-	-	
	電気電子工学科		140	-	560	-	686	12	1.23	-	160	-	162	-	172	-	192	20	-	-	-	-	
	材料科学科		80	-	320	-	324	0	1.01	-	93	-	87	-	76	-	68	7	-	-	-	-	
	建築学科		200	-	800	-	840	4	1.05	-	229	-	196	-	198	-	217	27	-	-	-	-	
	土木工学科		120	-	480	-	303	1	0.63	-	101	-	70	-	63	-	69	18	-	-	-	-	
	精密工学科		80	-	320	-	287	1	0.90	-	96	-	71	-	48	-	72	12	-	-	-	-	
	機械工学科		150	-	600	-	657	4	1.10	-	161	-	163	-	156	-	177	22	-	-	-	-	
	動力機械工学科		200	-	800	-	800	9	1.00	-	205	-	195	-	201	-	199	26	-	-	-	-	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	100	-	400	-	458	4	1.15	-	114	-	113	-	105	-	126	20	-	-	-	-	
		航空操縦学専攻	50	-	200	-	148	0	0.74	-	36	-	32	-	35	-	45	6	-	-	-	-	
	医用生体工学科		60	-	240	-	271	3	1.13	-	68	-	64	-	62	-	77	-	-	-	-	-	
計			1460	-	5840	-	6006	41	1.03	-	1537	-	1470	-	1431	-	1568	196	-	-	-	-	
芸術工学部	※くらしデザイン学科		-	-	-	-	51	0	-	-	-	-	-	-	13	-	38	6	-	-	-	-	
	※建築・環境デザイン学科		-	-	-	-	16	0	-	-	-	-	-	-	6	-	10	1	-	-	-	-	
計			-	-	-	-	67	0	-	-	-	-	-	-	19	-	48	7	-	-	-	-	
産業工学部	※環境保全学科		-	-	180	-	51	0	0.28	-	-	-	13	-	21	-	17	1	-	-	-	-	
	※電子知能システム工学科		-	-	270	-	74	2	0.27	-	-	-	26	-	27	-	21	1	-	-	-	-	
	※機械システム工学科		-	-	240	-	46	0	0.19	-	-	-	16	-	13	-	17	2	-	-	-	-	
	※建築学科		-	-	210	-	46	1	0.22	-	-	-	15	-	18	-	13	1	-	-	-	-	
計			-	-	900	-	217	3	0.24	-	-	-	70	-	79	-	68	5	-	-	-	-	
基盤工学部（2013年度新設）	電気電子情報工学科		80	-	80	-	71	0	0.89	-	71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	医療福祉工学科		60	-	60	-	69	0	1.15	-	69	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計			140	-	140	-	140	0	1.00	-	140	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
開発工学部	※情報通信工学科		-	-	-	-	4	0	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-	-	-	-	
計			-	-	-	-	4	0	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-	-	-	-	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B／A	D／C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次			第 6 年次	
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)		学生数	留年者数 (内数)
海洋学部	海洋文明学科		80	-	320	-	280	0	0.88	-	82	-	65	-	63	-	70	7	-	-	-	-	
	環境社会学科		80	-	240	-	225	0	0.94	-	84	-	74	-	67	-	-	-	-	-	-	-	
	海洋地球科学科		80	-	240	-	244	0	1.02	-	90	-	90	-	64	-	-	-	-	-	-	-	
	※海洋建設工学科		-	-	-	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	
	※環境情報工学科		-	-	-	-	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	
	※船舶海洋工学科		-	-	50	-	14	3	0.28	-	-	-	-	-	-	-	14	1	-	-	-	-	
	※海洋資源学科		-	-	80	-	41	1	0.51	-	-	-	-	-	-	-	41	5	-	-	-	-	
	※海洋科学科		-	-	80	-	65	0	0.81	-	-	-	-	-	-	-	65	11	-	-	-	-	
	水産学科	生物生産学専攻	120	-	450	-	296	0	0.66	-	91	-	99	-	106	-	-	-	-	-	-	-	
		食品科学専攻		-		-	147	0	0.33	-	51	-	50	-	46	-	-	-	-	-	-	-	
	※水産学科		-	-	-	-	130	0	-	-	-	-	-	-	-	-	130	27	-	-	-	-	
	海洋生物学科		90	-	360	-	429	1	1.19	-	97	-	116	-	104	-	112	12	-	-	-	-	
	航海工学科	航海学専攻	20	-	60	-	68	0	1.13	-	23	-	20	-	25	-	-	-	-	-	-	-	
		海洋機械工学専攻	60	-	180	-	55	3	0.31	-	21	-	8	-	26	-	-	-	-	-	-	-	
※航海学科	航海専攻	-	-	20	-	26	0	1.30	-	-	-	-	-	-	-	26	0	-	-	-	-		
	国際物流専攻	-	-	60	-	42	0	0.70	-	-	-	-	-	-	-	42	7	-	-	-	-		
計			530	-	2140	-	2065	8	0.96	-	539	-	522	-	501	-	503	73	-	-	-	-	
生物理工学部	※生物工学科		-	-	140	-	94	0	0.67	-	-	-	-	-	56	-	38	2	-	-	-	-	
	※海洋生物科学科		-	-	120	-	88	0	0.73	-	-	-	-	-	44	-	44	4	-	-	-	-	
	※生体機能科学科		-	-	140	-	26	0	0.19	-	-	-	-	-	12	-	14	0	-	-	-	-	
計			-	-	400	-	208	0	0.52	-	-	-	-	-	112	-	96	6	-	-	-	-	
生物学部	生物学科		70	-	140	-	166	0	1.19	-	71	-	95	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	海洋生物科学科		70	-	140	-	171	0	1.22	-	78	-	93	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計			140	-	280	-	337	0	1.20	-	149	-	188	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学部	応用植物科学科		80	-	320	-	370	2	1.16	-	88	-	83	-	97	-	102	7	-	-	-	-	
	応用動物科学科		80	-	320	-	372	1	1.16	-	85	-	98	-	88	-	101	6	-	-	-	-	
	バイオサイエンス学科		70	-	280	-	309	0	1.10	-	71	-	82	-	77	-	79	4	-	-	-	-	
計			230	-	920	-	1051	3	1.14	-	244	-	263	-	262	-	282	17	-	-	-	-	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次 学生数	第 2 年次 学生数	第 3 年次 学生数	第 4 年次 学生数	第 5 年次 学生数	第 6 年次 学生数							
																	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)	留年者数 (内数)		留年者数 (内数)	留年者数 (内数)
体育学部	体育学科		100	-	370	-	428	1	1.16	-	105	-	108	-	103	-	112	3	-	-	-	-	
	競技スポーツ学科		130	-	490	-	584	1	1.19	-	146	-	139	-	148	-	151	8	-	-	-	-	
	武道学科		55	-	205	-	234	0	1.14	-	55	-	61	-	58	-	60	1	-	-	-	-	
	生涯スポーツ学科		100	-	370	-	448	1	1.21	-	113	-	107	-	116	-	112	3	-	-	-	-	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		55	-	205	-	252	1	1.23	-	61	-	61	-	67	-	63	3	-	-	-	-	
計			440	-	1640	-	1946	4	1.19	-	480	-	476	-	492	-	498	18	-	-	-	-	
医学部	医学科		110	-	656	-	669	171	1.02	-	90	0	137	20	115	14	114	6	103	6	110	6	
計			110	-	656	-	669	171	1.02	-	90	0	137	20	115	14	114	6	103	6	110	6	
健康科学部	看護学科		75	20	335	50	343	26	1.02	0.52	79	-	80	-	89	-	95	10	-	-	-	-	
	社会福祉学科		85	10	360	20	387	6	1.08	0.30	92	-	101	-	90	-	104	12	-	-	-	-	
計			160	30	695	70	730	32	1.05	0.46	171	-	181	-	179	-	199	22	-	-	-	-	
合 計			6,745	40	#####	90	#####	314	1.05	3.49	7,186	0	7,060	20	6,875	14	7,612	839	103	6	110	6	

専攻科	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数								備 考
			総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
									学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
乗船実習課程	30	-	30	-	17	-	0.57	-	17	-	-	-	-	-	-	-	
計	30	-	30	-	17	-	0.57	-	17	-	-	-	-	-	-	-	

別科	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数								備 考
			総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
									学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	
別科 日本語研修課程	120	-	200	-	41	-	0.21	-	41	-	-	-	-	-	-	-	2013年5月1日現在
	80	-		-	63	-	0.32	-	63	-	-	-	-	-	-	-	2012年10月1日現在
計	200	-	200	-	104	0	0.52	-	104	-	-	-	-	-	-	-	

(表14)

学 部	学 科	専攻	入 学 員 定 員	編 入 員	収容定員		在籍学生数		B/A	D/C	在 籍 学 生 数										備 考		
					総 数 (A)	う ち 編 入 学生数 (C)	総 数 (B)	う ち 編 入 学生数 (D)			第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次			第 6 年次	
											学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)	学生数	留年者数 (内数)		学生数	留年者数 (内数)

大学基準協会〔注〕

- 1 昼夜開講制をとっている学部については、昼間主コースと夜間主コースにそれぞれ分けて記入してください。
- 2 収容定員は、定員変更などにより、現在の入学定員の4倍（6年制の学部は6倍）ではない場合がありますので、該当する年度ごとの入学定員、編入定員に注意してください。
- 3 現在の在籍学生に関わる入学定員及び編入定員に変更があった場合には、「備考」欄に注記してください。
- 4 修業年限を6年とする学部・学科の場合には、第6年次まで作表してください。
- 5 編入定員を設定している場合は、備考欄にその受け入れ年次を記入してください。
- 6 「B/A」及び「D/C」欄については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 7 通信教育課程、専攻科、別科等についても学部の表に準じて作成してください。

東海大学〔注〕

- 1 2013年5月1日現在のデータを記入してください。
- 2 乗船実習課程は、備考欄に学年の区分けがない旨を明記の上、第1年次欄に在籍学生数を記入してください。
- 3 別科の在籍学生数は、東海大学が入学資格を与えている学生数を記載してください。併せて、備考欄に東海大学の入学資格を明記をお願いします。また、学年の区分けがない旨を明記の上、第1年次欄に在籍学生数を記入してください。

データについて〔注〕

- 1 海洋学部 航海学科国際物流専攻の在籍学生数は、海洋学部 航海工学科国際物流専攻の数を含む。
- 2 乗船実習課程生の身分は科目等履修生であるため、履修定員を入学定員とした
- 3 別科 日本語研修課程の「留年者数」は、在籍延長数を記載。

2. 勧告について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	財務
	指摘事項	1) 第三期改革が完了する年度(2015(平成27)年度)に帰属収支差額をゼロにする目標設定をされているが、今後とも学生確保による学生生徒等納付金収入の増加および借入金の圧縮などに努め、財務体質の改善、財政基盤強化に向けて計画的に収支を改善されたい。
	評価当時の状況	<p>1) 中・長期的な財務計画 項目番号 259)</p> <p><u>中・長期的な財務計画の策定およびその内容</u></p> <p>2004 年 10 月、理事長・総長を中心とした『財政改革本部』を設置して、その下に「学園の財政改革の推進」、「教育体制の改革」を柱とした各種プロジェクトを立ち上げ、学園を挙げて高等教育、初等中等教育、付属機関等それぞれの抜本的な改革施策を検討し、実行に移してきた。</p> <p>とくに、高等教育機関においては、三期にわたる大学改革を計画し行動を開始した。2008 年度には第Ⅰ期として「東海大学」、「九州東海大学」、「北海道東海大学」の三大学を統合し、新たな「東海大学」を創設しスタートした。さらに2010 年度には本学において改組改編による学部・学科の新設を主とした第Ⅱ期改革を実施し、2012 年度の類似学部・学科の統廃合を主とした第Ⅲ期改革に向け、現在着々と歩みを進めているところである。</p> <p>しかし、昨今の一般的傾向であるが、地方に設置する学部、学校の定員割れに伴う収支バランスの悪化が顕著になり、本学においても、2008 年度は定員充足率の低い「旧九州東海大学」と「旧北海道東海大学」から統合した学部の影響を受けた。また、初等中等教育機関においても同様に、地方に設置する多くの付属校においては、学生生徒等納付金の減少が続き、年々学園収支に多大な</p>

	<p>影響を与える存在となってきた。</p> <p>収入面では、学生生徒等納付金等の減収分を付属病院（伊勢原）の医療収入の増加で補てんしてきたが、国の医療行政姿勢から見て、この先これ以上医療収入の伸びは期待できない。</p> <p>支出面では、学生生徒数が減少しても、それに見合う教職員数の調整が即座に実現できないことや、付属病院群における 7 : 1 看護基準取得のための看護職員の増員等により、短期的な人件費削減は困難な状況にある。経費については、ここ数年、前年度予算を基準としたマイナスシーリング（修繕関係経費を除く教育研究経費および管理経費の 5 %削減）を実施しているが、学生生徒等納付金の減少を補えていない。</p> <p>また、本学の施設は全体的に老朽化が進んでおり、耐震補強工事を要する建物を多く所有している。これらの建物すべてを耐震化するには、概算で 200 億円強の資金が必要であるが、学生生徒等の安全を優先した事業計画策定に努めている。</p> <p>大学部門においては、三大学統合前の 2007 年度決算における消費収支比率は 113.5%であったが、統合初年度である 2008 年度においては 123.1%と約 9.6 ポイント上昇した。統合した学部・学科の定員割れの影響を受けた結果である</p>
評価後の改善状況	<p>財務体質改善の一環として、2015 年度には法人全体で帰属収支差額をゼロにする改革を進めた結果、法人全体の帰属収支差額比率は、2009 年度はマイナス 0.1%であったが、2010 年度 0.1%、2011 年度 0.6%、2012 年度 4.4%、2013 年度 2.8%とプラスに転じている。</p> <p>特に収支に影響の大きい東海大学（医学部・付属 4 病院郡を除く）としては、2010 年度 6.3%、2011 年度 7.3%、2012 年度 9.9%、2013 年度 11.6%と好転している。また医学部・付属 4 病院群においても、2010 年度 1.9%、2011 年度 1.4%、2012</p>

	<p>年度 5.3%、2013 年度 3.4%とプラスを維持している。具体的な改善事項は以下の通りである。</p> <p>学園の財務体質の改善及び財政基盤の強化に向け、法人財務部が主導し、次の改善策を講じ、速やかに着手した。</p> <p>①予算編成方法の改善 ②予算執行に関するPDCAの実施 ③改善に関する分かり易い財務情報の発信 ④寄付金・補助金・事業収入の増収を図る ⑤借入金の抑制策による総負債率の減少</p> <p>①予算編成方法の改善 帰属収入に見合う予算規模の編成を原則とし、帰属収支でのバランスを意識した予算編成を徹底した。また予算編成の目安として主要項目にそれぞれ達成値を設け予算編成基本方針をより明確に示すことで学園全体での財務体質改善への取り組み方法を具現化した。特に消費支出で大きなウェイトを占める人件費については人事部門と連携を図り、「人件費依存率」・「人件費比率」を注視しながら適正教職員数策定のための委員会を設置する等人件費抑制策に取り組んでいる。その結果、2010 年度より 4 年連続で帰属収支差額を収入超過とすることができ、2014 年度予算についても収支バランスのとれた予算編成を実施することができた。また、学校・機関毎に見ると収支バランスにばらつきがあるため、学園内の均等な教育環境整備を念頭に「法人部門」・「高等教育部門」・「医学部・病院部門」・「初等中等教育部門」に分け、それぞれの部門で良好な収支バランスを維持するための予算体系の検討に着手している。</p> <p>②予算執行に関するPDCAの実施 年度当初、学生生徒等数が確定した段階で予算立案時と帰属収入に大幅な差異（減収）が生じた</p>
--	---

	<p>場合は、速やかに収入に見合う予算規模に見直すことをルール化し、期中から支出超過に陥らないよう予算執行に係る管理体制を強化した。また、学園の収支状況（財政状況）をまとめ分析を加えた「予算執行状況表」を毎月作成し、上申をするとともに、四半期毎に常務理事会に提出・報告をすることで学園運営上の判断の一助とした。</p> <p>更には予算編成時に設けた達成値を目安とし常に予算執行状況を管理するとともに、決算時においては達成度合いを分析し、理事会に報告している。</p> <p>その結果、学園全体で予算管理の重要性についての意識が大幅に改善され、財務体質改善計画が遅滞なく進行している。</p> <p>③収支改善に関する分かり易い財務情報の発信</p> <p>学園財務情報の発信については、常に分かり易い情報公開を心掛け毎年改善を行いながら学園広報誌・ホームページ・法令で定められた財務報告書等で公表し、全教職員の学園財務状況に関し理解を求めているところではあるが、更に学園財務状況に触れる機会を増やすために「経理研修会」開催の他、事務管理者会議・校園長会議等各種会議体での財務状況説明も随時行っている。これにより日頃意識しなければ触れることの少ない教職員に財務情報を積極的に発信し学園財務体質改善意識を醸成するとともに財務運営に対する理解と協力を求めている。</p> <p>④寄付金・補助金・事業収入の増収を図る</p> <p>学園の基幹収入である学生生徒等納付金収入については、予算編成の段階からその見積精度の向上と除退学者の抑制を要請しているところであるが、少子化と改組による定員削減により大幅な増収は現実的には見込めない状況である。したがって、学生生徒等の定員確保は勿論のことであるが、併せてそれ以外の収入増を</p>
--	--

		<p>図らなければ盤石な財政基盤を確立させることは困難になる。寄付金については、2017 年の建学 75 周年に向け記念事業募金を実施しているところではあるが、それぞれの学校・機関の教職員・保護者等学園関係者に対し、具体的な記念事業を示すことで賛同を得られやすい環境づくりに財務部として心掛け募金活動を推進している。補助金については、経常費補助金は変動性が高いため、採択制の補助金を如何に確実に獲得していくかを念頭に置き、関係部署と連携を取りながら遺漏無く速やかな事務処理ができる体制作りに心掛けている。また、事業収入の大半を占める医療収入は堅調に収入を伸ばしてきているが、慎重にその推移を見守ることとし、それ以外の受託事業収入及び付属事業収入の増収に向け働きかけているところである。</p> <p>帰属収入の構成比率で見ると、これらの収入は学生生徒等納付金が 2010 年度比で 2.2%減と伸び悩む中、寄付金は 0.4%増、補助金は 0.3%減、事業収入は 1.6%増となっている。今後も学園の適正な構成比率を示し、それぞれの学校・機関に収入増に向けた対策立案を要請していく。</p> <p>⑤借入金の抑制策による負債率の減少</p> <p>施設設備整備計画は過大な投資に留意しつつ、学園内の達成値に基づく優先順位に沿った計画に従い実施することで 2011 年度以降は借入れを抑制し、2010 年度末の借入金残高 447 億円は 2013 年度末には 119 億円減少し、328 億円となった。一方、資金の計画的積上げを意識し、収支バランスの改善により生み出された内部留保を引当資産化し資金の充実を図っている。結果として、2010 年度末の総負債率 24.7%は 2013 年度末には 23.0%まで改善されている。なお、前受金を除く総負債率は 2010 年度末 22.1%が 2013 年度末では 20.5%となっている。</p>
--	--	--

学校法人東海大学財務比率推移表

1 消費収支計算書関係比率

(%)

	比 率	比率区分	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2012年度 私立大学 全国平均
1	人 件 費 比 率	法人 全体	49.9	49.6	49.4	48.7	49.0	49.5
		除く医学部・病院	58.5	58.2	58.3	58.0	58.3	52.8
		大学 全体	61.8	61.7	62.7	63.0	61.4	51.8
		除く医学部	53.3	52.4	53.4	53.7	51.7	49.2
2	人 件 費 依 存 率	法人 通常	130.7	130.2	133.0	135.7	136.7	94.0
		除く医学部・病院	81.4	79.2	81.0	82.8	81.9	71.9
		大学 通常	80.8	80.3	82.8	84.5	82.6	67.3
		除く医学部	67.2	65.6	67.8	69.1	66.5	61.8
3	教 育 研 究 経 費 比 率	法人 通常	42.1	42.4	42.2	40.3	41.5	36.1
		除く医学部・病院	31.9	32.7	31.8	29.8	30.3	31.2
		大学 通常	49.8	50.4	49.6	47.8	48.8	33.9
		除く医学部	34.0	34.4	33.6	31.0	31.4	33.2
4	管 理 経 費 比 率	法人 通常	6.6	6.4	6.2	5.7	5.9	7.2
		除く医学部・病院	9.3	9.1	9.0	8.2	8.6	9.2
		大学 通常	5.5	5.9	5.6	5.4	5.3	6.7
		除く医学部	5.3	5.4	5.1	4.8	4.7	7.2
5	借 入 金 等 利 息 比 率	法人 通常	0.8	0.7	0.7	0.6	0.5	0.3
		除く医学部・病院	0.4	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3
		大学 通常	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2
		除く医学部	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3
6	帰 属 収 支 差 額 比 率	法人 通常	△ 0.1	0.1	0.6	4.4	2.8	5.2
		除く医学部・病院	△ 1.2	△ 2.0	△ 0.2	3.3	2.0	4.8
		大学 通常	△ 17.4	△ 19.3	△ 18.4	△ 16.9	△ 16.1	6.1
		除く医学部	7.0	6.3	7.3	9.9	11.6	9.2
7	消 費 収 支 比 率	法人 通常	106.1	107.1	107.2	102.4	100.4	105.2
		除く医学部・病院	107.8	107.2	110.6	102.7	102.7	107.9
		大学 通常	123.2	124.2	128.3	122.9	119.7	103.7
		除く医学部	97.9	97.7	101.2	95.3	91.6	101.1
8	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	法人 通常	38.2	38.1	37.1	35.9	35.9	52.6
		除く医学部・病院	71.9	73.5	72.0	70.1	71.2	73.4
		大学 通常	76.5	76.8	75.7	74.6	74.4	77.0
		除く医学部	79.3	79.9	78.8	77.7	77.8	79.5
9	寄 付 金 比 率	法人 通常	1.3	1.4	1.3	1.4	1.8	1.9
		除く医学部・病院	1.6	1.7	1.7	1.8	2.9	2.0
		大学 通常	1.6	1.8	1.6	1.7	2.5	2.5
		除く医学部	0.4	0.5	0.3	0.4	1.6	1.9
10	補 助 金 比 率	法人 通常	9.7	9.7	10.5	9.7	9.4	10.3
		除く医学部・病院	15.6	15.9	17.5	16.0	15.4	12.6
		大学 通常	13.0	13.0	14.4	13.7	13.0	10.5
		除く医学部	11.9	12.0	13.3	12.4	11.4	8.8
11	基 本 金 組 入 率	法人 通常	5.7	6.7	7.3	6.6	3.1	9.9
		除く医学部・病院	6.1	4.9	9.5	5.9	4.6	11.7
		大学 通常	4.7	4.0	7.7	4.9	3.0	9.5
		除く医学部	5.0	4.1	8.4	5.5	3.5	10.2
12	減 価 償 却 費 比 率	法人 通常	8.3	8.5	8.6	8.2	8.0	10.0
		除く医学部・病院	10.1	10.5	10.9	11.3	10.9	11.8
		大学 通常	8.2	8.1	8.5	8.8	8.5	12.0
		除く医学部	10.7	10.8	11.4	11.9	11.7	12.6

2 貸借対照表関係比率(学校法人)

(%)

	比 率	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2012年度 私立大学 全国平均
1	固 定 資 産 構 成 比 率	82.5	82.4	82.0	80.9	80.5	85.8
	比 率						
2	流 動 資 産 構 成 比 率	17.5	17.6	18.0	19.1	19.5	14.2
	比 率						
3	固 定 負 債 構 成 比 率	16.7	16.1	15.5	14.3	13.6	8.8
	比 率						
4	流 動 負 債 構 成 比 率	9.4	8.7	9.3	9.2	9.4	5.9
	比 率						
5	自 己 資 金 構 成 比 率	73.9	75.3	75.3	76.5	77.0	85.3
	比 率						
6	消 費 収 支 差 額 構 成 比 率	△ 49.6	△ 53.1	△ 55.7	△ 56.1	△ 55.8	△ 15.4
	比 率						
7	固 定 比 率	111.7	109.5	108.9	105.8	104.6	100.5
	比 率						
8	固 定 長 期 適 合 率	91.1	90.2	90.3	89.1	88.9	91.1
	比 率						
9	流 動 比 率	185.5	203.6	194.6	206.8	206.4	242.8
	比 率						
10	総 負 債 比 率	26.1	24.7	24.7	23.5	23.0	14.7
	比 率						
11	負 債 比 率	35.3	32.9	32.9	30.7	29.9	17.2
	比 率						
12	前 受 金 保 有 率	504.9	509.2	522.0	563.4	579.3	357.2
	比 率						
13	退 職 給 与 引 当 預 金 率	25.7	22.4	19.3	15.5	9.6	57.4
	比 率						
14	基 本 金 比 率	91.3	92.3	92.8	93.7	94.6	96.9
	比 率						
15	減 価 償 却 比 率	58.0	60.0	62.7	62.4	62.9	49.5

